DSP AVアンプ

NATURAL SOUND AV AMPLIFIER

DSP-AX4600

取扱説明書

準備・接続編

本機を使用するにあたって必要な準備（設置・接続・調整）について説明しています。

ヤマハDSP AVアンプDSP-AX4600をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

■ 本機の優れた性能を十分に発揮させるると共に、永年支障なくお使いいただくために、ご使用前にこの取扱説明書と保証書をよくお読みください。
お読みになったあとは、保証書と共に大切に保管し、必要に応じてご利用ください。

■ 保証書は、「お買上げ日、販売店名」などの記入を必ず確かめ、販売店からお受け取りください。

保証書別添付

安全上のご注意(安全に正しくお使いいただくために)

この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

この「安全上のご注意」に書かれている内容には、お客様が購入された製品に含まれないものも記載されています。

絵表示の例

気をつけなければならない内容を表しています。
たとえば⚠は「感電注意」を示しています。

してはいけない行為を表しています。
たとえば🛇は「分解禁止」を示しています。

必ずしなければならない行為を表しています。
たとえば●は「電源プラグをコンセントから抜くこと」を示しています。

警告

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

プラグを抜く

下記の場合には、すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜く。

● 異常なにおいや音がする。 ● 煙が出る。
● 内部に水や異物が混入した。
そのまま使用すると、火災や感電の原因となります。

禁止

電源コードを傷つけない。

● 重いものを上に載せない。 ● ステープルで止めない。 ● 加工をしない。
● 熱器具には近づけない。 ● 無理な力を加えない。
芯線がむき出しのまま使用すると、火災や感電の原因となります。

水ぬれ禁止

本機を下記の場所には設置しない。

● 浴室・台所・海岸・水辺 ● 加湿器を過度にきかせた部屋
● 雨や雪、水がかかるところ
水滴の混入により火災や感電の原因となります。

接触禁止

雷がなりはじめたらアンテナや電源プラグには触れない。

感電の原因となります。

分解禁止

分解・改造は厳禁。キャビネットは絶対に開けない。

火災や感電の原因となります。
修理・調整は販売店にご依頼ください。

禁止

放熱のため本機を設置する際には：

● 布やテーブルクロスをかけない。 ● じゅうたん・カーペットの上には設置しない。
● あおむけや横倒しには設置しない。 ● 通気性の悪い狭いところへは押し込まない。
本機の内部に熱がこもり火災の原因となります。

禁止

本機のACアウトレットに、指定された供給電力を超えた機器を接続しない。また、供給電力内であっても電熱器・ドライヤー・電子調理器等は接続しない。

火災の原因となります。

警告

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

禁止

電池を充電しない。

電池の破裂や液もれにより火災やけがの原因となります。

禁止

電池からもれ出た液には直接触れない。

液が目や口に入ったり、皮膚についたりした場合はすぐに水で洗い流し、医師に相談してください。

必ず行う

本機を落としたり、本機が破損した場合には、必ず販売店に点検を依頼してください。

そのまま使用すると火災や感電の原因となります。

必ず行う

必ずAC100V(50/60Hz)の電源電圧で使用する。

それ以外の電源電圧で使用すると、火災や感電の原因となります。

必ず行う

電源プラグのゴミやほこりは定期的にとり除く。

ほこりがたまったまま使用を続けるとプラグがショートして火災や感電の原因となります。

禁止

本機にものを入れたり、落としたりしない。

火災や感電の原因となります。

禁止

本機の上には、花瓶・植木鉢・コップ・化粧品・薬品・ロウソクなどを置かない。

- 水や異物が中に入ると、火災や感電の原因となります。
- 接触面が経年変化を起こし、本機の外装を損傷する原因となります。

必ず行う

スピーカーターミナルレンチは小さなお子様の手の届かないところに保管する。

小さなお子様があやまって飲むおそれがあります。

注意

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損傷のみの発生が想定される内容を示しています。

禁止

不安定な場所や振動する場所には設置しない。

本機が落下や転倒してけがの原因となることがあります。

禁止

直射日光のあたる場所や温度が異常に高くなる場所(暖房機のそばなど)には設置しない。

本機の外装が変形したり内部回路に悪影響が生じて、火災の原因となることがあります。

必ず行う

再生を始める前には、音量(ボリューム)を最小にする。

突然大きな音が出て聴力障害等の原因となることがあります。

プラグを抜く

長期間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く。

火災や感電の原因となることがあります。

ぬれ手禁止

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。

感電の原因となることがあります。

禁止

電源プラグを抜くときは、電源コードをひっぱらない。

コードが傷つき、火災や感電の原因となることがあります。

プラグを抜く

移動をするときには、本機(または接続機器)の電源スイッチを切り、すべての接続をはずす。

- 接続機器が落下や転倒してけがの原因となることがあります。
- コードが傷つき火災や感電の原因となることがあります。

禁止

長時間音が歪んだ状態で使用しない。

スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。

禁止

大きな音で長時間ヘッドホンを使用しない。

聴力障害の原因となることがあります。

注意

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損傷のみの発生が想定される内容を示しています。

必ず行う

電池は極性表示(プラス⊕とマイナス⊖)に従って、正しく入れる。
間違えると破裂や液もれにより火災やけがの原因となることがあります。

禁止

指定以外の電池は使用しない。また種類の異なる電池や新しい電池と古い電池をいっしょに混ぜて使用しない。
破裂や液もれにより火災やけがの原因となることがあります。

禁止

電池と金属片をいっしょにポケットやバッグなどに入れて携帯、保管しない。
電池がショートし破裂や液もれにより火災やけがの原因となることがあります。

禁止

電池を加熱・分解したり、火や水の中へ入れない。
破裂や液もれにより火災やけがの原因となることがあります。

禁止

ほこりや湿気の多い場所に設置しない。
ほこりの堆積によりショートして、火災や感電の原因となることがあります。

プラグを抜く

手入れをするときには、必ず電源プラグを抜いて行う。
感電の原因となることがあります。

注意

本機はデジタル信号を扱います。他の電気製品に障害をあたえるおそれがあります。
それらの製品とはできるだけ離して設置してください。

必ず行う

必ず付属の専用電源コードを使用する。
専用コード以外の使用は、火災や感電の原因となることがあります。

必ず行う

電源プラグは根もとまで確実にコンセントに差し込む。
差し込みが不充分のまま使用すると感電したり、プラグにほこりが堆積して発熱や火災の原因となることがあります。

注意

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損傷のみの発生が想定される内容を示しています。

禁止

電源プラグを差し込んだときゆるみがあるコンセントは使用しない。

感電や発熱・火災の原因となることがあります。

注意

環境温度が急激に変化したとき、本機に結露が発生することがあります。

正常に動作しないときには、電源を入れずにしばらく放置してください。

禁止

薬物厳禁
ベンジン・シンナー・合成洗剤等で外装をふかない。また接点復活剤を使用しない。

外装が傷んだり、部品が溶解することがあります。

必ず行う

屋外アンテナ工事には、技術と経験が必要です。販売店にご依頼ください。

注意

年に一度くらいは内部の掃除を販売店にご依頼ください。

ほこりがたまったまま使用を続けると、火災や故障の原因となることがあります。

必ず行う

重いので、開梱や持ち運びは必ず2人以上で行う。

けがの原因となることがあります。

ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。「ドルビー」、「PRO LOGIC」、「Surround EX」およびダブルD記号DDは、ドルビーラボラトリーズの商標です。

DTS、DTS-ES Extended Surround、Neo：6およびDTS 96/24はデジタルシアターシステムズの登録商標です。

THXとTHXロゴはTHXの登録商標です。不許複製。

Circle Sorround Ⅱ、SRSと(●)記号はSRS Labs,Inc.の商標です。

AACロゴマーク はドルビーラボラトリーズの商標です。以下はパテントナンバーです。

08/937,95	5,583,962	98/03037	08/039,478	5,490,170
5848391	5,274,740	97/02875	08/211,547	5,264,846
5,291,557	5,633,981	97/02874	5,703,999	5,268,685
5,451,954	5 297 236	98/03036	08/557,046	5,375,189
5 400 433	4,914,701	5,227,788	08/894,844	5,581,654
5,222,189	5,235,671	5,285,498	5,299,238	05-183,988
5,357,594	07/640,550	5,481,614	5,299,239	5,548,574
5 752 225	5,579,430	5,592,584	5,299,240	08/506,729
5,394,473	08/678,666	5,781,888	5,197,087	

SILENT™ CINEMA

「サイレントシネマ/SILENT CINEMA」はヤマハ株式会社の登録商標です。

HDMI™

HDMI、HDMIロゴおよびHigh-Definition Multimedia Interfaceは、HDMI Licensing LLCの商標または、登録商標です。

i.LINKおよびi.LINKロゴ は、ソニー株式会社の商標です。

もくじ

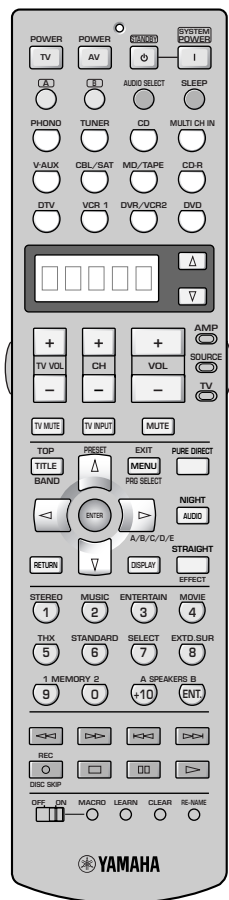
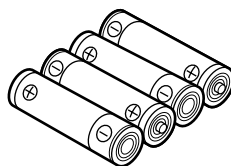
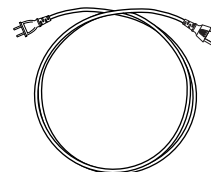
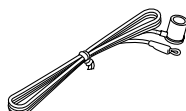
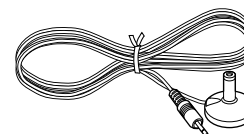
はじめに

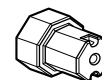
接続する

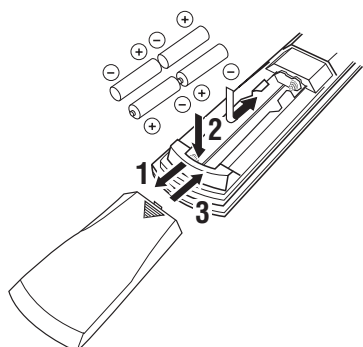
接続が終わったら

付属品を確認する

同梱されている付属品を確認してください。

リモコン

単4アルカリ乾電池×4本

電源コード

FM簡易アンテナ

オプティマイザーマイク

AMループアンテナ

スピーカーターミナルレンチ

リモコンを準備する

リモコンに乾電池を入れる

1 ***リモコンの裏ぶたの ▽ マークを押しながら、電池カバーを取りはずす***

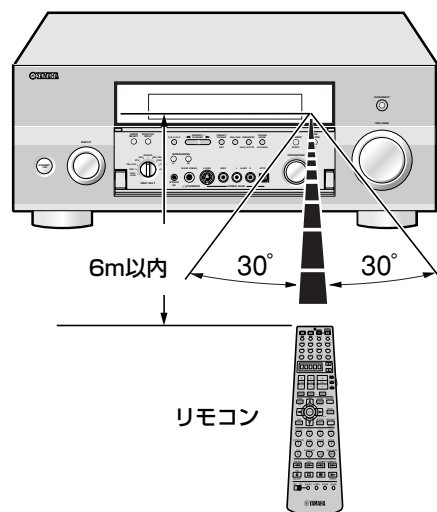
2 ***付属の単4乾電池(4本)を、リモコンの電池ケース内の表示にあわせて、プラス(+)とマイナス(−)の向きを間違えないように、正しく入れる***

3 ***裏ぶたを閉じる***

ご注意

- アルカリ乾電池をご使用ください。マンガン乾電池だとすぐに消耗する可能性があります。
- リモコンで操作しづらくなったり、キーを押してもトランスミッションインジケーターが光らない場合やディスプレイが見づらくなった場合は、乾電池が消耗しています。このような場合は、すべての乾電池を新しいものに変えてください。
- 新しい乾電池と、古い乾電池を混ぜて使わないでください。
- 乾電池には、形状が同じでも性能が異なるものがあります。種類の異なる乾電池(アルカリとマンガンなど)を混ぜて使わないでください。
- 使い切った乾電池は、すぐに電池ケースから取り出してください。乾電池が破裂したり、乾電池から液が漏れることがあります。
- 乾電池が液漏れした場合は、液に触れないよう注意して廃棄してください。液が目や口に入ったり、皮膚についたりした場合はすぐに水で洗い流し、医師に相談してください。新しい乾電池を入れる前に電池ケース内をきれいにふいてください。
- 乾電池を一般のゴミといっしょに捨てないでください。地域のきまりに従って正しく処置してください。
- 電池を外したまましばらく(2分以上)放置したり、消耗した乾電池をそのまま入れておくと、リモコンに設定したリモコンコードなどのメモリー内容が消えてしまうことがあります。このような場合は、乾電池を新しいものに交換して、リモコンコードを設定しなおしてください。

リモコンの取り扱い

リモコンは直進性の強い赤外線を使用しています。本体のリモコン受光窓に向けて正しく操作してください。

ヒント

リモコンでうまく操作ができないときは、以下のことを確認してください。

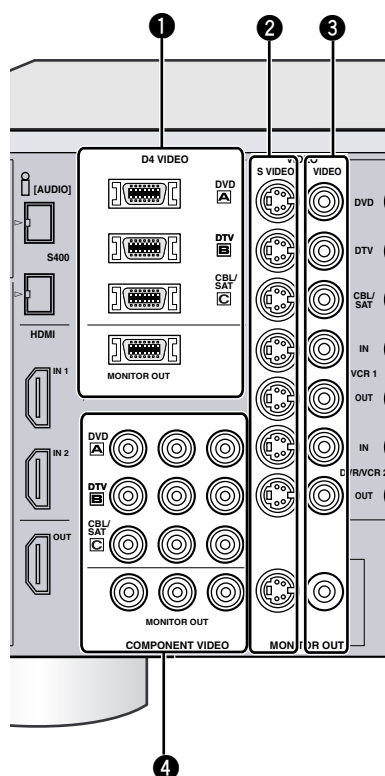
- 本体のリモコン受光窓が、布などで覆われていませんか?
  →布などを取り除いてください。
- 本体のリモコン受光窓に、直射日光や強い照明(インバーター蛍光灯など)が当たっていませんか?
  →照明の向きを変えるか、本体を置く場所を変えてください。
- 乾電池が消耗していませんか?
  →すべての電池を新しいものに変えてください。

ご注意

- リモコンに水やお茶をこぼさないでください。
- リモコンを落とさないでください。
- 冷暖房器具のそばなど、極端に温度が低くなったり高くなるところや、風呂場など、湿度が高くなるところには置かないでください。

接続の基礎知識

ビデオ端子について

本機は4種類のビデオ端子を装備しています。

❶ D4ビデオ端子

コンポーネントビデオ信号とコントロール信号(走査線、アスペクト比などの情報)を伝送します。

❷ Sビデオ端子

Sビデオ信号を伝送します。
Sビデオ入出力端子がある機器を接続すれば、ビデオ端子(❸)よりも高画質な映像を再生できます。

❸ ビデオ端子

コンポジットビデオ信号を伝送します。

❹ コンポーネントビデオ端子

コンポーネントビデオ信号を伝送します。
コンポーネントビデオ入出力端子がある機器を接続すれば、ビデオ端子(❸)またはSビデオ端子(❷)よりも高画質な映像を再生できます。

これらの端子に入力された信号は、それぞれ同じ種類のMONITOR OUT端子に出力されます。
再生機器とテレビのビデオ端子をご確認のうえ、両方に共通する端子を使って接続してください。
最良の画質でお楽しみいただくために、なるべく画質のよい端子を使って接続してください。

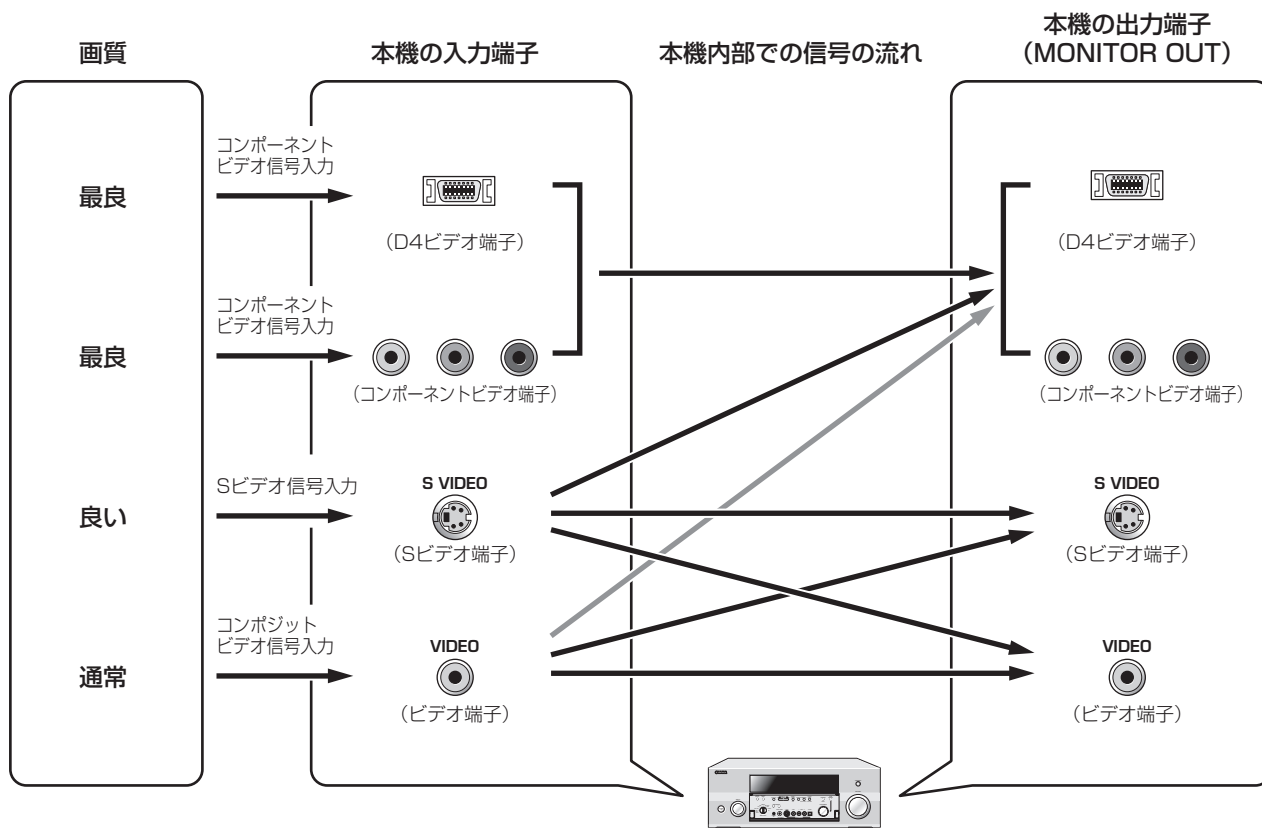
ヒント

- Sビデオ端子とビデオ端子の両方に信号が入力されている場合は、Sビデオ信号が優先されます。
- コンポーネントビデオ出力(MONITOR OUT)端子とD4ビデオ出力(MONITOR OUT)端子は同時に使うことができます。例えば、コンポーネントビデオ出力端子にプロジェクターを、D4ビデオ出力端子にテレビを接続して、同じ映像を両方でお楽しみいただけます。

ご注意

- コンポーネントビデオ入力端子とD4ビデオ入力端子の両方を同時に接続することはできません(例：❹のDVD A と❶のDVD A 端子)。お使いになる機器を確認のうえ、どちらか片方を接続してください。
- D4ビデオ端子を使って接続する場合は、お使いの再生機器とテレビのD端子をご確認のうえ、D端子の規格(D1〜D4)を合わせてください。
- 本機のSビデオ端子はS1/S2規格には対応していません。

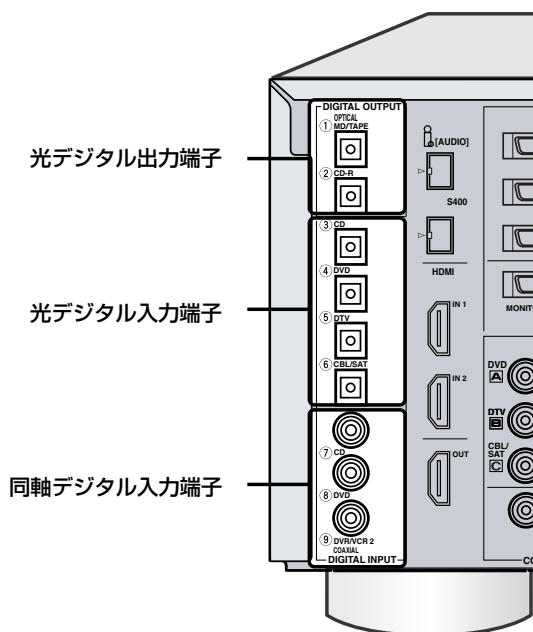
ビデオコンバージョン機能

本機では、入力されたコンポジットビデオ信号とSビデオ信号を相互に変換、Sビデオ信号をコンポーネントビデオ信号に上位変換します。また、コンポジットビデオ信号はいったんSビデオ信号に変換したあと、コンポーネントビデオ信号に変換して出力されます。

ご注意

ビデオデッキなどから入力したビデオ信号またはSビデオ信号をコンポーネントビデオ信号に変換する場合、ビデオ信号の性能(*ジッター)によっては映像が乱れることがあります。

* ジッター：ビデオ信号が横方向に揺れてしまう時間的なノイズです。例えばビデオデッキにTBC(タイムベースコレクター)が搭載されていると、この揺れが少なくなります。

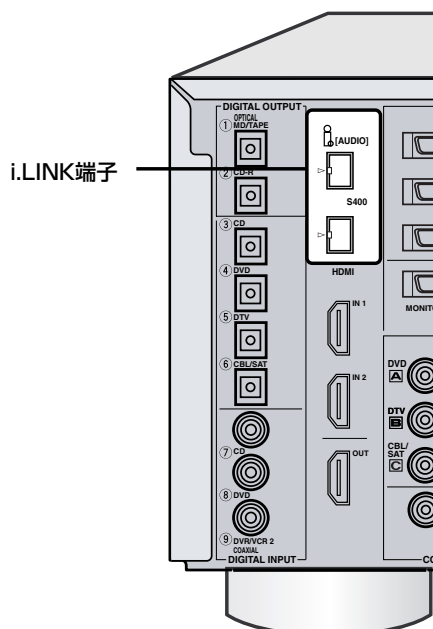
デジタル端子(光/同軸)について

本機は、デジタル信号を直接伝送できる光デジタル(OPTICAL)端子と同軸デジタル(COAXIAL)端子を装備しています。

- 光デジタル端子と同軸デジタル端子は、PCM、ドルビーデジタル、DTS、AAC(BS/地上波デジタル放送)兼用です。
- 同軸デジタル入力端子と光デジタル入力端子に、同時にデジタル信号が入力されると、同軸デジタル入力端子に入力されたデジタル信号が優先されます。
- 本機のデジタル信号回路とアナログ信号回路は独立しています。デジタル入力端子に入力されたデジタル信号は、デジタル出力端子からのみ出力されます。

ご注意

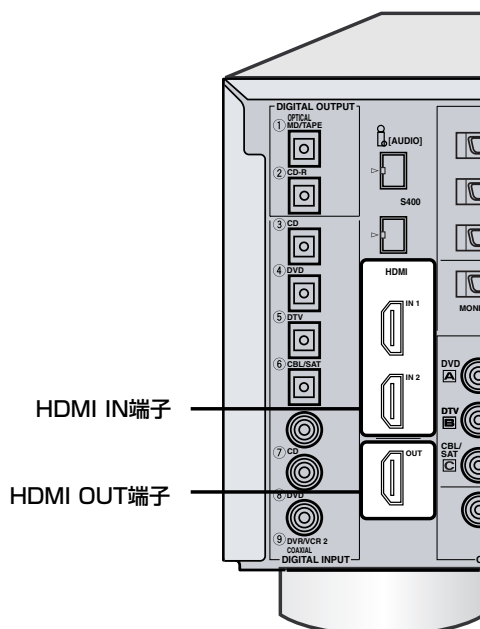
本機の光デジタル端子は、EIAJ規格に基づいて設計されています。EIAJ規格を満たさない光ファイバーケーブルを使うと、正常に動作しないことがあります。

i.LINK機器との接続

本機は、すべてのデジタル音声信号を一本のケーブルで伝送できるi.LINK端子を装備しています。詳しくは「応用操作編」32ページをご参照ください。

- 本機のi.LINKは、著作権保護技術のひとつであるDTCPに対応しています。
- 本機のi.LINKは、音声信号などのデータ転送を行うi.LINK(AUDIO)に対応しており、受信のみを行います。
- 本機のi.LINK端子は、以下の以下の音声信号フォーマットに対応しています。
  - 2チャンネル リニアPCM
  - マルチチャンネル リニアPCM
  - ビットストリーム
  - DSD

ご注意
i.LINK(DV)やi.LINK(MPEG-TS)に対応した外部機器からのデータは受信できません。

HDMI機器との接続

本機は、デジタル映像信号とデジタル音声信号を一本のケーブルで伝送できるHDMI端子を装備しています。詳しくは「応用操作編」40ページをご参照ください。

- 本機のHDMIは、著作権保護技術のひとつであるHDCPに対応しています。
- HDMI IN端子から入力した音声信号を再生します。
- HDMI IN端子から入力した映像信号および音声信号をHDMI OUT端子にリピートします。

接続に使うケーブルの種類

お使いになる機器に合わせて、ケーブルをご用意ください。

音　声

同軸デジタル端子

同軸ケーブル

光デジタル端子

光ファイバーケーブル

アナログ端子

ステレオピンケーブル

i.LINK端子

i.LINK(IEEE1394)ケーブル

映　像

D端子

D端子ケーブル

コンポーネントビデオ端子

コンポーネントビデオケーブル

Sビデオ端子

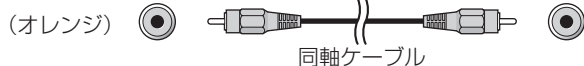
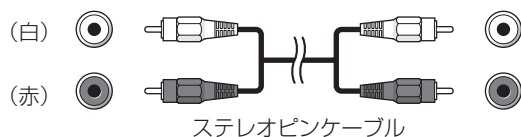
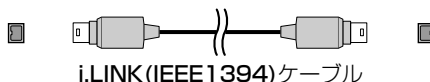
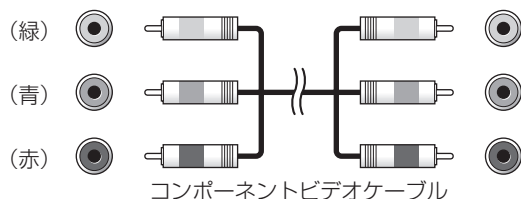
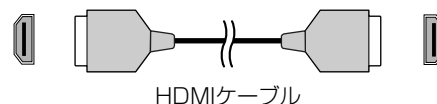
Sビデオケーブル

ビデオ端子

ビデオ用ピンケーブル

音　声・映　像

HDMI端子

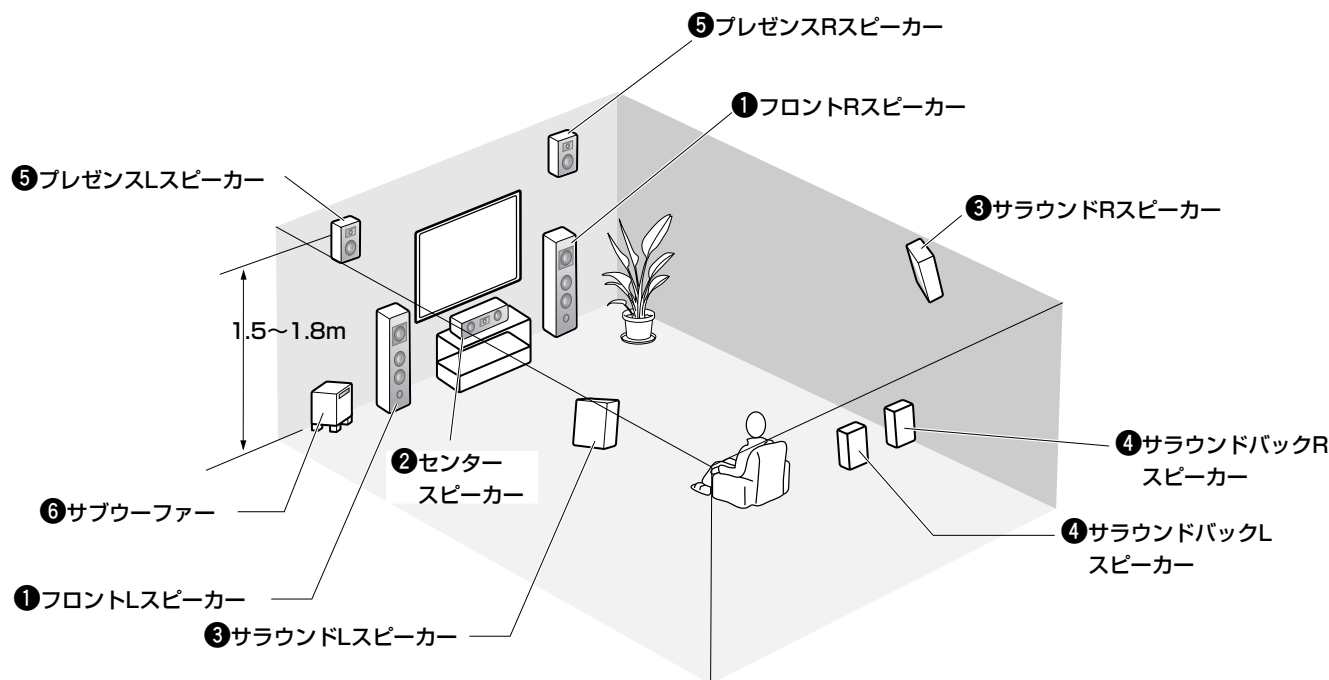
HDMIケーブル

ご注意

接続する前に、本機および接続する機器の電源コードが、ACコンセントに接続されていないことを確認してください。

スピーカーを設置する

スピーカーは下図のように設置します。

ご注意

スピーカーは防磁型のものをご使用ください。防磁型以外のスピーカーをご使用になりますと、テレビの画像が乱れる場合があります。特に画面近くに設置するセンタースピーカーやサブウーファーには、防磁型スピーカーの使用をおすすめします。防磁型スピーカーをご使用の場合でも画像が乱れるときは、テレビとスピーカーを離して設置してください。

❶ フロントL/Rスピーカーの役割と設置

フロントチャンネルの音声(ステレオ音声)と効果音を出力します。
左右のスピーカーを、リスニングポジションから等距離に設置します。
スクリーンをお使いの場合は、スクリーンの下辺から1/4位の高さが適当です。

❷ センタースピーカーの役割と設置

会話やボーカルなど画面中央に定位する音を出力します。
フロントL/Rスピーカーの中間に設置します。
スクリーンをお使いの場合は、スクリーン真下の中央に設置します。
テレビをお使いの場合は、画面とスピーカー前面とを揃え、テレビの上や下など、できるだけ画面に近いところに設置します。

❸ サラウンドL/Rスピーカーの役割と設置

サラウンド音と効果音を出力します。
左右後方に、スピーカーをリスニングポジションに向けて設置します。床から1.5〜1.8mの高さが適当です。

❹ サラウンドバックL/Rスピーカーの役割と設置

後方の効果音を出力します。
リスニングポジションの後方に、スピーカーをリスニングポジションに向けて設置します。床から1.5〜1.8mの高さが適当です。2本のサラウンドバックL/Rスピーカーを設置する場合は、2本を近づけて設置します。

❺ プレゼンスL/Rスピーカーの役割と設置

前方の効果音を出力します。
フロントL/Rスピーカーの外側0.5〜1mの範囲に、スピーカーをリスニングポジションに向けて設置します。床から1.5〜1.8mの高さが適当です。

❻ サブウーファーの役割と設置

ドルビーデジタル、DTS、AAC信号に含まれるLFE(低域効果音)信号や、低音を出力します。
フロントL/Rスピーカーの外側に、壁の反射を防ぐために、少し内向きにして設置します。

スピーカーを接続する

スピーカーケーブルを接続する

左チャンネル(L)、右チャンネル(R)、＋(赤)、－(黒)をよく確認して、正しく接続してください。

1 スピーカーケーブル先端の絶縁部(被覆)を、10mmぐらいはがす

2 芯線をしっかりよじる

〈プレゼンススピーカー以外のスピーカーの場合〉

3 スピーカー端子を左に回して、ゆるめる

4 スピーカー端子の穴に、スピーカーケーブルの芯線を差し込む

5 スピーカー端子を右に回して、しめる

プレゼンススピーカー以外

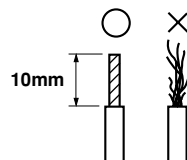
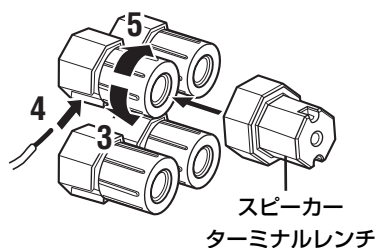
プレゼンススピーカー

付属のスピーカーターミナルレンチを使うと、端子を回しやすくなります。

〈プレゼンススピーカーの場合〉

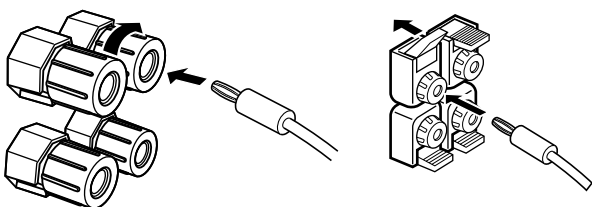
3 タブを開ける

4 スピーカー端子の穴に、スピーカーケーブルの芯線を差し込む

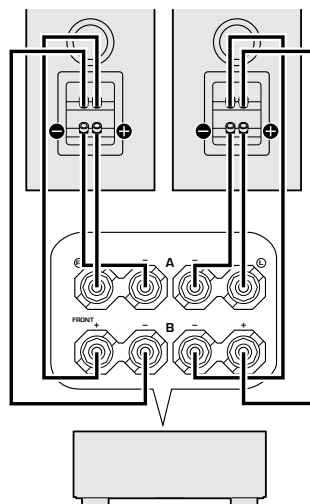
5 タブを戻して、コードを固定する

ご注意

- スピーカーは、インピーダンスが6Ω以上のものを使ってください。フロントL/RスピーカーをA、B同時に鳴らす場合は、1台につき12Ω以上のものを使ってください。
- スピーカーコードの芯線はしっかりよじり、スピーカー端子からはみ出さないように接続してください。芯線がリアパネルに接触したり、＋側と－側が接触すると、保護回路がはたらいて電源がスタンバイ状態になることがあります。
- スピーカーの＋端子と本機の＋端子、スピーカーの－端子と本機の－端子をそれぞれ接続してください。間違えて接続すると、音が不自然になります。

バナナプラグを使用する場合

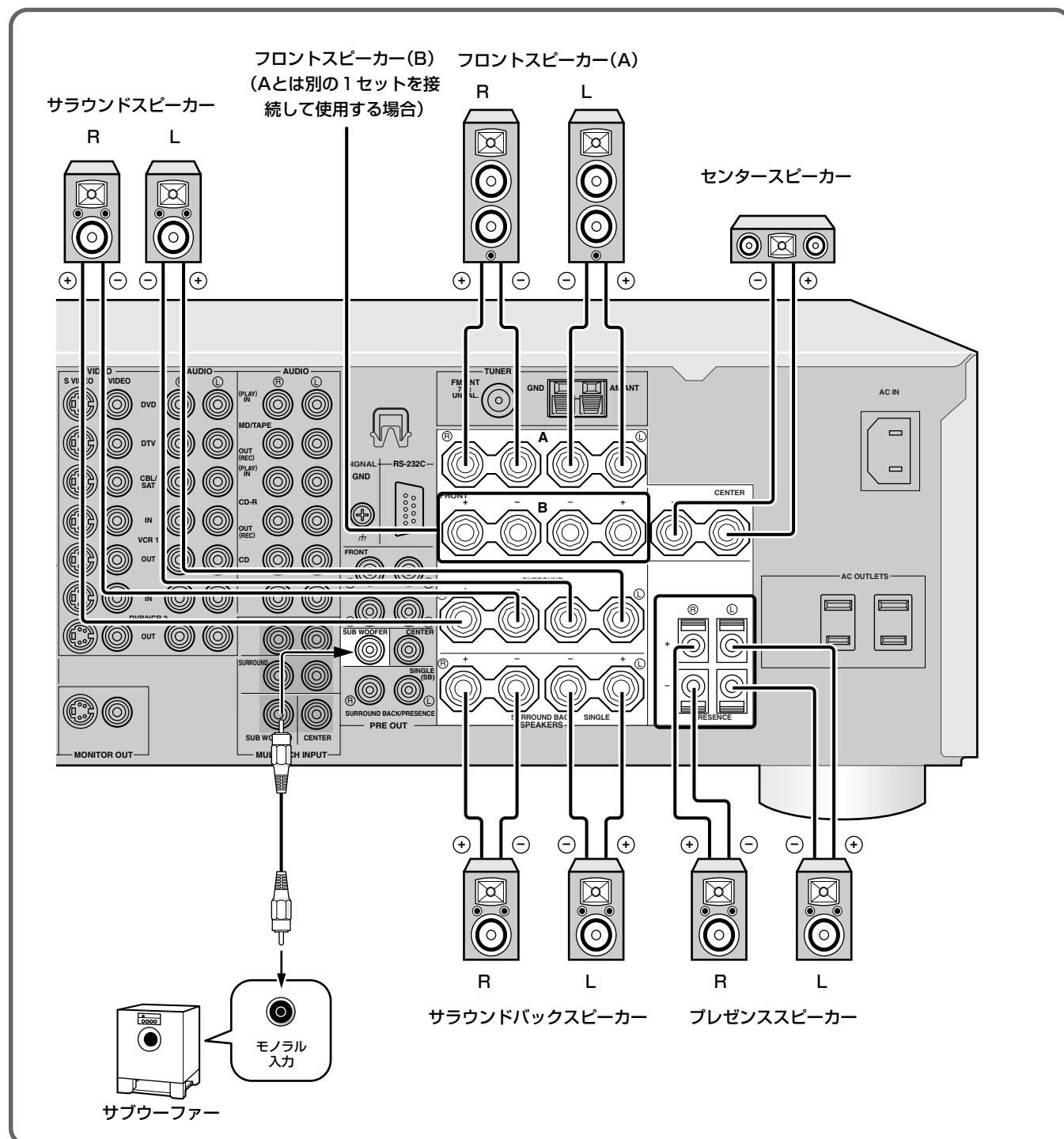
プレゼンススピーカー以外　　プレゼンススピーカー

プレゼンススピーカー以外
端子を強くしめてから差し込んでください。

プレゼンススピーカー
タブを開けてから差し込んでください。

バイワイヤリング接続する場合

スピーカーのウーファー端子とツィーター端子を、それぞれFRONT A端子とFRONT B端子に接続します。
ご使用になるときは、SPEAKER A/Bスイッチを両方押してください。

サブウーファーを接続する

ヤマハアクティブサーボサブウーファーシステムなどの、アンプ内蔵サブウーファーを使用するときは、SUBWOOFER端子に接続します。

下図のように、スピーカーを接続します。

ヒント

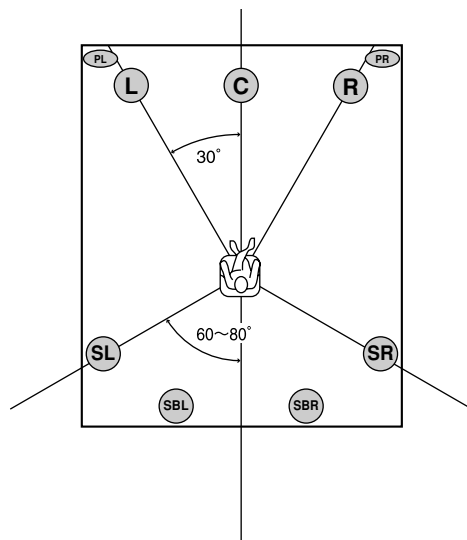
- フロントL/Rスピーカーを2組設置したい場合や、もう1組のフロントL/Rスピーカーを別の部屋に置いて音声を楽しみたい場合は、FRONT B端子にもう1組フロントL/Rスピーカーを接続できます。
- サラウンドバックスピーカーを1本のみ使う場合は、SURROUND BACK L(SINGLE)端子に接続してください。
- サラウンドバックスピーカーとプレゼンススピーカーの両方を接続した場合、同時に使用することはできませんが、GUIメニュー「PR/SBの選択」の設定により、音場プログラムや再生するソースによって効果的に鳴らし分けができます(「応用操作編」51ページ)。

スピーカーシステムの構成

ムービーシアタープログラムでは、70mmマルチトラックの迫力と臨場感をリアルに再現し、会話は画面上に定位し、効果音は画面後方、音楽はさらにその後方に広がりを持って再現されます。
右図は最も本機の性能を発揮できるスピーカー配置を示したもので、*ITU-R基準配置に対応しています。シネマＤＳＰの音場効果から、スーパーオーディオＣＤやDVDオーディオなどのマルチチャンネルオーディオ、THXサラウンドモード再生までお楽しみいただけます。

* ITU-R基準配置：マルチチャンネルオーディオのミキシングスタジオで採用されている、国際的な基準配置です。

使用するスピーカー

- フロントL/Rスピーカー(L/R)
- センタースピーカー(C)
- プレゼンスL/Rスピーカー(PL/PR)
- サラウンドL/Rスピーカー(SL/SR)
- サラウンドバックL/Rスピーカー(SBL/SBR)

ダイポールスピーカーの使用例

THXサラウンドモードで再生するときは、モノポールまたはダイポールスピーカーの両方が使用可能です。ダイポールスピーカーを使用する場合は、右図のように配置してください。

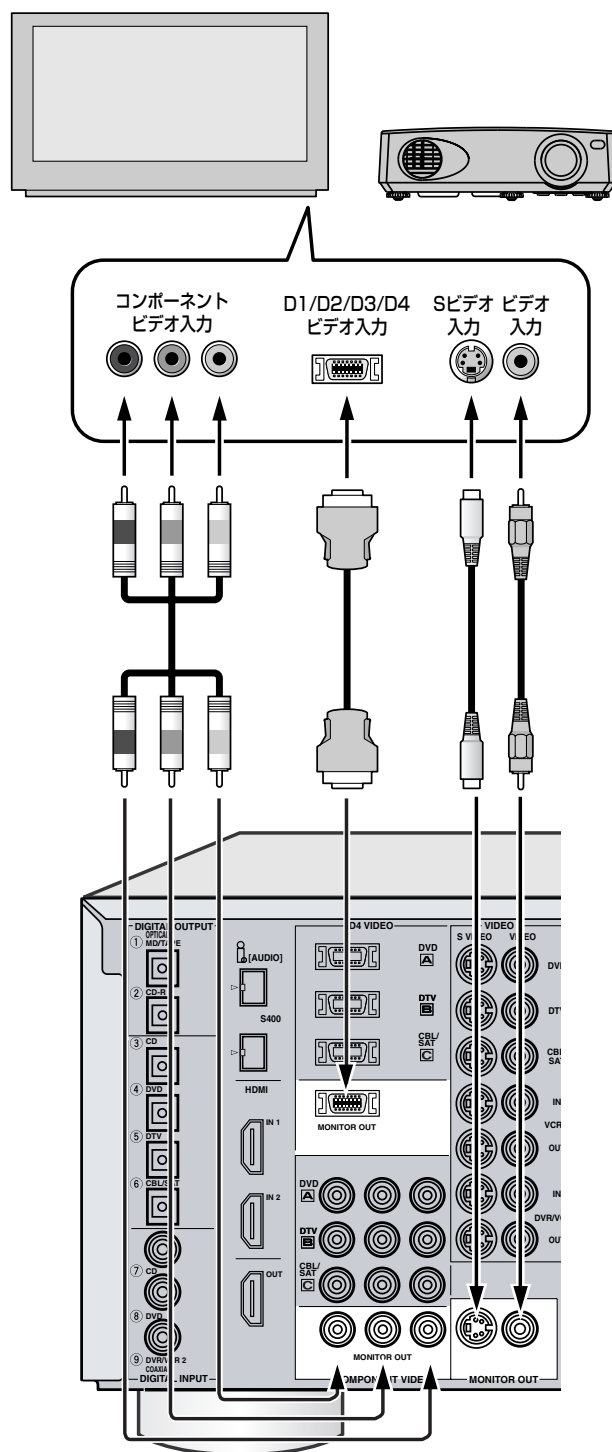
：ダイポールスピーカー

：ダイポールスピーカーの位相の向き

使用するスピーカー

- フロントL/Rスピーカー(L/R)
- センタースピーカー(C)
- サラウンドL/Rスピーカー(SL/SR)
- サラウンドバックL/Rスピーカー(SBL/SBR)

テレビ/プロジェクターを接続する

テレビ/プロジェクターのビデオ入力端子を本機のMONITOR OUT端子に接続します。
お使いになるテレビ/プロジェクターに合わせて、**下記のうち1つ**を選んで接続してください。

コンポーネント
ビデオ入力
D1/D2/D3/D4
ビデオ入力
Sビデオ
入力
ビデオ
入力

ヒント

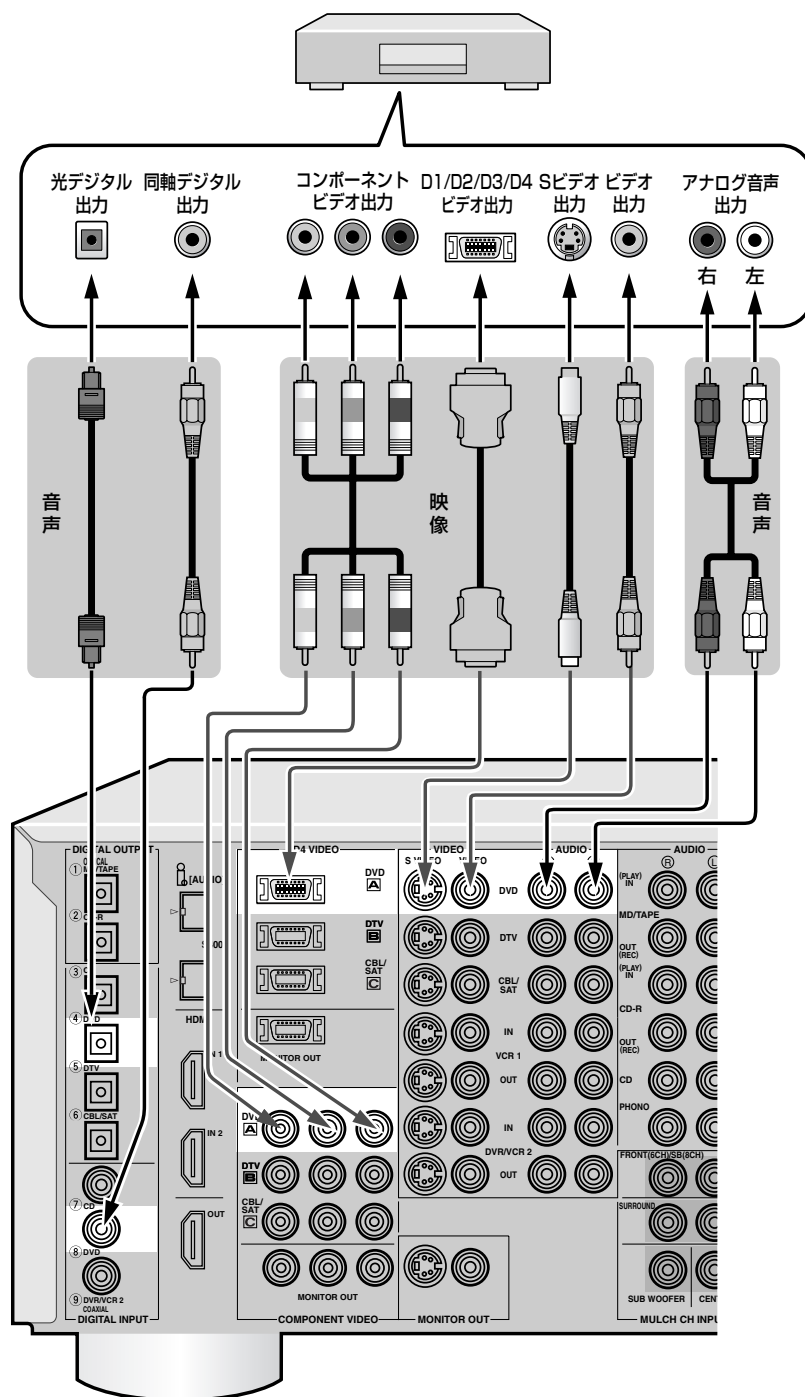
コンポーネントビデオ出力(MONITOR OUT)端子とD4ビデオ出力(MONITOR OUT)端子は同時に使うことができます。例えば、コンポーネントビデオ出力端子にプロジェクターを、D4ビデオ出力端子にテレビを接続して、同じ映像を両方でお楽しみいただけます。

再生機器を接続する

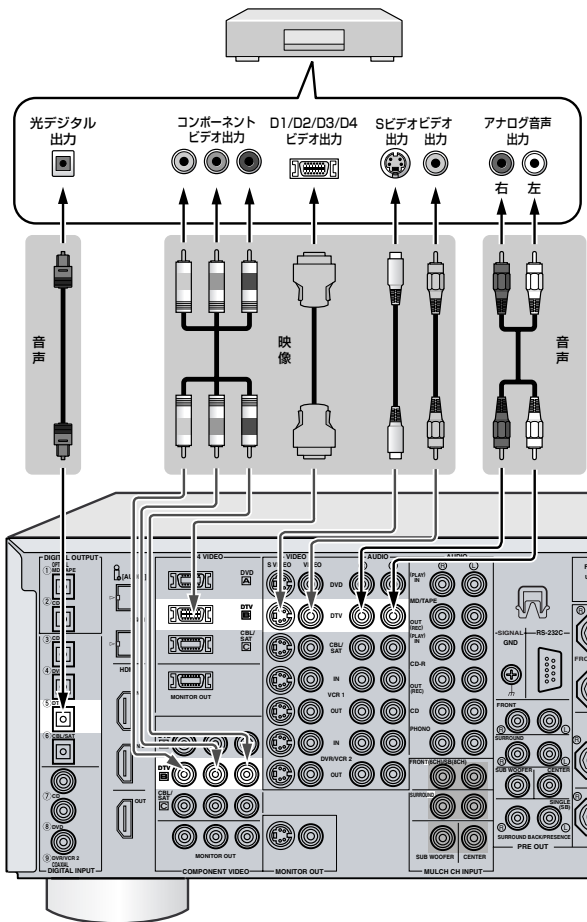
左チャンネル(L)、右チャンネル(R)、入力(IN)、出力(OUT)をよく確認して、正しく接続してください。

DVDプレーヤーを接続する

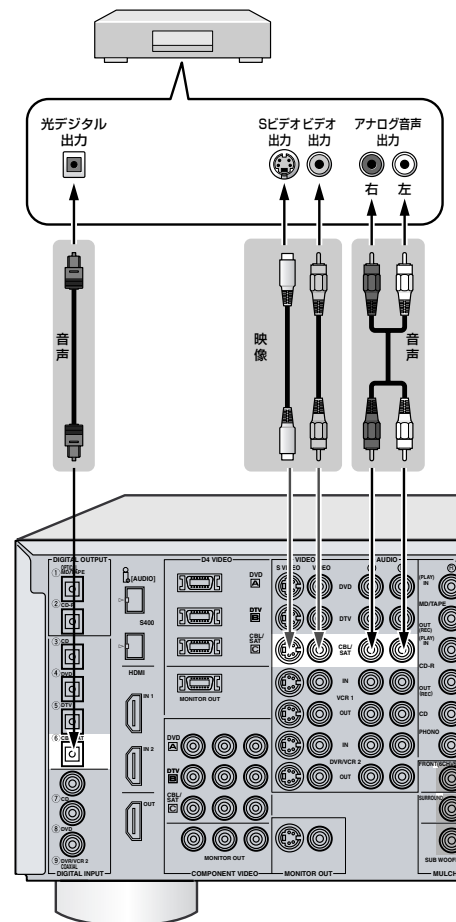
お使いになる機器の端子をよく確認して、**音声で1つ、映像で1つ**を選んで接続してください。

ご注意

コンポーネントビデオ入力端子とD4ビデオ入力端子の両方を同時に接続することはできません。お使いになるDVDプレーヤーを確認のうえ、どちらか片方を接続してください。

デジタルTVチューナーを接続する

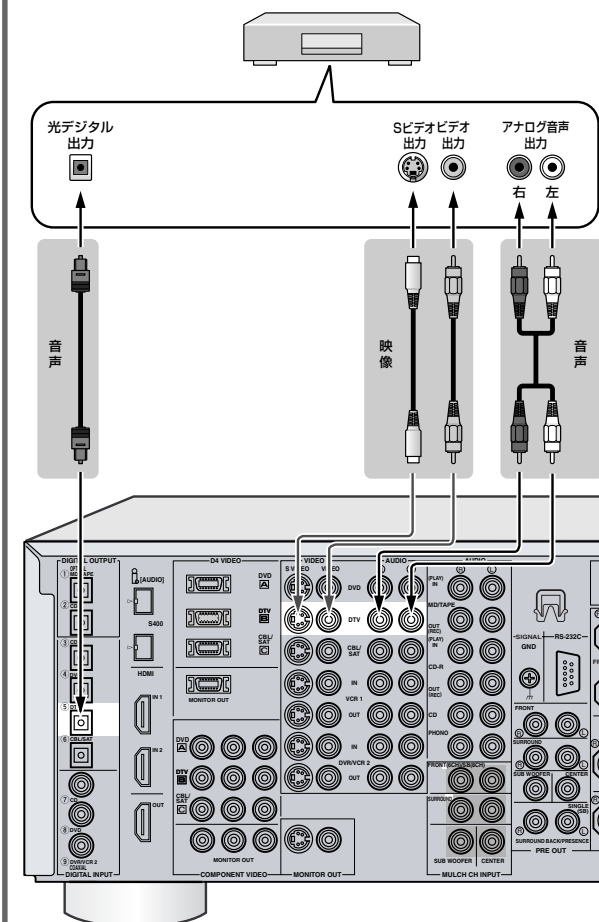
お使いになる機器の端子をよく確認して、**音声で1つ、映像で1つ**を選んで接続してください。

ケーブルTV／衛星放送チューナーを接続する

お使いになる機器の端子をよく確認して、**音声で1つ、映像で1つ**を選んで接続してください。

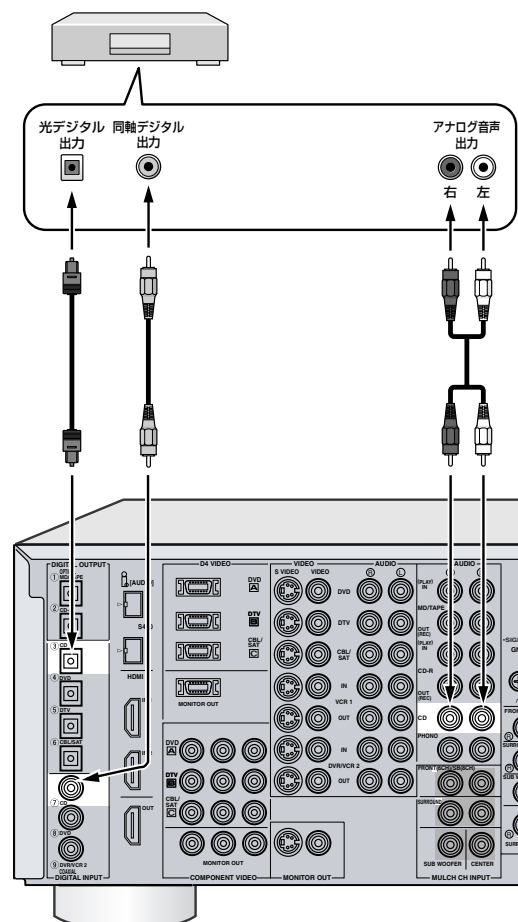
ご注意

コンポーネントビデオ入力端子とD4ビデオ入力端子の両方を同時に接続することはできません。お使いになるデジタルTVチューナーを確認のうえ、どちらか片方を接続してください。

LDプレーヤーを接続する

お使いになる機器の端子をよく確認して、**音声で1つ、映像で1つ**を選んで接続してください。

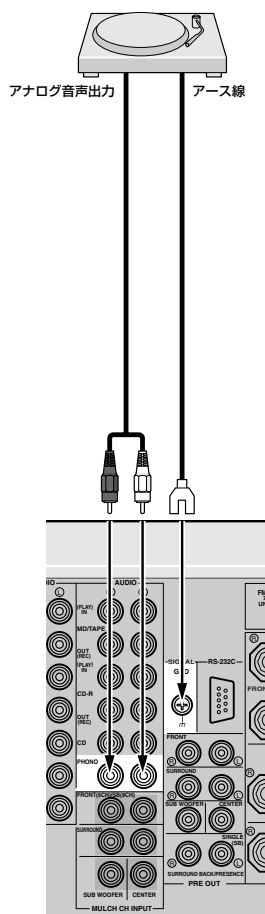
光デジタル出力
Sビデオ出力
ビデオ出力
アナログ音声出力
右 左
音声
映像
音声

CDプレーヤーを接続する

お使いになる機器の端子をよく確認して、**どれか1つ**を選んで接続してください。

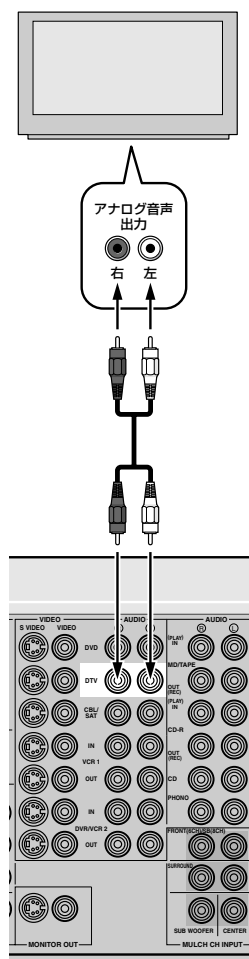
光デジタル出力
同軸デジタル出力
アナログ音声出力
右 左

ドルビーデジタルRF出力端子がある場合は、市販のRFデモジュレーターに接続してから、空いているデジタル入力端子に接続します。

ご注意

コンポーネントビデオ入力端子とD4ビデオ入力端子の両方を同時に接続することはできません。お使いになるLDプレーヤーを確認のうえ、どちらか片方を接続してください。

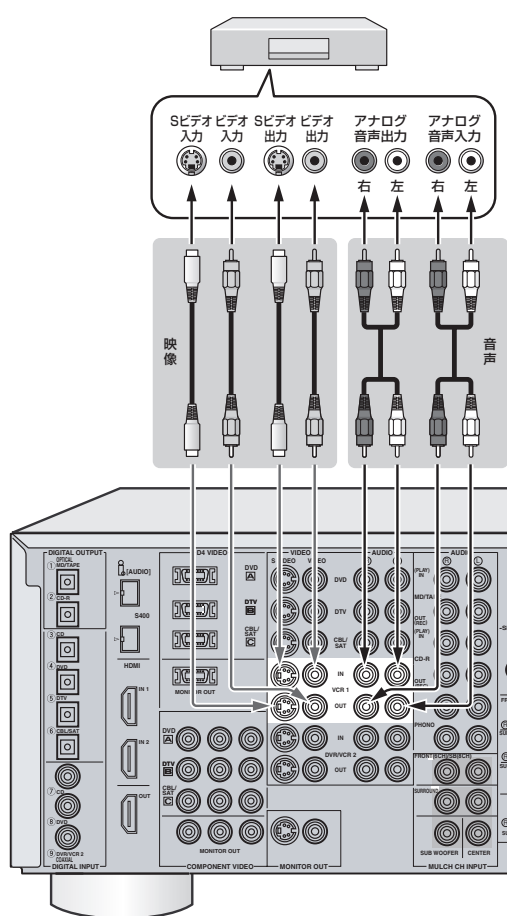
レコードプレーヤーを接続する

低出力型MCカートリッジ付のレコードプレーヤーを接続するときは、昇圧トランスまたはMCヘッドアンプを使って接続します。

ご注意
SIGNAL GND端子は安全アースではありません。雑音が多いときに接続すると、雑音を低減できます。

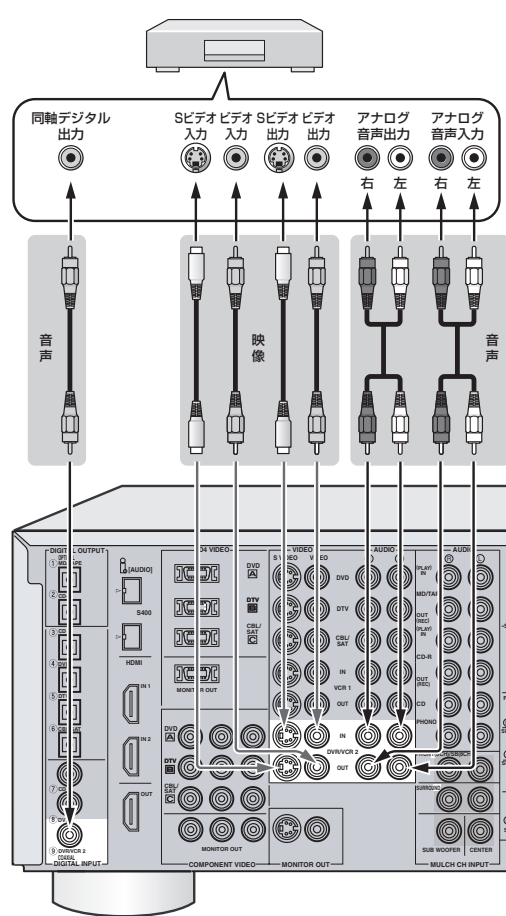
テレビ（音声）を接続する

録音/録画機器を接続する

左チャンネル(L)、右チャンネル(R)、入力(IN)、出力(OUT)をよく確認して、正しく接続してください。

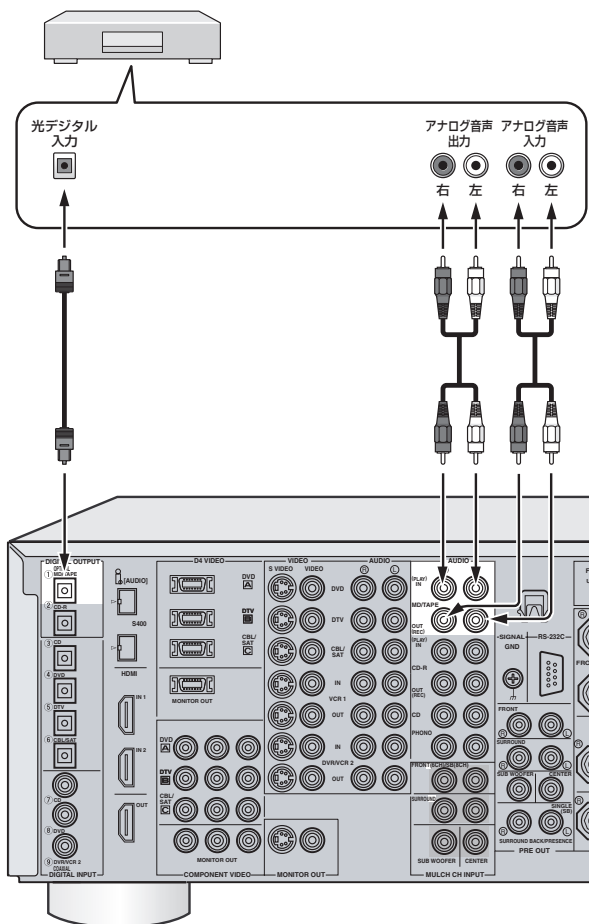
ビデオデッキを接続する

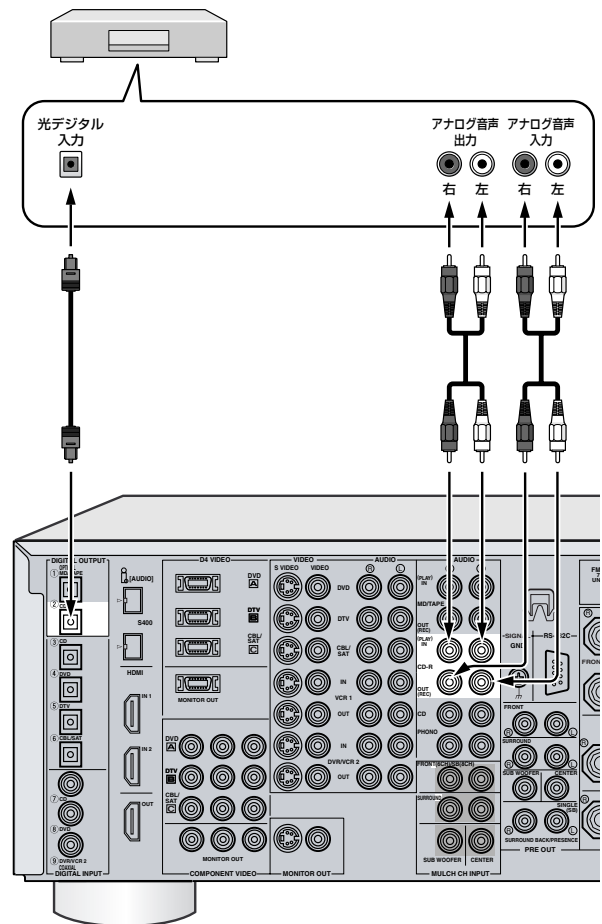
お使いになる機器の端子をよく確認して、**入出力それぞれ音声で1つ、映像で1つ**を選んで接続してください。

DVDレコーダーを接続する

お使いになる機器の端子をよく確認して、**入出力それぞれ音声で1つ、映像で1つ**を選んで接続してください。

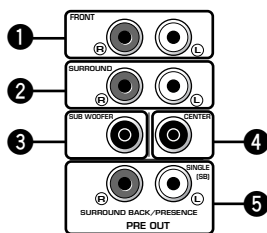
ヒント

DVR/VCR 2端子を使って、2台目のビデオデッキを接続することもできます。

ＭＤレコーダー/テープデッキを接続する

お使いになる機器の端子をよく確認して、**アナログ音源を録音する場合はアナログ接続**を、**デジタル音源を録音する場合はデジタル接続**をしてください。

CDレコーダーを接続する

お使いになる機器の端子をよく確認して、**アナログ音源を録音する場合はアナログ接続**を、**デジタル音源を録音する場合はデジタル接続**をしてください。

その他の機器を接続する

外部パワーアンプを接続する

スピーカー出力をパワーアップするために外部パワーアンプ(プリメインアンプ)を使う場合や、お手持ちのアンプを使う場合などは、PREOUT(プリアウト)端子と接続します。

❶ FRONT(フロント)端子
フロントL/Rチャンネルの信号を出力します。外部パワーアンプを接続して、フロントL/Rスピーカーを駆動させる場合に使います。

❷ SURROUND(サラウンド)端子
サラウンドL/Rチャンネルの信号を出力します。外部パワーアンプを接続して、サラウンドL/Rスピーカーを駆動させる場合に使います。

❸ SUBWOOFER(サブウーファー)端子
ヤマハアクティブサーボサブウーファーシステムなどの、アンプ内蔵サブウーファーを使うときに、この端子に接続します。フロント、センター、サラウンドおよびサラウンドバックチャンネルの低音信号が出力されます。また、ドルビーデジタル、DTSやAACデコード時のLFE信号も、この端子に出力されます。

❹ CENTER(センター)端子
センターチャンネルの信号を出力します。外部パワーアンプを接続して、センタースピーカーを駆動させる場合に使います。

❺ SURROUND(サラウンド) BACK(バック)/PRESENCE(プレゼンス)端子
サラウンドバックL/RチャンネルまたはプレゼンスL/Rチャンネルの信号を出力します。外部パワーアンプを接続して、サラウンドバックL/RスピーカーまたはプレゼンスL/Rスピーカーを駆動させる場合に使います。

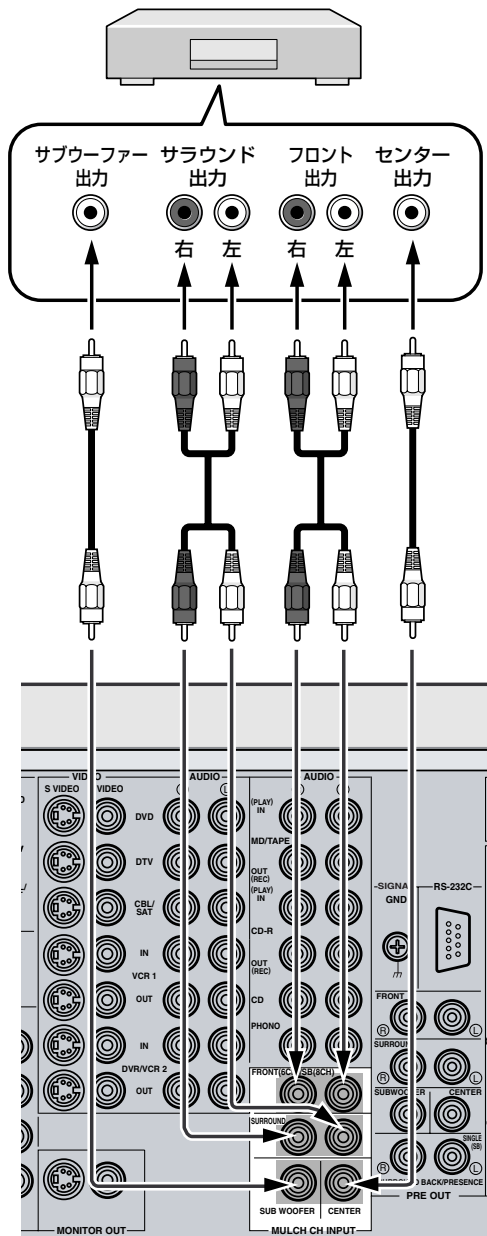
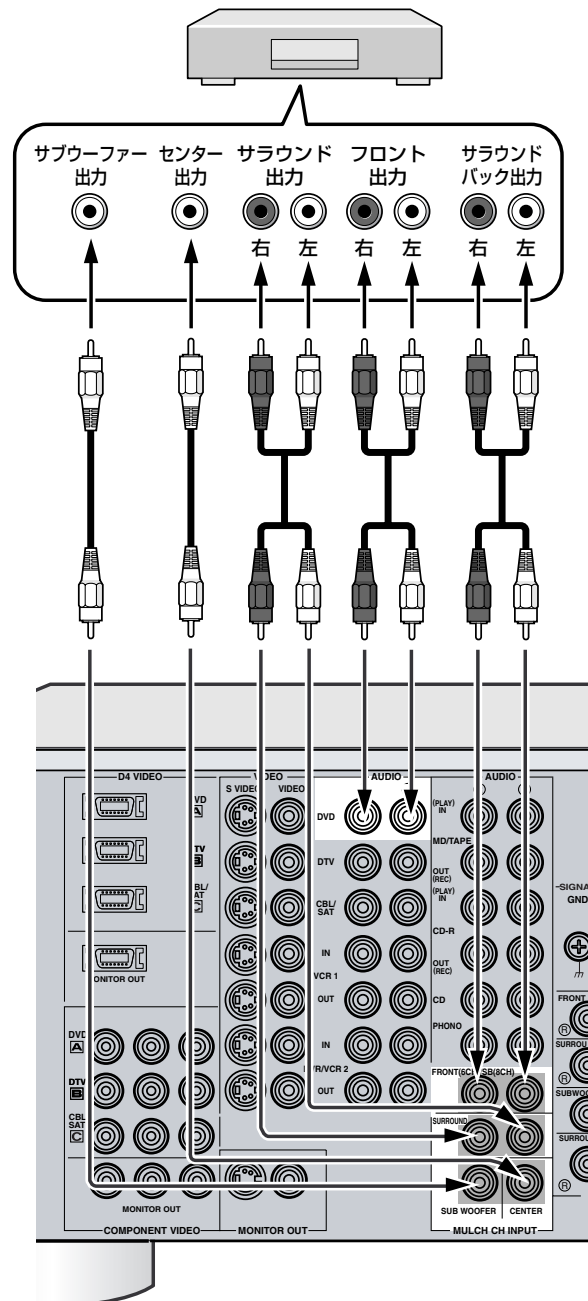
ヒント

サラウンドバック用のパワーアンプを１台のみ使う場合は、SURROUND BACK/PRESENCE端子のL側に接続してください。

ご注意

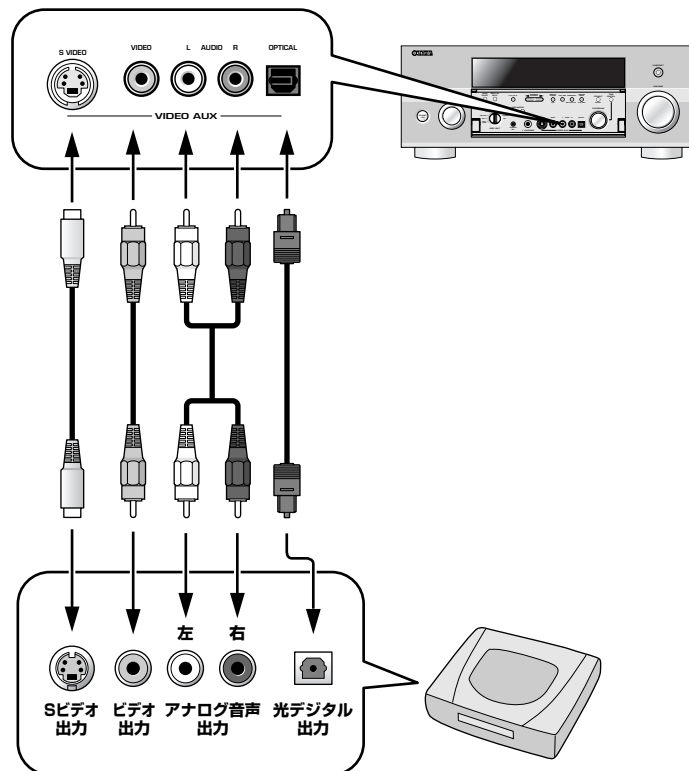
- 外部パワーアンプへ出力するために、RCAピンプラグをPREOUT端子に接続したときは、対応するスピーカー端子を使わないでください。また、接続する外部パワーアンプの音量は最大にしてください。
- GUIメニュー「マルチゾーン」の「スピーカーB」を、「ゾーンBで使用」に設定して、SPEAKER AスイッチをOFFにした場合、FRONT端子以外のPREOUT端子には信号が出力されません。(「応用操作編」58ページ)
- GUIメニュー「スピーカーの設定」の設定によっては、SUBWOOFER端子から出力されない信号があります。(「応用操作編」52ページ)
- サラウンドバックスピーカーとプレゼンススピーカーの両方を接続・使用する場合、SURROUND BACK/PRESENCE端子からは、再生するソースや音場プログラムにより、接続しているスピーカーのチャンネルとは別のチャンネルが出力される場合があります。

マルチチャンネル出力端子がある機器を接続する

DVDプレーヤーやスーパーオーディオCDプレーヤーなど、マルチチャンネル出力端子がある機器を接続します。GUIメニュー「入力選択・設定－入力端子設定」の「入力チャンネル」を、「8チャンネル」に設定すると、アナログ音声入力端子とMULTI CH IN端子を組み合わせて、8チャンネル音声入力端子として使うことができます（「応用操作編」63ページ）。

ご注意

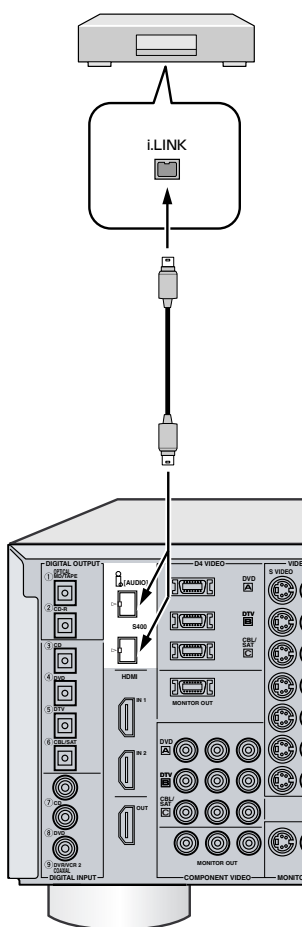
- MULTI CH INPUT 端子から入力した信号には、本機の音場効果はかかりません。
- ヘッドホン使用時には、フロントL/Rチャンネルの音声のみヘッドホンに出力されます。

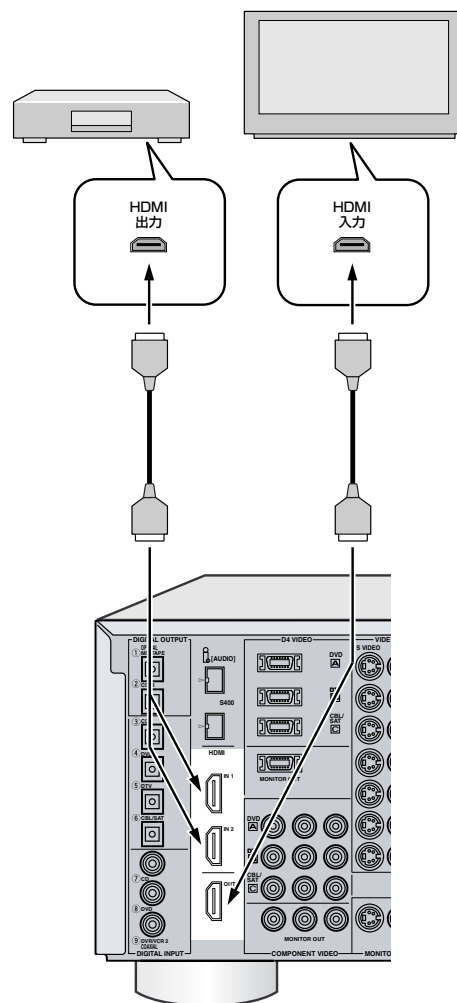
ゲーム機やビデオカメラなどを接続する

フロントパネル(前面)のVIDEO AUX端子に接続します。

i.LINK、HDMI機器と接続する

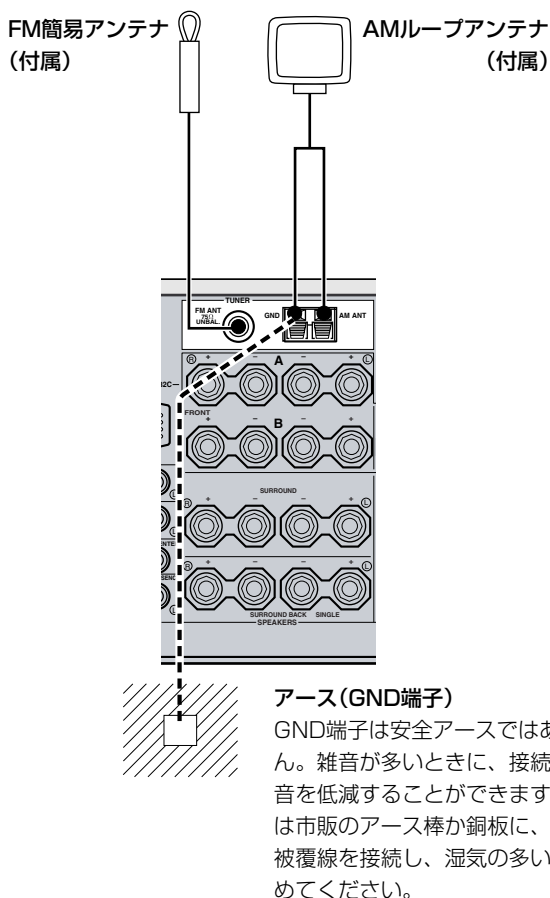
i.LINK端子やHDMI端子がある外部機器と接続します。i.LINKとHDMIの詳細については「応用操作編」32ページ、40ページをご覧ください

i.LINK機器と接続する

i.LINK端子には入力/出力の区別はありません。

HDMI機器と接続する

入力(IN)、出力(OUT)をよく確認して、正しく接続してください。

アンテナを接続する

本機には、FM簡易アンテナおよびAMループアンテナが付属されています。付属のアンテナでうまく受信できない場合は、屋外アンテナを接続してください。

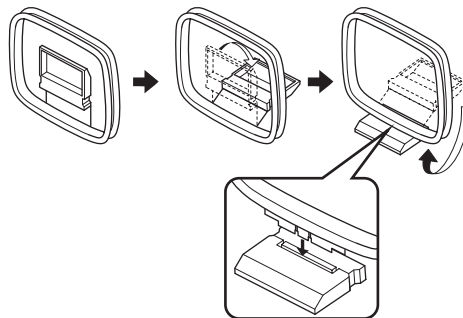
アース（GND端子）
GND端子は安全アースではありません。雑音が多いときに、接続すると雑音を低減することができます。アースは市販のアース棒か銅板に、ビニール被覆線を接続し、湿気の多い地中に埋めてください。

FM簡易アンテナを接続する

付属のFM簡易アンテナを、FM ANT端子に接続してください。

FM屋外アンテナを接続する場合

アンテナの同軸ケーブルを、市販のF型コネクターを使って、FM ANT端子に接続します。詳しくは、屋外アンテナをお買い求めの販売店にご相談ください。

AMループアンテナを接続する

1 アンテナをアンテナスタンドに取り付ける

2 AM ANT端子とGND端子のレバーを押し込んだ状態で、AMループアンテナのコードをAM ANT端子とGND端子に差し込む

コードに極性（+/−）はありません。

3 レバーを放して、コードを固定する

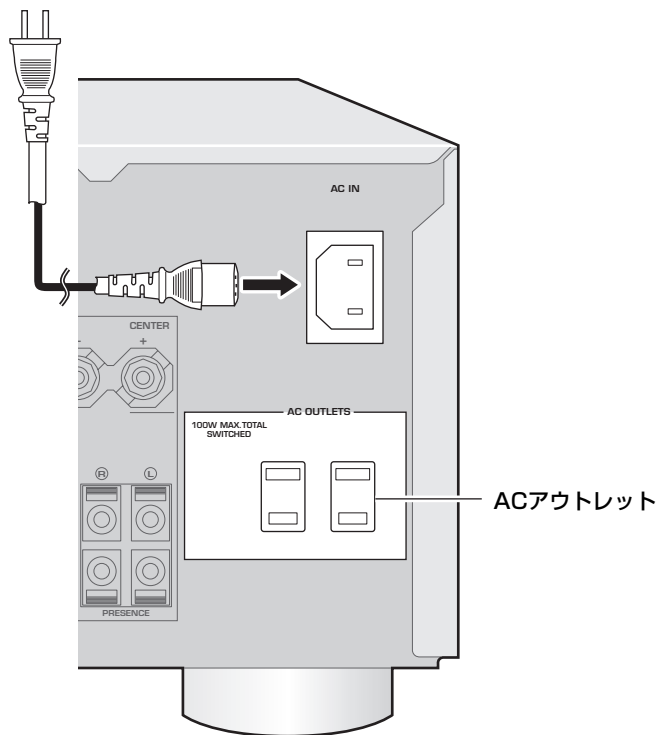
コードを軽く引いて、正しく固定されたかどうか確認してください。

ヒント

- 受信がうまくいかない場合は、アンテナを左右に回し、受信状態が最も良くなる方向に向けてください。
- 放送を良好に受信するには、屋外アンテナを設置することをおすすめします。詳しくは、本機をお買い求めの販売店にお問い合わせください。

ご注意

- AMループアンテナは、本機から離して設置してください。
- 屋外アンテナを接続した場合でも、AMループアンテナは必ず接続しておいてください。

電源コードを接続する

AC アウトレット

外部オーディオ機器に電源を供給するコンセントで、本機のSTANDBY/ONスイッチと連動しています。合計で消費電力100Wまでのオーディオ機器を接続し、電源を供給することができます。
接続するときの電源プラグの向き(極性)によって音質が変わることがありますので、お好みの向きで接続してください。

電源コード

すべての接続が終了したら、電源コードを本機のAC IN端子にしっかりと差し込み、家庭用AC100V、50/60HzのACコンセントに電源プラグを接続します。
接続するときの電源プラグの向き(極性)によって音質が変わることがありますので、お好みの向きで接続してください。

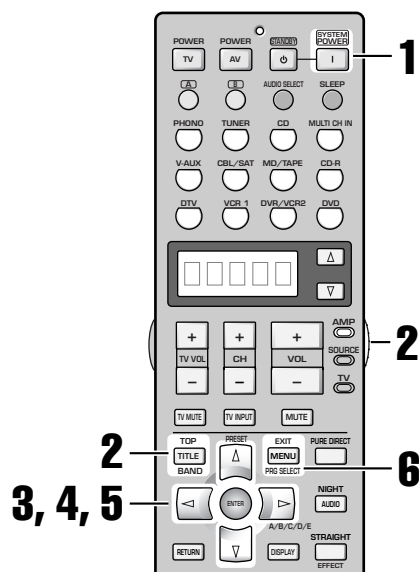
GUI(グラフィカル・ユーザー・インターフェース)画面を使って操作する

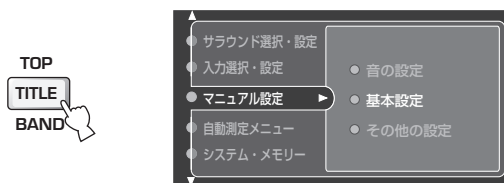
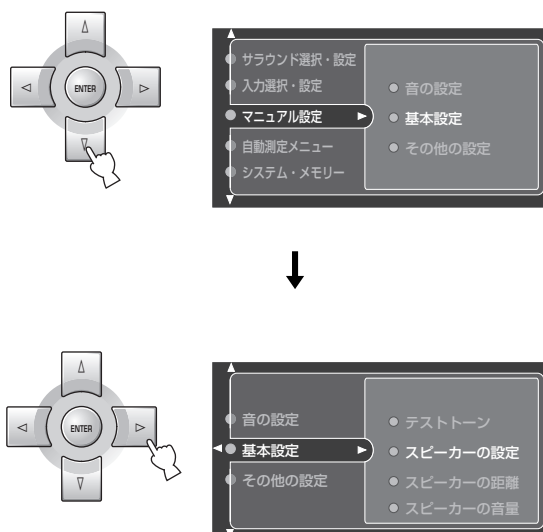
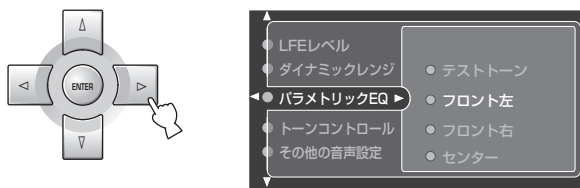
本機にテレビを接続すると、GUI画面を表示させることができます、このGUI画面を見ながら本機を操作したり、設定を変更したりすることができます。

1 本機とテレビの電源を入れる

2 AMP/SOURCE/TVスイッチをスライドさせて、AMPを選び、TOPキーを押して、GUI画面を表示する

3 △/▽キーを押して、設定するカテゴリーを選び、▷キーを押す

↓

選ぶことができるカテゴリーは以下のとおりです。

- 「HDMI」:
  HDMIに関する設定(「応用操作編」43ページ)
- 「i.LINK設定」:
  i.LINKに関する設定(「応用操作編」36ページ)
- 「サラウンド選択・設定」:
  音場プログラムの選択や、パラメーターの設定(「応用操作編」23ページ)
- 「入力選択・設定」:
  入力ソースの選択や、ソースごとの設定(「応用操作編」61ページ)
- 「マニュアル設定」:
  音声出力やスピーカーの設定など、本機のシステム設定(「応用操作編」49ページ)
- 「自動測定メニュー」:
  YPAOによる自動システム設定(34ページ)
- 「システム・メモリー」:
  音声プログラムなどの設定の保存・呼び出し(「応用操作編」64ページ)
- 「音声信号の情報」:
  音声信号情報の確認(「応用操作編」30ページ)

4 Δ/∇キーを押して、設定するメニューを選び、▷キーを押す

メニューによっては、さらにΔ/∇/◁/▷キーでサブメニューを選ぶ必要があります。

5 Δ/∇/◁/▷キーやENTERキーを押して、選んだメニューの設定を変更する

6 変更し終わったら、EXITキーを押して、終了する

最適な視聴空間を自動的に設定する

本機に搭載の「YPAO（Yamaha Parametric Room Acoustic Optimizer)」により、ご使用になるスピーカーの配置、能力やお部屋の音響特性を測定し、最適な視聴空間を自動的に設定することができます。スピーカーから出力されるテストトーンを、付属のマイク（オプティマイザーマイク）で拾い、自動的に測定、設定します。

ご注意

本機のPREOUT端子に外部パワーアンプを接続している場合でもYPAOでの設定は可能ですが、本機の出力レベルと接続したパワーアンプの出力レベルの差が大きい場合など、YPAOの補正範囲を超えてしまう場合は正しく設定できません。

設定の流れ

付属のマイクを準備する 34ページ

測定を開始する 35ページ

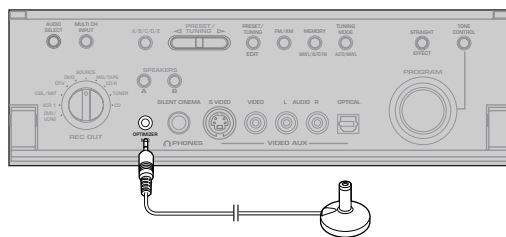
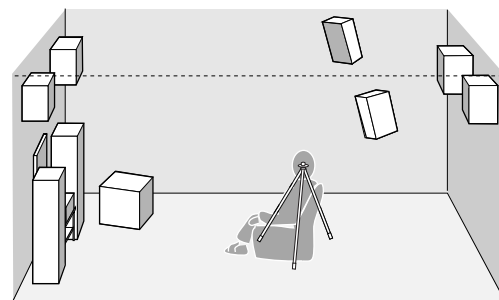
- 結線の確認： スピーカーの接続状態や極性をチェックします。
- 距離の補正： リスニングポジションから各スピーカーまでの距離をチェックし、遅延時間を設定します。
- 大きさ判定： 各スピーカーのサイズを設定します。
- 周波数補正： 各スピーカーの周波数特性を調節します。
- 音量の調整： 各スピーカーからの音量を調節します。

結果を確認する 36ページ

「周波数補正」について

周波数特性の補正は、周波数、レベル、Qファクターの3つのパラメーターがそれぞれ独立して可変するパラメトリックイコライザーを使って行います。これらの組み合わせで、より精度の高い周波数特性の補正を、YPAOにより自動的に行うことができます。

付属のマイクを準備する

本機前面のOPTIMIZER MIC端子に、付属のオプティマイザーマイクを接続します。

オプティマイザーマイクは実際に視聴する位置(リスニングポジション)に、耳と同じ高さで設置します。耳と同じ高さに設置する場合は、水平な台にのせるか、三脚を使います。

ご注意

- 設定が完了したら、オプティマイザーマイクをMIC端子から外して保管してください。
- オプティマイザーマイクは熱に弱いため、直射日光が当たる場所やAV機器の上など高温になる場所には置かないでください。

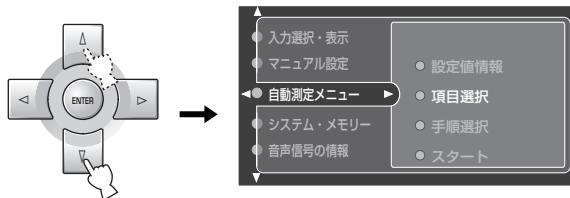
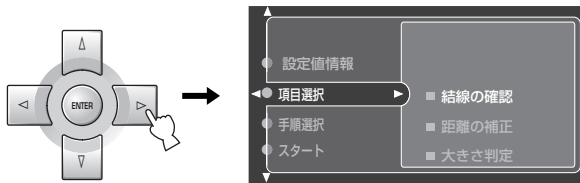
測定を開始する

ご注意
- 測定中は大きなテストトーンが出ます。小さなお子様などをリスニングルームに立ち入らせないようご配慮ください。
- 各スピーカーとオプティマイザーマイクの間に、障害物がないか確認してください。障害物があると、正しく測定できない場合があります。
- 測定中に声を出したり、周囲の騒音が大きいと、正しく測定ができなかったり、エラー表示が出る場合があります。測定中はなるべく静かにしてください。

1 ***本機とテレビの電源を入れる***

2 ***AMP/SOURCE/TVスイッチをスライドさせて、AMPを選ぶ***

3 ***TOPキーを押して、GUI画面を表示する***

4 ***△/▽キーを押して、「自動測定メニュー」を選ぶ***

5 ***▷キーを押す***

6 ***△/▽キーを押して、「項目選択」を選び、▷キーを押す***

7 ***△/▽キーを押して、測定項目を選び、▷キーを押す***

8 ***△/▽キーを押して、各項目を設定するかしないかを選ぶ***

〈結線の確認、距離の補正、大きさ判定、音量の調整〉

実行しない： 測定、設定しません。
実行する： 自動的に測定、設定します。

〈周波数補正〉

測定を行わない： 測定、設定しません。
ナチュラル： 高域特性を下げることによって、全てのスピーカの音質を揃えます。
高域がきつく聞こえるときにこの設定をお使いください。
フラット： 各スピーカーの特性を均一(フラット)にします。
フロントに近似： フロントL/Rスピーカーの特性に、各スピーカーの特性を合わせます。

9 ***各項目の設定が終わったら、◁キーを押して、「項目選択」に戻る***

10 ***▽キーを押して、「手順選択」を選び、▷キーを押す***

11 ***△/▽キーを押して、設定の方法を選ぶ***

全選択項目： 全ての項目を自動的に設定します。
一項目ずつ： 各項目ごとに結果を確認しながら設定します。

12 ***設定の方法が決まったら、◁キーを押して、「手順選択」に戻る***

13 ***▽キーを押して、「スタート」を選ぶ***

14 ENTERキーを押す

大きなテストトーンがスピーカーから出力され、「測定中」と表示されます。

自動測定メニューを停止するには、カーソル(△/▽/◁/▷)キーのいずれかを押すか、ENTERキーを押してください。
始めから再測定するには△キーを、キャンセルするには◁キーを押してください。
測定が終わると、「測定が終了しました」と表示され、結果が表示されます。

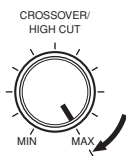
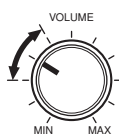
ご注意

測定中にエラー表示が出た場合は、「表示メッセージについて」(38〜39ページ)を確認のうえ、必要な対処をしてから、測定をやりなおしてください。

ヒント

- THX認証のスピーカーをご使用の場合は「大きさ判定」を「実行しない」にして、設定しないようにしてください。また「スピーカーの設定」で、すべてのスピーカーが「小」に設定されていることと、「低音クロスオーバー」が「80Hz(THX)」に設定されていることを確認してください(「応用操作編」56ページ)。
- スピーカーやスピーカーの設置場所を変えた場合は、もう一度設定することをおすすめします。

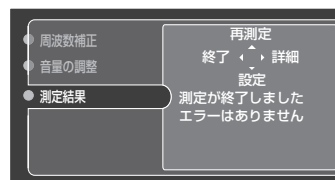
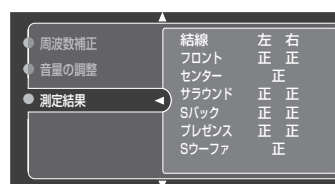
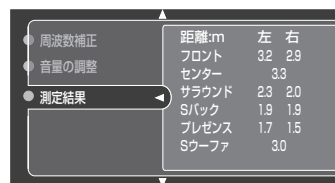
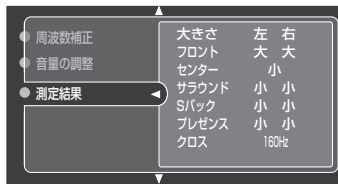
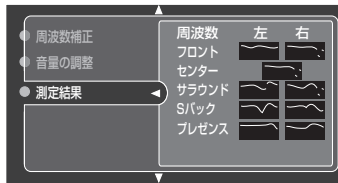
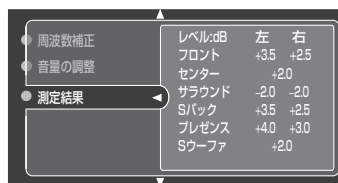
アクティブサブウーファーの設定について

- サブウーファーを接続している場合は電源を入れて、下図の位置(半分または半分よりやや小さめ)にボリュームを設定してください。

- クロスオーバー周波数の設定機能がある場合は、クロスオーバー周波数を最大に設定してください。

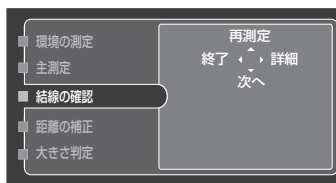
結果を確認する

各項目の測定の結果を確認することができます。

「全選択項目」で測定した場合

すべての測定が終わると、「測定が終了しました」と表示され、結果が表示されます。

- 測定した値で設定する場合は、▽キーを押して、「設定」を選択します。
- 測定をやり直す場合は、△キーを押して、「再測定」を選択します。
- 各項目の測定結果、警告メッセージを確認する場合は、▷キーを押して、「詳細」を選択します。警告メッセージについては、「表示メッセージについて」(38〜39ページ)をご覧ください。
- 自動測定メニューから抜ける場合は、◁キーを押して、「終了」を選択します。　「終了」を選択すると、「最適化しますか?」というメッセージが表示されます。測定した値で設定して自動測定メニューから抜ける場合は「はい」を、設定せずに抜ける場合は「いいえ」を選択します。

スピーカーの接続状態や極性を表示します。

リスニングポジションからスピーカーまでの距離を表示します。

各スピーカーのサイズを表示します。

各スピーカーの周波数補正結果を表示します。

各スピーカーからの音量を表示します。

「一項目ずつ」で測定した場合

各項目の測定が終わるごとに、その項目の結果画面が表示されます。

- 次の項目の測定に進む場合は、∇キーを押して、「次へ」を選択します。
- 測定をやり直す場合は、∆キーを押して、「再測定」を選択します。
- 各項目の測定結果、警告メッセージを確認する場合は、⊳キーを押して、「詳細」を選択します。警告メッセージについては、「表示メッセージについて」(38〜39ページ)をご覧ください。
- 自動測定メニューから抜ける場合は、⊲キーを押して、「終了」を選択します。

すべての測定、設定が終わると、「測定が終了しました」と表示されます。

- 測定した値で設定する場合は、∇キーを押して、「設定」を選択します。
- 測定をやり直す場合は、∆キーを押して、「再測定」を選択します。
- 各項目の測定結果、警告メッセージを確認する場合は、⊳キーを押して、「詳細」を選択します。警告メッセージについては、「表示メッセージについて」(38〜39ページ)をご覧ください。
- 自動測定メニューから抜ける場合は、⊲キーを押して、「終了」を選択します。「終了」を選択すると、「最適化しますか？」というメッセージが表示されます。測定した値で設定して自動測定メニューから抜ける場合は「はい」を、設定せずに抜ける場合は「いいえ」を選択します。

ご注意

- 設定後は、「設定値情報」で設定値を確認することができます。
- より細かい設定をしたい場合は、マニュアルで各項目を設定することができます(「応用操作編」49ページ)。マニュアル設定後に、各項目の設定を自動測定メニューでの設定に戻したい場合は、「設定値情報」で戻せます。∆/∇キーで戻したい項目を選び、ENTERキーを押してください。
- 「結線の確認」では、ご使用のサブウーファーに最適な位相を判断して、サブウーファーの位相を表示しています。またこの結果にしたがって、GUIメニュー「スピーカーの設定」の「SW位相」の設定が自動的に変更されます(「応用操作編」53ページ)。
- 視聴環境によっては、サブウーファー側での位相設定とは逆の結果が表示されることがあります。このような場合は、実際にお聴き比べのうえ、お好みの設定に変更してください。
- 「距離の補正」では、ご使用のサブウーファーの特性により、サブウーファーの設定値が実際の配置距離よりも長くなることがあります。また、外部アンプ使用時にも、各スピーカーの測定値が実際の配置距離よりも長くなることがあります。
- 「周波数特性」では、周波数をより精密に補正するため、同じ周波数帯域で違うレベル値が測定されることがあります。

表示メッセージについて

測定開始前の表示

エラーメッセージ	原因	対策
「マイク接続確認」	付属のオプティマイザーマイクが接続されていません。	本機前面のOPTIMIZER MIC端子に、オプティマイザーマイクを接続してください。
「HPを抜いてください」	ヘッドホンが接続されています。	本機前面のPHONES端子から、ヘッドホンを抜いてください。
「測定項目 未選択」	すべての項目を、「実行しない」に設定しています。	測定する項目を、「実行する」に設定してください。
「保護されています」	設定が保護されています。	GUIメニュー「設定の保護」を「可変」に設定してください(「応用操作編」60ページ)。

測定中のエラーメッセージ

エラー表示画面で「詳細」を選ぶと、各メッセージの詳細を表示することができます。各メッセージの内容を確認のうえで「再実行」を選んで、測定をやりなおしてください。

エラーメッセージ	原因	対策
「E01:フロントSP」	フロントL / Rスピーカーが検出されませんでした。	SPEAKER A/Bスイッチで正しくスピーカーを選んでください。
		フロントL/Rスピーカーが正しく接続されているか確認してください。
「E02:サラウンドSP」	サラウンドL/Rスピーカーが片側しか検出されませんでした。	サラウンドL/Rスピーカーが正しく接続されているか確認してください。
「E03:プレゼンスSP」	プレゼンスL/Rスピーカーが片側しか検出されませんでした。	プレゼンスL/Rスピーカーが正しく接続されているか確認してください。
「E04:SBR→SBL」	サラウンドバックスピーカーを1本のみ接続している場合に、R側から検出されました。	サラウンドバックスピーカーを1本のみ接続する場合は、L側(SINGLE)端子に接続してください。
「E05:雑音大」	暗騒音(部屋の騒音)が大きすぎて、正確な測定ができません。	エアコンなど騒音を発生する機器の電源を一時的に切るか、遠ざけてみてください。
		周囲が静かな時間帯にやり直してみてください。
「E06:サラウンド確認」	サラウンドL/Rスピーカーが接続されておらず、サラウンドバックスピーカーだけが接続されています。	サラウンドバックスピーカーを使うときは、サラウンドL/Rスピーカーを接続する必要があります。正しく接続されているか確認してください。
「E07:マイク未接続」	測定の途中でオプティマイザーマイクが外れました。	本機前面のOPTIMIZER MIC端子に、オプティマイザーマイクを接続してください。
「E08:信号入力無し」	テストトーンが出ているにもかかわらず、オプティマイザーマイクがテストトーンを検知していません。	オプティマイザーマイクが正しく接続されているか確認してください。
		各スピーカーが正しく接続されているか確認してください。
「E09:測定キャンセル」	音量を調節または消音したり、SPEAKER A/Bスイッチでスピーカーを切り替えた、などの操作をしたため、測定をキャンセルしました。	測定の精度が落ちるため、測定中は音量を変えないでください。
「E10:内部エラー」	アンプ内部のエラーが発生しました。	電源を入れなおして、測定を再実行してください。

測定終了後の警告メッセージ

測定は終了しましたが、測定値に問題がある可能性がある場合に表示されます。各メッセージの内容を確認のうえで「再測定」を選んで、測定をやりなおすことをおすすめします。

エラーメッセージ	原因	対策
「W1:SP接続逆相」	表示されたスピーカーの極性が、逆に接続されています。	スピーカーが正しく接続されているか確認してください。
		スピーカーによっては、正しく接続してもこの表示が出ることがあります。 接続が正しければ、このエラーメッセージが出ても設定は正常に終了しています。
「W2:距離補正限界」	表示されたスピーカーとリスニングポジションとの距離が、24m以上あります。	スピーカーの設置場所を確認してください。
「W3:音量補正限界」	各チャンネル間の音量差が大きすぎて、補正ができません。	スピーカーの設置場所を確認してください。
		スピーカーが正しく接続されているか確認してください。
		なるべく近い性能のスピーカーを使用することをおすすめします。
		サブウーファーの音量を調節してください。
「W4:SPの不一致」	各スピーカーの設定内容と測定結果が異なります(「結線の確認」を実行しなかった場合のみ表示されます)。	スピーカーが正しく接続されているか確認してください。

DSP AVアンプ

NATURAL SOUND AV AMPLIFIER

DSP-AX4600

取扱説明書

基本操作編

本機を簡単にお使いいただくためのものです。
基本的な操作について説明しています。

■ 本機の優れた性能を十分に発揮させると共に、永年支障なくお使いいただくために、ご使用前にこの取扱説明書と保証書をよくお読みください。
お読みになったあとは、保証書と共に大切に保管し、必要に応じてご利用ください。

安全上のご注意

本機をお使いいただく前に、準備・接続編に記載されている「安全上のご注意（安全に正しくお使いいただくために）」をお読みのうえ、正しくお使いください。

なにを見ますか、なにを聴きますか？

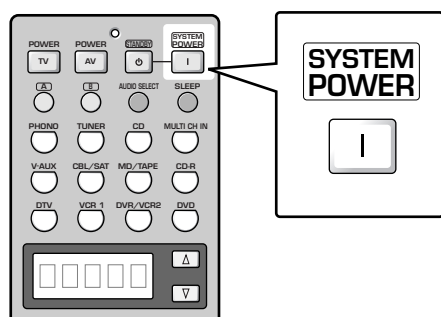
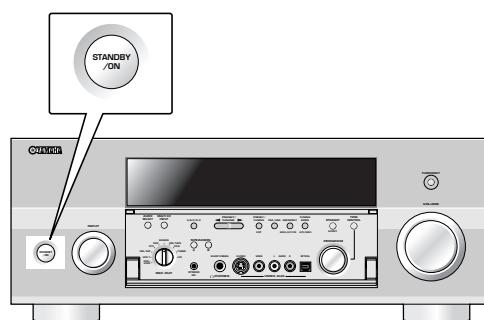
最初に、本機でお楽しみいただける音場プログラムをご紹介します。見たい/聴きたいものに合わせて、音場プログラムを選び、再生してみましょう。
各機器の操作については、「なにを再生しますか？」から簡単な操作説明を参照できます。

効果的にお楽しみいただくには

音場を選びます		特長または最適ソース
映画館の感覚で聴きたい	MOVIE 4 **MOVIE THEATER**	
	Spectacle	70mm映画の大画面のスペクタクルな音場
	Sci-Fi	最新のSFX映画をクールに楽しめる音場
	Adventure	アドベンチャー映画を大迫力で楽しめる音場
	General	情緒的な映画を柔らかく再現する音場
	THX 5 **THX**	
	THX Cinema	あらゆるソースを、映画館の迫力で再現
	THX Surround EX	あらゆるマルチチャンネルソースを、映画館の迫力で再現
	STANDARD 6 **DOLBY DIGITAL/DTS/AAC**	
	SUR.STANDARD	ドルビーデジタル、DTS、AAC信号を忠実に再現
	SUR.ENHANCED	ドルビーデジタル、DTS、AAC信号に音場効果を与える
	PRO LOGIC	
	SUR.STANDARD	ドルビープロロジック信号を忠実に再現
	SUR.ENHANCED	ドルビープロロジック信号に音場効果を与える
	PRO LOGIC IIx	
	Movie / Music	2チャンネル音声を仮想的にマルチチャンネル化して再生
	DTS Neo:6	
	Cinema / Music	2チャンネル音声を仮想的にマルチチャンネル化して再生
	SRS CS II	
	Cinema / Music	2チャンネル音声を仮想的にマルチチャンネル化して再生
テレビ感覚で聴きたい	ENTERTAIN 3 **ENTERTAINMENT**	
	TV Sports	バラエティやスポーツ中継番組など、適用範囲の広い音場
	Mono Movie	往年のモノラル映画を自然に再生する音場
大ホール感覚で聴きたい	MUSIC 2 **MUSIC**	
	Hall in Munich	広く奥行きのあるホールの音場
	Hall in Vienna	響きが豊かな古典的な中ホールの音場
	Freiburg	非常に長い残響時間を持つ教会特有の音場
ライブハウス/コンサート感覚で聴きたい	MUSIC 2 **MUSIC**	
	The Bottom Line	ニューヨークで話題のライブハウス「ザ・ボトム・ライン」の音場
	The Roxy Theatre	ロサンゼルスのホットなロックライブハウスの音場
	Pop/Rock	ロック、ジャズなどのライブコンサートを再現する音場
	Classical/Opera	ステージの臨場感と、音楽の美しさを演出する音場
	ENTERTAIN 3 **ENTERTAINMENT**	
	Disco	ホットなディスコの雰囲気を再現する音場
	THX 5 **THX**	
	THX music	ライブやコンサートのサウンドを大迫力で楽しめる音場
ゲーム感覚で聴きたい	ENTERTAIN 3 **ENTERTAINMENT**	
	Game	TVゲームの軽快なノリをさらに加速する、痛快なテンポの音場
	THX 5 **THX**	
	Game	TVゲームのサウンドを大迫力で楽しめる音場
	STANDARD 6 **PRO LOGIC IIx**	
	Game	2チャンネル音声を仮想的にマルチチャンネル化して再生

DVD を再生する

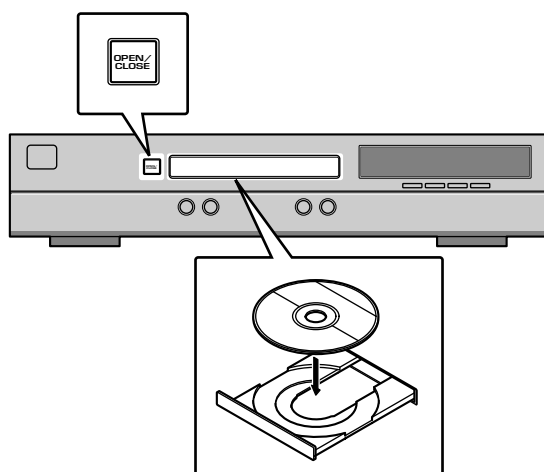
1　本機の電源を入れます

リモコンの SYSTEM POWER キー、または本体の STANDBY/ON スイッチを押して電源を入れます。

リモコンの操作　　**本体の操作**

2　テレビの電源を入れます

詳しくはテレビの取扱説明書をご覧ください。

3　DVD プレーヤーの電源を入れます

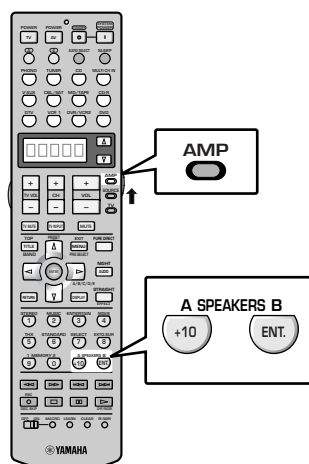
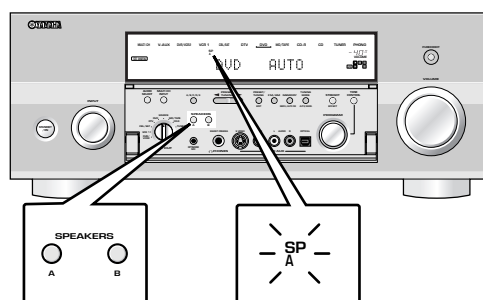
詳しくは DVD プレーヤーの取扱説明書をご覧ください。

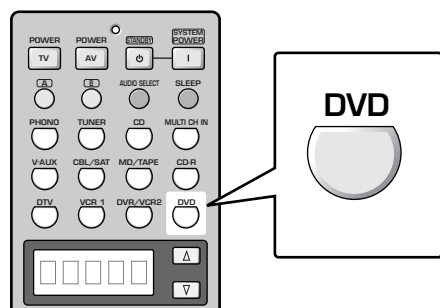
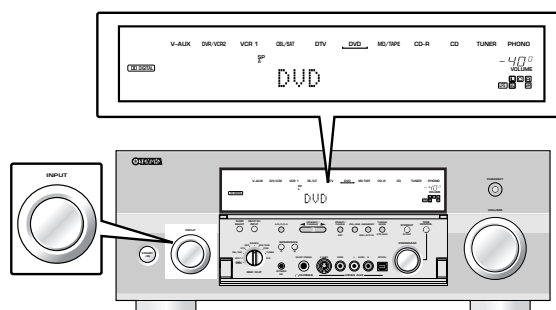
4　DVD ディスクをセットします

DVD プレーヤーのディスクトレイを開き、ディスクレーベル（印刷面）のある面を上にして、ディスクをディスクトレイにのせます。ディスクをのせたら、ディスクトレイを閉めます。

DVDプレーヤーのディスクトレイの開閉について詳しくは、DVDプレーヤーの取扱説明書をご覧ください。

5 スピーカーを選びます

リモコンのAMP/SOURCE/TVスイッチをスライドさせてAMPを選び、SPEAKERS A/Bキーを押す、または本体のSPEAKERS A/Bスイッチを押して、音を出すフロントスピーカーを選択します。A、Bの両方を使用する場合は、AとBをそれぞれ押します。選択しているスピーカーは、SP A/Bインジケーターで表示されます。

リモコンの操作

本体の操作

6 本機の入力を切り替えます

リモコンのDVDキー（入力選択キー）を押す、または本体のINPUTセレクターを回して、DVDを選びます。入力を切り替えると、本体ディスプレイに選んだ入力の名前と入力モードが数秒間表示されます。

リモコンの操作　　**本体の表示**

7 テレビの入力を切り替えます

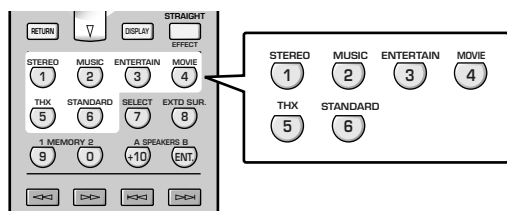
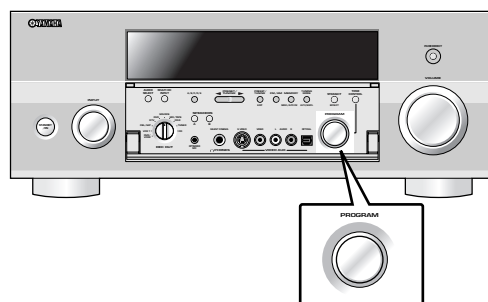
詳しくはテレビの取扱説明書をご覧ください。

例えば、本機がテレビのビデオ入力端子2に接続されている場合はビデオ入力2を選びます。

8 再生を始めます

詳しくは DVD プレーヤーの取扱説明書をご覧ください。

9 音場プログラムを選びます

お好みの音場プログラムを呼び出して、臨場感と効果をお楽しみください。リモコンの音場プログラムキーを押してお好みの音場プログラムを選びます。
本体の PROGRAM セレクターを回しても音場プログラムを選ぶことができます。

リモコンの操作 **本体の操作**

おすすめ

以下は映画を見るとき、音楽を聴くときにおすすめの音場プログラムです。なお、それぞれの音場の特徴など、詳しくは「応用操作編」90 ページをご覧ください。

- **映画を見るとき**
  - → MOVIE THEATER
  - → THX
  - → DOLBY DIGITAL/DTS
  - → PRO LOGIC
  - → PRO LOGIC Ⅱx
  - → DTS Neo:6
  - → SRS CS Ⅱ
- **音楽を聴くとき**
  - → MUSIC
  - → ENTERTAINMENT

ヒント

- 音の大きさを調節するには？(7 ページ)
- 本機の使用を終了するには？(7 ページ)
- リモコンコードを設定すると、本機のリモコンでお使いのDVDプレーヤーを操作することができます。詳しくは「応用操作編」72 ページをご覧ください。

こんなときは・・・

●使い終わった!

STANDBYキー、または本体のSTANDBY/ONスイッチを押すと、本機の電源をスタンバイ状態にすることができます。

本体では

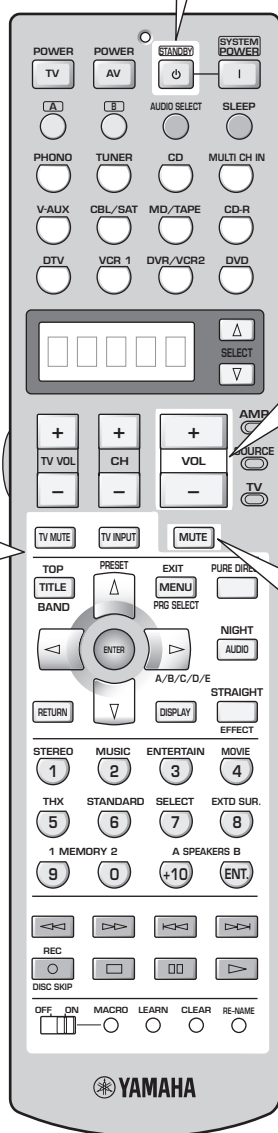
YAMAHA

●本機のリモコンで他の機器を操作したい!

リモコンコードを設定すると、本機のリモコンで、テレビなど他の機器を操作することができます。詳しくは「応用操作編」72ページをご覧ください。

●音の大きさを調節したい!

VOL+/−キーを押します。または本体のVOLUMEコントロールを回します。

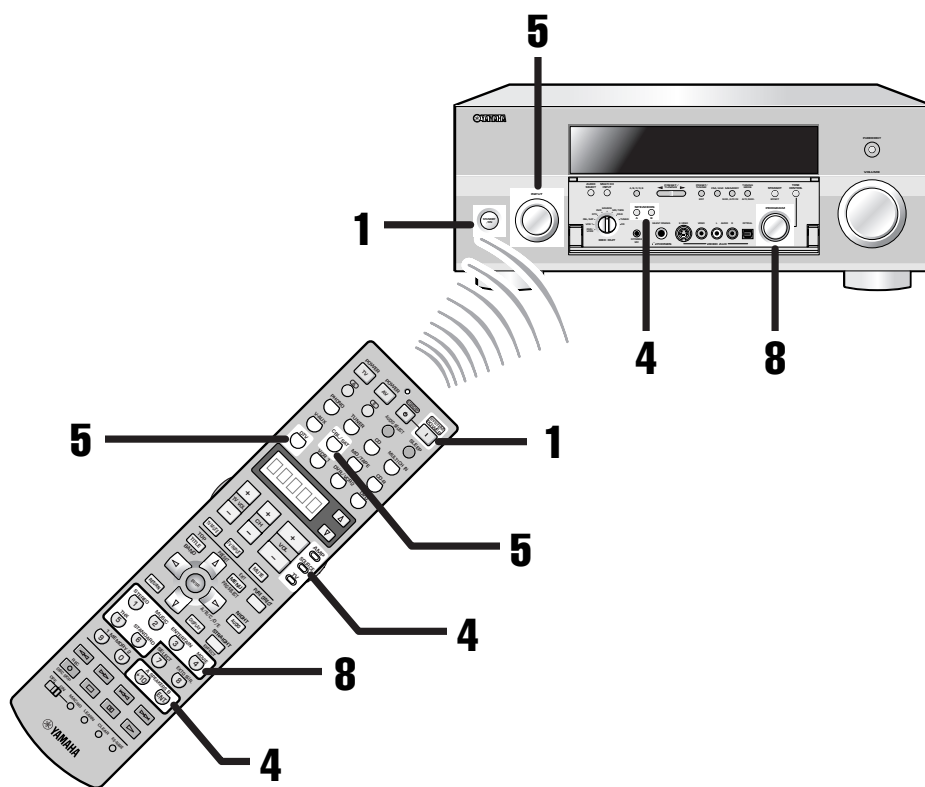
本体では

●一時的に音を下げたい!(消音)

MUTEキーを押します。もう一度MUTEキーを押すと元の音量に戻ります。

お知らせ

- 消音中は、本体ディスプレイに「MUTE　ON」と表示され、MUTEインジケーターが点滅します。
- VOLUMEキーや音場プログラムキーなどを押しても消音は解除されます。
- GUIメニュー「その他の設定」の「ミューティング量」で下げる音量を選ぶことができます。詳しくは「応用操作編」51ページをご覧ください。

テレビ / 衛星放送を見る

ご注意
i.LINKまたはHDMIで接続した場合は、入力モードをAUTO、i.LINK、HDMIのいずれかに設定して再生してください。
詳しくは「応用操作編」25ページをご覧ください。

1 本機の電源を入れます

2 テレビの電源を入れます

詳しくはテレビの取扱説明書をご覧ください。

3 衛星放送チューナー / ケーブル TV チューナーの電源を入れます

詳しくは衛星放送チューナー / ケーブル TV チューナーの取扱説明書をご覧ください。

4 スピーカーを選びます

AMP/SOURCE/TV スイッチをスライドさせて AMP を選んでからスピーカーを選択してください。

5 本機の入力を切り替えます

入力を切り替えると、本体ディスプレイに選んだ入力の名前と入力モードが数秒間表示されます。

6 テレビの入力を切り替えます

詳しくはテレビの取扱説明書をご覧ください。

7 チャンネルを選びます

詳しくは衛星放送チューナー / ケーブル TV チューナーの取扱説明書をご覧ください。

8 音場プログラムを選びます

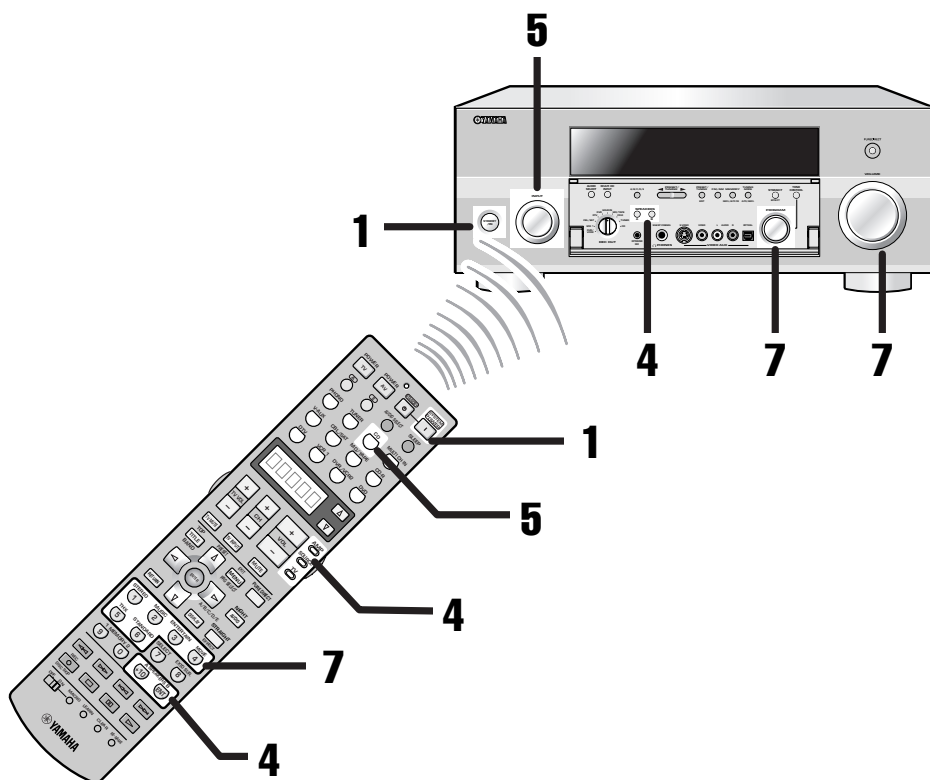
おすすめ

以下は映画を見るとき、音楽を聴くときにおすすめの音場プログラムです。なお、それぞれの音場の特徴など、詳しくは「応用操作編」90ページをご覧ください。

・**映画を見るとき**
→ MOVIE THEATER
→ THX
→ AAC
→ DOLBY DIGITAL/DTS/AAC
→ PRO LOGIC
→ PRO LOGIC Ⅱx
→ DTS Neo:6
→ SRS CS Ⅱ

・**スポーツ / ドラマを見るとき**
→ ENTERTAINMENT

- 音の大きさを調節するには？（7ページ）
- 本機の使用を終了するには？（7ページ）
- リモコンコードを設定すると、本機のリモコンで衛星放送チューナー／ケーブルTVチューナーを操作することができます。詳しくは「応用操作編」72ページをご覧ください。

CDを再生する

ご注意

i.LINKまたはHDMIで接続した場合は、入力モードをAUTO、i.LINK、HDMIのいずれかに設定して再生してください。
詳しくは「応用操作編」25ページをご覧ください。

1 本機の電源を入れます

2 CDプレーヤーの電源を入れます

詳しくはCDプレーヤーの取扱説明書をご覧ください。

3 CDをセットします

CDプレーヤーのディスクトレイを開き、ディスクレーベル（印刷面）のある面を上にして、ディスクをディスクトレイにのせます。ディスクをのせたら、ディスクトレイを閉めます。
一部のプレーヤーでは、セット方法が違う場合があります。詳しくは、CDプレーヤーの取扱説明書をご覧ください。

4 スピーカーを選びます

AMP/SOURCE/TVスイッチをスライドさせてAMPを選んでからスピーカーを選択してください。

5 本機の入力をCDに切り替えます

入力を切り替えると、本体ディスプレイに選んだ入力の名前と入力モードが数秒間表示されます。

6 再生を始めます

詳しくはCDプレーヤーの取扱説明書をご覧ください。

7 音場プログラムを選びます

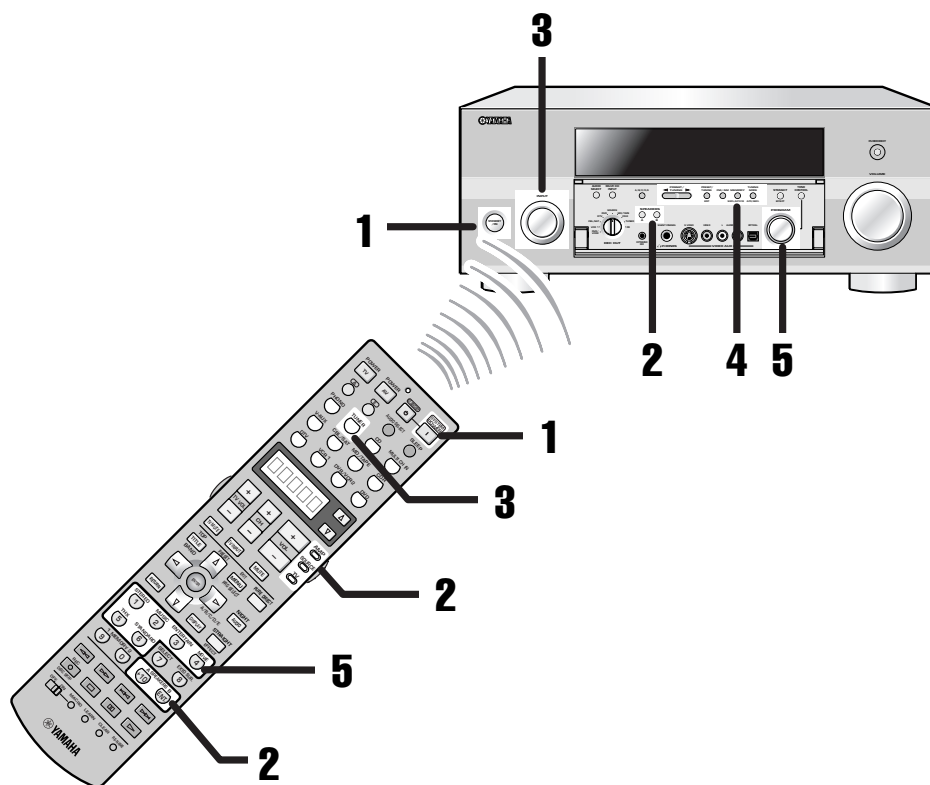
おすすめ

以下は音楽を聴くときにおすすめの音場プログラムです。なお、それぞれの音場の特徴など、詳しくは「応用操作編」90ページをご覧ください。

・音楽を聴くとき

→MUSIC
→ENTERTAINMENT

- 音の大きさを調節するには？（7ページ）
- 本機の使用を終了するには？（7ページ）
- リモコンコードを設定すると、本機のリモコンでCDプレーヤーを操作することができます。詳しくは「応用操作編」72ページをご覧ください。
- 高音質のステレオ音声で楽しみたい場合は、PURE DIRECTキーを押すと原音に忠実に高音質で再生するピュアダイレクトモードで楽しむことができます。詳しくは「応用操作編」16ページをご覧ください。

FM/AM 放送を聴く

ご注意
i.LINKまたはHDMIで接続した場合は、入力モードをAUTO、i.LINK、HDMIのいずれかに設定して再生してください。
詳しくは「応用操作編」25ページをご覧ください。

1 本機の電源を入れます

2 スピーカーを選びます

AMP/SOURCE/TV スイッチをスライドさせて AMP を選んでからスピーカーを選択してください。

3 本機の入力をTUNERに切り替えます

入力を切り替えると、本体ディスプレイに「TUNER」と数秒間表示されます。

4 放送局を選びます

＜自動的に選局する場合（オート選局）＞
1.FM/AM キーを押して、FM または AM を選ぶ
2.TUNING MODE（AUTO/MAN'L）キーを押して、ディスプレイに AUTO インジケーターを点灯させる
3.PRESET/TUNING⊲/⊳ キーを押して、受信したい放送局を選ぶ

＜手動で選局する場合（マニュアル選局）＞
1.FM/AM キーを押して、FM または AM を選ぶ
2.TUNING MODE（AUTO/MAN'L）キーを押して、ディスプレイの AUTO インジケーターを消す
3.PRESET/TUNING⊲/⊳ キーを押す

5 音場プログラムを選びます

おすすめ

以下は音楽を聴くときにおすすめの音場プログラムです。なお、それぞれの音場の特徴など、詳しくは「応用操作編」90 ページをご覧ください。

・音楽を聴くとき
→ MUSIC
→ ENTERTAINMENT

ヒント
・音の大きさを調節するには？（7 ページ）
・本機の使用を終了するには？（7 ページ）

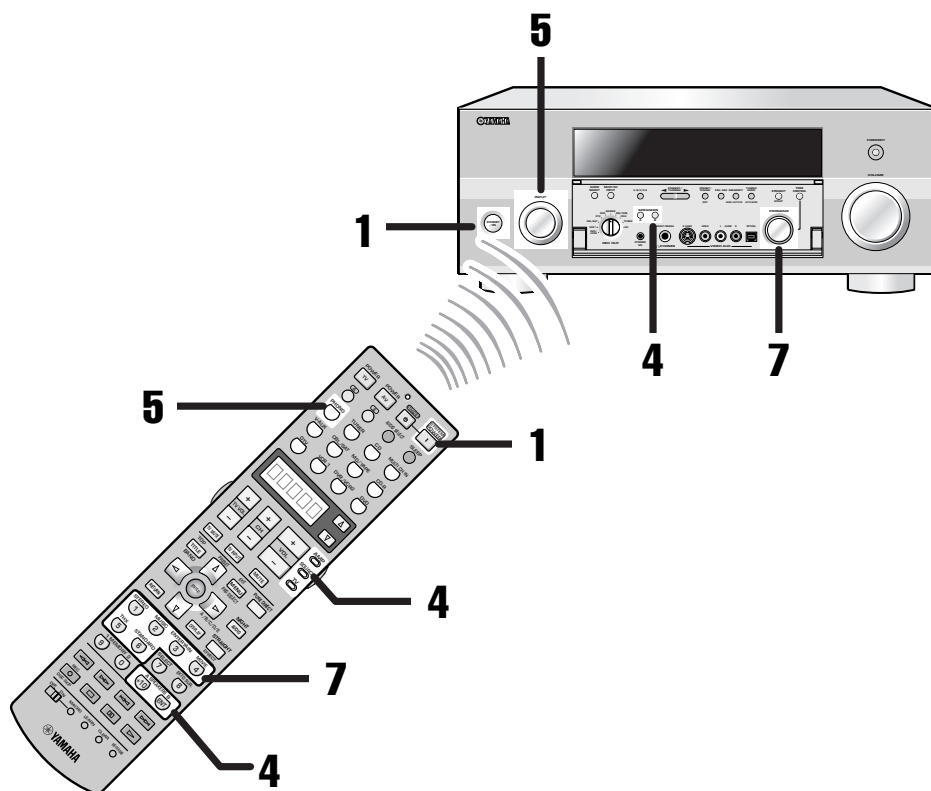
こんなときは・・・

●雑音が入って聴きづらい！

アンテナの高さや方向、接続などを確認してください。詳しくは「準備・接続編」30 ページをご覧ください。

●放送局を登録したい！

お好みの放送局を登録することにより､簡単に放送局を呼び出せます。詳しくは「応用操作編」18 ページをご覧ください。

レコードを再生する

ご注意
i.LINKまたはHDMIで接続した場合は、入力モードをAUTO、i.LINK、HDMIのいずれかに設定して再生してください。
詳しくは「応用操作編」25ページをご覧ください。

1 本機の電源を入れます

2 レコードプレーヤーの電源を入れます

詳しくはレコードプレーヤーの取扱説明書をご覧ください。

3 レコードをセットします

レコードプレーヤーのターンテーブルにレコードをのせます。
レコードのセットのしかたについて詳しくは、レコードプレーヤーの取扱説明書をご覧ください。

4 スピーカーを選びます

AMP/SOURCE/TV スイッチをスライドさせて AMP を選んでからスピーカーを選択してください。

5 本機の入力をPHONOに切り替えます

入力を切り替えると、本体ディスプレイに選んだ入力の名前が数秒間表示されます。

6 再生を始めます

詳しくはレコードプレーヤーの取扱説明書をご覧ください。

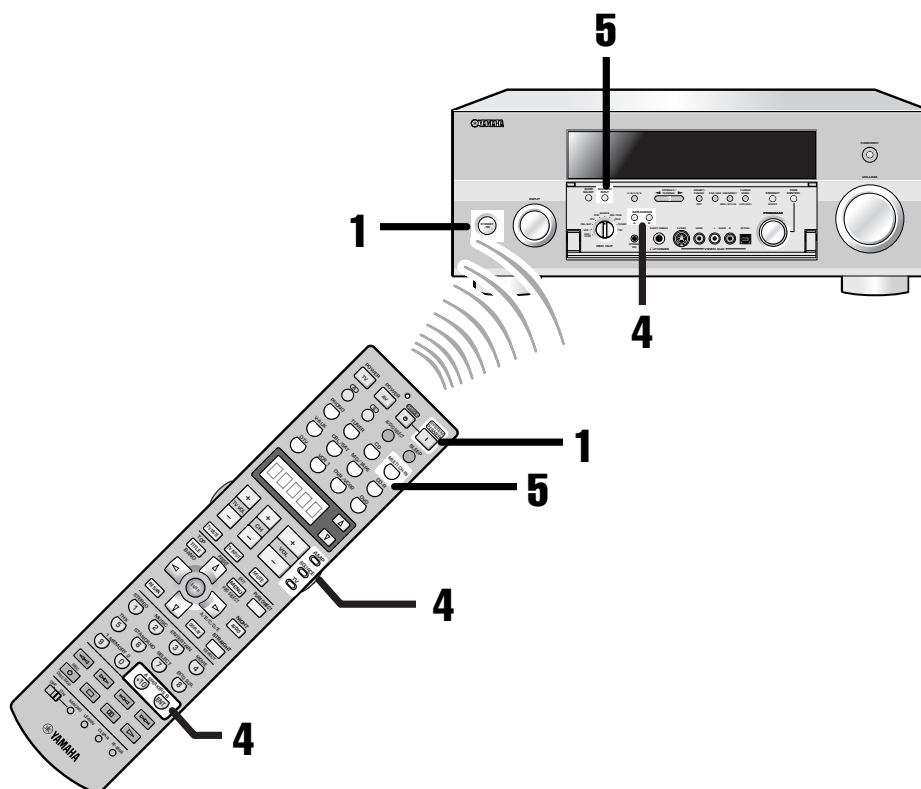
7 音場プログラムを選びます

おすすめ

以下は音楽を聴くときにおすすめの音場プログラムです。なお、それぞれの音場の特徴など、詳しくは「応用操作編」90 ページをご覧ください。

・**音楽を聴くとき**
→ MUSIC
→ ENTERTAINMENT

・音の大きさを調節するには？（7 ページ）
・本機の使用を終了するには？（7 ページ）

スーパーオーディオCD/DVDオーディオを再生する

ご注意
i.LINKまたはHDMIで接続した場合は、入力モードをAUTO、i.LINK、HDMIのいずれかに設定して再生してください。
詳しくは「応用操作編」25ページをご覧ください。

1 本機の電源を入れます

2 スーパーオーディオCD/DVDオーディオプレーヤーの電源を入れます

詳しくはスーパーオーディオCD/DVDオーディオの取扱説明書をご覧ください。

3 スーパーオーディオCDまたはDVDオーディオをセットします

スーパーオーディオCD/DVDオーディオプレーヤーのディスクトレイを開き、ディスクレーベル（印刷面）のある面を上にして、ディスクをディスクトレイにのせます。ディスクにのせたら、ディスクトレイを閉めます。
スーパーオーディオCD/DVDオーディオプレーヤーのディスクトレイの開け方について詳しくは、スーパーオーディオCD/DVDオーディオプレーヤーの取扱説明書をご覧ください。

4 スピーカーを選びます

AMP/SOURCE/TVスイッチをスライドさせてAMPを選んでからスピーカーを選択してください。

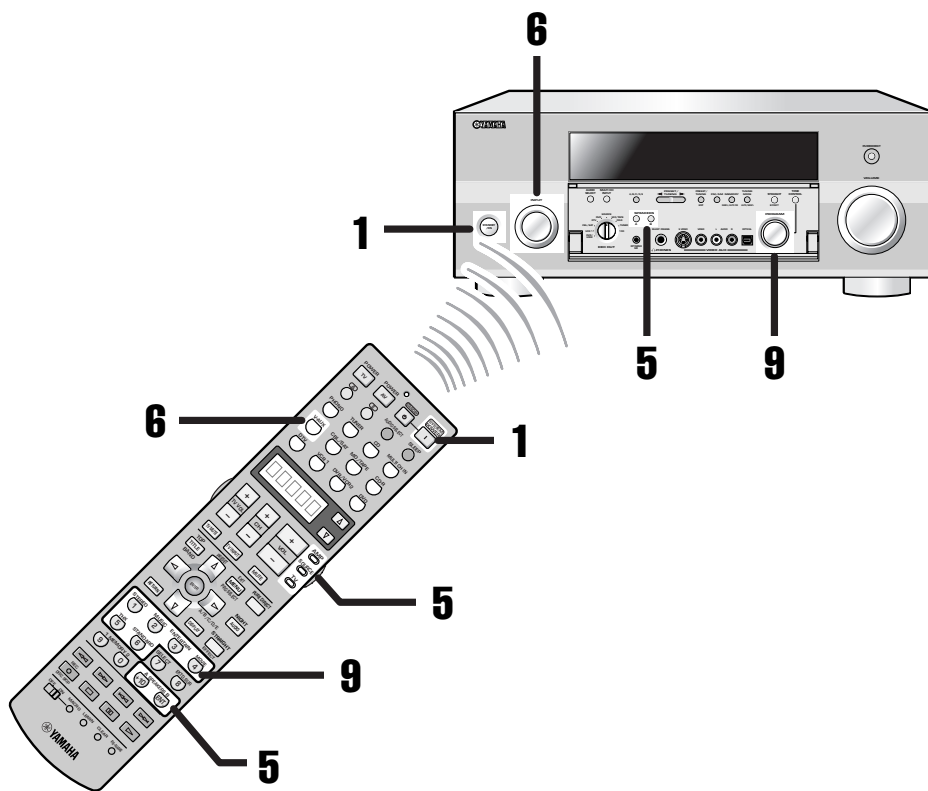
5 本機の入力をMULTI CH INに切り替えます

入力を切り替えると、本体ディスプレイに「MULTI CH INPUT」と表示されます。

6 再生を始めます

詳しくはスーパーオーディオCD/DVDオーディオプレーヤーの取扱説明書をご覧ください。

ヒント
- 音の大きさを調節するには？（7ページ）
- 本機の使用を終了するには？（7ページ）
- リモコンコードを設定すると、本機のリモコンでスーパーオーディオCD/DVDオーディオプレーヤーを操作することができます。詳しくは「応用操作編」72ページをご覧ください。
- 高音質のステレオ音声で楽しみたい場合は、PURE DIRECTキーを押すと原音に忠実に高音質で再生するピュアダイレクトモードで楽しむことができます。詳しくは「応用操作編」16ページをご覧ください。
- i.LINKで接続した場合の詳細については「応用操作編」33ページをご覧ください。
- HDMIで接続した場合の詳細については「応用操作編」40ページをご覧ください。

ゲームを楽しむ

ご注意
i.LINKまたはHDMIで接続した場合は、入力モードをAUTO、i.LINK、HDMIのいずれかに設定して再生してください。
詳しくは「応用操作編」25ページをご覧ください。

1 本機の電源を入れます

2 テレビの電源を入れます

詳しくはテレビの取扱説明書をご覧ください。

3 ゲーム機の電源を入れます

詳しくはゲーム機の取扱説明書をご覧ください。

4 ゲームソフトをセットします

詳しくはゲーム機の取扱説明書をご覧ください。

5 スピーカーを選びます

AMP/SOURCE/TV スイッチをスライドさせて AMP を選んでからスピーカーを選択してください。

6 本機の入力を V-AUX に切り替えます

入力を切り替えると、本体ディスプレイに選んだ入力の名前と入力モードが数秒間表示されます。

7 テレビの入力を切り替えます

詳しくはテレビの取扱説明書をご覧ください。

8 プレイを始めます

詳しくはゲーム機の取扱説明書をご覧ください。

9 音場プログラムを選びます

おすすめ

以下はゲームを楽しむときにおすすめの音場プログラムです。なお、それぞれの音場の特徴など、詳しくは「応用操作編」90 ページをご覧ください。

・ゲームをするとき
　→ENTERTAINMENT
　→PRO LOGIC ⅡX

ヒント　・音の大きさを調節するには？（7 ページ）
　・本機の使用を終了するには？（7 ページ）

ヤマハホットラインサービスネットワーク

ヤマハホットラインサービスネットワークは、本機を末永く、安心してご愛用いただくためのものです。
サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはお近くのサービス拠点にご連絡ください。

ヤマハAV製品の機能や取り扱いに関するお問い合わせ

■ ヤマハオーディオ&ビジュアルホームページ

お客様から寄せられるよくあるご質問をまとめておりますので、ご参考にしてください。

http://www.yamaha.co.jp/audio/

■ お客様ご相談センター

ナビダイヤル（全国共通） 0570-01-1808

全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます。

携帯電話、PHSからは下記番号におかけください。
TEL（053）460-3409

FAX（053）460-3459
〒430-8650 静岡県浜松市中沢町10-1

受 付 日：月〜土曜日（祝日およびセンターの休業日を除く）
受付時間：10:00〜12:00、13:00〜18:00

ヤマハAV製品の修理、サービスパーツに関するお問い合わせ

■ ヤマハ電気音響製品修理受付センター

ナビダイヤル（全国共通） 0570-012-808

全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます。

FAX（053）463-1127

受 付 日：月〜土曜日（祝日およびセンターの休業日を除く）
受付時間：月〜金曜日 9:00〜19:00　土曜日 9:00〜17:30

修理お持ち込み窓口

受 付 日：月〜金曜日（祝日および弊社の休業日を除く）
受付時間：9:00〜17:45

北海道	〒064-8543 札幌市中央区南10条西1丁目1-50 ヤマハセンター内 FAX (011)512-6109
首都圏	〒143-0006 東京都大田区平和島2丁目1-1 京浜トラックターミナル内14号棟A-5F FAX (03)5762-2125
浜松	〒435-0016 浜松市和田町200 ヤマハ(株)和田工場内 FAX (053)462-9244
名古屋	〒454-0058 名古屋市中川区玉川町2丁目1-2 ヤマハ(株)名古屋倉庫3F FAX (052)652-0043
大阪	〒564-0052 吹田市広芝町10-28 オーク江坂ビルディング2F FAX (06)6330-5535
九州	〒812-8508 福岡市博多区博多駅前2丁目11-4 FAX (092)472-2137

*名称、住所、電話番号、URLなどは変更になる場合があります。

● 保証期間

お買い上げ日から1年間です。

● 保証期間中の修理

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

● 保証期間が過ぎているとき

修理によって製品の機能が維持できる場合にはご要望により有料にて修理いたします。

● 修理料金の仕組み

技術料	故障した製品を正常に修復するための料金です。 技術者の人件費、技術教育費、測定機器等設備費、 一般管理費等が含まれています。
部品代	修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する 部材等を含む場合もあります。
出張料	製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。 別途、駐車料金をいただく場合があります。

● 補修用性能部品の最低保有期間

補修用性能部品の最低保有期間は、製造打ち切り後8年です。補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

● 製品の状態は詳しく

サービスをご依頼されるときは製品の状態をできるだけ詳しくお知らせください。また製品の品番、製造番号などもあわせてお知らせください。
※ 品番、製造番号は製品の背面もしくは底面に表示してあります。

● スピーカーの修理

スピーカーの修理可能範囲はスピーカーユニットなど振動系と電気部品です。尚、修理はスピーカーユニット交換となりますので、エージングの差による音色の違いが出る場合があります。

● 摩耗部品の交換について

本機には使用年月とともに性能が劣化する摩耗部品(下記参照)が使用されています。摩耗部品の劣化の進行度合は使用環境や使用時間等によって大きく異なります。
本機を末永く安定してご愛用いただくためには、定期的に摩耗部品を交換されることをおすすめします。
摩耗部品の交換は必ずお買い上げ店、またはヤマハ電気音響製品修理受付センターへご相談ください。

摩耗部品の一例
ボリュームコントロール、スイッチ・リレー類、接続端子、ランプ、ベルト、ピンチローラー、磁気ヘッド、光ヘッド、モーター類など

※ このページは、安全にご使用いただくためにAV製品全般について記載しております。

永年ご使用の製品の点検を！

愛情点検

こんな症状はありませんか?

- 電源コード・プラグが異常に熱い。
- コゲくさい臭いがする。
- 電源コードに深いキズか変形がある。
- 製品に触れるとピリピリと電気を感じる。
- 電源を入れても正常に作動しない。
- その他の異常・故障がある。

すぐに使用を中止してください。

事故防止のため電源プラグをコンセントから抜き、
必ず販売店に点検をご依頼ください。
なお、点検・修理に要する費用は販売店にご相談ください。

ヤマハ株式会社
〒430-8650　浜松市中沢町10-1

DSP AVアンプ

NATURAL SOUND AV AMPLIFIER

DSP-AX4600

取扱説明書

応用操作編

本機の性能をフルに活用していただくためのものです。音場プログラムの変更やセットメニューを使った設定の変更、
リモコンの使いこなし、その他便利な機能について説明しています。
本機に接続した機器の基本的な操作については「基本操作編」をご覧ください。

■ 本機の優れた性能を十分に発揮させると共に、永年支障なくお使いいただくために、ご使用前にこの取扱説明書と保証書をよくお読みください。
お読みになったあとは、保証書と共に大切に保管し、必要に応じてご利用ください。

安全上のご注意

本機をお使いいただく前に、準備・接続編に記載されている「安全上のご注意（安全に正しくお使いいただくために）」
をお読みのうえ、正しくお使いください。

もくじ

本機について

いろいろな再生のしかた

オリジナルのリスニング環境をつくる

便利な機能

メニューで設定を変更する

リモコンを使いこなす

その他の情報

本機の特長

i.LINK、HDMI対応

高速かつ双方向のデジタルインターフェイスであるi.LINK端子を2つ装備しています。高品位なデジタル音声信号を双方向でやりとりしたり、i.LINK接続した機器をコントロールしたりすることができます。
また、次世代のテレビ向けデジタルインターフェイスであるHDMI端子を、入力2つ、出力1つの合計3つ装備しています。1本のHDMIケーブルを接続するだけで、デジタル音声信号とデジタル映像信号をデジタルのまま、高音質/高画質で伝送できます。

高音質7チャンネルパワーアンプ搭載

バランスの良い、7チャンネルパワーアンプを搭載しています。

- フロントL/R： 130W+130W*
- センター： 130W*
- サラウンドL/R： 130W+130W*
- サラウンドバックL/R： 130W+130W*

*定格出力時

THX規格対応

THX SELECT2 SURROUND EX

THX社が提唱する劇場用音響の品質規格に準拠。映画製作者の製作意図をご家庭でも忠実に再現します。またTHX SURROUND EXデコーダーを搭載し、ドルビーデジタルEX方式で収録された映像ソフトを、映画館上映時と同等の臨場感で再生することができます。

ビデオコンバージョン機能

コンポジットビデオ信号をSビデオ、コンポーネントビデオ信号に変換し出力できます。またSビデオ信号をコンポジットビデオ、コンポーネントビデオ信号に変換し出力できます。

視聴環境最適化システム「YPAO」搭載

YPAO(Yamaha Parametric Room Acoustic Optimizer)により、耳で聞くだけでは、正確な調整が難しかったマルチチャンネル用のセットアップを、高性能測定用マイクを使用して、自動で行います。お使いになるお部屋や、スピーカーシステムの構成に合わせて、最適な視聴空間を作り出します。

高音質設計

192kHz/24ビットD/Aコンバーターを、全チャンネルに採用しています。

デジタルサウンドフィールドプロセッサー(DSP)搭載

各種デコーダーと、ヤマハ独自のDSPによる、効果的な音場再生を実現します。ヤマハが誇るDSPを、ドルビープロロジックやドルビーデジタル、DTS、AACに融合させて、音場効果を向上させています。

- 「バーチャルシネマDSP」：サラウンドL/Rスピーカーなしでも、音場効果を楽しめます。
- 「サイレントシネマ」：ヘッドホン使用時でも、音場効果を楽しめます。

多機能リモコン

付属リモコンは14面の機器操作エリアを持っており、内蔵プリセットコードやラーニング機能、マクロ機能を利用して、他のAV機器の操作を本機のリモコンでおこなうことができます。

高品位な操作画面

設定などの操作を、日本語のGUI(グラフィカル・ユーザー・インターフェース)画面でサポート。わかりやすいGUI画面上で、やりたいことをたどっていけば簡単に設定できます。GUI画面で表示する言語は4種類から選択できます。

最新の音響技術に対応

以下の信号方式に対応したデコーダーを搭載しています。

DOLBY DIGITAL・EX PRO LOGIC IIx

■ドルビーデジタル

■ドルビーデジタルEX

専用のマトリクスデコーダーを使用して、5.1チャンネルソフトのサラウンドL/RチャンネルからサラウンドバックチャンネルをB抽出し、6.1チャンネルで再生します。

■ドルビープロロジック

■ドルビープロロジックⅡx

5.1チャンネルソフトを信号処理し、サラウンドバックチャンネルを加えた6.1/7.1チャンネルで再生します。また、2チャンネル音声(モノラル音声を除く)で記録されたソースも、優れた分離感を保ちながら6.1/7.1チャンネルの迫力ある音声で楽しめます。

dts 96/24 ES neo:6

■DTS

■DTS-ES(エクステンディッド・サラウンド)

フロント3チャンネル、リア2チャンネル、低音チャンネルLFE(ロー・フリークエンシー・エフェクト)という従来の5.1チャンネル構成に、サラウンドバックチャンネルを加えて6.1チャンネルとし、さらにこれらのチャンネルを独立させて収録したディスクリート6.1方式に対応しています。またマトリクス回路により、5.1チャンネルで収録されたソフトからサラウンドバックチャンネルを抽出するマトリクス6.1方式にも対応しています。

■DTS Neo：6(ネオ・シックス)

2チャンネル音源から最大6チャンネルを抽出し、再生します。ソースに合わせ、音楽用のMusicモードと、映画のサウンドトラック用のCinemaモードが用意されています。

■DTS 96/24

5.1チャンネルすべてを「サンプリング周波数96kHz/量子化ビット数24bit」の高音質での再生を実現します。

■AAC(アドバンスド・オーディオ・コーディング)

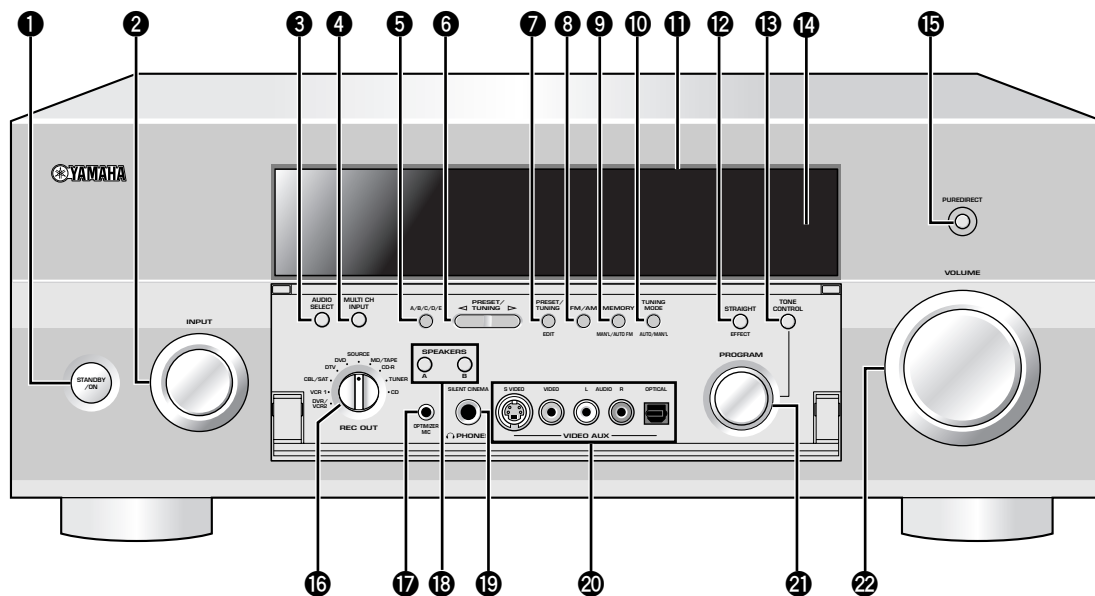
BSデジタル放送や地上波デジタル放送が採用している音声フォーマット。高圧縮率と高音質が特長で、通常の2チャンネルステレオ音声に加え、5.1チャンネルのサラウンド音声や多言語の放送を可能にしています。

SRS Circle Surround II

■SRS Circle Surround Ⅱ

アナログソース、デジタルソースに関わらず、あらゆる2チャンネルソースをマトリクス処理し、6.1チャンネルで再生します。

各部の名称とはたらき

前面(フロントパネル)

❶ STANDBY(スタンバイ)/ON(オン)スイッチ

本機の電源の入/待機(スタンバイ)を切り替えます。なお、電源を入れてから数秒間は音が出ません。
スタンバイ状態になっている間も、リモコンからの赤外線信号を受信するために、少量ながら電力を消費します。

❷ INPUT(インプット)セレクター

再生する入力ソースを選びます。

❸ AUDIO(オーディオ) SELECT(セレクト)キー

入力信号を自動的に判別するか、または特定の入力信号に固定するかを切り替えます(25ページ)。

❹ MULTI(マルチ) CH(チャンネル) INPUT(インプット)キー

本機背面のMULTI CH INPUT端子に入力されている信号を選びます(「基本操作編」12ページ)。本体のINPUTセレクターや、リモコンの入力選択キーで選んだ入力ソースよりも優先されます。

❺ A/B/C/D/Eキー

FM/AM放送を聴くときに、プリセットグループ(A、B、C、D、E)を選びます。

❻ PRESET(プリセット)/TUNING(チューニング) ◁/▷キー

聴く放送局を選びます。1～8の登録(プリセット)した局から選ぶか、周波数で選局します(「基本操作編」10ページ)。

❼ PRESET(プリセット)/TUNING(チューニング) (EDIT(エディット))キー

FM/AM放送を聴くときに、あらかじめ登録(プリセット)した局から選ぶか、または周波数で選局するかを切り替えます。また、登録した局の入れ替えもこのキーで行います(21ページ)。

❽ FM(エフエム)/AM(エイエム)キー

FM放送、AM放送の受信を切り替えます。

❾ MEMORY(メモリー) (MAN'L(マニュアル)/AUTO(オート) FM(エフエム))キー

受信した放送局を登録(プリセット)します。3秒以上押すと、オートプリセット機能を利用できます(18ページ)。

❿ TUNING(チューニング) MODE(モード) (AUTO(オート)/MAN'L(マニュアル))キー

自動(オート)選局または手動(マニュアル)選局を選びます。自動選局する場合は、このキーを押してAUTOインジケーターを点灯させます。手動選局する場合は、AUTOインジケーターを消します(「基本操作編」10ページ)。

⓫ ディスプレイ

音場プログラムの名前や、設定値などを表示します(10ページ)。

⓬ STRAIGHT(ストレート)/EFFECT(エフェクト)キー

音場効果を加えない音声と、音場効果を加えた音声とを切り替えます。「STRAIGHT」を選ぶと、入力された信号に対応するデコーダで忠実にデコードし、音場効果をかけずに再生します(17ページ)。

⑬ TONE CONTROLキー

フロントL/R、センターチャンネルの音声の音色を調節するときに押します。キーを押すごとに、BASS(低音域)とTRBL(高音域)が切り替わります。このキーを押した後に、PROGRAMセレクター(㉑)で、音色を調節します。
トーンコントロールを無効にする場合は、このキーを繰り返し押して、BYPASSに切り替えます。

ご注意
- トーンコントロールにより、フロントL/Rおよびセンターチャンネルを極端に増強、または減衰した場合、他のスピーカーとの音のつながりが悪くなることがあります。
- THXサラウンドモード(13ページ)で再生しているときは、トーンコントロールで音色を調節できません。

⑭ リモコン受光窓

リモコンからの信号を受信します。

⑮ PURE DIRECTキー

原音に忠実に最高の音質で再生するピュアダイレクトモードのオン/オフを切り替えます(16ページ)。

⑯ REC OUTセレクター

録音/録画するソースを選びます(31ページ)。

⑰ OPTIMIZER MIC端子

自動音場補正(YPAO)用のマイクを接続します(「準備・接続編」34ページ)。

⑱ SPEAKERS A/Bスイッチ

FRONT A/B SPEAKERS端子に接続されたフロントL/Rスピーカーのうち、音声を出力するフロントL/Rスピーカーを選びます(「基本操作編」5ページ)。

⑲ PHONES(SILENT CINEMA)端子

ヘッドホンを接続します。ヘッドホンを接続すると、すべてのスピーカーから音が出ませんので、深夜に音声を楽しむ際は、ヘッドホンをお使いくださるようおすすめします。ヘッドホンを接続時は、「サイレントシネマ」で音声を楽しむことができます(15ページ)。

⑳ VIDEO AUX端子

ゲーム機やビデオカメラなどを接続する、予備入力端子です。
この端子に入力された信号を再生するには、INPUT セレクター、またはリモコンの入力選択キーで「V-AUX」を選びます。

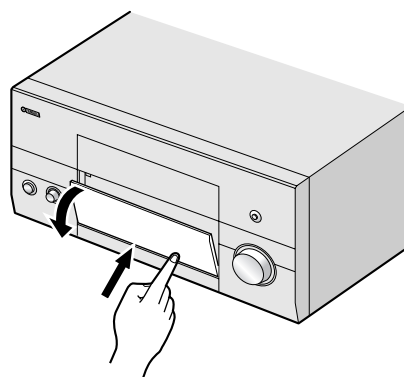
㉑ PROGRAMセレクター

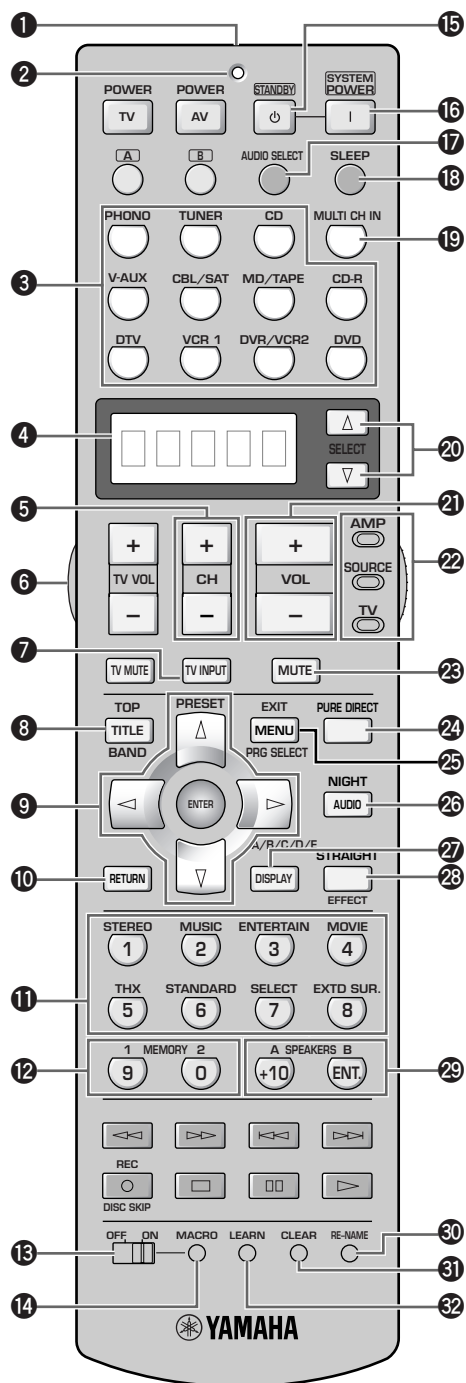
音場プログラムを選ぶときに回します(「基本操作編」6ページ)。
またTONE CONTROLキー(⑬)を押したあとは、スピーカーから出力される音声の音色を調節します。

㉒ VOLUMEコントロール

本機の音量を調節します。
録音用のOUT(REC)端子の音量には影響しません。

前面ドアの開閉

前面ドアの中にあるスイッチやキーを使うときは、ドアの下の部分を押すと、ドアが開きます。前面ドアの中にあるスイッチやキーを使わないときは、ドアを閉めておきます。

リモコン

本機の操作について説明します。(㉒:SOURCE)または(㉒:TV)と記載していない項目については、㉒AMP/SOURCE/TVスイッチでAMPを選択しているときの機能を表しています。このリモコンを使って他の機器も操作することができますが、他の機器の操作については77～80ページをご覧ください。

❶ 赤外線送受信部
リモコン操作用の赤外線信号を送受信します(「準備・接続編」9ページ)。

❷トランスミッションインジケーター
リモコン操作用の赤外線信号を送信しているときに、点灯します。

❸ 入力選択キー
再生する入力ソースを選びます。入力ソースに合わせて、リモコンの機能も切り替わります。

❹ リモコンディスプレイ
操作できる機器の名前を表示します。

❺ CH +/−キー
テレビのチャンネルを切り替えます。(㉒:TV)

❻ LIGHT(ライト)キー
リモコンキーとリモコンディスプレイが点灯します。

❼ TV INPUT(インプット)キー
テレビの入力を切り替えます。(㉒:TV)

❽ TOP(トップ)キー
GUIメニューのトップ(先頭)画面を表示します。

BAND(バンド)キー
チューナーモードのとき、受信する放送局を切り替えます。(㉒:SOURCE)

❾ カーソル(△/▽/◁/▷)/ENTER(エンター)キー
GUIメニューや音場プログラムパラメーターを選んだり、設定するときに使います。
チューナーモードのとき、△/▽キーでA1～E8の登録(プリセット)局を,◁/▷キーでプリセットグループ(A、B、C、D、E)を選びます。(㉒:SOURCE)

❿ RETURN(リターン)キー
フロントパネルディスプレイメニューで、1つ前のメニュー表示に戻るときに押します。

⓫ 音場プログラム/プリセット番号キー(1～8)
音場プログラムを選びます(「基本操作編」6ページ)。
入力選択キーでTUNERを選んでいる場合、1～8の登録(プリセット)局番号を選びます。(㉒:SOURCE)

SELECTキー
2チャンネルソフトをマルチチャンネルで再生します(14ページ)。

EXTD SUR.キー
ドルビーデジタルやDTSなどのマルチソフトを5.1/6.1/7.1チャンネルで再生するときに押します(12ページ)。

⑫ MEMORY 1/2キー
お気に入りの音場やYPAOの設定、プリセット局などを簡単に呼び出します(29ページ)。

⑬ MACRO ON/OFFスイッチ
マクロ機能のオン/オフを切り替えます(85ページ)。

⑭ MACROボタン
一連のキー操作を一つのキー操作でできるように設定するときに押します(85ページ)。

⑮ STANDBYキー
本機の電源を待機状態(スタンバイ)にします。

⑯ SYSTEM POWERキー
本機の電源を入れます。

⑰ AUDIO SELECTキー
入力信号を自動的に判別するか、または特定の入力信号に固定するかを切り替えます(25ページ)。

⑱ SLEEPキー
スリープタイマーを設定します(26ページ)。

⑲ MULTI CH INキー
本機背面のMULTI CH INPUT端子に入力されている信号を選びます(「基本操作編」12ページ)。本体のINPUTセレクターや、リモコンの入力選択キーで選んだ入力ソースよりも優先されます。

⑳ SELECT △/▽キー
入力ソースを切り替えずに、リモコンで操作したい機器を切り替えたいときに押して、操作したい機器の名前を表示させます。

㉑ VOL +/−キー
本機の音量を調節します。
録音用のOUT(REC)端子の音量には影響しません。

㉒ AMP/SOURCE/TVスイッチ
リモコンで操作する機器を選択します。
- **AMP**：本機を操作するときに選びます。
- **SOURCE**：入力選択キーで選んだ機器を操作するときに選びます。
- **TV**：TVを操作するときに選びます。

㉓ MUTEキー
音量を下げます(「基本操作編」7ページ)。
もう一度押すと、元の音量に戻ります。

㉔ PURE DIRECTキー
原音に忠実に最高の音質で再生するピュアダイレクトモードのオン/オフを切り替えます(16ページ)。

㉕ EXITキー
GUIメニューから抜けます。

㉖ NIGHTキー
夜間など、小音量で音声を楽しむときに押します(17ページ)。

㉗ DISPLAYキー
フロントパネルディスプレイメニューの設定に入るときに押します。

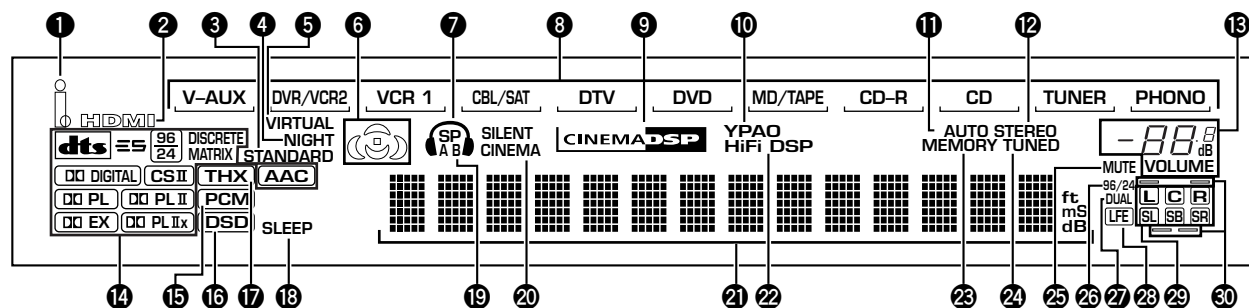
㉘ STRAIGHT/EFFECTキー
音場効果を加えない音声と、音場効果を加えた音声とを切り替えます。「STRAIGHT」を選ぶと、入力された信号を対応するデコーダーで忠実にデコードし、音場効果をかけずに再生します(17ページ)。

㉙ SPEAKERS A/Bキー
FRONT A/B SPEAKERS端子に接続されたフロントL/Rスピーカーのうち、音声を出力するフロントL/Rスピーカーを選びます。

㉚ RE-NAMEボタン
リモコンディスプレイに表示される入力ソース名を変更するときに押します(83ページ)。

㉛ CLEARボタン
設定したリモコンコードや記憶(ラーニング)させた機能、マクロに設定した機能を消去するときや、変更した機器名を元に戻すときに押します(87ページ)。

㉜ LEARNボタン
リモコンコードを設定するときや、他の機器のリモコン信号を記憶させるときに押します(73、81ページ)。

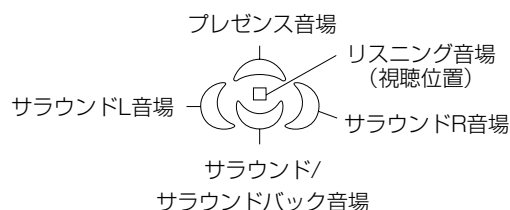
ディスプレイ

❶ **i.LINKインジケーター**
i.LINK端子に他の機器を接続し、i.LINKで送られたデジタル音声信号を本機で再生しているときに点灯します。本機にi.LINK機器が接続されているがi.LINK信号が入力されていない、またはi.LINK以外の入力信号を再生しているときには点滅します。i.LINKで接続されていないときには消灯します(35ページ)。

❷ **HDMIインジケーター**
HDMI IN 端子に他の機器を接続し、HDMIで送られたデジタル音声信号を本機で再生しているときに点灯します。HDMI IN 端子に接続したHDMI機器からHDMI音声信号が入力されていない、またはHDMI以外の入力端子から入力した音声信号を再生しているときには点滅します。本機がHDMIで接続されていないときには消灯します(40ページ)。

❸ **STANDARDインジケーター**
デコーダーが選択されているときに点灯します(14ページ)。

❹ **NIGHTインジケーター**
ナイトリスニングモードで再生しているときに点灯します(17ページ)。

❺ **VIRTUALインジケーター**
バーチャルシネマDSPモードで再生しているときに点灯します(15ページ)。

❻ **音場インジケーター**
DSP音場プログラムを使っているときに、本機がどのように音場を処理しているかを表示します。

❼ **ヘッドホンインジケーター**
PHONES(SILENT CINEMA)端子に、ヘッドホンを接続しているときに点灯します。

❽ **入力ソースインジケーター**
現在選んでいる入力ソースの名前の下に、＿＿が点灯します。

❾ **CINEMA DSPインジケーター**
CINEMA DSP音場プログラムを使って再生しているときに点灯します。

❿ **YPAOインジケーター**
「自動測定メニュー」での設定が有効になっている状態で点灯します。

⓫ **AUTOインジケーター**
自動(オート)で放送局を選ぶときに点灯します。

⓬ **STEREOインジケーター**
自動(オート)で放送局を選んでいるときに、電波の強いFMステレオ放送を受信すると、点灯します。

⓭ **VOLUMEインジケーター**
現在の音量を表示します。

⓮ **デコーダーインジケーター**
本機内蔵のデコーダーが作動しているときに、それぞれのインジケーターが点灯します。

⓯ **PCMインジケーター**
PCM信号を再生しているときに点灯します。

⓰ **DSDインジケーター**
DSD(direct stream digital)信号を再生しているときに点灯します。

⓱ **THXインジケーター**
THXサラウンドモードで再生しているときに点灯します(13ページ)。

⑱ SLEEP(スリープ)インジケーター
スリープタイマーが作動しているときに点灯します（26ページ）。

⑲ SP(スピーカー) A/Bインジケーター
選んでいるフロントL/Rスピーカー（A、B）を表示します（「基本操作編」5ページ）。

⑳ SILENT(サイレント) CINEMA(シネマ)インジケーター
ヘッドホンを接続して「サイレントシネマ」で再生しているときに点灯します。

㉑ マルチインフォメーションディスプレイ
音場プログラムの名前や、設定値などが表示されます。

㉒ HiFi DSP(ハイファイディーエスピー)インジケーター
HiFi DSP音場プログラムを使って再生しているときに点灯します。

㉓ MEMORY(メモリー)インジケーター
放送局を登録（プリセット）するときに点滅します。

㉔ TUNED(チューンド)インジケーター
FM/AM放送が受信されたときに点灯します。

㉕ MUTE(ミュート)インジケーター
MUTEキーを押して、音量を下げている間点滅します（「基本操作編」7ページ）。

㉖ 96/24インジケーター
DTS 96/24信号が入力されているときに点灯します。

㉗ DUAL(デュアル)インジケーター
ドルビーデジタル、DTSおよびAACのDUAL MONOまたはMULTI MONOなど、音声多重モノラルのデジタル信号が入力されているときに点灯します。

㉘ LFE(エルエフイー)インジケーター
入力されているデジタル信号に、LFE（低域効果音）チャンネルが含まれているときに点灯します。

㉙ 入力信号チャンネルインジケーター
入力されているデジタル信号に含まれている、チャンネルの数に合わせて点灯します。

㉚ プレゼンス/サラウンドバックインジケーター
GUIメニュー「スピーカーの設定」、「スピーカーの距離」、「スピーカーの音量」を選択しているときに点灯または点滅します。上側のインジケーターはプレゼンス左/右スピーカー、下側のインジケーターはサラウンドバック左/右スピーカーを表しています。点灯は該当スピーカーが本機で設定されていることを、点滅は設定変更中のスピーカーを意味しています（「テストトーン」（52ページ）を「出力しない」に設定している場合、点灯/点滅しません）。

ドルビーデジタル/DTSソフトを再生する

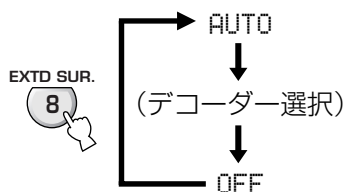
5.1チャンネルで再生する

ドルビーデジタル、DTS、AAC信号が入力されると、本機は自動的にそれらの信号フォーマットに適した、デコーダーおよび音場プログラムを選んで再生します(95ページ)。

6.1/7.1チャンネルで再生する

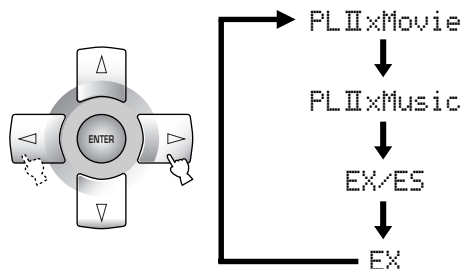
ドルビーデジタルEXやDTS-ESなど、サラウンドL/R成分があるソースは、サラウンドバックスピーカーの音声を加えて、6.1/7.1チャンネルで再生することができます。
AMP/SOURCE/TVスイッチをスライドさせてAMPを選び、EXTD SUR.キーと◁/▷キーで再生モード(デコーダー)を切り替えます。

リモコンのEXTD SUR.キーで再生モードを切り替えます。EXTD SUR.キーを押すごとに、下記のように切り替わります。

EXTD SUR.
8

AUTO
↓
(デコーダー選択)
↓
OFF

上記の(デコーダー選択)の状態で、リモコンの◁/▷キーを押すと、6.1または7.1チャンネル再生で使うデコーダーを選ぶことができます。

ENTER

PLⅡxMovie
↓
PLⅡxMusic
↓
EX/ES
↓
EX

AUTO
本機が確認できる信号(フラグ)が記録されているソースが入力されると、信号に応じて最適なデコーダーを自動的に選び、6.1または7.1チャンネルで再生します。
本機がフラグを認識できない、またはソース自体にフラグが記録されていない場合は、6.1/7.1チャンネルで再生されません。

PLⅡxMovie
プロロジックⅡxデコーダーにより、ドルビーデジタル、DTS、AACを7.1チャンネルで再生します。

PLⅡxMusic
プロロジックⅡxデコーダーにより、ドルビーデジタル、DTS、AACを6.1/7.1チャンネルで再生します。

EX/ES
ドルビーデジタルEXデコーダーにより、ドルビーデジタルおよびAACを6.1チャンネルで再生します。
またDTS-ESデコーダーにより、DTSを6.1チャンネルで再生します。

EX
ドルビーデジタルEXデコーダーにより、ドルビーデジタル、DTS、AACを6.1チャンネルで再生します。

OFF
6.1/7.1チャンネルでの再生はしません。5.1チャンネルで再生されます。

ご注意

- 以下の場合は、EXTD SUR.キーを押しても、6.1または7.1チャンネルで再生されません。
  - GUIメニュー「マニュアル設定－基本設定－スピーカーの設定」の「サラウンド」を、「無」に設定しているとき(52ページ)。
  - GUIメニュー「マニュアル設定－基本設定－スピーカーの設定」の「サラウンドバック」を、「無」に設定しているとき(53ページ)。
  - 2ch Stereo、7ch Stereoを、音場プログラムとして選んでいるとき。
  - ピュアダイレクトモードで再生しているとき(16ページ)。
  - サラウンドL/R成分のないソース(2チャンネルのPCM、アナログ信号など)を再生しているとき。
  - MULTI CH INPUT端子に接続したソースを再生しているとき。
  - ヘッドホンを接続しているとき。
- GUIメニュー「マニュアル設定－基本設定－スピーカーの設定」の「サラウンドバック」を、「大1台」または「小1台」に設定しているときは、「PLⅡx Movie」を選べません(53ページ)。
- 本機をスタンバイ状態にすると、再生モードは自動的にAUTOになります。

ダイアログ・ノーマライゼーション

VCR 1　CBL/SAT　DTV　DVD　MD/TAPE　CD-R　CD　TUNER
CINEMA DSP
DialNorm・・+4dB

ダイアログ・ノーマライゼーション機能とは、音量が異なるさまざまなソフトに対し、自動的に一定の音量で再生されるように調整する機能です。この機能は、ドルビーデジタルソフト再生時に有効となり、左図のようにノーマライゼーションレベルがディスプレイに表示されます。これはTHXが推奨する－27dBになるように調整される値を示しています。

THXサラウンドモードで再生する

THXサラウンドモードでは、映画のサウンドトラックを、一般家庭でリアルに再現することができます。どのようなソフトに対しても効果的ですが、ドルビーデジタル、DTSソフトを再生するときには、特に威力を発揮します。リモコンのTHXキーを押すと、THXサラウンドモードで再生します。

2チャンネルソースの場合：
マルチチャンネル化してから、THX処理をして再生します(14ページ)。

マルチチャンネルソースの場合：
入力信号の種類により、最適なデコーダーで、忠実にデコードしてから、THX処理をして再生します。

THX Cinema

あらゆるソフトの再生に適しています。

THX Surround EX

ドルビーデジタルEX方式のソフトを、サラウンドバックチャンネルを加えた、計6.1または7.1チャンネルで再生します。EXTD SUR.キーを押して、EX/ESデコーダーをオンにしてください(12ページ)。

ご注意

GUIメニュー「マニュアル設定－基本設定－スピーカーの設定」の「サラウンドバック」を「無」に設定しているときは、「THX Surround EX」は選べません。

2チャンネルソースをマルチチャンネルで楽しむ

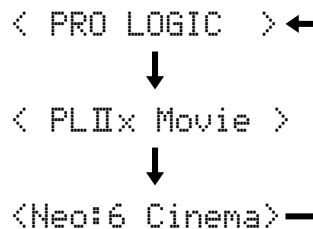
ドルビープロロジック、ドルビープロロジックⅡx、DTS Neo:6デコーダーまたはTHXサラウンドモードを選ぶと、2チャンネルソースをマルチチャンネル化してお楽しみいただけます。

リモコンのSTANDARDキーを押して、「SUR. STANDARD」または「SUR. ENHANCED」を選びます。

またはリモコンのMOVIEキー、THXキーを押して、MOVIE THEATERプログラム、THXサラウンドモードを選びます。

リモコンのSELECTキーを押して、デコーダーを選びます。

SUR. STANDARDを選んだ場合

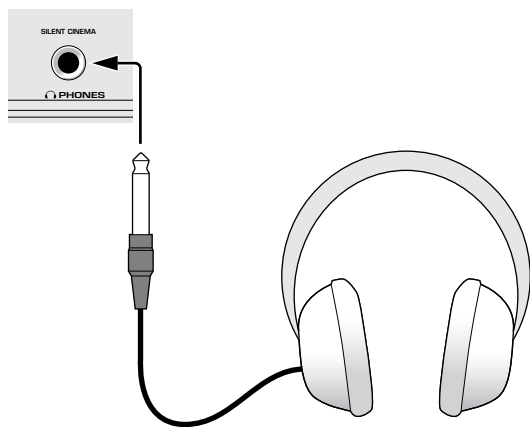
SUR. ENHANCED、MOVIE THEATERプログラムまたはTHXサラウンドモードを選んだ場合

ヒント

- 「デコーダー選択」パラメーターでデコーダーを切り替えることもできます（102ページ）。
- ショートメッセージでデコーダー名が表示されている間は、リモコンの⊲/⊳キーでデコーダーを切り替えることもできます。

ご注意

GUIメニュー「マニュアル設定－基本設定－スピーカーの設定」の「サラウンドバック」を、「無」に設定しているときは、プロロジックⅡxデコーダーは使えません（53ページ）。

ヘッドホンで音場プログラムを楽しむ(サイレントシネマ)

音場効果が入っている状態で、ヘッドホンを本体のPHONES端子に接続すると、「サイレントシネマ」モードで再生を楽しめます。

「サイレントシネマ」モードでは、マルチスピーカーによる音場プログラムの効果を、ヘッドホンで擬似的に再現します。「サイレントシネマ」モードで再生している間は、本体ディスプレイのSILENT CINEMAインジケーターが点灯します。

ご注意

以下の場合は、ヘッドホンを接続しても、「サイレントシネマ」モードには切り替わりません。
- 入力ソースにMULTI CH INPUTを選択しているとき。
- 2ch Stereoを音場プログラムとして選んでいるとき(16ページ)。
- ピュアダイレクトモードで再生しているとき(16ページ)。
- THXサラウンドモードで再生しているとき(13ページ)。
- ストレートデコードモードで再生しているとき(17ページ)。

サラウンドL/Rスピーカーなしで音場プログラムを楽しむ(バーチャルシネマDSP)

サラウンドL/Rスピーカーがない場合でも、バーチャルシネマDSPモードにより、臨場感あふれる再生を楽しめます。GUIメニュー「マニュアル設定−基本設定−スピーカーの設定」の「サラウンド」を、「無」に設定すると(52ページ)、バーチャルシネマDSPモードで再生を楽しめます。

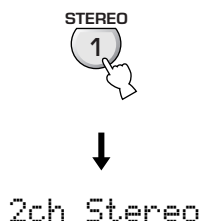
バーチャルシネマDSPモードでは、入力ソースの音声に、選んだ音場プログラムの音場効果を付加して、フロントL/Rスピーカー、センタースピーカーとサブウーファーから出力します。バーチャルシネマDSPモードで再生している間は、本体ディスプレイのVIRTUALインジケーターが点灯します。

ご注意

以下の場合は、GUIメニュー「マニュアル設定−基本設定−スピーカーの設定」の「サラウンド」を、「無」に設定しても、バーチャルシネマDSPモードには切り替わりません。
- 2ch Stereo、7ch Stereoを音場プログラムとして選んでいるとき。
- SUR.STANDARDを音場プログラムとして選んでいるとき。
- ピュアダイレクトモードで再生しているとき(16ページ)。
- THXサラウンドモードで再生しているとき(13ページ)。
- ストレートデコードモードで再生しているとき(17ページ)。
- ヘッドホンを接続しているとき。
- 入力ソースにMULTI CH INPUTを選択しているとき。

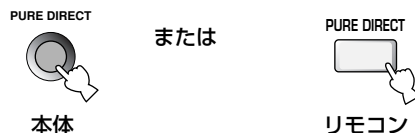
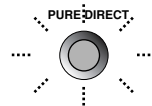
ステレオ再生を楽しむ

ステレオ再生する（2chステレオ）

フロントL/Rスピーカーからステレオ音声で再生します。リモコンのAMP/SOURCE/TVスイッチをスライドさせてAMPを選び、STEREOキーを繰り返し押して、2ch Stereoを選びます。

2チャンネルソースの場合：
フロントL/Rスピーカーからステレオ音声で再生します。

マルチチャンネルソースの場合：
フロントL/Rチャンネル以外の音声をフロントL/Rチャンネルにミックスして、フロントL/Rスピーカーからステレオ音声で再生します。
LFEチャンネルは、GUIメニュー「マニュアル設定－基本設定－スピーカーの設定」の「低音出力先」を、「フロントに出力」に設定した場合(53ページ)のみ、フロントL/Rスピーカーにミックスされます。

最高の音質でステレオ再生する(ピュアダイレクトモード)

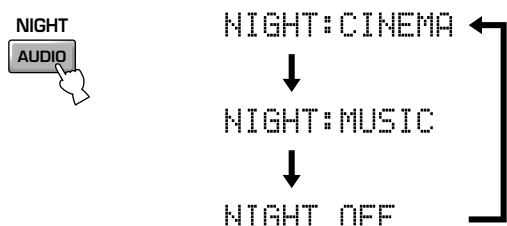
DSP回路をバイパスし、ビデオ回路をオフすることで音声信号に与える影響を減らし、アナログ信号、PCM信号、DSD、マルチチャンネルPCMを原音に忠実な高音質音声で再生します。CDを最高の音質で楽しむのに適しています。
リモコンまたは本体のPURE DIRECTキーを押します。

ピュアダイレクトモードで再生している間は、本体のPURE DIRECTキーが青色で点灯します。

ピュアダイレクトモードをキャンセルするには、もう一度PURE DIRECTキーを押します。

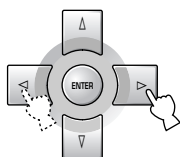
ご注意

- ドルビーデジタルやDTSなどのマルチチャンネルソースを再生しているときにピュアダイレクトモードに切り替えると、対応するアナログ音声入力端子に入力されている信号を再生します。アナログ音声入力端子に信号が入力されていない場合は音が出ません。
- ピュアダイレクトモードで再生中は、以下の操作ができません(「Not Available」と表示されます)。
  - 音場プログラムの切り替え
  - GUIメニューの設定
- ピュアダイレクトモードで再生中は、以下の設定が無効になります。
  - GUIメニュー「音と映像のずれ補正」の設定
  - フロントL/Rスピーカーの音質(トーンコントロール)設定
- ピュアダイレクトモードで再生中は、本体ディスプレイの表示が消えます。入力切り替えや、音量調節などの操作をすると数秒間だけ点灯します。
- ピュアダイレクトモードで再生中は、サブウーファーから音は出ません。ただしMULTI CH INPUT端子のSUBWOOFER端子に信号が入力されている場合や、MPCM信号を再生している場合は、サブウーファーからも音が出ます。
- ピュアダイレクトモードでDTS-CDを再生しないでください。ノイズが出力されることがあります。
- 本機をスタンバイ状態にすると、ピュアダイレクトモードは解除されます。

その他の再生のしかた

夜間に小音量で音声を楽しむ（ナイトリスニングモード）

夜間に小音量で再生する場合でも、セリフなどは明瞭に再生します。
映画用のCINEMAモードと、音楽用のMUSICモードが用意されています。
リモコンのAMP/SOURCE/TVスイッチをスライドさせてAMPを選び、NIGHTキーを押して、モードを選びます。

ナイトリスニングモードで再生している間は、本体ディスプレイのNIGHTインジケーターが点灯します。

また、各モードが表示されている間に ◁/ ▷ キーを押すと、エフェクトレベル(音を抑えるレベル)を選ぶことができます。

Effect.Lvl:MIN （弱めに抑える）

Effect.Lvl:MID （ほどよく抑える）

Effect.Lvl:MAX （強めに抑える）

ご注意

- ピュアダイレクトモード（16ページ）で再生しているときや、MULTI CH INPUT端子に接続した機器を再生しているとき、ヘッドホンを接続しているときは、ナイトリスニングモードで再生できません。
- 入力ソースにより、効果に違いが生じる場合があります。

音場効果をかけずに再生する（ストレートデコードモード）

入力された信号を、音場効果をかけずにそのまま再生します。リモコンのSTRAIGHT/EFFECTキーを押すと、ストレートデコードモードで再生します。

STRAIGHT

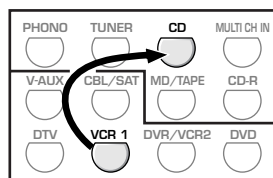
2チャンネルソースの場合：
フロントL/Rスピーカーからステレオ音声で再生します。

マルチチャンネルソースの場合：
入力信号により、適切なデコーダーでデコードしたあと、マルチチャンネル音声で再生します。

元の状態（音場効果をかけた状態）に戻るには、もう一度STRAIGHT/EFFECTキーを押します。

音楽と映像で異なるソースを楽しむ（バックグラウンドビデオ機能）

バックグラウンドビデオ機能とは、ビデオ系ソースの映像と、オーディオ系ソースの音声を組み合わせて楽しむ機能です（例えばビデオを観ながら、クラシック音楽を楽しむことができます）。
ビデオ系ソースを選んでから、リモコンの入力選択キーでオーディオ系ソースを選びます。

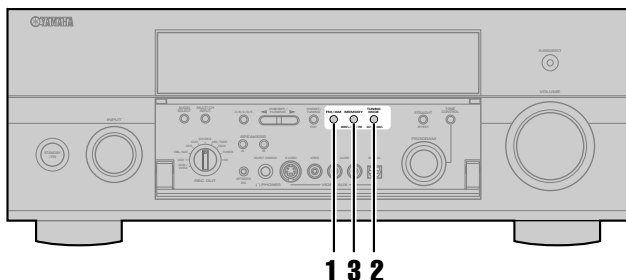
ヒント

ビデオ系ソースの映像を見ながら、MULTI CH INPUT端子に接続されているオーディオ系ソースの音声を楽しむには、ビデオ系ソースを選んでから、MULTI CH INPUTキーを押します。

本機について
いろいろな再生のしかた
オリジナルのリスニング環境をつくる
便利な機能
メニューで設定を変更する
リモコンを使いこなす
その他の情報

FM/AM放送を楽しむ

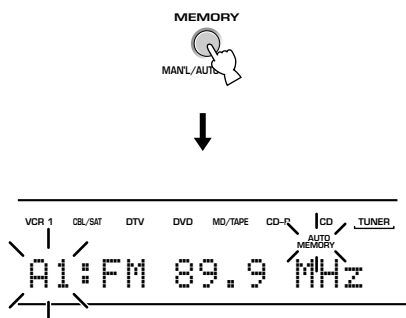
FM/AM放送局を登録しておくと、あとで選局するときに便利です。

FM放送局を自動登録する（オートプリセット）

FM放送局を自動的に40局（8局×5グループA1からE8）まで登録（プリセット）できます。放送局を登録しておくと、あとは簡単なキー操作で選局することができ、便利です。

1 FM/AMキーを押して、FMを選ぶ

2 TUNING MODE（AUTO/MAN'L）キーを押して、ディスプレイにAUTOインジケーターを点灯させる

3 MEMORY（MAN'L/AUTO FM）キーを約3秒押し続ける

プリセット番号とMEMORYインジケーター、AUTOインジケーターが点滅します。 数秒後に、周波数の低い方から放送局を探し始め、自動的に登録していきます。

オートプリセットが終了すると、最後に登録された放送局の周波数が表示されます。

ヒント

- 放送局が登録されると、放送局の周波数と受信モードも同時に登録されます。
- FM局の登録を始めるプリセット番号を指定したり、周波数の高い方から低い方へ向けて、自動登録を始めることもできます（下記参照）。
- 登録されたFM放送局の順序を、あとから手動で入れ替えることもできます（21ページ）。
- オートプリセットでは、プリセットする放送局の数が40（A1～E8）に満たない場合には全周波数帯域を一巡して停止します。

ご注意

- 同じプリセット番号に新しい放送局を登録すると、前に登録されていた放送局は消え、新しい放送局に入れ替わります。
- オートプリセットでは、電波の強いFM放送局だけが登録されます。電波の弱いFM放送局を登録したいときは受信モードをモノラルにして手動で登録してください（19ページ）。

登録を始めるプリセット番号を指定する場合

左に記載の「FM放送局を自動登録する（オートプリセット）」の手順3でMEMORY（MAN' L/AUTO FM）キーを約3秒間押したあと、A/B/C/D/EキーとPRESET/TUNING⊲/⊳キーを使って、最初に登録するプリセット番号を選びます。

数秒後に、選んだプリセット番号から登録を始めます。

放送局が40局（A1～E8）すべて登録されると、オートプリセットが停止します。

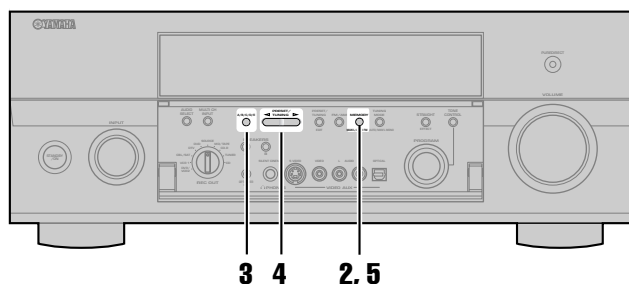
周波数の高い方から低い方に向けて登録する場合

左に記載の「FM放送局を自動登録する（オートプリセット）」の手順3でMEMORY（MAN' L/AUTO FM）キーを約3秒間押したあと、PRESET/TUNING（EDIT）キーでコロン（：）を消してから、PRESET/TUNING⊲キーを押します。

周波数の高い方から放送局を探し始め、自動的に登録していきます。

手動で登録する(マニュアルプリセット)

放送局40局までを手動で登録することもできます。

ヒント

AM放送局はマニュアルで登録してください。

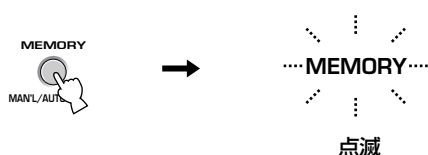
1 プリセットしたい放送局を選局する

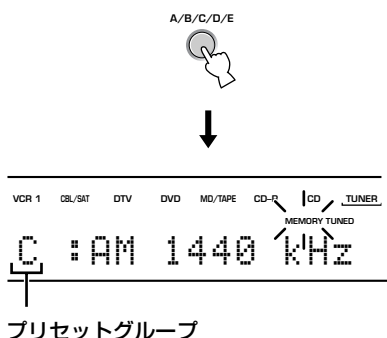
詳しくは「基本操作編」10ページをご覧ください。

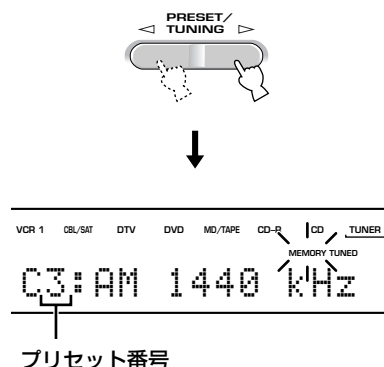
VCR 1 CBL/SAT DTV DVD MD/TAPE CD-R CD TUNER
TUNED
A AM 1440 kHz

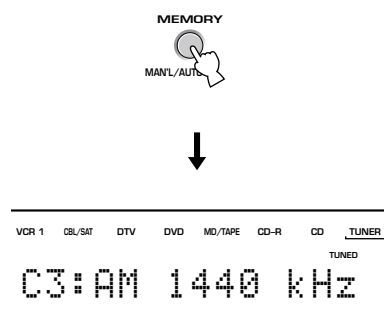
本体ディスプレイに、受信している局の周波数と放送バンド(「FM」または「AM」)が表示されます。

2 MEMORY(MAN'L/AUTO FM)キーを押す

放送局が登録できる状態になります。ディスプレイのMEMORYインジケーターが約5秒間点滅します。

3 MEMORYインジケーターの点滅中にA/B/C/D/Eキーを押して、プリセットグループ(A～E)を選ぶ

グループが表示されます。放送バンド表示の隣にコロン(:)が点灯していることを確認してください。

4 MEMORYインジケーターの点滅中にPRESET/TUNING◁/▷キーを押して、プリセット番号(1～8)を選ぶ

▷キーを押すと数が大きくなり、◁キーを押すと小さくなります。

5 MEMORYインジケーターの点滅中に、MEMORY(MAN'L/AUTO FM)キーを押す

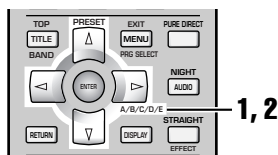
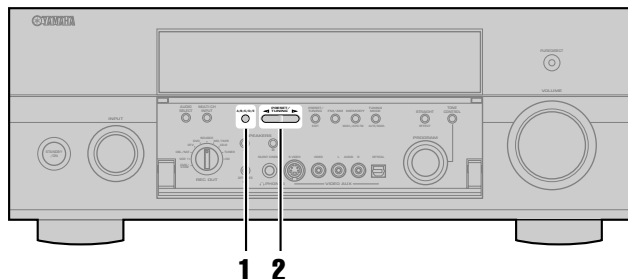
選択したプリセットグループ、プリセット番号と放送バンド(「FM」または「AM」)、周波数がディスプレイに表示されます。

C3に登録された局を示しています。

6 他の放送局を続けて登録するときは、手順1～5を繰り返す

ご注意

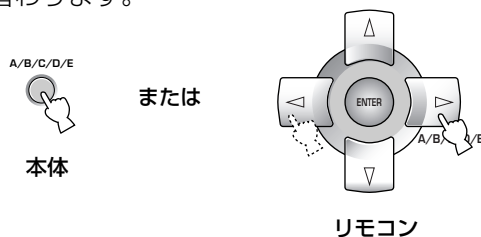
- 同じプリセット番号に新しい放送局を登録すると、前に登録されていた放送局は消え、新しい放送局に入れ替わります。
- 新しい放送局を登録すると、放送局の周波数と受信モード(ステレオ/モノラル)も同時に登録されます。

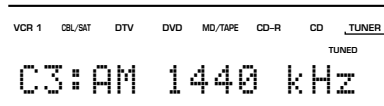
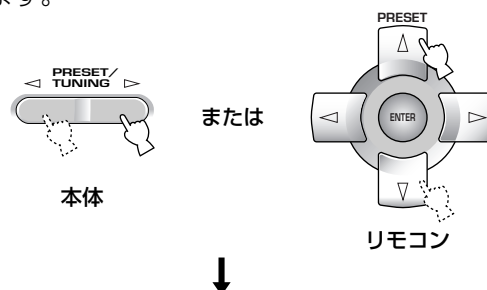
登録した放送局を選んで聴く(プリセット選局)

プリセット番号を選ぶだけで、登録した放送局を選局できます。

ご注意

リモコンで操作する場合は、AMP/SOURCE/TVスイッチをSOURCEに設定し、TUNERキーを押して、リモコンの機能をチューナー操作用に切り替えてから操作してください。

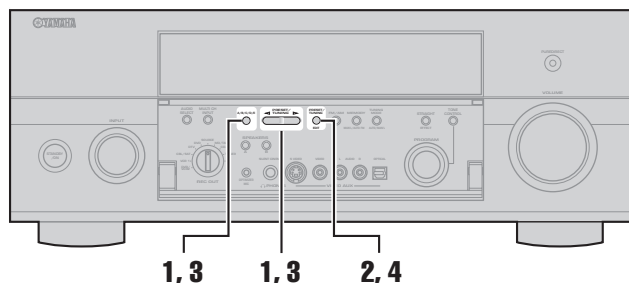
1 本体のA/B/C/D/Eキー(またはリモコンのカーソル◁/▷キー)を何回か押して、放送局をプリセットしたグループを選ぶ

本体ディスプレイに表示されるプリセットグループはカーソル◁/▷(A/B/C/D/E)キーを押すたびに切り替わります。

2 本体のPRESET/TUNING◁/▷キー(またはリモコンのPRESET△/▽キー)を押して、プリセット番号を選ぶ

プリセットグループとプリセット番号が、放送バンド(「FM」または「AM」)と周波数とともにディスプレイに表示され、TUNEDインジケーターが点灯します。

ヒント

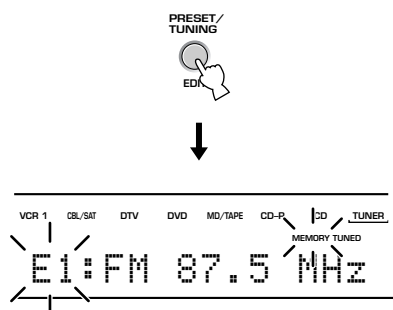
- プリセット番号は数字キー(1〜8)でも選べます。
- 自動的に選局するオート選局と、手動で選局するマニュアル選局については、「基本操作編」10ページをご覧ください。

登録した放送局を入れ替える

登録した放送局を入れ替えることもできます。
ここでは「E1」に登録した放送局を「A5」に、「A5」の放送局を「E1」に変更する場合の手順を説明します。

1 「E1」に登録した放送局を、A/B/C/D/EキーとPRESET/TUNING◁/▷キーを使って選局する

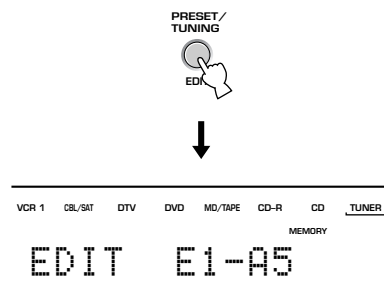
詳しくは、「登録した局を選んで聴く(プリセット選局)」をご覧ください。

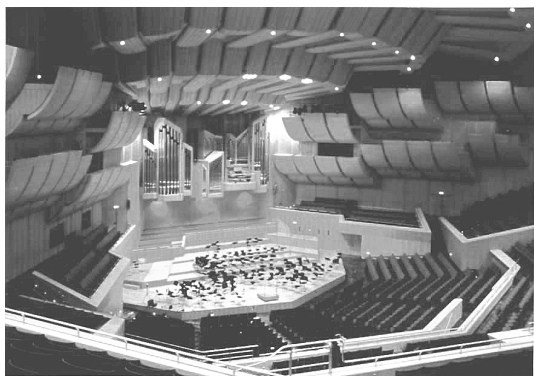
2 PRESET/TUNING(EDIT)キーを約3秒間押す

本体ディスプレイのMEMORYインジケーターと「E1」が点滅します。

3 「A5」に登録した放送局を、A/B/C/D/EキーとPRESET/TUNING◁/▷キーを使って選局する

本体ディスプレイのMEMORYインジケーターと「A5」が点滅します。

4 PRESET/TUNING(EDIT)キーを押す

プリセット局が入れ替わります。

プリセットした局の入れ替えが完了したことを示しています。

音場とは？

「その空間が持つ特有の音の響き」を音場と呼んでいます。
コンサートホールなどで、私達は、楽器の音や歌手の声が直接聴こえてくる「直接音」のほかに、床や壁・天井などに一回反射してから聴こえてくる「初期反射音」、さらに何回も反射を繰り返しながら次第に減衰してゆく「後部残響音」を聴くことになります。建物内部の形状や広さ、それに内装材料の種類などによって、初期反射音や残響音の構成が異なり、そのホール特有の響きが生まれます。それが「音場」です。
ヤマハでは、世界の著名なコンサートホールやオペラハウスなどで、反射音の方向・強さ・帯域特性・遅延時間等の音場情報を実際に測定し、その膨大なデータを蓄積しています。
本機では、この音場測定の実測データを基に作成された、音場プログラムを自由に選択し、著名ホールやライブハウス等の音場をリスニングルームにて再現することができます。

音場を構成する要素

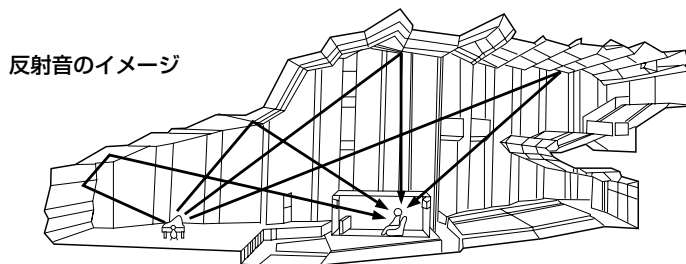
直接音

楽器やボーカルなどの音源からどこにも反射することなく、直接リスナーの耳に届く音です。

初期反射音

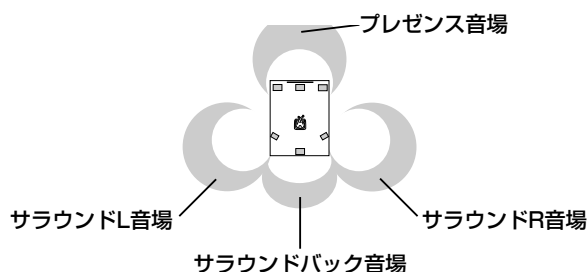
壁や天井などに1回反射してからリスナーの耳に到達する音です。初期反射音は直接音が発生してから50msから80msくらい後に耳に届きます。初期反射音により、直接音に明瞭さが付加されます。

後部残響音

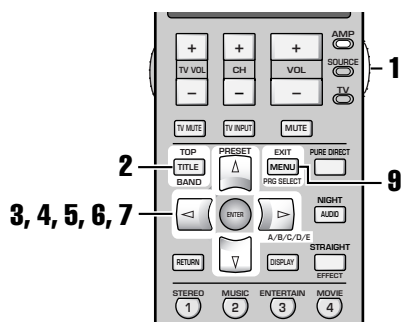
壁や天井、部屋の後部などに2回以上反射を繰り返しながら、多数の反響音がひとまとめになり、連続した音響の余韻となる音です。これらの反射音は方向性がなく、直接音の鮮明さを劣化させます。

直接音、初期反射音、後部残響音がひとつになることで、リスナーは演奏会場や劇場をイメージすることができます。デジタル音場プロセッサーはこの反射音、残響音を再現することで、音場を作り出します。

また、リスニングルームにおいて適切な反射音や後部残響音を再現できれば、独自のリスニング音場を作り出すことができます。つまりリスニングルームをコンサートホール、ダンスフロア、大聖堂などさまざまな演奏会場や劇場の音響効果に変えることができるのです。意のままに音場を再現する能力こそ、デジタル音場プロセッサーを通じてヤマハがこれまでに実践してきたことです。

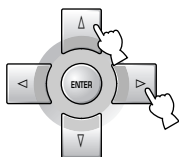
音場の種類

本機がつくりだす音場は大きくわけて以下の3つです。
プレゼンス音場：前方に広がる音です。
サラウンド音場：後方に広がる音です。
サラウンドバック音場：後方中央につくりだされる音場です。

音場プログラムパラメーターを変更する

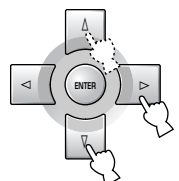
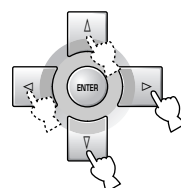
各音場プログラムのパラメーターは初期設定のままで十分お楽しみいただけますが、音場プログラムの一部のパラメーターを変更することにより、ソースやリスニングルームの音響にあわせて音場プログラムをアレンジできます。

ご注意
- 操作を始める前に、本機および本機に接続したテレビの電源が入っていることを確認してください。
- GUIメニュー「マニュアル設定－その他の設定－設定の保護」を「保護」に設定しているとパラメーターを変更できません。変更する前に、「可変」に設定してください(60ページ)。

1 AMP/SOURCE/TVスイッチをスライドさせて、AMPを選ぶ

2 TOPキーを押して、GUI画面を表示する

3 △キーを押して「サラウンド選択・設定」を選択し、▷キーを押す

4 △/▽キーを押して、音場プログラムを選択し、▷キーを押す

5 △/▽キーを押して、サブプログラムを選択し、▷キーを押す

6 △/▽キーを押して変更したいパラメーターを選択し、▷キーを押す

7 △/▽/◁/▷キーを押して、設定値を変更する

8 他の音場プログラムのパラメーターを変更する場合は、手順2～7を繰り返す

9 EXITキーを押して終了する

音場プログラムパラメーターを初期設定に戻す

GUIメニュー「マニュアル設定－その他の設定－サラウンド初期化」で、音場プログラムごと、またはすべての音場プログラムのパラメーターを初期設定に戻せます(58ページ)。
また、「サラウンド選択・設定－音場プログラム－サブプログラム－初期化」で、「する」を選択すると、サブプログラムごとに、すべてのパラメーターを初期設定に戻せます。

メモリーバックアップ

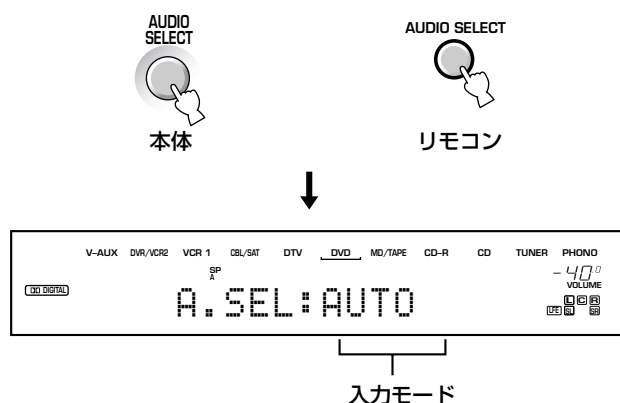
メモリーバックアップ機能は本機がスタンバイ状態の時に、記憶されたデータが失われるのを防ぎます。電源コードがコンセントから抜けていたり、電源供給が一週間以上遮断されると、本機のメモリー内容が消えてしまうことがあります。この場合は各設定を再度やり直してください。

音場プログラムパラメーター一覧

項　目	内　　容	参照ページ
エフェクト量の加減	エフェクトレベル(効果音)の微調節を行います。	99
ディレイ	音源と壁面との距離感を調節します。	99
音場空間の大きさ	広がり感を調節します。	99
響きの強さ	響き具合を調節します。	100
残響時間	余韻の長さを調節します。	100
残響音の遅れ	残響音の遅延時間を調節します。	100
残響音の強さ	余韻の強さを調節します。	101
サラウンド音場の遅れ	サラウンド音場の遅延時間を調節します。	101
サラウンド音場の広さ	サラウンド音場の広がり感を調節します。	101
サラウンド音場の響き	サラウンド音場の響き具合を調節します。	101
サラウンドバックの遅れ	サラウンドバック音場の遅延時間を調節します(6.1または7.1チャンネルで再生しているときのみ有効)。	101
サラウンドバックの広さ	サラウンドバック音場の広がり感を調節します(6.1または7.1チャンネルで再生しているときのみ有効)。	101
サラウンドバックの響き	サラウンドバック音場の響き具合を調節します(6.1または7.1チャンネルで再生しているときのみ有効)。	101
センター音量	7ch Stereo音場でのセンターチャンネルの出力レベルを調節します。	102
サラウンド左音量	7ch Stereo音場でのサラウンドLチャンネルの出力レベルを調節します。	102
サラウンド右音量	7ch Stereo音場でのサラウンドRチャンネルの出力レベルを調節します。	102
サラウンドバック音量	7ch　Stereo音場でのサラウンドバックチャンネルの出力レベルを調節します。	102
プレゼンス左音量	7ch Stereo音場でのプレゼンスLチャンネルの出力レベルを調節します。	102
プレゼンス右音量	7ch Stereo音場でのプレゼンスRチャンネルの出力レベルを調節します。	102
デコーダー選択	2チャンネルソースをTHX Cinemaで再生するときに、2チャンネルソースをデコードするデコーダーを選びます。	102
セリフの位置調整	会話など、中央に定位する音の位置を調節します(HiFi DSPおよび、CINEMA DSP音場プログラムで再生時のみ有効)。	102
パノラマ	ドルビープロロジックⅡxのフロント音場の広がり感を調節します(ドルビープロロジックⅡxデコーダーのMusicモード再生時のみ有効)。	103
ディメンション	ドルビープロロジックⅡxのサラウンド音場のフロント側とリア側のレベル差を調節します(ドルビープロロジックⅡxデコーダーのMusicモード再生時のみ有効)。	103
センターの広がり	ドルビープロロジックⅡxのセンター音声左右への広がり感を調節します(ドルビープロロジックⅡxデコーダーのMusicモード再生時のみ有効)。	103
センターイメージ	DTS Neo:6のフロント音場の広がり感を調節します(DTS Neo:6デコーダーのMusicモード再生時のみ有効)。	103
フォーカス	CSⅡのフロント定位感を調節します(SRS CSⅡデコーダーのCinemaおよびMusicモード再生時のみ有効)。	103
トゥルーバス	CSⅡの低音域出力レベルを調節します(SRS CSⅡデコーダーのCinemaおよびMusicモード再生時のみ有効)。	103
初期化	サブプログラムごとに、音場プログラムパラメーターの設定を初期設定に戻します。	103

入力信号を切り替える(入力モード切り替え)

本機は多彩な入力端子を装備しています。入力モードを切り替えることにより、入力信号を自動的に判別するように設定したり、i.LINKなどの特定の信号に固定したりすることができます。

AUDIO SELECTキーを押すと、現在の入力モードが表示されます。入力モード表示中にもう一度押すと、入力モードが切り替わります。

AUTO
以下の順序で入力信号が選ばれます。
① i.LINK信号
② HDMI信号
③ 光/同軸デジタル信号
④ アナログ信号

i.LINK
i.LINK信号に固定されます。i.LINK信号以外の信号が入力されても再生されません。

HDMI
HDMI信号に固定されます。HDMI信号以外の信号が入力されても再生されません。

COAX/OPT
同軸デジタル端子や光デジタル端子から入力されたデジタル信号に固定されます。

ANALOG
アナログ信号に固定されます。デジタル信号が同時に入力されても再生されません。

デジタル信号のサンプリング周波数について

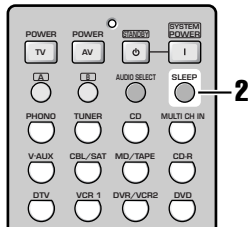
本機のデジタル入力端子は、サンプリング周波数１９２ｋＨｚまでのデジタル信号に対応しています。48kHzを超えるデジタル信号を入力する場合は、以下の点にご注意ください。

- HiFi DSPおよびCINEMA DSP音場プログラムの音場効果は、サンプリング周波数を48kHz以下に変換したあと付加します。
- ナイトリスニングモードで再生する場合も、サンプリング周波数を48kHz以下に変換します。
- THXサラウンドモードやSUR.STANDARDで再生する場合、192kHzのサンプリング周波数は96kHzに変換されます。

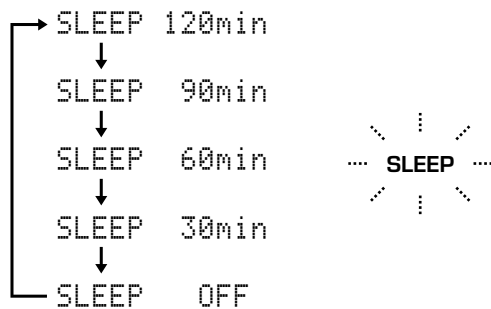
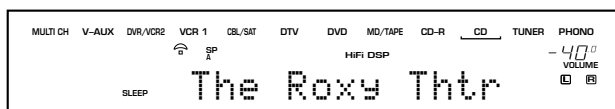
一定時間後に自動的に電源を切る（スリープタイマー）

設定した時間が経過すると、自動的にスタンバイ状態になるように設定します。聴きながら、または録音しながらおやすみになりたいときに便利です。スリープタイマーが作動すると、本機背面のACアウトレットに接続した機器の電源も切れます。

スリープタイマーを設定する

リモコンで操作します。

1 ソースを選んで、再生する

2 SLEEPキーを繰り返し押して、スタンバイ状態になるまでの時間を選ぶ

SLEEPキーを押すごとに、下記のように時間が切り替わります。その間はSLEEPインジケーターが点滅します。

SLEEPインジケーターが点灯に変わると、スリープタイマーの時間設定が完了します。

ヒント

タイマー再生したいときは、市販のタイマーを使います。本機では再生したい入力ソースを選び、音量を調節しておきます。再生機器やタイマーの取扱説明書もあわせて参照してください。

スリープタイマーを解除する

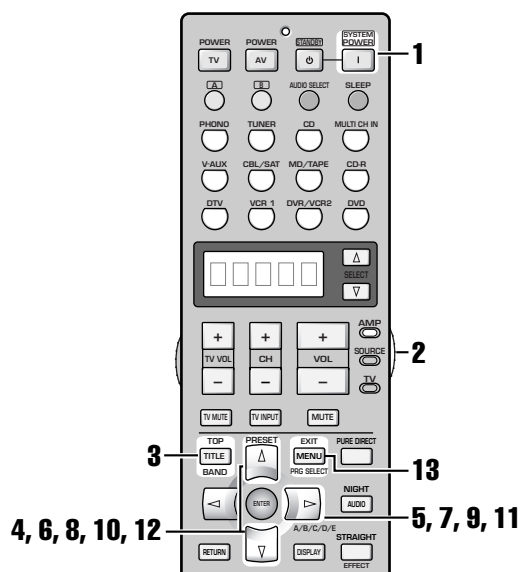
「SLEEP OFF」の表示が出るまで、SLEEPキーを押します。「SLEEP OFF」が数秒表示されたあと、音場プログラムの表示に戻り、SLEEPインジケーターも消灯します。

SLEEP

ヒント

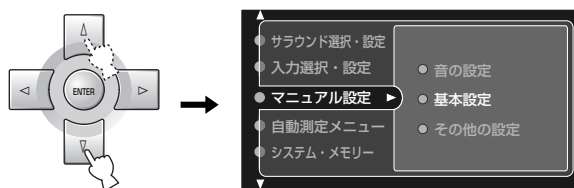
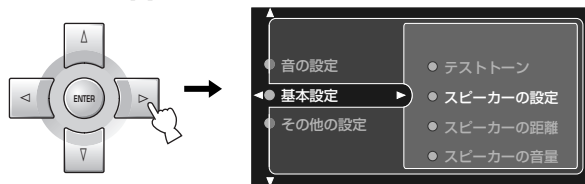
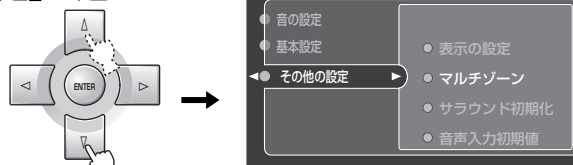
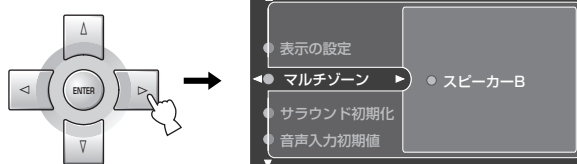
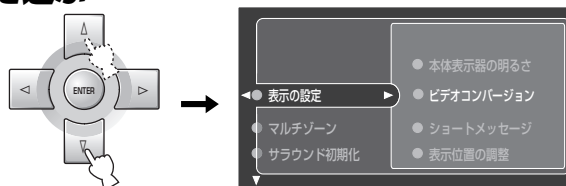
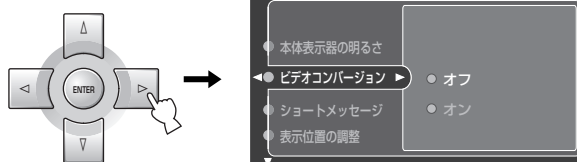
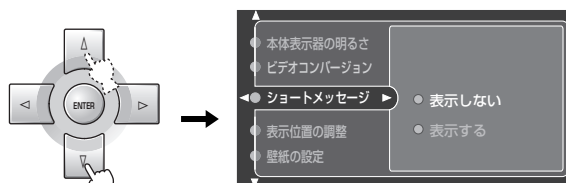
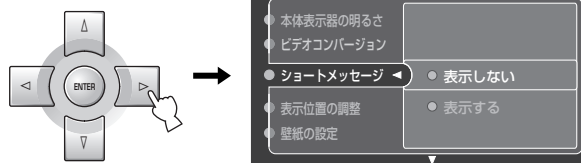
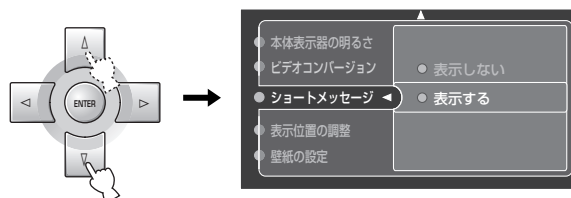
リモコンのSTANDBYキー、または本体のSTANDBY/ONスイッチを押すか、電源コードを抜くと、スリープタイマーは解除されます。

操作内容を表示する(ショートメッセージ)

選択している入力ソースや、音量をテレビ画面の下部に表示させることができます。
GUIメニュー「ショートメッセージ」で設定を変更します。

1 本機とテレビの電源を入れる

2 AMP/SOURCE/TVスイッチをスライドさせて、AMPを選ぶ

3 TOPキーを押して、GUI画面を表示する

4 △/▽ キーを押して、「マニュアル設定」を選ぶ

5 ▷キーを押す

6 △/▽ キーを繰り返し押して、「その他の設定」を選ぶ

7 ▷キーを押す

8 △/▽ キーを繰り返し押して、「表示の設定」を選ぶ

9 ▷キーを押す

10 △/▽ キーを繰り返し押して、「ショートメッセージ」を選ぶ

11 ▷キーを押す

12 △/▽キーを押して、設定を変更する

表示しない：　ショートメッセージが表示されません。

表示する：　ショートメッセージが表示されます。

13 EXITキーを押して、GUIメニューを終了する

ヒント

- 映像信号が入力されているときは、映像に重ねて表示されます。
- ショートメッセージは、VCR 1 OUT端子、DVR/VCR 2 OUT端子に出力されませんので、映像と一緒に録画されることはありません。

ご注意

- 入力されている映像信号やお使いのテレビ/プロジェクターによっては、ショートメッセージが乱れて見えることがあります。
- 「ビデオコンバージョン」を「オフ」に設定している場合は、「表示する」に設定してもショートメッセージは表示されません。

保存されている各種設定をリモコンで呼び出す

本機のリモコンで、保存された音場プログラムやパラメーターの設定を簡単に呼び出すことができます。

ご注意
この機能は、GUIメニュー「システム・メモリー」に保存された設定を呼び出すものです。あらかじめ「システム・メモリー」の「設定の保存」でお好みの音場プログラムやパラメーターを保存してください(64ページ)。

1 AMP/SOURCE/TVスイッチをスライドさせて、AMPを選ぶ

2 リモコンのMEMORY 1またはMEMORY 2キーを押す

確認メッセージがフロントパネルディスプレイに表示されます。

MEMORY 1 キー
GUIメニュー「システム・メモリー」の「メモリー1」に保存された各種設定を呼び出します。

MEMORY 2 キー
GUIメニュー「システム・メモリー」の「メモリー2」に保存された各種設定を呼び出します。

MEMORY1キーを押したとき

V-AUX DVR/VCR2 VCR 1 CBL/SAT DTV DVD MD/TAPE CD-R CD TUNER
Press MEMORY1!

MEMORY2キーを押したとき

V-AUX DVR/VCR2 VCR 1 CBL/SAT DTV DVD MD/TAPE CD-R CD TUNER
Press MEMORY2!

設定が呼び出されます。

3 再度同じキーを押す

V-AUX DVR/VCR2 VCR 1 CBL/SAT DTV DVD MD/TAPE CD-R CD TUNER
Now Loading...

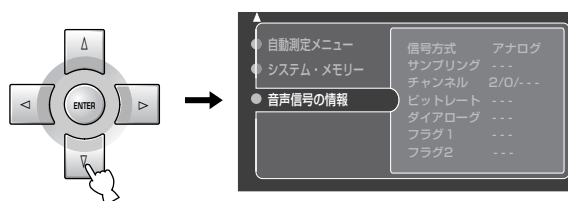
入力信号情報を表示する

入力信号のフォーマット、チャンネル数やサンプリング周波数などの情報を表示させることができます。

1 *AMP/SOURCE/TVスイッチをスライドさせて、AMPを選ぶ*

2 *TOPキーを押して、GUI画面を表示する*

3 *∇キーを押して「音声信号の情報」を選択する*

音声信号の情報が表示されます。

信号方式

音声入力信号のフォーマット(信号方式)を表示します。

表示	信号方式
アナログ	アナログ信号
PCM	PCM信号
DD デジタル	ドルビーデジタル信号
dts	DTS信号
AAC	AAC信号
DSD	DSD信号
– – –	圧縮オーディオ(非リニアPCM)信号
???	不明なデジタル信号

サンプリング

音声入力信号のサンプリング周波数を表示します。
サンプリング周波数が不明な場合は、「?」と表示されます。

チャンネル

音声入力信号のチャンネル数を表示します。
左から、「フロントチャンネル数/サラウンドチャンネル数/LFEチャンネル」を表わしています。例えば、「3/2/0.1」と表示された場合は、「フロント3チャンネル/サラウンド2チャンネル/LFE0.1チャンネル」の信号が入力されています。
また、「1＋1」と表示された場合は、二カ国語放送などの主＋副の2チャンネルの信号が入力されています。

ビットレート

音声入力信号の1秒あたりのデータ量(ビットレート)を表示します。
ビットレートが不明な場合は、「---」と表示されます。

ご注意

AAC信号のビットレートは、再生中に変化することがありますが、正常な動作です。

ダイアローグ

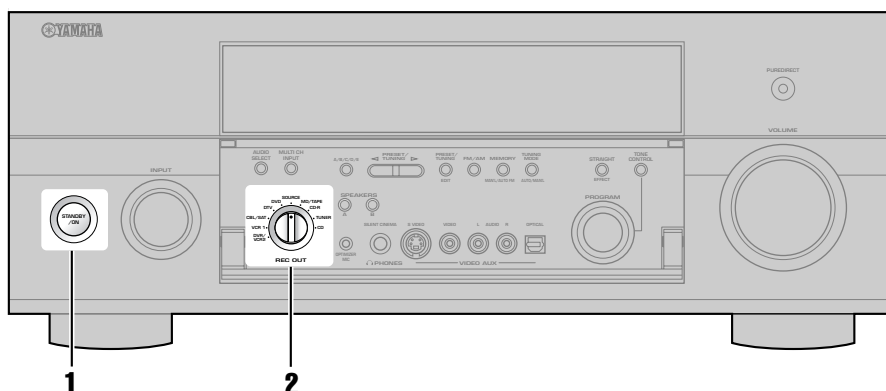
ドルビーデジタル信号入力時に、音量が異なるさまざまなソフトに対し、自動的に一定の音量で再生されるように調節するダイアログ・ノーマライゼーション機能がはたらきます。この機能がはたらいている場合に、調節しているレベル量を表示します(−27〜+4dB)。

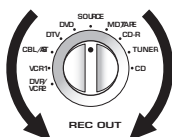
フラグ1/フラグ2

音声入力信号に含まれている、ある動作をさせるための識別信号(フラグ)を表示します。

表示	フラグ
プリエンファシス	プリエンファシス処理されたPCM信号入力時に表示されます。
カラオケ	ドルビーデジタルカラオケ信号入力時に表示されます。
EX	ドルビーデジタルEX信号入力時に表示されます。
DPLエンコード	プロロジックエンコードされたドルビーデジタル信号入力時に表示されます。
ESマトリックス	DTS ESマトリックス信号入力時に表示されます。
ESディスクリート	DTS ESディスクリート信号入力時に表示されます。
96/24	DTS 96/24信号入力時に表示されます。
_ _ _	フラグが認識できない場合に表示されます。

外部機器で録音/録画する

本機に接続した録音/録画機器で、音声や映像を録音/録画できます。

1 本機および本機に接続されている、すべての機器の電源を入れる

2 REC OUTセレクターを回して、録音/録画したいソースを選ぶ

見ている(聴いている)ソースを録音/録画する場合：
REC OUTセレクターを、「SOURCE」の位置に合わせます。

見ている(聴いている)ソースとは別のソースを録音/録画する場合：
REC OUTセレクターを、録音/録画したいソースの位置に合わせます。

3 ソースを再生する

再生する機器の取扱説明書をご覧ください。
FM/AM放送を録音したいときは、放送局を選びます(「基本操作編」10ページ)。

4 録音/録画を開始する

録音/録画する機器の取扱説明書をご覧ください。

ヒント

- 録音/録画する前に、あらかじめ「試し録音」「試し録画」をしてください。
- 録音/録画中に、見ている(聴いている)ソースを、別のソースに切り替える場合は、INPUT セレクターでソースを切り替えます(REC OUTセレクターが、「SOURCE」以外のときのみ)。
- 録音されるレベルの調節や操作は、それぞれの録音機器で行います。お使いの機器の取扱説明書をご覧ください。

ご注意

- 本機をスタンバイ状態にすると、接続した機器間で録音/録画できません。
- 入力ソースのOUT(REC)端子からは、信号は出力されません(例：VCR 1 INへ入力された信号は、VCR 1 OUT端子から出力されません)。
- 本機のDSP処理による音場効果は録音できません。
- 録音中に、音量や音質を調節したり、音場プログラムを変更しても、録音される音声には影響しません。
- MULTI CH INPUT端子に入力された信号は録音できません。
- アナログ音声出力端子からアナログで録音する場合は、録音したい入力ソースをアナログで接続します。また、光デジタル出力端子から、デジタルで録音する場合は、録音したい入力ソースをデジタルで接続します。
- Sビデオ入力端子に入力されたSビデオ信号は、Sビデオ出力端子からのみ録画できます。同様に、ビデオ入力端子に入力されたビデオ信号は、ビデオ出力端子からのみ録画できます。ビデオコンバージョン機能は作動しません。
- i.LINK端子に入力されたi.LINK信号は、REC OUTセレクターを「SOURCE」に設定しているときのみ出力されます。また、音声信号の方式によっては出力されない場合があります。
- HDMI端子に入力されたHDMI信号は、REC OUTセレクターを「SOURCE」に設定しているときのみ出力されます。また、音声信号の方式によっては出力されない場合があります。
- あなたが録音したものは、個人で楽しむ場合以外は、著作権者に無断で使用することはできません。

DTS LD/DTS CD音声の録音/再生について

DTS信号は、デジタルビットストリームで伝送されるため、DTS信号をデジタルで録音したものをデコーダーを通さずに再生するとノイズだけが再生されます。

- DTS LD/DTS CDからデジタル録音した音声を再生する場合は、デコーダーを通して再生してください。
- DTS CDの音声を録音する場合は、DTSデコーダー内蔵のDVDプレイヤーからアナログで録音することをおすすめします。

詳しくは、お使いのプレーヤーの取扱説明書をご覧ください。

i.LINK機器を活用する

本機は、i.LINK(AUDIO)端子を搭載しています。i.LINK(AUDIO)対応機器を接続すれば、2チャンネルリニアPCM信号やマルチチャンネルの圧縮オーディオ信号に加え、従来アナログでしか伝送できなかった、DVDオーディオやスーパーオーディオCDなどのマルチチャンネル信号をデジタルのまま伝送することができます。

i.LINKについて

i.LINKとは、世界業界標準規格であるIEEE1394規格に準じた、高速かつ双方向のデジタルインターフェースです。

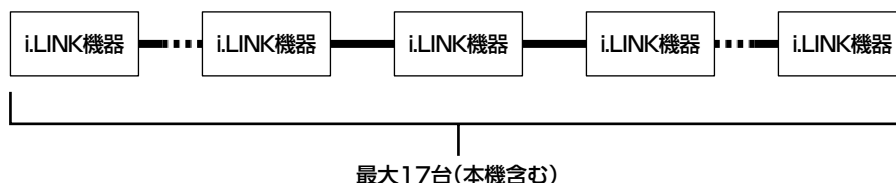
- 本機は、i.LINK(AUDIO)に対応しており、i.LINK(AUDIO)対応機器をIEEE1394ケーブル1本で接続すれば、従来の2チャンネルのPCM信号や、マルチチャンネルの圧縮オーディオ信号に加え、DVDオーディオ(マルチチャンネルPCM信号)や、スーパーオーディオCD(DSD信号)などのマルチチャンネルオーディオ信号を、デジタルのまま伝送することができます。
- 伝送フォーマットは、A&Mプロトコル(Audio and Music Data Transmission Protocol)に対応しています。
- 転送速度は、S400まで対応しています。
- 著作権保護技術(DTCP: Digital Transmission Content Protection)に対応しているため、デジタルオーディオ信号をデジタルのまま劣化させることなく伝送できます。

この機器のi.LINKインターフェースは、以下の規格に基づいて設計されています。
1) IEEE Std 1394a-2000，Standard for a High Performance Serial Bus
2) Audio and Music Data Transmission Protocol 2.0
この規格のAM824 sequence adaptation layersの中の、IEC60958 bitstream、DVD-Audio、SACDに対応しています。

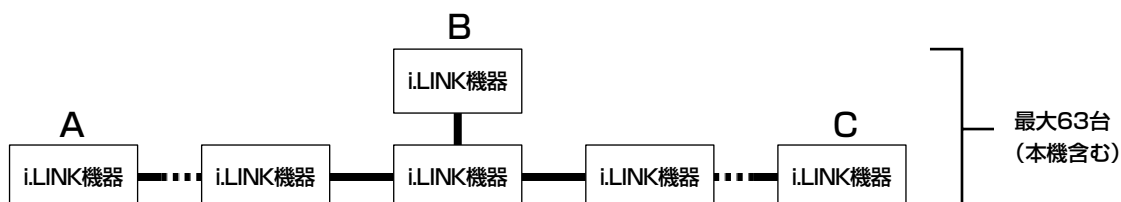
i.LINK機器を接続する

本機には、ディジーチェーン(数珠つなぎ)接続やツリー(枝分かれ)接続で、i.LINK機器を接続することができます。

ディジーチェーン接続

数珠つなぎにして、1列に接続する方法です。接続できる機器の台数は、本機を含め17台までです。

ツリー接続

3つ以上のi.LINK端子がある場合に、枝分かれして接続する方法です。接続できる機器の台数は、本機を含め63台までです。また、1つの経路(A—B、A—C、B—Cのように、端から端まで)には、本機を含め最大で17台まで接続できます。

ヒント

- 接続には、4ピンのi.LINKケーブルで、転送速度S400対応のものを使ってください。また、長さ3.5m以下のものを使うことをおすすめします。
- 各機器の電源が入ったままでもi.LINKケーブルを抜き差しして、接続または取り外しができる、ホットプラグ機能に対応しています。

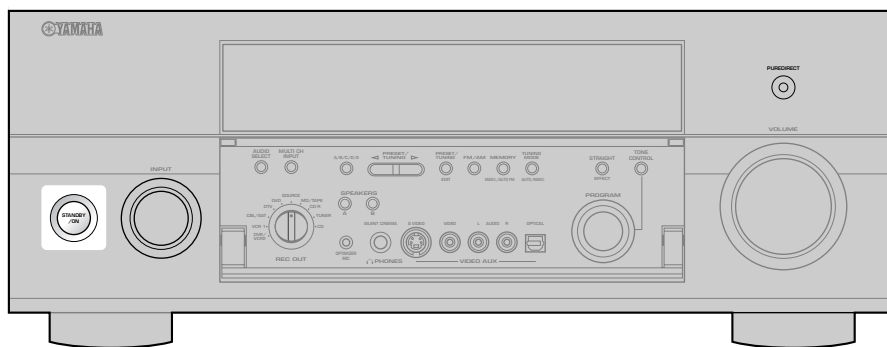
ご注意

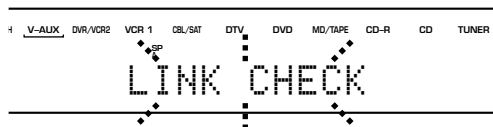
- 本機はi.LINK(AUDIO)機器以外のi.LINK機器には対応していません。
- i.LINKケーブルでi.LINK機器を接続したときに、輪(ループ)状に接続(ループ接続)をすると動作しません。i.LINK機器を複数台接続する場合は、ループ接続しないよう注意してください。ループ接続した場合には、「LOOP CONNECT」と本体ディスプレイに表示されます。i.LINKケーブルを外して、接続しなおしてください。
- データ転送中に、i.LINKケーブルを抜き差ししたり、他のi.LINK機器の接続や取り外しはしないでください。再生音が途切れたり、ノイズが出力される場合があります。
- データ転送中に、接続しているi.LINK機器の電源を入/切すると、音が出なくなる場合があります。このような場合は、本機をいったんスタンバイ状態にして、電源を入れなおしてください。
- i.LINK端子にi.LINKケーブルを差し込むときは、端子の向きをよく確認したうえで差し込んでください。誤った向きで無理に差し込むと、端子が破損する原因となります。
- 接続機器情報が表示されないi.LINK機器を本機で使用することはできません(ほかの接続機器への伝送は行います)。

i.LINK機器を接続する

i.LINK機器がはじめて接続された場合、本機は自動的にi.LINK機器を認識し、登録します。
i.LINK機器は以下の順番で各入力に割り当てられます。
DVD → DTV → CBL/SAT →VCR1 → DVR/VCR2 → V−AUX → PHONO → CD → CD−R → MD/TAPE
すでにi.LINK機器が割り当てられている入力はスキップされます。また、すべての入力にi.LINK機器が割り当てられている場合は、「None」と表示されます。「None」と表示された場合は、そのi.LINK機器の音声を本機で再生することはできません。

ご注意

- i.LINK(AUDIO)以外のi.LINK機器や、オーディオ信号を伝送できないi.LINK機器を接続した場合は、登録はされますが、入力に割り当てることはできません。
- i.LINK信号が通過するだけのリピーターやハブは登録されません。
- 接続する機器によっては、正しく認識されないことがあります。

本機とi.LINK機器の電源を入れる

i.LINK機器の認識が自動的にはじまります。認識中は、本体ディスプレイに「LINK CHECK」が点滅表示されます。

認識が終わると、接続したi.LINK機器名(品番)と、割り当て先の入力名が表示されます。

ヒント

- i.LINK機器に自動的に割り当てられた入力は、GUIメニュー「i.LINK設定→接続情報→詳細→入力割り当て」(37ページ)で確認することができます。
- GUIメニュー「i.LINK設定→入力の割り当て」(38ページ)で割り当てを変更することができます。

i.LINK機器を再生する

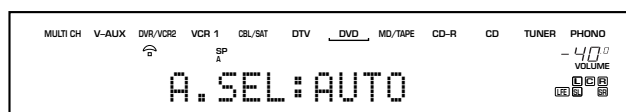
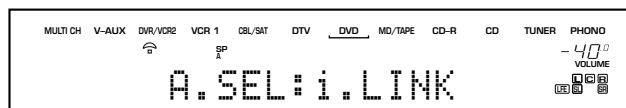
登録されたi.LINK機器を、以下のように選んで再生します。

1 INPUT SELECTORを回して、i.LINK機器が割り当てられた入力を選ぶ

2 AUDIO SELECTキーを繰り返し押して、入力モードを「AUTO」または「i.LINK」に設定する

MULTI CH V-AUX DVR/VCR2 VCR 1 CBL/SAT DTV DVD MD/TAPE CD-R CD TUNER PHONO
A.SEL:AUTO -40.0 VOLUME

または

MULTI CH V-AUX DVR/VCR2 VCR 1 CBL/SAT DTV DVD MD/TAPE CD-R CD TUNER PHONO
A.SEL:i.LINK -40.0 VOLUME

3 i.LINK機器の再生を始める

再生方法については、i.LINK機器の取扱説明書をご覧ください。

自動再生機能を使って再生する

本機に接続したi.LINK機器をインプットセレクターで選択したときに自動的にi.LINK機器を再生したり、i.LINK機器からi.LINK信号が入力されたときに自動的に入力モードをi.LINK機器に切り替えて、i.LINK機器の音声を再生したりすることができます。
GUIメニュー「i.LINK設定→自動再生」(38ページ)で、自動再生機能を設定することができます。

ご注意

自動再生機能は、入力モードを「HDMI」、「COAX/OPT」または「ANALOG」に設定しているときにははたらきません。

i.LINKインジケーターについて

点灯しているとき：

接続したi.LINK機器から本機のi.LINK端子に入力されたデジタル音声信号を再生しています。

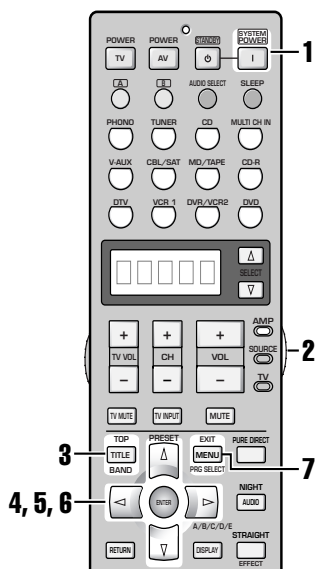
点滅しているとき：

i.LINK機器は接続されていますが、i.LINKの音声信号が入力されていない、またはi.LINK端子以外の入力端子に入力された信号を再生しています。

消灯しているとき：

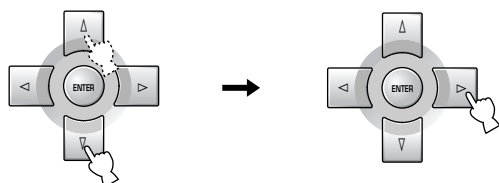
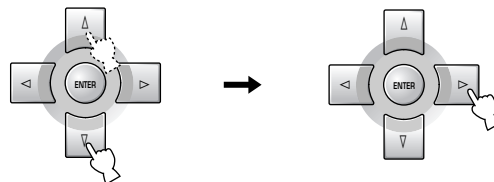
i.LINK機器が接続されていません。またはi.LINK機器を割り当てた入力以外の入力を選んでいます。

i.LINKの設定を変更する

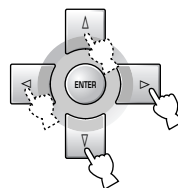
登録されたi.LINK機器の情報を表示したり、登録を削除したりします。またi.LINK機器を接続したときの本機の動作設定や、再生に関する設定を変更できます。
GUI操作については「GUIメニューの表示と操作方法」(48ページ)をご参照ください。

1 本機とテレビの電源を入れる

2 AMP/SOURCE/TVスイッチをスライドさせて、AMPを選ぶ

3 TOPキーを押して、GUI画面を表示する

4 △/▽キーを押して、「i.LINK設定」を選び、▷キーを押す

5 △/▽キーを押して、設定するメニューを選び、▷キーを押す

選ぶことのできるメニューは以下のとおりです。

- 「接続情報」→37ページ
- 「選択」→37ページ
- 「自動再生」→38ページ
- 「入力の割り当て」→38ページ

6 △/▽/◁/▷ キーを押して、選んだメニューの設定を変更する

7 変更し終わったら、EXITキーを押して、終了する

接続情報

登録されているi.LINK機器の情報を表示したり、登録を削除したりします。
(「i.LINK設定」→「接続情報」)

詳細

選んだi.LINK機器の状態を表示します。

「メーカー名」：
i.LINK機器のメーカーが表示されます。
「モデル名」：
i.LINK機器の品番が表示されます。
「接続」または「非接続」：
選んだi.LINK機器の接続状態(接続されている/接続されていない)が表示されます。
「オーディオ」または「非オーディオ」：
選んだi.LINK機器がi.LINK(AUDIO)に対応しているかしていないかが表示されます。
「入力割り当て」：
選んだi.LINK機器が割り当てられている入力名が表示されます。

削除

選んだi.LINK機器を登録から削除します。削除するにはENTERキーを押してください。

ご注意
- 実際に接続されているi.LINK機器や、保護されているi.LINK機器は削除できません。

保護

誤って、選んだ機器を削除しないように保護します。

選択項目：する、しない

i.LINKの状態

登録されているi.LINK機器の数、実際に接続しているi.LINK機器の数、保護されているi.LINK機器の数、削除可能なi.LINK機器の数を表示します。また、エラーがある場合は、その内容を表示します。

ヒント

⊳キーで「全て削除？」を「はい」に切り替えてENTERキーを押すと、削除可能な機器をすべて削除できます。

選択

登録されたi.LINK機器のうち、オーディオ信号を伝送するi.LINK機器から、再生する機器を選びます。
(「i.LINK設定」→「選択」)

自動再生

INPUT SELECTORでi.LINK機器を選んだときに、その機器を自動再生するかしないかを設定します。また、i.LINK機器側で再生を始めたときに、本機の入力を自動的に切り替えるかどうかを設定します。
(「i.LINK設定」→「自動再生」)

選択項目：⇔プレーヤー、→プレーヤー、←プレーヤー、×プレーヤー
初期設定値：⇔プレーヤー

⇔プレーヤー
INPUT SELECTORで選んだi.LINK機器を自動再生します。また、i.LINK機器を再生すると、自動的に本機の入力を切り替えます。

→プレーヤー
INPUT SELECTORで選んだi.LINK機器を自動再生します。

←プレーヤー
i.LINK機器を再生すると、自動的に本機の入力を切り替えます。

×プレーヤー
INPUT SELECTORで選んだi.LINK機器を自動再生しません。また、i.LINK機器を再生しても、自動的に本機の入力を切り替えません。

入力の割り当て

登録されているi.LINK機器を、入力に割り当てます。
(「i.LINK設定」→「入力の割り当て」)

1 ***△/▽キーを押して、入力を割り当てる機器を選び、▷キーを押す***

2 ***△/▽キーを押して、入力を選び、ENTERキーを押す***

選択項目：フォノ、CD、CD-R、MD/テープ、DVD、DTV/LD、ケーブルTV、衛星放送機器、ビデオデッキ1、ビデオデッキ2、ビデオレコーダー、補助入力、接続しない

表示メッセージについて

状態表示メッセージ

本機の状態を本体ディスプレイに表示します。

メッセージ	内容
LINK CHECK	i.LINK機器を認識中に表示されます。
NO NAME	接続したi.LINK機器からモデル名が取得できない場合に表示されます。
NO VENDOR NAME	接続したi.LINK機器からメーカー名が取得できない場合に表示されます。

エラーメッセージ

接続や登録時に、問題がある場合に本体ディスプレイに表示されます。

メッセージ	原因	対策
BUS FULL	i.LINKの伝送帯域がいっぱいな状態で、データの送受信ができない状態です。	使っていないi.LINK機器を取り外すと、解消される場合があります。
		本機と、再生したいi.LINK(AUDIO)機器との間に、データ転送速度が遅い(S100またはS200)i.LINK機器が接続されている場合は、本機とi.LINK(AUDIO)機器を直接接続するように、i.LINK機器の接続順を変更すると、解消される場合があります。
CANNOT LINK	接続が不完全なため、接続したi.LINK機器を認識できません。	すべてのi.LINK機器に、正しくi.LINKケーブルが接続されているか確認してください。
HOP OVER	ディジーチェーン接続をしている場合に、両端のi.LINK機器間の接続台数が、15台を超えています。	両端のi.LINK機器間の接続台数が、15台以下になるように、i.LINK機器を取り外してください。
		ツリー接続にしてみてください。
LOOP CONNECT	i.LINK機器との接続がループ接続(信号を出力した機器に同じ信号が戻ってくるような接続)になっています。	i.LINKケーブルを取り外し、接続しなおしてください。
NODE OVER	i.LINK機器の接続台数が、本機を含めて63台を超えています。	i.LINK機器の接続台数が、本機を含めて63台以下になるように、i.LINK機器を取り外してください。
REGIST. OVER	本機にすでに16台分の接続情報が登録されています。	不要な登録情報を削除してから、新たにi.LINK機器を接続してください。

HDMI機器を活用する

本機は、HDMI端子を搭載しています。HDMI対応機器を接続すれば、2chリニアPCM信号やマルチチャンネルの圧縮オーディオ信号に加え、従来アナログでしか伝送できなかった、DVDオーディオなどのマルチチャンネル信号をデジタルのまま伝送することができます。

HDMIについて

HDMIとは、世界業界標準規格であるHDMI(High-Definition Multimedia Interface Specification)規格に準じた、次世代テレビ向けのデジタルインターフェースです。

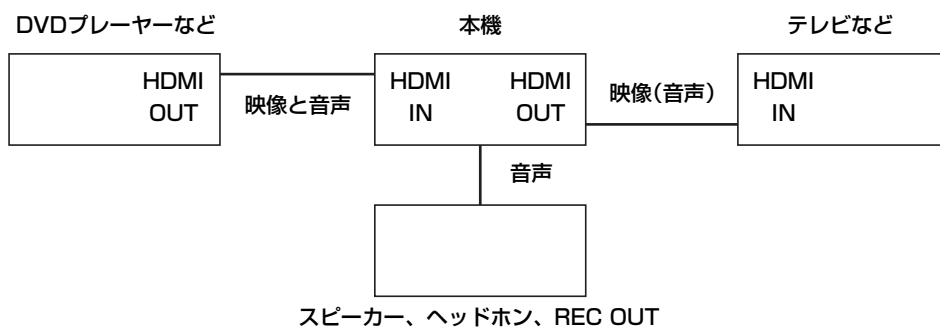
- 本機は、HDMI Ver. 1.1に対応しており、HDMI対応機器をHDMIケーブル1本で接続すれば、DVD VIDEOなどのデジタルビデオ信号に加え、従来の2チャンネルのPCM信号や、マルチチャンネルの圧縮オーディオ信号、DVDオーディオ(マルチチャンネルPCM信号)などのマルチチャンネルオーディオ信号を、デジタルのまま伝送することができます。
- 著作権保護技術(HDCP: High-bandwidth Digital Content Protection System)に対応しているため、デジタルビデオ/オーディオ信号をデジタルのまま劣化させることなく伝送できます。

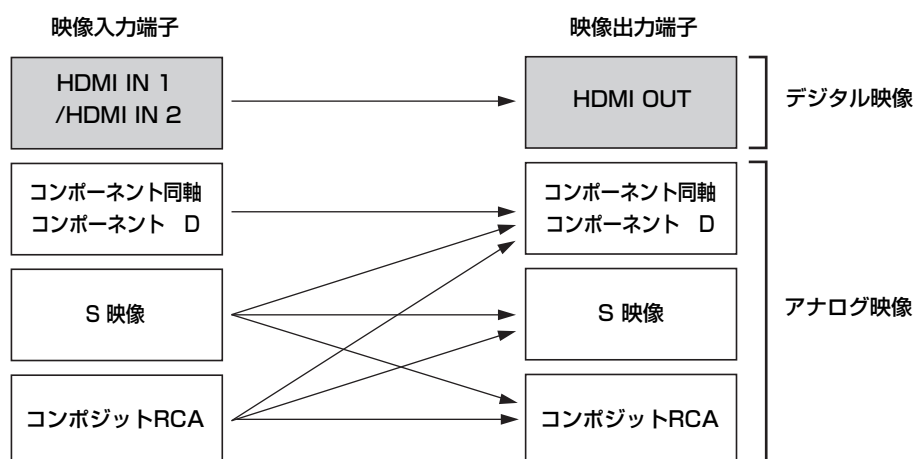
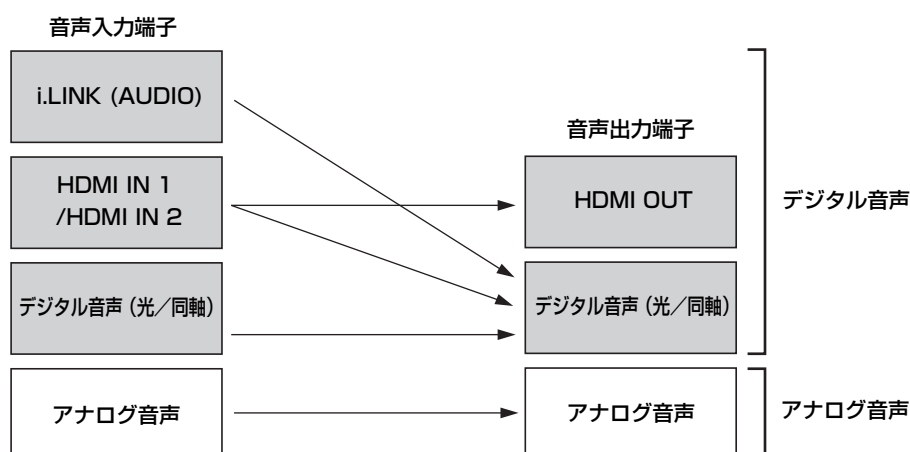
この機器のHDMIインターフェースは、以下の規格に基づいて設計されています。
High Definition Multimedia Interface Specification Version 1.1

HDMI機器を接続する

本機は2つのHDMI IN 端子と1つのHDMI OUT 端子を装備しています。

映像信号と音声信号の流れ

INPUTセレクターまたはGUIメニュー「HDMI」ー「選択」(44ページ)で選択した HDMI IN 1 端子または HDMI IN 2 端子から入力された映像および音声信号は、本機の HDMI OUT 端子から本機に接続したHDMI機器へ伝送(リピート)されます。さらに HDMI IN 1 端子またはHDMI IN 2 端子から入力された音声信号はスピーカー、ヘッドホン、REC OUT へ出力されます。

GUIメニュー「HDMI→対応音声」(45ページ)で、入力された音声信号を本機で再生するか、本機に接続したHDMI機器へ伝送するか選択できます。

映像信号端子の接続

音声信号端子の接続

ヒント

接続には、19ピンのHDMIケーブルで、HDMIロゴのついているものをお使いください。また、長さ5.0m以下のものを使うことをおすすめします。

ご注意

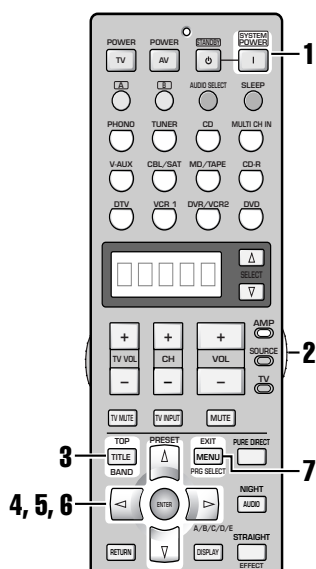
- 本機はHDCPに対応していないHDMI機器またはDVI機器には対応していません。
- 本機をDVI端子のある機器に接続する場合は、HDMI端子 ⇔ DVI-D端子の変換ケーブルが必要です。
- 本機のHDMI IN 1端子またはHDMI IN 2端子以外の入力端子から入力された映像信号および音声信号は、HDMI OUT端子へ出力しません。
- 本機のHDMI IN 1端子またはHDMI IN 2端子から入力したデジタル映像信号は、アナログ映像出力端子へ出力しません。
- 本機のHDMI IN 1端子またはHDMI IN 2端子から入力したデジタル音声信号は、アナログ音声出力端子へ出力しません。
- 本機をスタンバイ状態やオフにすると、本機のHDMI IN 1端子またはHDMI IN 2端子から入力された信号は、本機のHDMI OUT端子へリピートしません。
- 本機のHDMI IN 1端子またはHDMI IN 2端子から入力された音声信号は、REC OUTセレクターでSOURCEを選択しているときに限り、REC OUT端子へ出力されます。
- HDMIで接続した機器を再生中に、本機のHDMI OUT端子に接続しているHDMI/DVI機器の電源をオン/オフしたり、HDMIケーブルを抜き差ししたりしないでください。音声が途切れたりノイズになったりすることがあります。

対応する音声信号フォーマットについて

本機の HDMI は以下の音声信号フォーマットに対応しています。

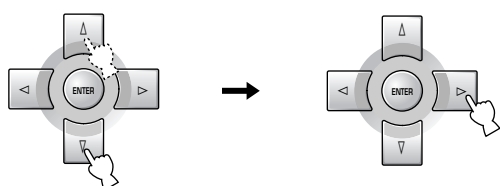
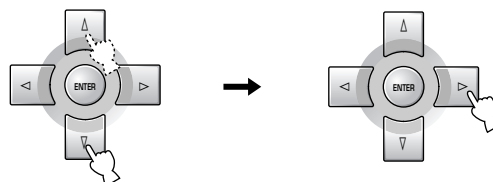
音声フォーマット	詳細	ディスク（例）
2チャンネル リニア PCM	2ch 32-192kHz 16/20/24bit	CD、DVD-Video、 DVD-Audio
マルチチャンネル リニア PCM	5.1ch 32-96kHz 16/20/24bit	DVD-Audio
ビットストリーム	ドルビーデジタル、 DTS、AAC	DVD-Video

HDMIの設定を変更する

登録されたHDMI機器の情報を表示したり、登録を削除したりします。またHDMI機器を接続したときの本機の動作設定や、入力の割り当てを変更できます。
GUI操作については「GUIメニューの表示と操作方法」(48ページ)をご覧ください。

1 本機とテレビの電源を入れる

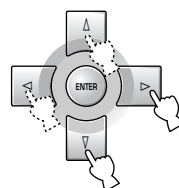
2 AMP/SOURCE/TVスイッチをスライドさせて、AMPを選ぶ

3 TOPキーを押して、GUI画面を表示する

4 △/▽キーを押して、「HDMI」を選び、▷キーを押す

5 △/▽キーを押して、設定するメニューを選び、▷キーを押す

選ぶことのできるメニューは以下のとおりです。
- 「選択」→44ページ
- 「入力の割り当て」→44ページ
- 「対応音声」→45ページ
- 「接続情報」→45ページ

6 △/▽/◁/▷ キーを押して、選んだメニューの設定を変更する

7 変更し終わったら、EXITキーを押して、終了する

本機について
いろいろな再生のしかた
オリジナルのリスニング環境をつくる
便利な機能
メニューで設定を変更する
リモコンを使いこなす
その他の情報

選択

HDMI機器を接続しているHDMI IN端子を選択することにより、再生する機器を選びます。
(「HDMI」→「選択」)

1 △/▽キーを押して、選択するHDMI IN端子を選び、ENTERキーを押す

選択項目：IN 1、IN 2

ご注意
AUDIO SELECTでAUTOを選択しているときに、選択したHDMI IN端子に接続したHDMI機器から音声入力信号が入力されていない場合、アナログ入力やほかのデジタル端子の音声が選択されます。このような場合には、音声が出力されるまで数秒間かかる場合があります。

入力の割り当て

登録されているHDMI機器を、入力に割り当てます。各入力(DVD〜補助入力)に割り当てることができます。
(「HDMI設定」→「入力の割り当て」)

1 ***△/▽キーを押して、入力を割り当てるHDMI IN端子を選び、▷キーを押す***

2 ***△ /▽ キーを押して、入力を選び、ENTERキーを押す***

選択項目：DVD、DTV、ケーブルTV、衛星放送機器、ビデオデッキ1、ビデオデッキ2、ビデオレコーダー、補助入力
初期設定値：IN1・・・DVD　IN2・・・CBL/SAT

対応音声

本機のHDMI IN端子から入力した音声信号を、本機で再生するか本機のHDMI OUT端子に接続した機器で再生するかを選択します。
(「HDMI設定」→「対応音声」)

選択項目：DSP-AX4600、その他機器

DSP-AX4600

入力信号を本機で再生します。HDMI IN端子に接続したHDMI機器から入力した音声信号は、HDMI OUT端子に伝送しません。

その他機器

入力信号を本機のHDMI OUT端子に接続した機器で再生します。

接続情報

接続されているHDMI機器の情報を表示します。
(「HDMI設定」→「接続情報」)

選択項目：入力情報、出力情報

入力情報

本機のHDMI IN端子に接続しているHDMI機器の情報を表示します。

「モデル名」：
接続しているHDMI機器のモデル名が表示されます。

「タイプ」：
選択しているHDMI機器からの信号タイプ(HDMIまたはDVI)を表示します。

「フォーマット」：
選択しているHDMI機器からの映像信号フォーマットを表示します。

「入力」：
選択しているHDMI IN端子名を表示します。

「エラー」：
エラーが発生した場合にその内容を表示します。

出力情報

本機のHDMI OUT端子に接続しているHDMI機器の情報を表示します。

「モデル名」：
接続しているHDMI機器のモデル名が表示されます。

「タイプ」：
接続しているHDMI機器のタイプ(HDMIまたはDVI)を表示します。

「エラー」：
エラーが発生した場合にその内容を表示します。

- Dvice Over
  機器の接続台数が5台を超えています(本機含む)。5台以下になるように機器を取り外してください。
- HDCP Error
  HDCPの認証に失敗しました。HDCPに対応している機器を接続してください。

ご注意

お使いのHDMI機器により、接続情報を表示しないことがあります。

GUIメニュー一覧

本機ではお使いのシステムで最適な音声や映像をお楽しみいただけるように、下記のGUIメニューで設定を変更することができます。お使いの環境に合わせて設定を変更してください。

HDMI

HDMIについて設定します（43ページ）。

i.LINK

i.LINKについて設定します（36ページ）。

サラウンド選択・設定

各音場プログラムのパラメーターを調整します。（23ページ）

入力選択・設定

入出力端子の割り当て変更や、表示される入力機器名の変更など、信号の入出力に関して以下のメニュを設定/変更できます。以下の6つのメニューがあります。

項目	内容	参照ページ
端子の割り当て	使用する機器が本機の入出力端子の機器名と異なる場合に、使用する機器に合わせて端子を割り当てます。	61
音声入力選択	音声入力端子の種類を選択します。	61
デコードモード	アナログ／デジタル信号の入力モードを切り替えます。	62
再生レベル補正	選んでいる入力の再生レベルを補正します。	62
入力名変更	各入力名を変更します。	63
入力端子設定	MULTI CH INPUT端子に入力された信号の設定をします。	63

マニュアル設定：音の設定

音質や音色の調整など、音声の出力に関して以下のメニューを設定/変更できます。以下の5つのメニューがあります。

項目	内容	参照ページ
LFEレベル	ドルビーデジタル、DTSおよびAACでのLFE信号の再生レベルを調節します。	49
ダイナミックレンジ	ドルビーデジタル、DTSおよびAAC再生時のダイナミックレンジを調節します。	49
パラメトリックEQ	パラメトリックイコライザーを使って、各スピーカーの音色を調節します。	50
トーンコントロール	スピーカーまたはヘッドホンの低音域と高音域を調節します。	51
その他の音声設定	音声と映像のずれ補正や、AACモノラル音声の設定をします。	51

マニュアル設定：基本設定

お使いのスピーカーシステムに合わせ、以下のメニューを設定/変更できます。以下の5つのメニューがあります。

項目	内容	参照ページ
テストトーン	基本設定を行うときに、テストトーンを使うか使わないかを設定します。	52
スピーカーの設定	ご使用になるスピーカーに合わせて、サイズや有無などを設定します。	52
スピーカーの距離	各スピーカーからリスニングポジションまでの距離に合わせて、音の到達するタイミングを設定します。	54
スピーカーの音量	各スピーカーからの出力レベルを設定します。	55
THXの設定	THXサラウンドモードについて設定します。	56

マニュアル設定:その他の設定

その他様々な機能に関して以下のメニューを設定/変更できます。以下の6つのメニューがあります。

項目	内容	参照ページ
表示の設定	本体ディスプレイの明るさ、GUI画面の背景や表示位置などを調節します。	57
マルチゾーン	別の部屋で音声を楽しむときの出力に関して設定します。	58
サラウンド初期化	音場プログラムパラメーターを初期設定に戻します。	58
音声入力初期値	電源をいれたときに適用する音声入力端子を設定します。	59
デコードモード初期値	電源をいれたときに適用するデコーダーを設定します。	59
設定の保護	変更した設定値を保護します。	60

自動測定メニュー

YPAO(Yamaha Parametric Room Acoustic Optimizer)により、最適な視聴空間を自動的に設定します(「準備・接続編」34ページ)。

システム・メモリー

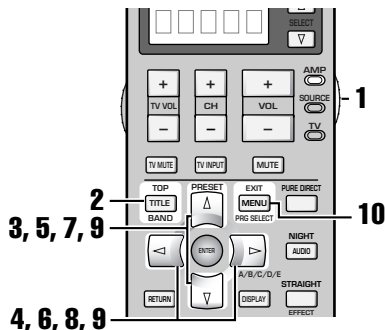
お好みに合わせて設定した音場プログラムやパラメーターなどの設定を呼び出したり記憶させたりします(64ページ)。

音声信号の情報

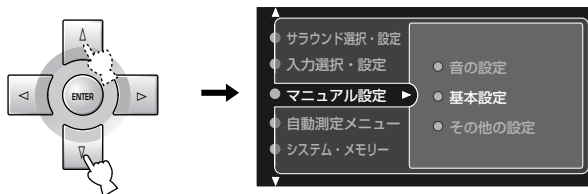
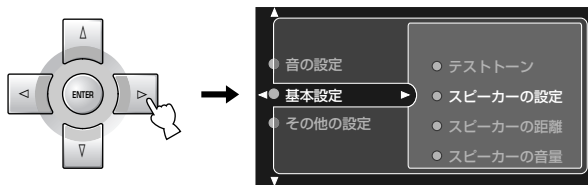
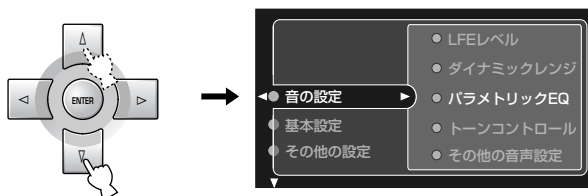
入力されている音声信号の情報を表示します(30ページ)。

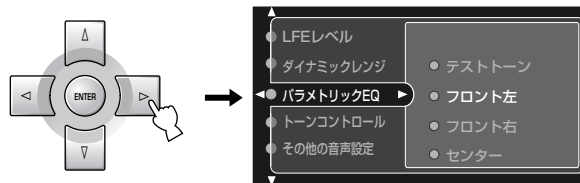
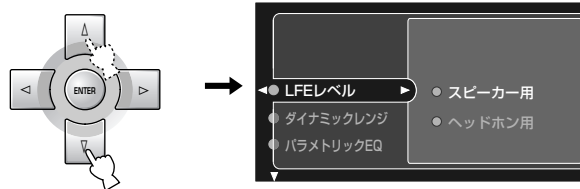
GUIメニューの表示と操作方法

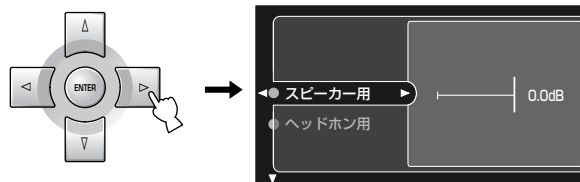
GUIメニューの設定操作について説明します。GUIメニューの各項目の詳細については49〜64ページをご覧ください。

ご注意
操作を始める前に、本機および本機に接続したテレビの電源が入っていることを確認してください。

1 AMP/SOURCE/TVスイッチをスライドさせて、AMPを選ぶ

2 TOPキーを押して、GUI画面を表示する

3 △/▽キーを押して、設定したいメニューを選ぶ

4 ▷キーを押す

5 △/▽キーを繰り返し押して、設定したいメニューがあるカテゴリーを選ぶ

6 ▷キーを押す

選んだカテゴリー内のメニューが表示されます。

7 △/▽キーを繰り返し押して、設定したいメニューを選ぶ

8 ▷キーを押す

選んだメニューの設定画面が表示されます。

項目によっては△/▽キーを押して、サブメニューを選びます。

9 △/▽/◁/▷キーを押して、設定を変更する

10 GUIメニューを終了するときは、EXITキーを押す

メモリーバックアップ

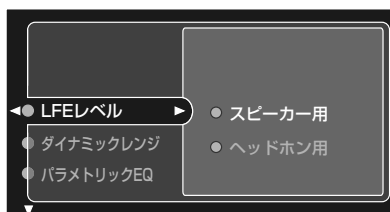
メモリーバックアップ機能は本機がスタンバイ状態の時に、記憶されたデータが失われるのを防ぎます。電源コードがコンセントから抜けていたり、電源供給が一週間以上遮断されると、本機のメモリー内容が消えてしまうことがあります。この場合は各設定を再度やり直してください。

音声出力の設定を変更する−マニュアル設定(音の設定)

音質や音色の調整など、音声の出力に関する設定を行います。

LFEレベル

ドルビーデジタル、DTS、およびAAC信号に含まれる、LFE(低域効果音)の音量を調節します。スピーカーで音を聴く場合と、ヘッドホンで音を聴く場合を個別に調節できます。

(「マニュアル設定」→「音の設定」→「LFEレベル」)

スピーカー用

スピーカーで音を聴く場合のLFEの音量を調節します。

可変範囲：−20dB〜0dB
初期設定値：0dB

ヘッドホン用

ヘッドホンで音を聴く場合のLFEの音量を調節します。

可変範囲：−20dB〜0dB
初期設定値：0dB

ご注意

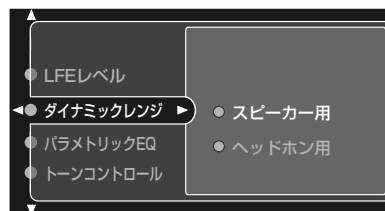
お使いになるサブウーファーやヘッドホンの性能に応じて音量を調節してください。

LFE(低域効果音)とは？

映画の爆発シーンなど、意図されたシーンでのみ出力される、重低音による効果音です。

ダイナミックレンジ

ドルビーデジタル、DTS、およびAAC再生時のダイナミックレンジを、3段階から選びます。スピーカーで音を聴く場合と、ヘッドホンで音を聴く場合を個別に選べます。

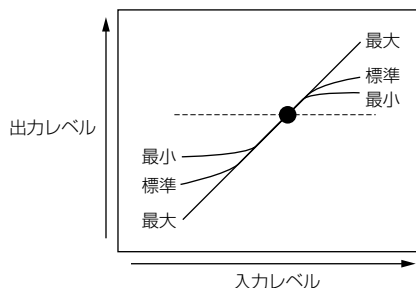
(「マニュアル設定」→「音の設定」→「ダイナミックレンジ」)

スピーカー用

スピーカーで音を聴く場合のダイナミックレンジを選びます。

選択項目：最大、標準、最小
初期設定値：最大

ヘッドホン用

ヘッドホンで音を聴く場合のダイナミックレンジを選びます。

選択項目：最大、標準、最小
初期設定値：最大

最大

入力された信号をリニアに再生するダイナミックレンジです。

標準

一般的な家庭用として推奨するダイナミックレンジです。

最小

小音量でも聴きやすく、夜間に音声を楽しむのに適したダイナミックレンジです。

ダイナミックレンジとは？

どれだけ小さな音から、どれだけ大きな音までを雑音や歪みなく再生できるかを数値で表わしたものです。

パラメトリックEQ

パラメトリックイコライザーを使用して、それぞれのスピーカーの音色を合わせます。
(「マニュアル設定」→「音の設定」→「パラメトリックEQ」)

1 △/▽キーを押して、テストトーン、または調節したいスピーカーを選ぶ

テストトーン
テストトーンを出力する、しないを選択します。

選択項目:出力しない、出力する

フロント左
フロントLスピーカーの音色を調節します。

フロント右
フロントRスピーカーの音色を調節します。

センター
センタースピーカーの音色を調節します。

サラウンド左
サラウンドLスピーカーの音色を調節します。

サラウンド右
サラウンドRスピーカーの音色を調節します。

サラウンドバック左
サラウンドバックLスピーカーの音色を調節します。

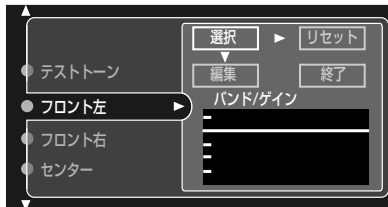
サラウンドバック右
サラウンドバックRスピーカーの音色を調節します。

プレゼンス左
プレゼンスLスピーカーの音色を調節します。

プレゼンス右
プレゼンスRスピーカーの音色を調節します。

ヒント

サラウンドバックスピーカーを1台のみ使っている場合、パラメトリックイコライザーは「サラウンドバック左」で調節してください。

2 ▷キーを押す

3 △/▽/◁/▷キーを押して、「選択」を選び、ENTERキーを繰り返し押して、調整したい項目を選択する

バンド
あらかじめ7つの中心周波数を設定してあります(#1～#7)。希望する中心周波数を選んでゲインを調整します。この機能で周波数を選んだ場合、「周波数」の項目は調節できません。

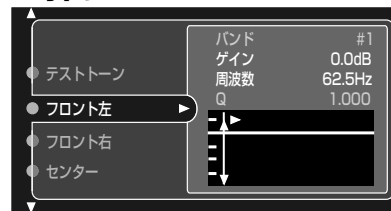
ゲイン
レベルの強さを表します。0.5dBごとに、－20dBから+6dBの間で調節できます。

周波数
可変したい中心周波数を62.5Hzから16.0kHzの間で選びます。周波数の調整時には、「バンド」の項目は調節できません。

Q
指定された周波数帯域の帯域幅です。0.5～10.080の間で調節できます。

ヒント

「バンド」を選択すると、グラフィックイコライザーとして使用することができます。

4 ▽キーを押して、「編集」を選び、ENTERキーを押す

選択された項目がハイライトされます。
- ◁/▷キーで、調整するバンド、周波数帯、Qを選びます。
- △/▽キーで、選んだ周波数帯のゲインを調整します。
- ENTERキーを押すと「編集」画面から抜けます

5 手順3、4を繰り返して、他の項目を調整する

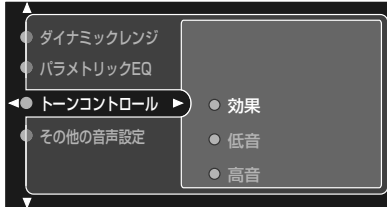
ヒント

選択したスピーカーのパラメーター設定を初期化するには、「リセット」を選択し、ENTERキーを押します。

6 △/▽/◁/▷キーを押して、「終了」を選び、ENTERキーを押す

テストトーン、スピーカー選択画面に戻ります。

トーンコントロール

スピーカーまたはヘッドホンから出力される音声の低音域と高音域を調節します。
（「マニュアル設定」→「音の設定」→「トーンコントロール」）

効果
スピーカーから出力される音声を調節するのか、ヘッドホンから出力される音声を調節するのかを選びます。

選択項目：使用しない、スピーカー用、ヘッドホン用

低音
低音域の音色を調節します。ターンオーバー周波数は、125Hz、350Hz、500Hzのいずれかを選ぶことができます。

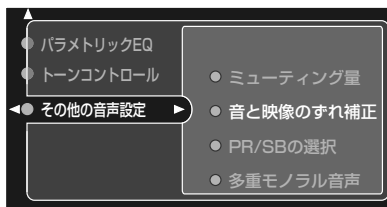
可変範囲：－6dB～＋6dB

高音
高音域の音色を調節します。ターンオーバー周波数は、2.5kHz、3.5kHz、8.0kHzのいずれかを選ぶことができます。

可変範囲：－6dB～＋6dB

ご注意
THXサラウンドモード（13ページ）やピュアダイレクトモード（16ページ）で再生しているときや、MULTI CH INPUT端子に接続した機器を再生しているときは、トーンコントロールで音色を調節できません。

その他の音声設定

音声と映像のずれを補正したり、AACモノラル音声の出力を設定します。
（「マニュアル設定」→「音の設定」→「その他の音声設定」）

ミューティング量
ミュート（消音）時に下げる音量を調節します。

選択項目：フルミュート、－20dB
初期設定値：フルミュート

フルミュート
完全に消音し、無音にします。

－20dB
いま聴いている音量よりも、20dB下げて再生します。

音と映像のずれ補正
デジタル処理された映像が、音声よりも遅れて出力されることがあります。この出力タイミングのずれを、音声を遅らせて出力することにより補正します。
音を遅らせる時間を設定します。

可変範囲：0～240ms
初期設定値：0ms

PR/SBの選択
ドルビーデジタルEXやDTS-ESなどサラウンドバック成分があるソースを、シネマDSP音場プログラムで再生するときに、優先的に音を出すスピーカーを選びます。

選択項目：プレゼンス、サラウンドバック
初期設定値：サラウンドバック

プレゼンス
サラウンドバック成分があるソースを再生中でも、プレゼンス成分がプレゼンスL/Rスピーカーから出力されます。
このとき、サラウンドバック成分はサラウンドL/Rスピーカーに振り分けられて出力されます。

サラウンドバック
サラウンドバック成分があるソースを再生中は、サラウンドバックスピーカーから音を出します。
このとき、プレゼンス成分はフロントL/Rスピーカーに振り分けられて出力されます。

多重モノラル音声
BS/地上波デジタル放送などで使われているモノラル二重音声入力時に、どの音声を出力するか設定します。

選択項目：主＋副、主音声、副音声
初期設定値：主音声

主＋副
主音声と副音声をフロントL/Rスピーカーから出力します。

主音声
主音声のみをフロントL/Rスピーカーから出力します。

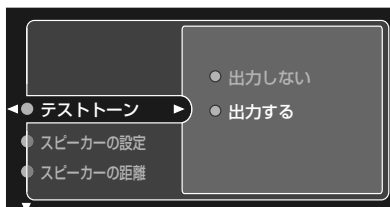
副音声
副音声のみをフロントL/Rスピーカーから出力します。

スピーカーの設定を変更する－マニュアル設定(基本設定)

お使いのスピーカーシステムに合わせて、視聴環境を設定します。

テストトーン

基本設定の他の項目(「スピーカーの設定」、「スピーカーの距離」、「スピーカーの音量」)を使って調整するときにテストトーンを使うか使わないかを設定します。

(「マニュアル設定」→「基本設定 」→「テストトーン」)

選択項目：出力しない、出力する
初期設定値：出力しない

ご注意

「出力する」に設定すると、大きなテストトーンが出ます。小さなお子さまなどをリスニングルームに立ち入らせないようご配慮ください。

スピーカーの設定

ご使用になるスピーカーに合わせて、スピーカーのサイズ、有り無しなどを設定します。

(「マニュアル設定」→「基本設定」→「スピーカーの設定」)

ヒント

目安として、ウーファーの口径が16cm未満のスピーカーをお使いの場合は「小」、それ以上の口径の場合は「大」に設定することをおすすめします。

フロント

フロントL/Rスピーカーのサイズを設定します。

選択項目：大、小
初期設定値：小

ヒント

「小」に設定した場合、低域成分は「低音出力先」の設定にしたがって出力されます(53ページ)。

センター

センタースピーカーのサイズ、有り無しを設定します。

選択項目：大、小、無
初期設定値：小

ヒント

- 「小」に設定した場合、低域成分は「低音出力先」の設定にしたがって出力されます(53ページ)。
- 「無」に設定した場合、センターチャンネルはフロントL/Rスピーカーに振り分けられて出力されます。

サラウンド

サラウンドL/Rスピーカーのサイズ、有り無しを設定します。

選択項目：大、小、無
初期設定値：小

ヒント

- 「小」に設定した場合、低域成分は「低音出力先」の設定にしたがって出力されます(53ページ)。
- 「無」に設定した場合、「サラウンドバック」も自動的に「無」に設定されます。
- 「無」に設定して音場プログラムを使うと、バーチャルシネマDSPモードで再生します(15ページ)。

サラウンドバック

サラウンドバックスピーカーのサイズ、本数、有り無しを設定します。

選択項目：大1台、小1台、小2台、大2台、無
初期設定値：小2台

ヒント

- 「小」に設定した場合、低域成分は「低音出力先」の設定にしたがって出力されます（下記参照）。
- 「無」に設定した場合は、サラウンドバックチャンネルはサラウンドL/Rスピーカーに振り分けられて出力されます。

プレゼンス

プレゼンスL/Rスピーカーを使うか、使わないかを設定します。

選択項目：使用しない、使用する
初期設定値：使用しない

「使用しない」に設定した場合は、プレゼンスチャンネルはフロントL/Rスピーカーに振り分けられて出力されます。

低音出力先

低音成分を出力するスピーカーを設定します。

選択項目：フロントとサブウーファー、サブウーファーのみ、フロントに出力
初期設定値：サブウーファーのみ

フロントとサブウーファー

サブウーファーを接続していて、フロントL/Rチャンネルの低音域をフロントL/Rスピーカーとサブウーファーの両方に出力したい場合に設定します。
LFEチャンネルと、フロント以外のチャンネルの低音域は、スピーカーのサイズ設定により、サブウーファーから出力されます。例えば、CDを再生するときに、サブウーファーを使って低音域を補強したい場合などはこの設定にします。

サブウーファーのみ

サブウーファーを接続している場合に設定します。
LFEチャンネルと各スピーカーのサイズ設定により、他チャンネルの低音域がサブウーファーに出力されます。

フロントに出力

サブウーファーを接続していない場合に設定します。
LFEチャンネルと各スピーカーのサイズ設定により、他チャンネルの低音域がフロントL/Rスピーカーに出力されます。

低音クロスオーバー

サブウーファーに出力する低音成分の、周波数の上限を設定します。設定した周波数以下の低音成分が、サブウーファーに出力されます。

選択項目：40Hz、60Hz、80Hz（THX）、90Hz、100Hz、110Hz、120Hz、160Hz、200Hz
初期設定値：80Hz（THX）

SW位相

ご使用になるサブウーファーの位相を設定します。低音が物足りない場合などにお試しください。

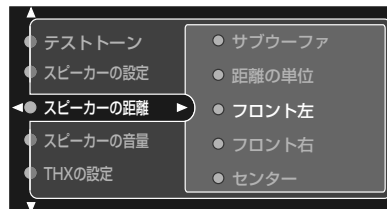
選択項目：正相、逆相
初期設定値：正相

THX推奨の設定

- 全スピーカー：　小
- 低音出力先：　サブウーファーのみ
- 低音クロスオーバー：80Hz（THX）

スピーカーの距離

各スピーカーからの音が同時にリスニングポジション（視聴位置）に届くように、スピーカーから音が出るタイミングを調節します。音が出るタイミングは、各スピーカーからリスニングポジションまでの距離を設定することで調節されます。

（「マニュアル設定」→「基本設定」→「スピーカーの距離」）

フロント左

フロントLスピーカーからリスニングポジションまでの距離を設定します。

可変範囲：0.30〜24.00m、1.0〜80.0ft
初期設定値：3.0m、10.0ft

フロント右

フロントRスピーカーからリスニングポジションまでの距離を設定します。

可変範囲：0.30〜24.00m、1.0〜80.0ft
初期設定値：3.0m、10.0ft

センター

センタースピーカーからリスニングポジションまでの距離を設定します。

可変範囲：0.30〜24.00m、1.0〜80.0ft
初期設定値：3.0m、10.0ft

サラウンド左

サラウンドLスピーカーからリスニングポジションまでの距離を設定します。

可変範囲：0.30〜24.00m、1.0〜80.0ft
初期設定値：3.0m、10.0ft

サラウンド右

サラウンドRスピーカーからリスニングポジションまでの距離を設定します。

可変範囲：0.30〜24.00m、1.0〜80.0ft
初期設定値：3.0m、10.0ft

サラウンドバック左

サラウンドバックLスピーカーからリスニングポジションまでの距離を設定します。

可変範囲：0.30〜24.00m、1.0〜80.0ft
初期設定値：3.0m、10.0ft

サラウンドバック右

サラウンドバックRスピーカーからリスニングポジションまでの距離を設定します。

可変範囲： 0.30〜24.00m、1.0〜80.0ft
初期設定値：3.0m、10.0ft

プレゼンス左

プレゼンスLスピーカーからリスニングポジションまでの距離を設定します。

可変範囲：0.30〜24.00m、1.0〜80.0ft
初期設定値：3.0m、10.0ft

プレゼンス右

プレゼンスRスピーカーからリスニングポジションまでの距離を設定します。

可変範囲：0.30〜24.00m、1.0〜80.0ft
初期設定値：3.0m、10.0ft

サブウーファー

サブウーファーからリスニングポジションまでの距離を設定します。

可変範囲：0.30〜24.00m、1.0〜80.0ft
初期設定値：3.0m、10.0ft

距離の単位

表示する距離の単位を切り替えます。

選択項目：メートル、フィート
初期設定値：メートル

ご注意

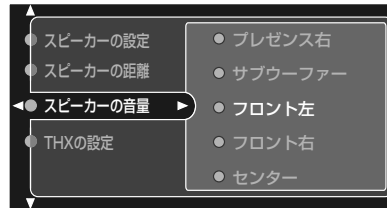
- 「スピーカーの設定」で「無」に設定されているスピーカーの距離は調節できません。
- 「スピーカーの設定」の「低音出力先」を、「フロントに出力」に設定している場合は、サブウーファーの距離は調節できません。

スピーカーの音量

リスニングポジションで聞こえる各スピーカーからの音量が同じになるように、それぞれのスピーカーの音量を個別に調節します。

（「マニュアル設定」→「基本設定」→「スピーカーの音量」）

ヒント

- THXシステムをお使いの場合、正確に調節するために「テストトーン」を使って音量を調節してください（52ページ）。
- 音圧計をお持ちの場合は、音圧計をCウェイト/スローモードに設定したうえで、各スピーカーからの音量がリスニングポジションで75dB SPLになるよう調節してください。

フロント左
フロントLスピーカーからの音量を調節します。

可変範囲：－10.0～＋10.0dB
初期設定値：0dB

フロント右
フロントRスピーカーからの音量を調節します。

可変範囲：－10.0～＋10.0dB
初期設定値：0dB

センター
センタースピーカーからの音量を調節します。

可変範囲：－10.0～＋10.0dB
初期設定値：0dB

サラウンド左
サラウンドLスピーカーからの音量を調節します。

可変範囲：－10.0～＋10.0dB
初期設定値：0dB

サラウンド右
サラウンドRスピーカーからの音量を調節します。

可変範囲：－10.0～＋10.0dB
初期設定値：0dB

サラウンドバック左
サラウンドLスピーカーからの音量を調節します。

可変範囲：－10.0～＋10.0dB
初期設定値：0dB

ヒント

サラウンドバックスピーカーを1台のみ使っている場合は、音量は「サラウンドバック左」で調節してください。

サラウンドバック右
サラウンドRスピーカーからの音量を調節します。

可変範囲：－10.0～＋10.0dB
初期設定値：0dB

プレゼンス左
プレゼンスLスピーカーからの音量を調節します。

可変範囲：－10.0～＋10.0dB
初期設定値：0dB

プレゼンス右
プレゼンスRスピーカーからの音量を調節します。

可変範囲：－10.0～＋10.0dB
初期設定値：0dB

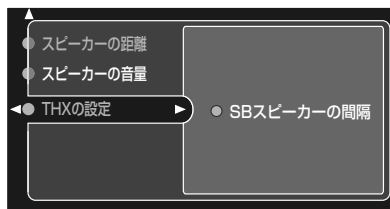
サブウーファー
サブウーファーからの音量を調節します。

可変範囲：－10.0～＋10.0dB
初期設定値：0dB

ご注意

- 「スピーカーの設定」で「無」に設定されているスピーカーの音量は調節できません。
- 「スピーカーの設定」の「低音出力先」を、「フロントに出力」に設定している場合は、サブウーファーの音量は調節できません。

THXの設定

サラウンドバックスピーカーを2つ設定している場合にサラウンドバックLスピーカーとサラウンドバックRスピーカーの間隔を調節して、最適なTHXサラウンドモードの視聴空間を設定します。
（「マニュアル設定」→「その他の設定」→「THXの設定」）

スピーカーの間隔

選択項目：0.3m以下、0.3〜1.2m、1.2m以上
初期設定値：0.3〜1.2m

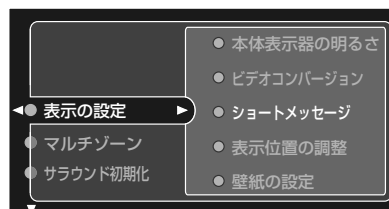
0.3m以下
2つのサラウンドバックスピーカーの間隔が0.3m以下の場合に選択します。

0.3〜1.2m
2つのサラウンドバックスピーカーの間隔が0.3m〜1.2mの場合に選択します。

1.2m以上
2つのサラウンドバックスピーカーの間隔が1.2m以上の場合に選択します。

表示の設定など、様々な機能の設定を行います。

表示の設定

本体ディスプレイの明るさや、GUI画面の背景や表示位置などを調節します。
（「マニュアル設定」→「その他の設定」→「表示の設定」）

本体表示器の明るさ

前面のディスプレイ表示の明るさを調節します。
数値が小さいほど表示が暗くなり、数値が大きいほど表示が明るくなります。

可変範囲：－4～0
初期設定値：0

ビデオコンバージョン

コンポジットビデオ信号をSビデオ信号、コンポーネントビデオ信号に変換するかしないか、およびSビデオ信号をコンポーネントビデオ信号に変換するかしないかを設定します。

選択項目：オン、オフ
初期設定値：オン

オン
コンポジットビデオ信号をSビデオ信号、コンポーネントビデオ信号に、Sビデオ信号をコンポーネントビデオ信号に変換します。
オフ
変換しません。

ヒント
THXシステムをお使いの場合は、「オフ」に設定することをおすすめします。

ご注意
- ビデオデッキから入力したビデオ信号またはSビデオ信号をコンポーネントビデオ信号に変換する場合、ビデオ信号の性能によっては画像が乱れる場合があります。
- オフに設定した場合でも、GUIメニューを表示させるときは、各信号が上位変換されて出力されます。

ショートメッセージ

ショートメッセージを表示するか、表示しないかを設定します。

選択項目：表示する、表示しない
初期設定値：表示する

ご注意
- 入力されている映像信号やお使いのテレビ/プロジェクターによっては、ショートメッセージが乱れて見えることがあります。
- 「ビデオコンバージョン」を「オフ」に設定している場合は、「表示する」に設定してもショートメッセージは表示されません。

表示位置の調整

GUI画面を表示する位置を調節します。

可変範囲：－5～+5（上下）、－5～+5（左右）
初期設定値：0

壁紙の設定

映像が入力されていないときに表示する、壁紙を選びます。

選択項目：使用しない、使用する、灰色無地
初期設定値：使用する

ご注意
「ビデオコンバージョン」を「オフ」に設定している場合は、「使用する」に設定しても壁紙は表示されません。

マルチゾーン

リアパネルのFRONT SPEAKER B端子に接続したスピーカーの設置場所を設定します。

（「マニュアル設定」→「その他の設定」→「マルチゾーン」）

スピーカーB

リアパネルのFRONT SPEAKERS B端子に接続したスピーカー（スピーカーB）を、別の部屋で使うか、使わないかを設定します。

選択項目：メインルームで使用、ゾーンBで使用
初期設定値：メインルームで使用

メインルームで使用

メインリスニングルームで使うときの設定です。スピーカーA とスピーカーB の出力のオン/ オフは、SPEAKERS A/Bスイッチで切り替えます。

ゾーンBで使用

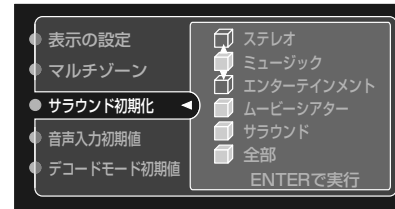
別の部屋で使うときの設定です。スピーカーAの出力をオフ、スピーカーBの出力をオンにすると、メインルームに設置しているすべてのスピーカーから音が出なくなります。

ご注意

- 「ゾーンBで使用」に設定してお使いの場合、本機のPHONES端子にヘッドホンを差し込むと、ヘッドホンとスピーカーBの両方から音声が出力されます。
- 「ゾーンBで使用」に設定してお使いの場合、音場プログラムを選んで音場効果をかけると、自動的にバーチャルシネマDSPモードでの再生になります（15ページ）。

サラウンド初期化

変更した音場プログラムパラメーターを初期設定に戻します。

（「マニュアル設定」→「その他の設定」→「サラウンド初期化」）

リモコンの∆/∇キーで、パラメーターを初期設定に戻したい音場プログラムを選び、ENTERキーを押します。
「全部」を選んでENTERキーを押すと、すべての音場プログラムパラメーターを初期設定に戻せます。

パラメーターが変更されている音場プログラムは、音場ボックスが青色で表示されます。

ご注意

- 一度音場プログラムパラメーターを初期設定に戻してしまうと、初期化前の状態には戻せません。誤って初期化してしまったときのために、パラメーターを変更したときは記録しておいてください。
- 「設定の保護」が、「保護」に設定されている場合、音場プログラムパラメーターを、初期設定に戻せません（60ページ）。
- 「デコーダー選択」パラメーターは初期設定には戻りません（102ページ）。

音声入力初期値

電源を入れたときに適用する音声入力端子を設定します。
（「マニュアル設定」→「その他の設定」→「音声入力初期値」）

選択項目：自動判別、前回設定
初期設定値：自動判別

自動判別
自動的に音声入力端子を選択します。

前回設定
前回使っていた音声入力端子を適用します。

ヒント
「入出力の設定を変更する」の「音声入力選択」で機器ごとの接続端子を設定することができます（61ページ）。

ご注意
「前回設定」を選択しても、EXTD SUR.キーで設定した内容は記憶されません。

デコードモード初期値

電源を入れたときに適用するデコーダーを設定します。
（「マニュアル設定」→「その他の設定」→「デコードモード初期値」）

選択項目：自動判別、前回設定
初期設定値：自動判別

自動判別
自動的にデコーダーを選択します。

前回設定
前回使っていたデコーダーを適用します。

ヒント
「入出力の設定を変更する」の「デコードモード」で機器ごとに適用するデコーダーを設定することができます（62ページ）。

設定の保護

変更した設定値を保護します。「保護」に設定すると、誤操作による設定値の変更を防ぐことができます。

（「マニュアル設定」→「その他の設定」→「設定の保護」）

選択項目：可変、保護

初期設定値：可変

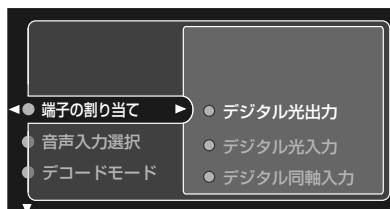
「保護」に設定すると以下の設定が保護されます。

- 音場プログラムパラメーターの設定
- 「設定の保護」以外のメニューの設定

「保護」に設定しても、「システム・メモリー」の「設定の呼び出し」で設定を呼び出すことはできます。

入力端子の割り当てなど、信号の入出力に関する設定を行います。

端子の割り当て

選んでいる入力が使用する端子の割り当てを変更します。「デジタル光 出力」、「デジタル光入力」、「デジタル同軸入力」、「コンポーネント映像」の4つの端子群で、選んでいる入力が使う端子をそれぞれ指定します。
(「入力選択・設定」→「入力ソース」→「端子の割り当て」)

選択項目：デジタル光出力①②、デジタル光入力③〜⑥、デジタル同軸入力⑦〜⑨、コンポーネント映像[A]〜[C]、接続しない

例： **DVDプレーヤーが使う同軸デジタル端子の割り当てを変更する**
DVDプレーヤー用の同軸デジタル端子は初期設定で⑧に設定されています。
これを⑦に変更したい場合は、「DVD−デジタル同軸入力」で⑦を選び、ENTERキーを押します。
「⑦CD」が「⑦DVD」へと変わり、割り当てが変更されます。
（このときCDプレーヤーの割り当ては、DVDプレーヤーの割り当てと入れ替わり「⑧CD」となります）

ご注意
「マルチCH入力」を選んでいる場合は、このメニューを使用できません。

ヒント
- ①〜⑨の数字と、[A]〜[C]のアルファベットは、実際にリアパネルの端子に印字されていて、それと対応しています。
- どの端子にも割り当てない場合には、∆キーを押して、「接続しない」を選びます。
- 「コンポーネント映像」は映像系の入力を選んでいるときのみ、端子の割り当てを変更できます。
- 「補助入力」を選んでいる場合は、「デジタル光入力」はフロントに固定のため端子の割り当てを変更できません。

音声入力選択

音声入力端子を切り替えます。音声信号をどの接続端子から入力するかを自動的に切り替えたり、特定の接続端子に固定したりすることができます。
(「入力選択・設定」→「入力ソース」→「音声入力選択」)

選択項目：自動判別、i.LINK、HDMI、同軸／光、アナログ
初期設定値：自動判別

自動判別
自動的に入力端子を選択します。以下の順序で入力端子を選択します。
①i.LINK
②HDMI
③同軸デジタル
④光デジタル
⑤アナログ

i.LINK
i.LINK端子に固定されます。i.LINK信号以外の信号が入力されても再生されません。

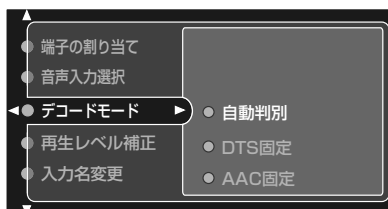
HDMI
HDMI端子に固定されます。HDMI信号以外の信号が入力されても再生されません。

同軸／光
同軸／光デジタル信号に固定されます。両方同時に入力している場合は、同軸デジタル信号を優先します。同軸／光デジタル信号以外の信号が入力されても再生されません。

アナログ
アナログ端子に固定されます。アナログ信号以外の信号が入力されても再生されません。

デコードモード

入力モードを切り替えます。選択した音声入力端子から入力する信号を、DTSなどの特定の信号に固定したりすることができます。

（「入力選択・設定」→「入力ソース」→「デコードモード」）

選択項目：自動判別、DTS固定、AAC固定
初期設定値：自動判別

自動判別
自動的に入力信号を選択します。

DTS固定
DTS信号に固定されます。DTS信号以外の信号が入力されても再生されません。

AAC固定
AAC信号に固定されます。AAC信号以外の信号が入力されても再生されません。

ヒント

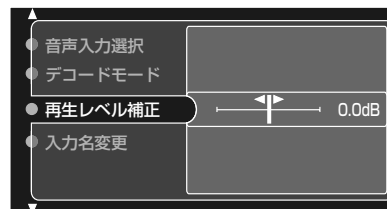
DTS-CDを再生する場合は、「DTS」に設定して再生することをおすすめします。

ご注意

- GUIメニュー「マニュアル設定－その他の設定－デコードモード初期値」の設定で、本機の電源を入れたときに、前回使っていた入力モードをそのまま使うか、「自動判別」に戻すかを設定できます（59ページ）。
- 同軸デジタル入力端子と光デジタル入力端子へ同時にデジタル信号が入力されると、同軸デジタル入力端子への入力信号が優先されます。
- プレーヤーから出力されるデジタル信号に、音量可変などの処理がされている場合は、本機とプレーヤーをデジタル接続しても、DTS音声は再生されません。

再生レベル補正

選んでいる入力の再生レベルを補正します。接続している機器ごとに異なる再生レベルを、同じレベルに補正すれば、入力を切り替えるたびに音量を微調整する必要がなくなります。

（「入力選択・設定」→「入力ソース」→「再生レベル補正」）

可変範囲：－6.0dB～＋6.0dB

入力名変更

GUI画面上に表示される入力名を変更します。
(｢入力選択 · 設定｣→｢入力ソース｣→｢入力名変更｣)

1 **◁/▷キーで文字の入力位置を合わせる**

2 **ENTERキーを繰り返し押して、入力する文字群を選ぶ**

入力できる文字は以下のとおりです。

- 英大文字: A～Z
- 英小文字: a～z
- 数字: 0～9
- スペース(空白)
- 記号: ＃＊＋，－．／：<>？など
- カナ文字：ア～ー
- メーカー名：ヤマハなど

3 **△/▽キーで入力する文字を選ぶ**

文字は最大8文字まで入力できます。手順1～3を繰り返してください。

4 **文字を入力し終わったら、▷キーで｢決定｣を選び、ENTERキーを押す**

ヒント

GUI画面の表示を英語に設定している場合、入力できる文字は英大文字、英小文字、数字、記号、スペースです。

ご注意

本体ディスプレイでの表示は英語のままです。日本語で変更した内容は反映されません。

入力端子設定

MULTI CH INPUT端子に接続されたソースの入力信号の振り分け先を設定します。
(｢入力選択･設定｣ → ｢マルチCH入力｣ → ｢入力端子設定｣)

入力チャンネル

入力する信号のチャンネル数を設定します。

選択項目：6チャンネル、8チャンネル

6チャンネル

6チャンネル信号を入力するときの設定です。

8チャンネル

8チャンネル信号を入力するときの設定です。アナログ音声入力端子を、フロントチャンネル用の端子として使います(下記フロント入力で設定します)。

フロント入力

フロントチャンネル用の端子として使う、アナログ音声入力端子を選ぶことができます。

選択項目：CD、CD-R、MD/テープ、DVD、DTV、ケーブル／衛星、VCR1、DVR/VCR2、補助入力

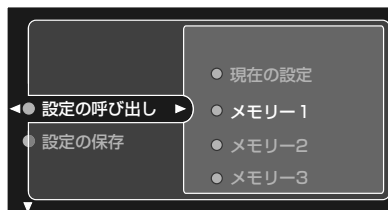
ヒント

バックグラウンドビデオ機能(17ページ)で映像を選ぶときは、選びたい映像が入力されている映像入力端子と同じ名前のアナログ音声入力端子をフロントチャンネル用に設定してください。

本機の設定を呼び出す・保存する(システム・メモリー)

本機の状態(各種設定や音場プログラムなど)を保存し、あとで簡単に呼び出して使うことができます。
例えば、複数のリスニングポジションでYPAOで測定を行い、それぞれを保存して、あとで使い分けたりすることができます。
また特性の違うスピーカーを2組接続している場合に、それぞれのスピーカー設定を保存して使い分けたりするときに便利です。

設定の呼び出し

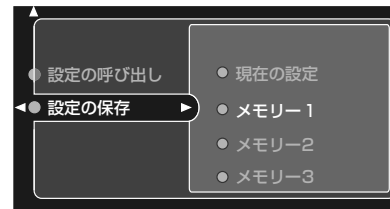
各種設定や音場プログラムなど、保存していた設定を呼び出します。
(「システム・メモリー」→「設定の呼び出し」)

選択項目：現在の設定、メモリー１、メモリー２、メモリー３、メモリー4、メモリー5、メモリー6

現在の設定
現在設定されている各種設定や音場プログラムが右側ウィンドウに表示されます。
メモリー1〜6
保存されている設定を呼び出します。

∆/∇キーで呼び出したい設定をメモリー1〜6のなかから選び、⊳キーを押すと「ENTERで呼び出し」と表示されます。
ENTERキーを押すと、選んだ設定が呼び出されます。

ヒント
メモリー1 とメモリー2 の設定はそれぞれリモコンのMEMORY1/2キーで呼び出すこともできます(29ページ)。

設定の保存

各種設定や音場プログラムなどの設定を保存します。
(「システム・メモリー」→「設定の保存」)

選択項目：現在の設定、メモリー１、メモリー２、メモリー３、メモリー4、メモリー5、メモリー6

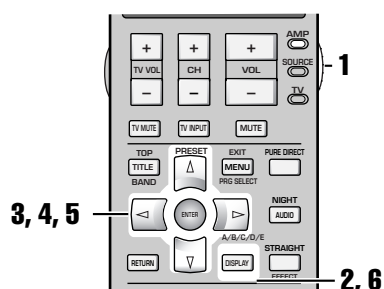
現在の設定
現在設定されている各種設定や音場プログラムが右側ウィンドウに表示されます。
メモリー1〜6
現在の設定を保存します。

∆/∇キーで現在の設定を保存する場所をメモリー1〜6のなかから選び、⊳キーを押すと「ENTERで保存」と表示されます。
ENTERキーを押すと、現在の設定が選んだ場所に保存されます。
保存される主な設定は以下のとおりです。
・音場プログラム
・スピーカーの設定
・スピーカーのチャンネル数
・LFEレベル
・ダイナミックレンジ設定
・YPAOによるパラメトリックイコライザー設定

フロントパネルディスプレイメニューを設定する

フロントパネルディスプレイを使って様々な設定を行います。

フロントパネルディスプレイ・オプションセットメニュー

テレビを接続していなくても、フロントパネルディスプレイを見ながらほとんどのGUIメニューの設定を行うことができます。

1 AMP/SOURCE/TVスイッチをスライドさせて、AMPを選ぶ

2 DISPLAYキーを押して、メニューを表示する

3 △/▽キーを押して、調節したい項目を選び、ENTERキーを押す

4 △/▽キー押して、調節したい項目を選び、ENTERキーを押す

5 △/▽/◁/▷キーを押して、設定を変更する

ヒント

別のパラメーターの設定を変更したいときは、RETURNキーを押すと、1つ前のメニューに戻ります。

6 DISPLAYキーを押して、メニューを終了する

AUTO SETUP

項目	サブ項目	内容
SETUP	AUTO	自動測定メニューでの設定の方法を選択します。詳しくは「準備・接続編」34ページをご覧ください。
EQ	NATURAL FRONT FLAT	自動測定メニューでの周波数補正の特性を選びます。詳しくは「準備・接続編」34ページをご覧ください。
START [ENTER]		自動測定を開始します。詳しくは「準備・接続編」34ページをご覧ください。

MANUAL SETUP

1 BASIC MENU

項目	サブ項目	内容
A>SPEAKER SET	FRONT・・・・SMALL CENTER・・・・・SML SURR.LR・・・・SML SURR.B・・・SMLx2 PRESENCE・・NONE BASS OUT・・SWFR CrossOver・80Hz SWFR PHASE・NRM	スピーカーの大きさ、低音出力先、低音クロスオーバー、ＳＷ位相を設定します。詳しくはＧＵＩメニュー「スピーカーの設定」(52ページ)をご覧ください。
B>SP DISTANCE	UNIT・・・・meters FRONT L・・3.00m FRONT R・・3.00m CENTER・・・3.00m SURR L・・・3.00m SURR R・・・3.00m SB L・・・・・3.00m SB R・・・・・3.00m SWFR・・・・・3.00m PRES L・・・3.00m PRES R・・・3.00m UNIT・・・・・・feet FRONT L・・・10.0ft FRONT R・・・10.0ft CENTER・・・・10.0ft SURR L・・・・10.0ft SURR R・・・・10.0ft SB L・・・・・・10.0ft SB R・・・・・・10.0ft SWFR・・・・・・10.0ft PRES L・・・・10.0ft PRES R・・・・10.0ft	各スピーカーからリスニングポジションまでの距離を設定します。詳しくはGUIメニュー「スピーカーの距離」(54ページ)をご覧ください。
C)SP LEVEL	FL------||------ C------||------ FR------||------ SL------||------ SB.L------||------ SB.R------||------ SR------||------ SWFR------||------ PR.L------||------ PR.R------||------	各スピーカーの音量を調節します。詳しくはGUIメニュー「スピーカーの音量」(55ページ)をご覧ください。
D)TEST TONE	TEST TONE・・OFF	テストトーンを出力します。詳しくはGUIメニュー「テストトーン」(52ページ)をご覧ください。
E)THX SET	SB Dis:<0.3m SB Dis:0.3m-1.2m SB Dis:>1.2m	THXの設定を調節します。詳しくはGUIメニュー「THXの設定」(56ページ)をご覧ください。

2 SOUND MENU

項目	サブ項目	内容
A)LFE LEVEL	SP LFE········0dB HP LFE········0dB	ドルビーデジタル、DTS、AAC信号に含まれるLFEの音量を調節します。詳しくはGUIメニュー「LFEレベル」(49ページ)をご覧ください。
B)D.RANGE	SP D.R····MAX HP D.R····MAX	ドルビーデジタル、DTS、AAC再生時のダイナミックレンジを設定します。詳しくはGUIメニュー「ダイナミックレンジ」(49ページ)をご覧ください。
C)TONE CON FRQ	BASS SP 350Hz TRBL SP 3.5kHz	低音域と高音域を調節します。詳しくはGUIメニュー「トーンコントロール」(51ページ)をご覧ください。
D)AUDIO OPTION	A.MUTE····MUTE A.DELAY······0 PRch >SBch DUAL MONO·MAIN	その他の設定をします。詳しくはGUIメニュー「その他の音声設定」(51ページ)をご覧ください。

3 INPUT MENU

項目	サブ項目	内容
A)I/O ASSIGN	C.V[A] DVD C.V[B] DTV C.V[C]CBL/SAT OUT(1)MD/TAPE OUT(2) CD-R IN (3) CD IN (4) DVD IN (5) DTV IN (6)CBL/SAT IN (7) CD IN (8) DVD IN (9)DVR/VCR2	入出力端子の割り当てを変更します。詳しくはGUIメニュー「端子の割り当て」(61ページ)をご覧ください。
B)INPUT TRIM	DVD······0.0dB	選んでいる入力の再生レベルを補正します。詳しくはGUIメニュー「再生レベル補正」(62ページ)をご覧ください。
C)AUDIO SELECT	>AUTO LAST	電源を入れたときに適応する音声入力端子を設定します。詳しくはGUIメニュー「音声入力初期値」(61ページ)をご覧ください。
D)DECORDER MODE	>AUTO LAST	電源を入れたときに適応するデコーダーを設定します。詳しくはGUIメニュー「デコードモード初期値」(62ページ)をご覧ください。
E)INPUT RENAME	DVD ->_ DVD	入力名を変更します。詳しくはGUIメニュー「入力名変更」(63ページ)をご覧ください。

本機について
いろいろな再生のしかた
オリジナルのリスニング環境をつくる
便利な機能
メニューで設定を変更する
リモコンを使いこなす
その他の情報

項目	サブ項目	内容
F)MULTI CH IN	>6CH　8CH 　DVD　->FRNT	MULTI CH INPUT端子に接続された入力信号のチャンネル数を選びます。詳しくはGUIメニュー「入力端子設定」(63ページ)をご覧ください。

4 HDMI MENU

項目	サブ項目	内容
A)INPUT ASSIGN	IN1　DVD IN2　CBL/SAT	入力端子の割り当てを変更します。詳しくはGUIメニュー「入力の割り当て」(44ページ)をご覧ください。
B)SUPPORT AUD.	>4600　OTHER	本機のHDMI入力端子から入力した信号を再生する機器を設定します。詳しくはGUIメニュー「対応音声」(45ページ)をご覧ください。

5 i.LINK MENU

項目	サブ項目	内容
A)INPUT ASSIGN	-> --- -> DVD (DVDを割り当てたとき)	入力端子の割り当てを変更します。詳しくはGUIメニュー「入力の割り当て」(38ページ)をご覧ください。
B)AUTO PLAY	<---> PLAYER ----> PLAYER <---- PLAYER --X-- PLAYER	i.LINKで接続した機器の自動再生モードを設定します。詳しくはGUIメニュー「自動再生」(38ページ)をご覧ください。

6 OPTION MENU

項目	サブ項目	内容
A)DISPLAY SET	DIMMER･･･････0 WALL PAPER･･ON SHORT MSG.　ON V CONV.･････ON	ディスプレイや壁紙などの設定をします。詳しくはGUIメニュー「表示の設定」(57ページ)をご覧ください。
B)MEMORY GUARD	MEM.GUARD･･OFF	保存した設定を保護します。詳しくはGUIメニュー「設定の保護」(60ページ)をご覧ください。
C)SURR. INI	PRESS DSP Key	音場プログラムパラメーターを初期設定に戻します。詳しくはGUIメニュー「サラウンド初期化」(58ページ)をご覧ください。
D)ZONE SET	SP B･･････MAIN	FRONT SPEAKER B端子に接続したスピーカーの設置場所を設定します。詳しくはGUIメニュー「マルチゾーン」(58ページ)をご覧ください。

フロントパネルディスプレイ・セッティングメニュー

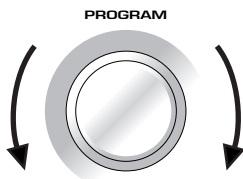
フロントパネルのディスプレイを使ってメニューを表示させて、下記の項目を設定することができます。

1 本機がスタンバイモードであることを確認する

2 STRAIGHT/EFFECTキーを押しながら、STANDBY/ONスイッチを押す

ディスプレイにセッティングメニューが表示されます。

3 PROGRAMセレクターを回して、変更したい項目を選ぶ

ディスプレイに表示された項目が変わります。

4 STRAIGHT/EFFECTキーを押して、設定を変更する

5 STANDBY/ONスイッチを押して、設定を保存する

次に電源を入れたときから、変更した設定が有効になります。

PRESET

本機のすべてのパラメーターを工場出荷状態に戻します。

選択項目：CANCEL、RESET
初期設定：CANCEL

CANCEL
本機のパラメーターを初期設定に戻さないときに選択します。
RESET
本機のパラメーターを初期設定に戻します。

REMOTE AMP

本機のリモコンIDをリモコンのアンプライブラリー設定(73ページ)に合わせます。

選択項目：ID1、ID2
初期設定：ID1

ID1
リモコンのアンプライブラリーが「2000」に設定されているときに選択します。
ID2
リモコンのアンプライブラリーが「2002」に設定されているときに選択します。

REMOTE TUN

本機のチューナー用リモコンIDをリモコンのチューナーライブラリー設定(73ページ)に合わせます。

選択項目：ID1、ID2
初期設定：ID1

ID1
リモコンのチューナーライブラリーが「2602」に設定されているときに選択します。
ID2
リモコンのチューナーライブラリーが「2603」に設定されているときに選択します。

FAN MODE

冷却用ファンの設定をします。

選択項目：AUTO、CONT.
初期設定：AUTO

AUTO
本機の温度を感知して、冷却用ファンが自動的に回転/停止します。
CONT.
本機の温度にかかわらず、冷却用ファンが常時回転します。

LANG.

GUIメニューで表示する言語を切り替えます。

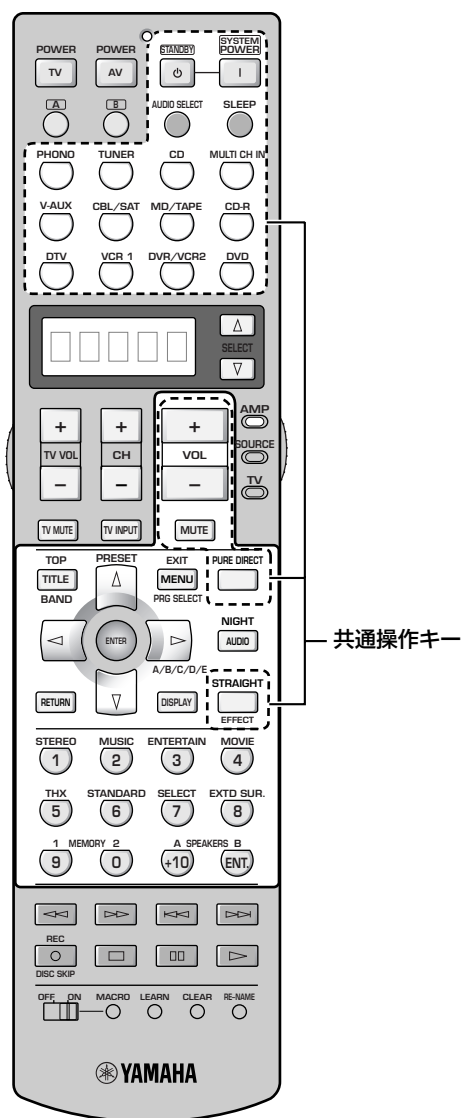
選択項目：JAPANESE、FRENCH.、GERMAN、ENGLISH
初期設定：JAPANESE

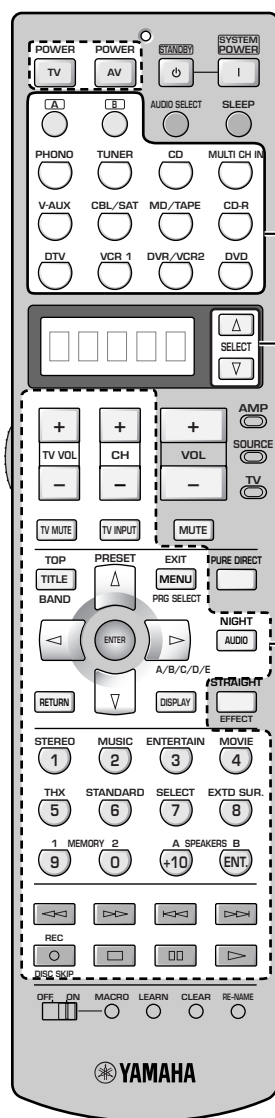
JAPANESE
日本語で表示します。
FRENCH
フランス語で表示します。
GERMAN
ドイツ語で表示します。
ENGLISH
英語で表示します。

リモコンのはたらき

他の機器のリモコン信号を記憶させたり、リモコンコードを設定することにより、本機のリモコンで、DVDプレーヤーやCDプレーヤー、テレビなど本機以外のAV機器を操作することができます。また、マクロ機能を使うと、一連のキー操作を1つのキーでできるようになり、操作性が格段に向上します。

本機を操作する

本機の操作に使用するキーは下図の白色で示した部分です。点線部分内のキー(共通操作キー)はどのモードでも機能します。その他の白色部分のキーを使用するにはAMP/SOURCE/TVスイッチをスライドさせて、AMPを選びます。

ほかの機器を操作する

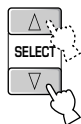
ほかの機器の操作に使うキーは、下図の点線で囲んだ部分です。入力選択キーまたはSELECT △/▽キーで選んだ機器によって、各キーの機能が変わります。リモコンディスプレイには、選んだ機器の名前が表示されます。

ヒント

音場プログラムキーなど本機主体で使う場合、AMP/SOURCE/TVスイッチをAMPにセットしてご使用ください。

ヒント

- 番号キーなど他の機器主体で使う場合、AMP/SOURCE/TVスイッチをSOURCEにセットしてご使用ください。
- 本機に関係なくテレビのリモコンとして使う場合、AMP/SOURCE/TVスイッチをTVにセットしてご使用ください。テレビを操作するにはDTVまたはPHONOにリモコンコードを設定する必要があります(72ページ)。

操作する機器を切り替える

SELECT∆/∇キーを押すと、入力ソースは切り替えずに、リモコンで操作する機器だけを切り替えることができます。操作できる機器は、リモコンディスプレイに表示されます。

OPTN(オプション)モード

入力選択キーでの切り替えに関係なく操作したい機能をラーニングする場合は、OPTNにラーニングすると便利です。
SELECT∇キーを押して「OPTN」を選ぶと、ラーニングした機器を操作することができます。

ヒント

マクロ機能(84ページ)だけに使うリモコン信号は、OPTNモードにしてラーニングすることをおすすめします。

ご注意

OPTNモードには、リモコンコードを登録できません。

AMP/SOURCE/TVスイッチの役割

音場プログラムキーなど本機主体で使う場合：
AMPにセットします。

番号キーなど他の機器主体で使う場合：
SOURCEにセットします。

本機に関係なくテレビのリモコンとして使う場合：
TVにセットします。

本機について
いろいろな再生のしかた
オリジナルのリスニング環境をつくる
便利な機能
メニューで設定を変更する
リモコンを使いこなす
その他の情報

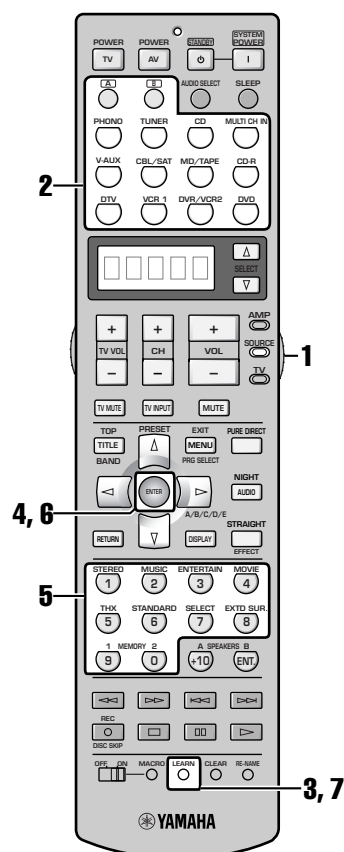
リモコンで操作する機器を設定する

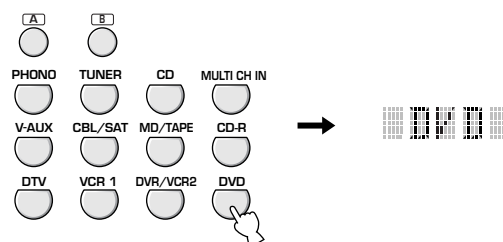
リモコンコードを設定することにより、本機のリモコンで他のメーカーの機器を操作することができます。リモコンコードは各入力選択キーまたはA/Bキーに設定することができます。A、B、TUNER、CD、MULTI CH IN、MD/TAPE、CD-R、DVR/VCR2、DVDの機器操作キーには工場出荷時にあらかじめヤマハのリモコンコードが設定されています。

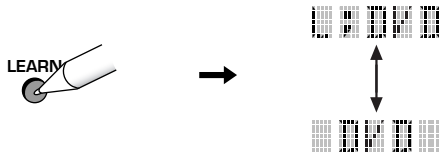
初期設定

入力選択キー	ライブラリー	ヤマハ初期設定コード
A	LD	2200
B	TAPE	2700
PHONO	TV	–
TUNER	TUN	2602
CD	CD	2300
MULTI CH IN	DVD	2102
V-AUX	VCR	–
CBL/SAT	CAB	–
MD/TAPE	MD	2500
CD-R	CDR	2400
DTV	TV	–
VCR1	VCR	–
DVR/VCR2	DVR	2807
DVD	DVD	2102

ご注意

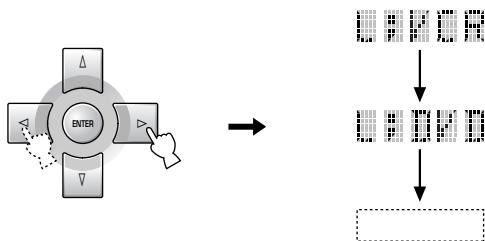
お使いのヤマハ機器によっては、上図の「ヤマハ初期設定コード」では操作できない場合があります。この場合は、他のヤマハリモコンコードをお試しください。

1 ***AMP/SOURCE/TVスイッチをスライドさせて、SOURCEを選ぶ***

2 ***設定を変更したい入力選択キーを押す***

3 LEARNボタンを3秒以上押し続ける

ボールペンなど先の細いもので押します。リモコンディスプレイに機器の種類(ライブラリー)と、選んだ入力ソースの名前が交互に表示されます。

ご注意

- LEARNボタンは3秒以上押しつづけてください。短く押して離すと、ラーニングモードに切り替わります(81ページ)。
- 手順3以降の操作は、それぞれ操作後30秒以内に行ってください。そのままにしておくとリモコンコード設定が自動的に中止されます。この場合は、手順3から操作しなおしてください。

設定されている機器の種類(ライブラリー)を変更する場合は、◁/▷ キーを押して、使いたい機器の種類(ライブラリー)を選ぶ

本機のリモコンには、AMP、TV、CAB(CABLE)、SAT(SATELLITE)、VCR、DVD、DVR、LD、CD、CDR(CD-R)、MD、TAP(TAPE)、TUN(TUNER)の13種類のライブラリーが用意されています。

アンプ(L:AMP)/チューナー(L:TUN)ライブラリーについて

複数のヤマハ製アンプ/レシーバーを同じ部屋で使用している場合などに、工場出荷状態の通常コード「2000」または「2602」のままリモコンで操作すると、これらのアンプ/レシーバーが同時に作動する場合があります。本機を単独で操作する場合は、予備コード「2002」または「2603」に設定してください。また本体のリモコンID設定を「ID2」に設定してください(69ページ)。

アンプ操作用ライブラリーコードの設定

AMP/SOURCE/TVスイッチでAMPを選択し、アンプを操作するときのリモコンコードを設定します。

アンプライブラリーコード設定(リモコンの設定)	機能	リモコンアンプ用ID設定(本体の設定)
2000 (初期設定)	通常コードで本機を操作する場合の設定です。	ID1 (初期設定)
2002	予備コードで本機を操作する場合の設定です。	ID2

チューナー操作用ライブラリーコードの設定

AMP/SOURCE/TVスイッチでSOURCEを選択し、チューナーモードにしたときのリモコンコードを設定します。

チューナーライブラリーコード設定(リモコンの設定)	機能	リモコンチューナー用ID設定(本体の設定)
2602 (初期設定)	通常コードで本機を操作する場合の設定です。	ID1 (初期設定)
2603	予備コードで本機を操作する場合の設定です。	ID2

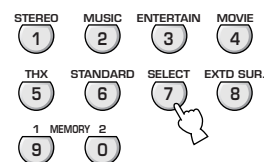
4 ENTERキーを押す

設定されているリモコンコードがリモコンディスプレイに表示されます。

ご注意

選んだ機器用にリモコンコードが設定されていない場合は、「0000」とリモコンディスプレイに表示されます。

5 数字キーを押して、4桁のリモコンコードを入力する

リモコンコードについては、「リモコンコード一覧」(75〜76ページ)を参照してください。

6 ENTERキーを押す

リモコンコードが正しく入力されると、リモコンディスプレイに「OK」と表示されます。

ご注意

リモコンコードが正しく入力されなかった場合は、リモコンディスプレイに「NG」と表示されます。このような場合は手順3から操作しなおしてください。

7 LEARNボタンを押して、リモコンコードの設定を終了する

リモコンが通常の状態に戻ります。

8 動作を確認する

POWERやPLAYなどの各キーで、お使いの機器が正しく動作するか確認してください。正しく動作しないときは同じメーカーの別のリモコンコードを選んでみてください。

ご注意

- 付属のリモコンは、市販されているすべてのAV機器(ヤマハAV機器を含む)のリモコンコードを内蔵しているわけではありませんので、お手持ちのAV機器を操作できない場合があります。いずれのリモコンコードでも操作ができない場合は、ラーニング機能(81ページ)を利用するか、お使いの機器に付属のリモコンをお使いください。
- 1つの入力選択キーに対して、1つのリモコンコードしか設定できません。
- すでにラーニングやマクロを設定している場合、ラーニングまたはマクロによる機能が、リモコンコードの機能より優先されます。
- 手順で指定されたキー以外を操作したり、2つ以上のキーを同時に押したりすると、リモコンディスプレイに「ERROR」と表示されます。このような場合は手順に沿ってはじめから操作しなおしてください。

リモコンコード一覧

本機のリモコンに内蔵のライブラリーは全世界対応です。下表は主に日本で流通しているメーカーのコードを抜粋したものです。下表のメーカー製品であっても形式、年式によって使用できないものがあります。他社のリモコンコードを設定した場合、機種によっては操作できないもの、または限られた機能しか操作できないものがあります。この場合は、お使いの機器専用のリモコンをご利用ください。

TV

メーカー名	リモコンコード				
DAEWOO	0036	0057	0064	0119	0135
	0181	0197	0205	0207	0401
	0478	0650	0661	1688	
FUJITSU	0710	0836			
FUNAI	0207	0198	0291		
GOLDSTAR	0057	0064	0136	0181	0205
	0404				
HITACHI	0036	0057	0119	0132	0136
	0172	0190	0205	0252	0383
	0508	0575	0605	1172	1283
LG	0057	0064	0087	0135	0205
	0741				
MITSUBISHI	0057	0120	0135	0177	0181
	0205	0207	0263	0277	0539
	0863	1277			
NEC	0036	0057	0078	0181	0183
	0197	0205	0482	0524	1731
PANASONIC	0064	0078	0081	0190	0277
	0677	1437			
PHILIPS	0027	0057	0064	0078	0081
	0119	0135	0205	0401	0583
	0717	1481			
PIONEER	0136	0190	0193	0314	0706
	0787	0893			
SAMSUNG	0036	0057	0064	0087	0117
	0119	0181	0205	0291	0397
	0583	0614	0645	0729	0793
	0839	0841			
SANYO	0131	0181	0207	0235	0366
	0826				
SHARP	0057	0120	0677		
SONY	0027	0677	0861	1127	1532
	1678				
TOSHIBA	0087	0181	0183	0535	0645
	0677	0859	1283	1383	1683
	1731				
VICTOR	0080	0277	0677	0680	
YAMAHA	0057	0796	0860	2902	
	2900（プロジェクター）	2901（プロジェクター）			

ケーブルTVチューナー

メーカー名	リモコンコード				
PIONEER	0171	0560	0904	1904	

BSデジタルチューナー

メーカー名	リモコンコード				
PANASONIC	0274	0728	0874	1347	
SONY	0666	0874	1666		
TOSHIBA	0776	0817	1776		

テープデッキ

メーカー名	リモコンコード				
AIWA	0056				
MARANTZ	0056				
PIONEER	0054				
SANSUI	0056				
SONY	0270				
YAMAHA	2700	2701			

ビデオデッキ

メーカー名	リモコンコード				
AIWA	0027	0064	0334	0375	0379
DAEWOO	0072	0131	0305	0669	1305
FUNAI	0027				
GOLDSTAR	0064	0252	0507	1264	
HITACHI	0027	0064	0068	0069	0267
LG	0064	0069	0072	0507	
MITSUBISHI	0068	0070	0094	0108	0834
NEC	0062	0064	0068	0075	0094
	0131				
PANASONIC	0062	0252	0253	0643	1062
	1589				
SAMSUNG	0072	0267	0459		
SANYO	0074	0131	0267		
SHARP	0075	0834			
SHINTOM	0099	0131			
SONY	0027	0059	0060	0062	0663
	1259				
TOSHIBA	0068	0070	0072	0094	0108
	0872				
VICTOR	0068	0094			
YAMAHA	0068				

DVDプレーヤー

メーカー名	リモコンコード				
DENON	0517				
HITACHI	0600	0691			
KENWOOD	0517	0561			
MITSUBISHI	0548				
ONKYO	0530				
PANASONIC	0517	0659	1389		
PHILIPS	0530	0566	0673	0881	
PIONEER	0552	0598	0658	0659	
RCA	0549	0598	0744		
SAMSUNG	0600				
SHARP	0657				
SONY	0560	0891			
TOSHIBA	0530				
VICTOR	0585	0650			
YAMAHA	0517	0566	0572	2100	2101
	2102				

メーカー名	リモコンコード		

DVDレコーダー

PANASONIC	2800	2801	2802
PHILIPS	2808		
PIONEER	2804	2805	2806
TOSHIBA	2803		
YAMAHA	2807		

LDプレーヤー

DENON	0086
MARANTZ	0091
MITSUBISHI	0086
PHILIPS	0091
PIONEER	0086
SONY	0228
YAMAHA	2200

CDプレーヤー

AIWA	0184	
DENON	0900	
HITACHI	0059	
KENWOOD	0055	0064
MARANTZ	0056	0184
PANASONIC	0056	
PHILIPS	0184	
PIONEER	0059	0332
SANSUI	0184	0332
SANYO	0206	
SHARP	0064	
SONY	0027	
TECHNICS	0056	
VICTOR	0099	
YAMAHA	2300	2301

CDレコーダー

KENWOOD	0653
MARANTZ	0653
PHILIPS	0653
YAMAHA	2400

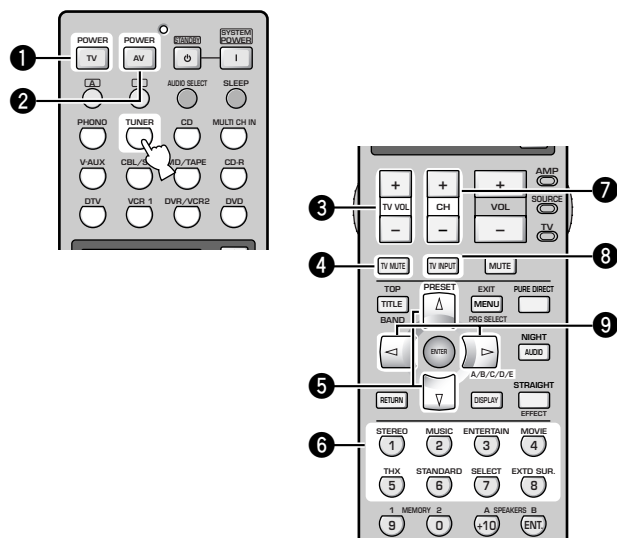
MDレコーダー

KENWOOD	0708		
ONKYO	0895		
SHARP	0888		
SONY	0517		
YAMAHA	2500	2501	2502

設定した機器を操作する

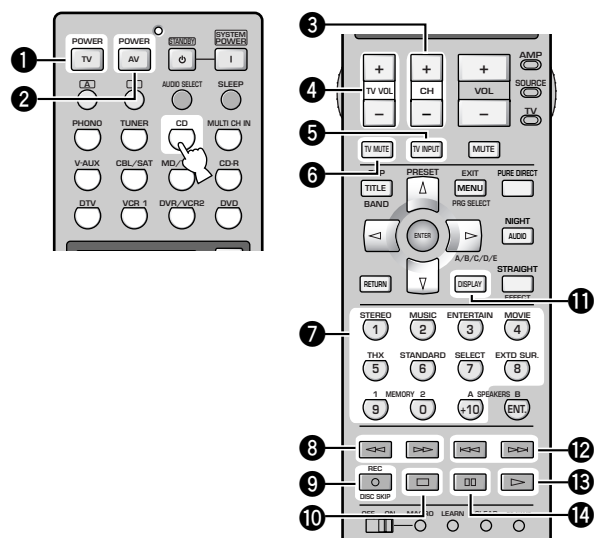
ご使用の機器のリモコンコードを設定すると、その機器を本機のリモコンで操作することができます。

- ご使用の機器によっては、いくつかのキーが機能しないことがあります。このような場合には、ラーニングをする(81ページ)か、もしくはご使用の機器に付属のリモコンをご使用ください。
- ご使用の機器によっては、キー操作と説明が一致しないことがあります。
- 本機以外の機器を操作する場合には、あらかじめリモコンコードを設定しておく必要があります。A、B、TUNER、CD、MULTI CH IN、MD/TAPE、CD-R、DVR/VCR2、DVDの各キーには、工場出荷時にヤマハリモコンコードが設定されていますが、動作しない場合は他のリモコンコードに設定しなおしてください。

FM/AMチューナーを操作する

入力選択キーのTUNERキーを押すとチューナーを操作できます。

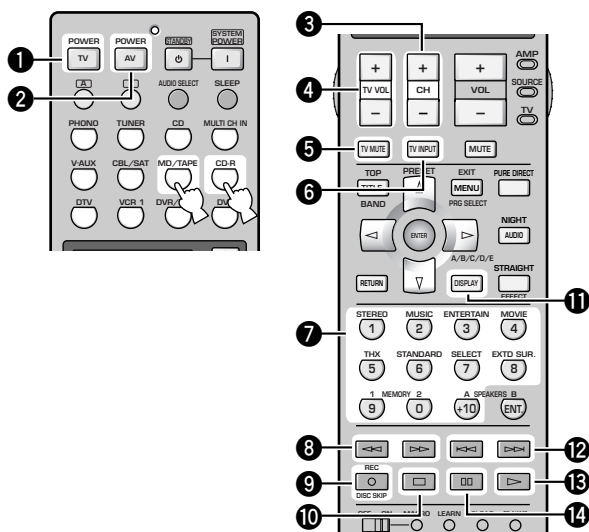
操作例

❶ (テレビ)電源を入/切する
❷ 電源を入/切する
❸ (テレビ)音量を調節する
❹ (テレビ)消音する
❺ プリセット局を切り替える
❻ プリセット番号を直接指定する
❼ (テレビ)チャンネルを切り替える
❽ (テレビ)入力を切り替える
❾ プリセットグループ(A/B/C/D/E)を切り替える

CDプレーヤーを操作する

入力選択キーのCDキーを押すとCDプレーヤーを操作できます。

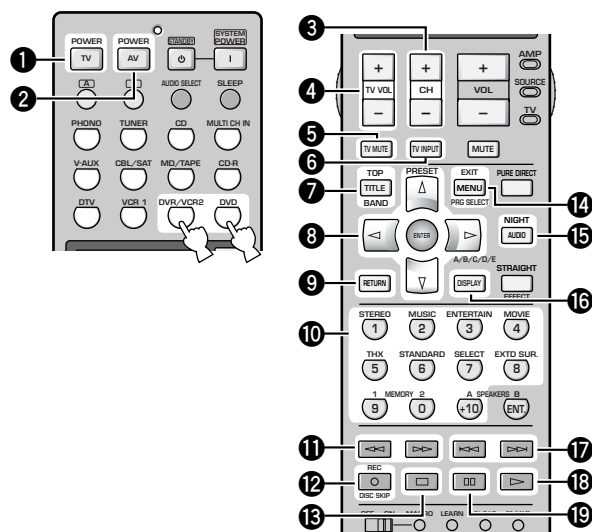
操作例

❶ (テレビ)電源を入/切する
❷ 電源を入/切する
❸ (テレビ)チャンネルを切り替える
❹ (テレビ)音量を調節する
❺ (テレビ)入力を切り替える
❻ (テレビ)消音する
❼ 数字を入力する
❽ 早送り/早戻しをする
❾ (CDチェンジャー)ディスクを選ぶ
❿ 停止する
⓫ ディスプレイ表示を切り替える
⓬ 次/前の曲の頭出しをする
⓭ 再生を開始する
⓮ 再生を一時停止する

MDレコーダー/CDレコーダーを操作する

入力選択キーのMD/TAPEキーを押すとMDレコーダーを、CD-Rキーを押すとCDレコーダーを操作できます。

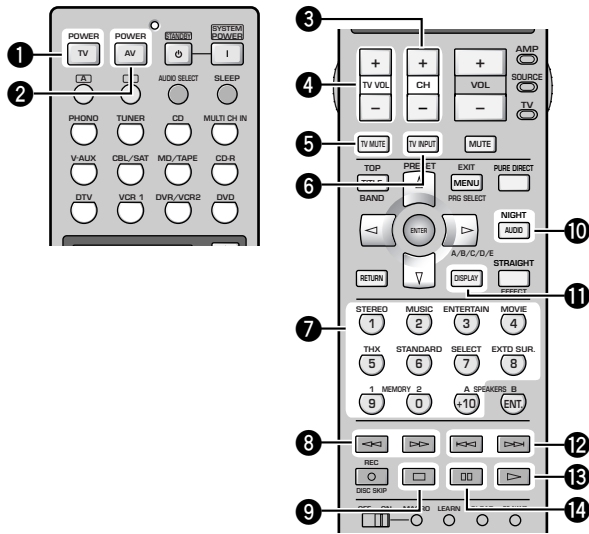
操作例

❶ (テレビ)電源を入/切する
❷ 電源を入/切する
❸ (テレビ)チャンネルを切り替える
❹ (テレビ)音量を調節する
❺ (テレビ)消音する
❻ (テレビ)入力を切り替える
❼ 数字を入力する
❽ 早送り/早戻しをする
❾ 録音を開始する
❿ 停止する
⓫ ディスプレイ表示を切り替える
⓬ 次/前の曲の頭出しをする
⓭ 再生を開始する
⓮ 再生/録音を一時停止する

DVDプレーヤー/DVDレコーダーを操作する

入力選択キーのDVDキーを押すとDVDプレーヤーを、DVD/VCR2キーを押すとDVDレコーダーを操作できます。

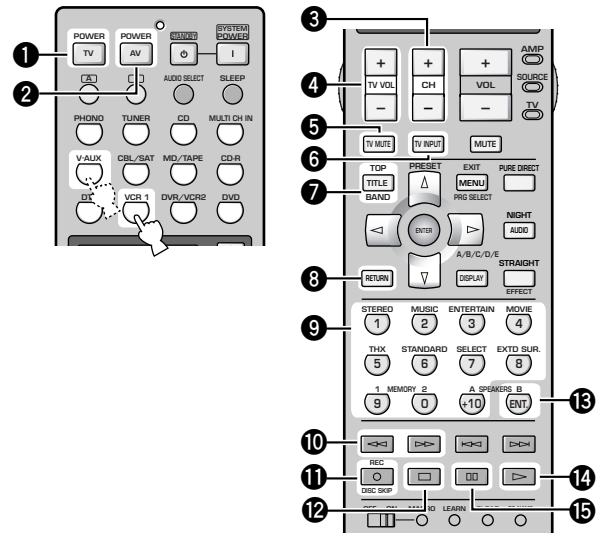
操作例

❶ (テレビ)電源を入/切する
❷ 電源を入/切する
❸ (テレビ)チャンネルを切り替える
❹ (テレビ)音量を調節する
❺ (テレビ)消音する
❻ (テレビ)入力を切り替える
❼ タイトルメニュー(トップメニュー)を表示する
❽ メニュー項目を選択する/決定する
❾ 前の画面に戻る
❿ 数字を入力する
⓫ 早送り/早戻しをする
⓬ (DVDチェンジャー)ディスクを選ぶ
(DVDレコーダー)録画を開始する
⓭ 停止する
⓮ DVDメニューを表示する
⓯ オーディオメニューを表示する
⓰ ディスプレイ表示を切り替える
⓱ 次/前のチャプターの頭出しをする
⓲ 再生を開始する
⓳ 再生を一時停止する

LDプレーヤーを操作する

LDプレーヤーを接続した端子に対応するキーにライブラリー/リモコンコードを設定してから、そのキーを押すと、LDプレーヤーを操作できます。

操作例

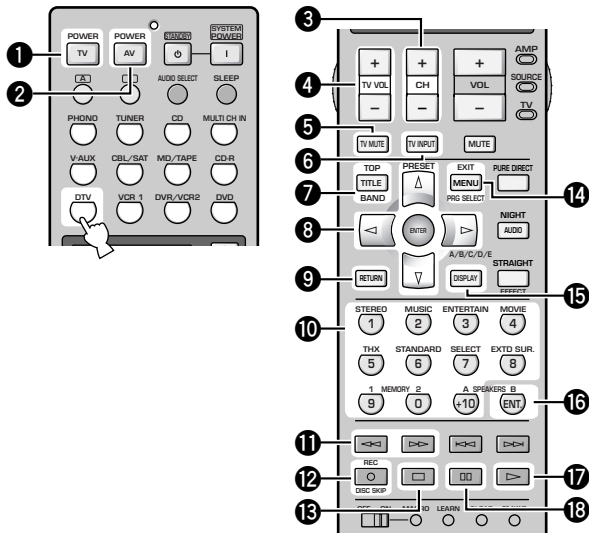
❶ (テレビ)電源を入/切する
❷ 電源を入/切する
❸ (テレビ)チャンネルを切り替える
❹ (テレビ)音量を調節する
❺ (テレビ)消音する
❻ (テレビ)入力を切り替える
❼ 数字を入力する
❽ 早送り/早戻しをする
❾ 停止する
❿ オーディオメニューを表示する
⓫ ディスプレイ表示を切り替える
⓬ 次/前のチャプターの頭出しをする
⓭ 再生を開始する
⓮ 再生を一時停止する

ビデオデッキを操作する

リモコンコードを設定してから、入力選択キーのV-AUXキーまたはVCR1キーを押すと、ビデオデッキを操作できます。

操作例

❶ (テレビ)電源を入/切する
❷ 電源を入/切する
❸ チャンネルを切り替える
❹ (テレビ)音量を調節する
❺ (テレビ)消音する
❻ (テレビ)入力を切り替える
❼ タイトルメニュー(トップメニュー)を表示する
❽ 前の画面に戻る
❾ チャンネルを直接指定する
❿ 早送り/巻戻しをする
⓫ 録画を開始する(2回押すと録画を開始します)
⓬ 停止する
⓭ チャンネルを決定する
⓮ 再生を開始する
⓯ 再生/録画を一時停止する

ヒント

- VCR1キーにビデオデッキのリモコンコードを設定している場合、テレビの操作モードで、VCR1に切り替えることなくビデオデッキを操作できます。
- テレビの操作モードでは、VCR 1キーに設定したリモコンコードが有効になります。

テレビを操作する

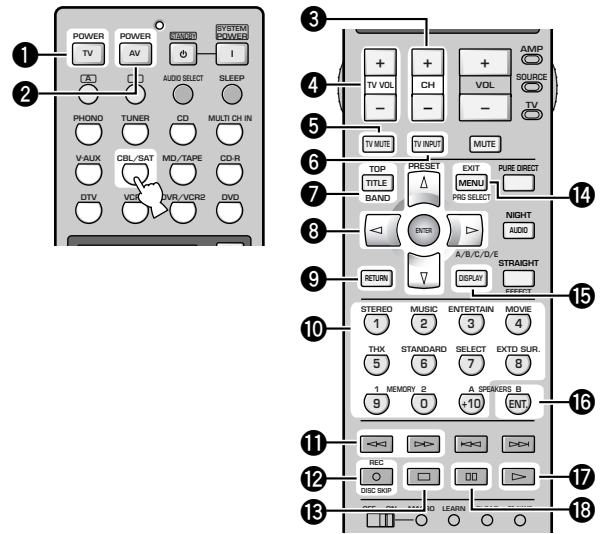
リモコンコードを設定してから、入力選択キーのDTVキーを押すと、テレビを操作できます。

操作例

❶ 電源を入/切する
❷ (ビデオ)電源を入/切する
❸ チャンネルを切り替える
❹ 音量を調節する
❺ 消音する
❻ 入力を切り替える
❼ タイトル(トップメニュー)を表示する
❽ メニュー項目を選択する/決定する
❾ 前の画面に戻る
❿ チャンネルを直接指定する
⓫ (ビデオ)早送り/巻戻しをする
⓬ (ビデオ)録画を開始する(2回押すと録画を開始します)
⓭ (ビデオ)再生/録画を停止する
⓮ メニューを表示する
⓯ ディスプレイ表示を切り替える
⓰ チャンネルを決定する/チャンネルを切り替える(12)
⓱ (ビデオ)再生を開始する
⓲ (ビデオ)再生/録画を一時停止する

ヒント

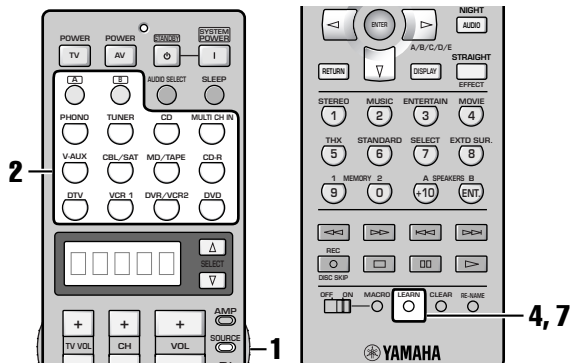
- DTVキーにテレビ以外の機器のリモコンコードを設定して操作する場合、PHONOキーにテレビのリモコンコードを設定することにより、他の機器の操作モードでもテレビを操作できます。
- DTVキーとPHONOキーの両方にリモコンコードを設定している場合、他の機器の操作モードではDTVキーに設定したリモコンコードが有効になります。

衛星放送チューナーを操作する

ライブラリー/リモコンコードを設定してから、入力選択キーのCBL/SATキーを押すと、衛星放送のチューナーを操作できます。

操作例

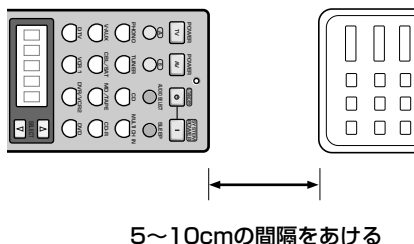
❶ (テレビ)電源を入/切する
❷ 電源を入/切する
❸ チャンネルを切り替える
❹ (テレビ)音量を調節する
❺ (テレビ)消音する
❻ (テレビ)入力を切り替える
❼ タイトル(トップメニュー)を表示する
❽ メニュー項目を選択する/決定する
❾ 前の画面に戻る
❿ チャンネルを直接指定する
⓫ (ビデオ)早送り/巻戻しをする
⓬ (ビデオ)録画を開始する(2回押すと録画を開始します)
⓭ (ビデオ)再生/録画を停止する
⓮ メニューを表示する
⓯ ディスプレイ表示を切り替える
⓰ チャンネルを決定する
⓱ (ビデオ)再生を開始する
⓲ (ビデオ)再生/録画を一時停止する

他の機器のリモコン機能を記憶させる

リモコンコードを設定しても、お使いの機器を操作できない場合や、お使いの機器のリモコンコードがない場合は、その機器のリモコン信号を本機のリモコンに記憶(ラーニング)させることで、操作ができるようにします。入力選択した機器ごとに別の機能をラーニングさせることができます。

1 AMP/SOURCE/TVスイッチをスライドさせて、SOURCEを選ぶ

2 操作したい機器の入力選択キーまたは A / B キーを押す

リモコンディスプレイに選んだ入力ソースの名前が表示されます。

3 本機のリモコンと、外部機器のリモコンを約5～10cm離し、赤外線送受信部が互いに対向するように置く

5～10cmの間隔をあける

4 LEARNボタンを押す

ボールペンなど先の細いもので押します。リモコンディスプレイに「LEARN」と、選んだ入力ソースの名前が交互に表示されます。

ご注意

- LEARNボタンを3秒以上押すと、リモコンコード設定モードに切り替わります(72ページ)。
- 手順4以降の操作は、それぞれ操作後30秒以内に行ってください。そのままにしておくとラーニングが自動的に中止されます。この場合は、手順4から操作しなおしてください。

5 新しい機能をラーニングさせたい、本機のリモコンのキーを押す

リモコンディスプレイに「LEARN」と表示されます。

6 リモコンディスプレイに「OK」と表示されるまで、外部機器のリモコンのラーニングさせたい機能のキーを押し続ける

ご注意

- 「NG」と表示されたときは、ラーニングが正しく行われていません。手順5から操作をやりなおしてください。
- メモリー容量がいっぱいになっている場合は、リモコンディスプレイに「FULL」が表示され、それ以上のラーニングはできません。新しいラーニングをするときは、ラーニング済みのキーから不要なものを消去してください。

ヒント

- 別の機能をラーニングするには、続けて手順5～6を繰り返します。
- 別の機器に機能をラーニングさせる場合は、SELECT∆/∇キーを押して機器を変更し、手順5～6を繰り返します。

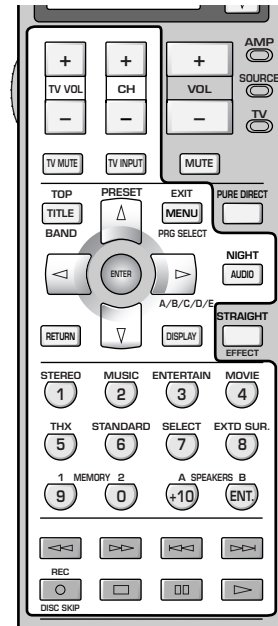
7 LEARNボタンを押して、ラーニングを終了する

リモコンが通常の状態に戻ります。

ご注意

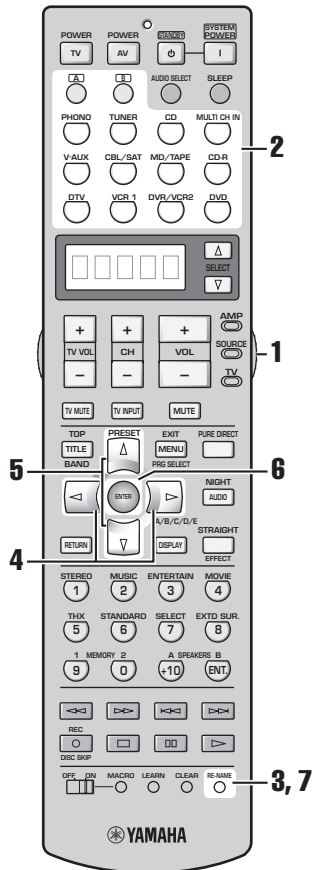
- 以下の場合は、ラーニングできないことがあります。
  - 本機のリモコンまたは外部機器のリモコンの乾電池が消耗している場合
  - 2台のリモコンの間隔が近すぎる、または離れすぎている場合
  - リモコンの受光部の角度が適切でない場合
  - リモコンに直射日光が当たっている場合
  - 特殊な信号や連続した信号の場合
- 手順で指定されたキー以外を操作したり、2つ以上のキーを同時に押したりすると、リモコンディスプレイに「ERROR」と表示されます。このような場合は手順に沿ってはじめから操作しなおしてください。

ラーニングに対応しているキー

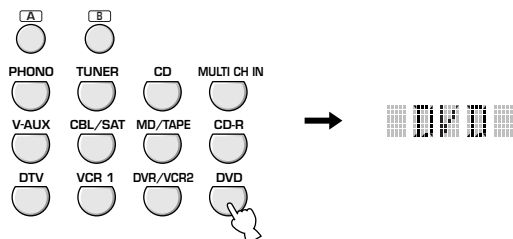
下図の白色で示した部分のキーに、ラーニングすることができます。

ご注意

入力選択キー、VOL＋/－キー、MUTEキー、PURE DIRECTキー、STRAIGHT/EFFECTキーにラーニングすることも可能ですが、本機の操作ができなくなります。

リモコンに表示される機器の名前を変更する

入力選択キーを押してリモコンのディスプレイに表示される機器名は、入力機器を接続した端子名に対応しています。端子名と異なった機器を本機に接続したときや、お使いのシステムに合ったわかりやすい名前をつけたいときなどに、リモコンに表示される機器名を変更することができます。

1 AMP/SOURCE/TVスイッチをスライドさせて、AMPまたはSOURCEを選ぶ

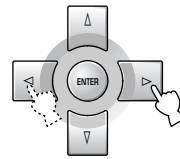
2 名前を変更したい機器の入力選択キーまたは A / B キーを押す

選択した入力ソースの名前がリモコンディスプレイに表示されます。

3 RE-NAMEボタンを押す

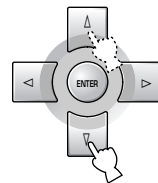
ボールペンなど先の細いもので押します。左端の文字スペースが点滅します。

ご注意

手順3以降の操作はそれぞれ操作後30秒以内に行ってください。そのままにしておくと設定が自動的に中止されます。このような場合は手順3から操作しなおしてください。

4 ◁/▷キーを押して、文字を入力したい位置にカーソルを移動する

5 △/▽キーを押して、入力する文字を選ぶ

入力できる文字は以下のとおりです。

- アルファベット大文字：A～Z
- 数字：1～9、0
- 記号：+、-、：、/
- スペース(空白)

必要に応じて手順4と5を繰り返します。文字は最大5文字まで入力できます。

6 入力が完了したら、ENTERキーを押す

名前が正しく変更されると、リモコンディスプレイに「OK」と表示されます。

ご注意

名前が正しく変更されなかった場合は、リモコンディスプレイに「NG」と表示されます。このような場合は手順3から設定をやりなおしてください。

7 RE-NAMEボタンを押して、名前の変更を終了する

リモコンが通常の状態に戻ります。

ご注意

手順で指定されたキー以外を操作したり、2つ以上のキーを同時に押したりすると、リモコンディスプレイに「ERROR」と表示されます。このような場合は手順に沿ってはじめから操作しなおしてください。

マクロ機能を使う

マクロ機能とは、ソースを再生するときに行う一連のキー操作を1つのキーでできるようにする機能です。
例えばCDを再生する場合、通常、(1)システムの電源を入れる→(2)入力ソースをCDに切り替える→(3)再生を開始する…などの操作が必要です。マクロ機能を使うと、マクロキーのCDキーを押すだけでこのような一連の操作を済ますことができます。
下のリストに表示されたマクロキーにはマクロ機能があらかじめ登録されていますが、オリジナルのマクロ操作を設定することもできます。

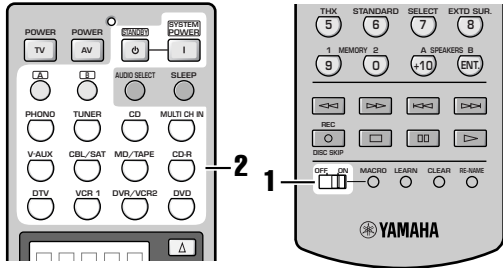
<table>
<tr><th>マクロキー</th><th>1番目</th><th>2番目</th><th>3番目</th></tr>
<tr><td>STANDBY</td><td>本機がスタンバイ状態になる</td><td>—</td><td>—</td></tr>
<tr><td>SYSTEM POWER</td><td>本機の電源が入る(接続した機器の電源が入る)*1</td><td>テレビの電源が入る*2</td><td>—</td></tr>
<tr><td>A</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr>
<tr><td>B</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr>
<tr><td>PHONO</td><td rowspan="12">本機の電源が入る(接続した機器の電源が入る)*1</td><td>入力ソースの切り替え(PHONO)</td><td>—</td></tr>
<tr><td>TUNER</td><td>入力ソースの切り替え(TUNER)*3</td><td>—</td></tr>
<tr><td>CD</td><td>入力ソースの切り替え(CD)</td><td>CDの再生が始まる*4</td></tr>
<tr><td>MULTI CH IN</td><td>入力ソースの切り替え(MULTI CH IN)</td><td>—</td></tr>
<tr><td>V-AUX</td><td>入力ソースの切り替え(V-AUX)</td><td>—</td></tr>
<tr><td>CBL/SAT</td><td>入力ソースの切り替え(CBL/SAT)</td><td>—</td></tr>
<tr><td>MD/TAPE</td><td>入力ソースの切り替え(MD/TAPE)</td><td>MD/TAPEの再生が始まる*4</td></tr>
<tr><td>CD-R</td><td>入力ソースの切り替え(CD-R)</td><td>CD-Rの再生が始まる*4</td></tr>
<tr><td>DTV</td><td>入力ソースの切り替え(DTV)</td><td>—</td></tr>
<tr><td>VCR1</td><td>入力ソースの切り替え(VCR1)</td><td>VCR1の再生が始まる*4</td></tr>
<tr><td>DVR/VCR2</td><td>入力ソースの切り替え(DVR/VCR2)</td><td>DVR/VCR2の再生が始まる*4</td></tr>
<tr><td>DVD</td><td>入力ソースの切り替え(DVD)</td><td>DVDの再生が始まる*4</td></tr>
</table>

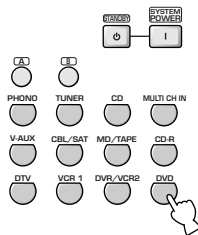
*1 本機に接続した機器の電源を本機に連動させて入れるには、接続機器の電源プラグを本機のACアウトレットに接続します(機器によっては電源の入/切が本機に連動しないものもあります。接続する機器の取扱説明書を参照してください)。

*2 DTVキーまたはPHONOキーにテレビのリモコンコードを設定した場合、入力ソースの切り替えなしでテレビの電源を入れることができます。DTVキーとPHONOキーの両方にテレビのリモコンコードを設定した場合は、DTVキーに設定したリモコンコードが優先されます。

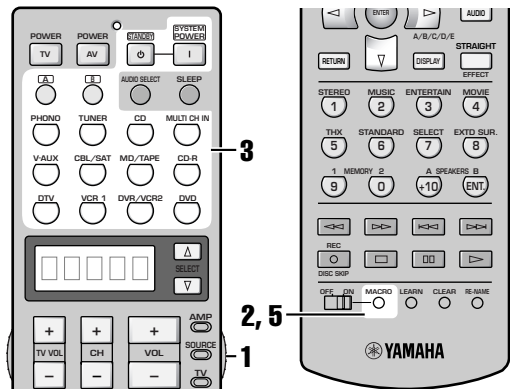
*3 入力ソースがTUNERに切り替わると、本機のチューナーはスタンバイ状態になる前に受信していた局を受信します。

*4 初期設定では、ヤマハ製のMDレコーダー、CDプレーヤー、CDレコーダー、DVDプレーヤー、DVDレコーダーにのみ対応しています。これら以外の機器をマクロ操作する場合は、登録したい機器のライブラリーのPLAYキーにラーニング機能を割り当てる(81ページ)か、リモコンコードを設定する(72ページ)必要があります。

マクロ機能を使う

1 MACRO ON/OFFスイッチを「ON」に合わせる

2 希望のマクロキーを押す

ご注意
- マクロ操作が終わったら、MACRO ON/OFFスイッチを「OFF」に合わせてください。
- マクロ操作中は、すべてのマクロ信号の出力が終わるまで（トランスミッションインジケーターが消灯するまで）、他のキーの操作を受け付けません。
- マクロ操作中は、すべてのマクロ信号の出力が終わるまで、本リモコンの赤外線送受信部を、本体および操作する機器のリモコン受光窓の方向に向け続けてください。

マクロを設定する

オリジナルのマクロを設定します。

ご注意
- 新しいマクロを設定しても、工場出荷時に登録されているマクロは消去されません。新しく設定したマクロの内容を消去すると、工場出荷時に登録されているマクロを使うことができます。
- 工場出荷時に登録されているマクロに新しい信号を追加することはできません。マクロを設定すると、すべて新しい内容に変わります。
- マクロ設定は、本リモコンにラーニングや登録済み（またはヤマハプリセット）のキー信号をマクロキーに設定（転送）させて行います。必要に応じて、あらかじめ他の機器のキーをラーニングしておいてください。
- 音量の操作など、連続的に出力される信号は、本リモコンでは短時間のコードとして記憶されます。したがって、そのようなキーをマクロ設定に入れることはおすすめしません。

1 AMP/SOURCE/TVスイッチをスライドさせて、AMPまたはSOURCEを選ぶ

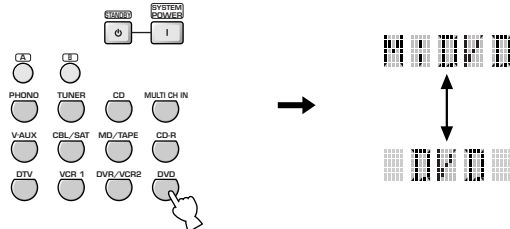
2 MACROボタンを押す

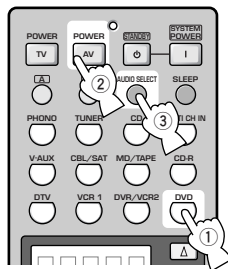
ボールペンなど先の細いもので押します。リモコンディスプレイに「MCR ?」と表示されます。

ご注意
手順2以降操作は、それぞれ操作後30秒以内に行ってください。そのままにしておくとマクロ設定が自動的に中止されます。この場合は、手順2から操作しなおしてください。

3 設定したいマクロキーを押す

リモコンディスプレイにマクロ設定するキーと、今選んだ入力ソースの名前が交互に表示されます。

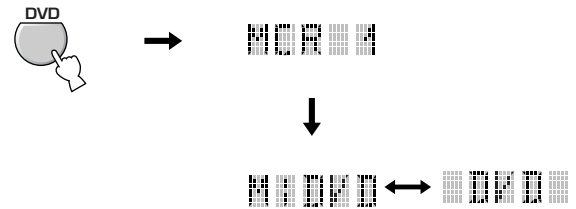
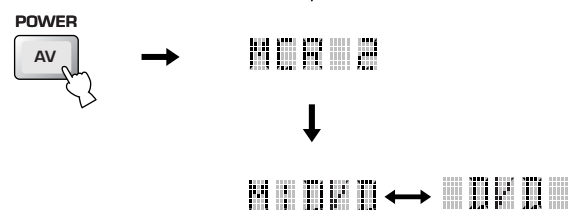
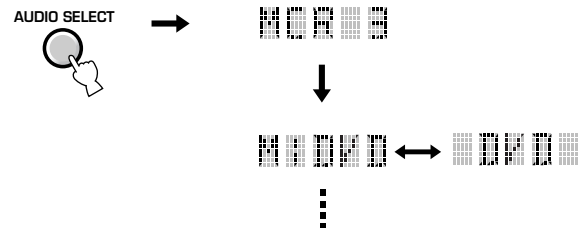
例： DVDキーのマクロを設定する
「M：DVD」と「DVD」が交互に表示されます。

ご注意
マクロキー以外のキーを押すと、「AGAIN」と表示されます。

4 マクロの内容を設定する

① 入力をDVDに切り替える
② DVDプレーヤーの電源を入れる
③ 入力端子を設定する

上記①～③の操作を、DVDキーを押すだけでできるようにマクロ設定します。

ご注意
お使いの機器によっては、マクロ設定通りに作動しない場合があります。

リモコンディスプレイの表示が以下のように変わっていきます。

① DVDキーを押す

② POWERキーを押す

③ AUDIO SELECTキーを押す

最大10種類のキー信号を設定することができます。10個目のキー信号を設定すると「FULL」と表示され、マクロ設定が自動的に中止されます。

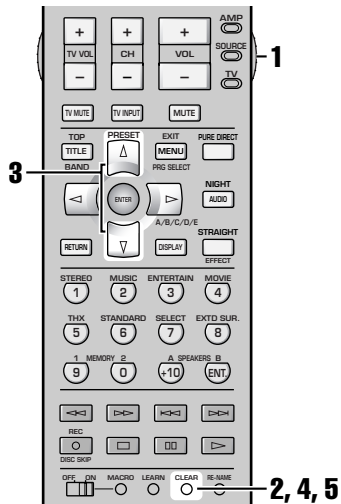
ご注意
機器を変更したいときは、入力選択キーやSELECT∆/∇キーで機器を選択しなおします。入力選択キーで機器を選択すると、本機の入力切り替えが一連のマクロ設定に組み込まれ、機器操作キーも入力機器に応じて切り替わります。SELECT∆/∇キーで機器を選択すると、入力ソースは変わらずに、機器操作キーは選択した機器に合わせて切り替わります。

5 MACROボタンを押して、マクロ設定を終了する

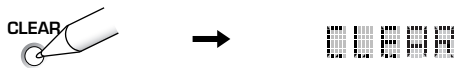
リモコンが通常の状態に戻ります。

ご注意
手順で指定されたキー/スイッチ以外を操作したり2つ以上のキーを同時に押したりすると、リモコンディスプレイに「ERROR」と表示されます。このような場合は手順に沿ってはじめから操作しなおしてください。

リモコンを初期化する

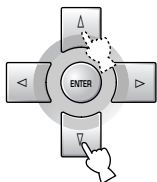
登録したライブラリーやマクロ操作、リモコンコードやラーニングした操作を取り消して、工場出荷時の設定に戻すことができます。

1 AMP/SOURCE/TVスイッチをスライドさせて、AMPまたはSOURCEを選ぶ

2 CLEARボタンを押す

ボールペンなど先の細いもので押します。リモコンディスプレイに「CLEAR」と表示されます。

CLEAR

ご注意

手順2以降の操作は、それぞれ操作後30秒以内に行ってください。そのままにしておくと消去が自動的に中止されます。この場合は、手順2から操作しなおしてください。

3 Δ/∇キーを押して、消去モードを選ぶ

消去モードは以下の6種類です。

L：(機器名)：	表示されている入力機器の操作キーにラーニングされた機能をすべて消去します。入力選択キー、またはSELECTΔ/∇キーで消去する入力機器を選択してください。
L：AMP：	本機の操作キーにラーニングされた機能をすべて消去します。
L：ALL：	入力機器に関わらず、ラーニングされた機能をすべて消去します。
M：ALL：	マクロの設定をすべて工場出荷時の設定に戻します。
RNAME：	変更した入力ソースの名前をすべて工場出荷時の設定に戻します。
FCTRY：	リモコンコードを含む、すべてのリモコンの設定を工場出荷時の設定に戻します。

4 CLEARボタンを3秒以上押し続ける

リモコンディスプレイに「WAIT」と表示されます。手順3で選択した機能や設定が正しく消去されると「C：OK」と表示されます。

WAIT

ご注意

- 正しく消去されなかった場合は、リモコンディスプレイに「C：NG」と表示されます。このような場合は手順3から消去をやりなおしてください。
- 「L：ALL」と「FCTRY」は、完了までに約30秒間かかります。

5 CLEARボタンを押して、消去を終了する

リモコンが通常の状態に戻ります。

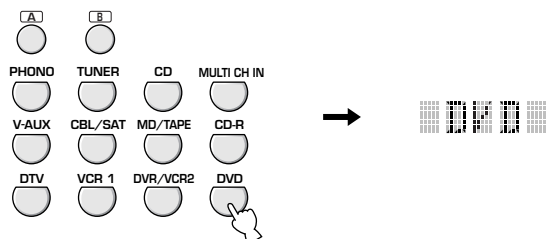
ご注意

手順で指定されたキー以外を操作したり、2つ以上のキーを同時に押したりすると、リモコンディスプレイに「ERROR」と表示されます。このような場合は手順に沿ってはじめから操作しなおしてください。

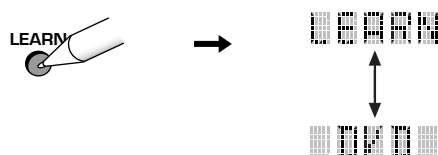
ラーニングされた機能を消去する

ラーニングされた機能のうち、特定のキーに割り当てた機能だけを消去することができます。

1 AMP/SOURCE/TVスイッチをスライドさせて、SOURCEを選ぶ

2 取り消したい機器の入力選択キーを押す

3 LEARNボタンを押す

ボールペンなど先の細いもので押します。リモコンディスプレイに「LEARN」と選択した入力ソース名が交互に表示されます。

ご注意

- LEARNボタンを3秒以上押すと、リモコンコード設定モードに切り替わります。
- 手順3以降の操作は、それぞれ操作後30秒以内に行ってください。そのままにしておくと消去が自動的に中止されます。この場合は、手順3から操作しなおしてください。

4 CLEARボタンを押しながら、機能を消去したいキーを3秒以上押す

消去が正しく行われると、リモコンディスプレイに「C：OK」と表示されます。

引き続き消去したいキーがある場合は、「C：OK」の表示が消えてから、手順4の操作を繰り返してください。

ご注意

- 「C：NG」と表示されたときは、消去が正しく行われていません。もう一度CLEARボタンを押しながら、消去したいキーを押してください。
- 一度ラーニングされた機能を消去してしまうと、消去されたキーの機能は工場出荷時の状態(リモコンコードを設定している場合は設定した機器の機能)に戻ります。

ヒント

別の機器にラーニングした機能を消去する場合は、SELECT∆/∇キーを押して機器を変更し、手順4を繰り返します。

5 CLEARボタンを押して、クリアモードを終了する

リモコンがラーニングモードに戻ります。

6 LEARNボタンを押して、消去を終了する

リモコンが通常の状態に戻ります。

ご注意

手順で指定されたキー以外を操作したり、2つ以上のキーを同時に押したりすると、リモコンディスプレイに「ERROR」と表示されます。このような場合は、手順に沿ってはじめから操作しなおしてください。

マクロに設定された機能を消去する

マクロに設定された機能のうち、特定のキーに割り当てた機能だけを消去することができます。

1 AMP/SOURCE/TVスイッチをスライドさせて、AMPまたはSOURCEを選ぶ

2 MACROボタンを押す

ボールペンなど先の細いもので押します。リモコンディスプレイに「MCR ?」と表示されます。

ご注意

手順2以降の操作は、それぞれ操作後30秒以内に行ってください。そのままにしておくと消去が自動的に中止されます。この場合は、手順2から操作しなおしてください。

3 CLEARボタンを押しながら、機能を消去したいキーを3秒以上押す

消去が正しく行われると、リモコンディスプレイに「C：OK」と表示されます。

引き続き消去したいキーがある場合は、「C：OK」の表示が消えてから、手順3の操作を繰り返してください。

ご注意

- 「C：NG」と表示されたときは、消去が正しく行われていません。もう一度CLEARボタンを押しながら、消去したいキーを押してください。
- 一度マクロに設定された機能を消去してしまうと、消去されたキーの機能は工場出荷時の状態(リモコンコードを設定している場合は設定した機器の機能)に戻ります。

4 CLEARボタンを押す

リモコンがマクロ設定モードに戻ります。

5 MACROボタンを押して、消去を終了する

リモコンが通常の状態に戻ります。

ご注意

手順で指定されたキー以外を操作したり、2つ以上のキーを同時に押したりすると、リモコンディスプレイに「ERROR」と表示されます。このような場合は、手順に沿ってはじめから操作しなおしてください。

音場プログラムについて

本機には、音楽に最適なHiFi DSP音場プログラム、映画に最適なCINEMA DSP音場プログラム、元の音を忠実にデコードして再現するストレートデコードプログラムが搭載されています。

ご注意

- 本機の音場プログラムは、世界各地の実在のホールなどの音響特性を測定した結果に基づいて設計されています。そのため、前後左右で響きの強さや音量差が異なると感じられる場合がありますが故障ではありません。
- 音場プログラムの名前や説明にこだわらず、最も心地よく聞こえる音場プログラムをお選びください。

HiFi DSP音場プログラム

プログラムと特長

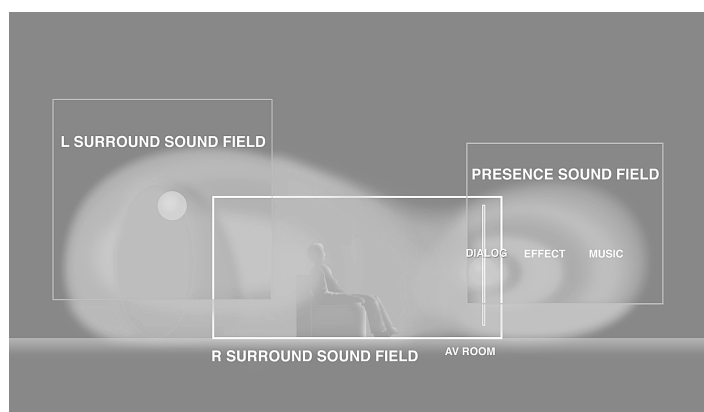
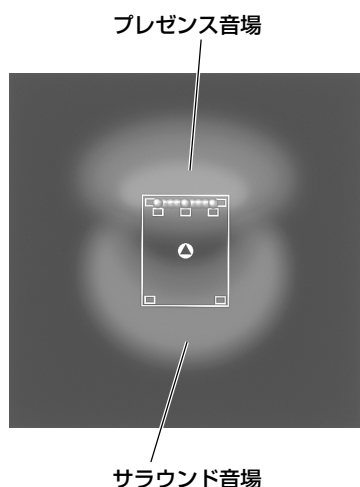
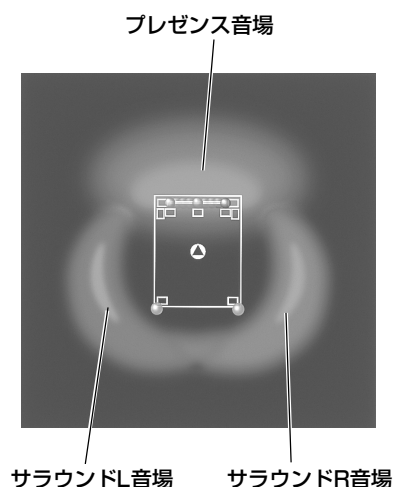
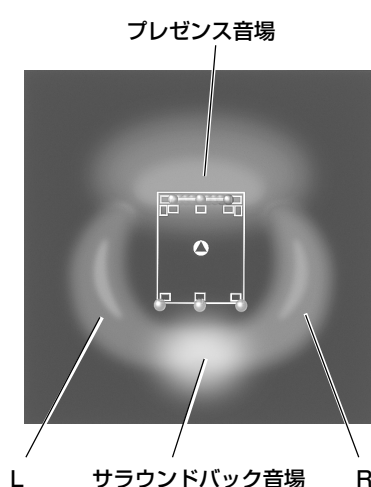
- CDなどのステレオ音楽ソースに最適なプログラムです。
- フロントL/Rスピーカーの他に4本のエフェクトスピーカー(プレゼンスL/プレゼンスR/サラウンドL/サラウンドR)で音場を再現します。
- 入力信号に応じて各種デコーダーが使用されます。

キー	プログラム	サブプログラム	特徴
STEREO 1	ステレオ STEREO (ステレオ)	チャンネル ステレオ 7ch Stereo (7chステレオ)	後方からも直接音が聴け、広いエリアで楽しめる効果が特徴のホームパーティーを演出する音場プログラムです。セットメニューの設定により、最大7つのスピーカーから音が出力されます。
MUSIC 2	ミュージック MUSIC (ミュージック)	ホール イン ミュンヘン Hall in Munich (ミュンヘン)	ヨーロッパに多くみられる内装材にシックな木の内張りが使われた、ミュンヘンにある2500席程度のコンサートホールです。繊細な美しい響きが豊かに拡がり、落ち着いた雰囲気を持っています。座席の位置は、1階の中央左寄りです。
		ホール イン ビエナ Hall in Vienna (ウィーン)	1700席程度のウィーンの伝統的なシューボックス型の中規模コンサートホールです。周囲の柱や彫刻により、全方向からの複雑な反射音を生み出しています。豊かな響きが特長です。
		フライブルグ Freiburg (フライブルグ)	ドイツ南部の120m近い尖塔を持つ大きな教会です。石を積み上げて造られており、天井が高く、細長い空間を持っています。残響時間は非常に長くなりますが、逆に初期反射は少なくなります。そのため、直接音の厚みは余りありませんが、響きが多く、教会特有の音場を再現します。
		ザ ボトム ライン The Bttm Line (ボトムライン)	ニューヨークで話題のライブハウス「ザ・ボトム・ライン」のステージ正面の音場です。フロアは300席ある左右に幅広い客席で占められ、リアルでライブな音場です。
		ザ ロキシー シアター The Roxy Thtr (ロキシーシアター)	ロサンゼルスにあるロック系ライブハウスで、客席は最高時で約460程です。客席中央左寄りの音場です。
ENTERTAIN 3	エンターテイメント ENTERTAINMENT (エンターテイメント)	ディスコ Disco (ディスコ)	ディスコミュージックに包まれる、乗りの良い音場空間を演出するプログラムです。

(　　)内はGUI操作で音場プログラムを選択するときの表示です(23ページ)。

CINEMA DSP音場プログラム

CINEMA DSP音場プログラムのサウンドデザイン

映画製作者の意図するサウンドは、セリフは明瞭にスクリーン上に定位し、効果音はその奥に、音楽はさらにその奥に拡がり、そしてサラウンドは視聴者を取り囲んでスクリーンの映像と一体になるようにデザインされています。
ヤマハDSPをAV再生用に進化させたプログラムが「CINEMA DSP音場プログラム」です。映画サラウンドデコーダーであるドルビープロロジック、ドルビーデジタルやDTS、またBS/地上波デジタル放送の音声フォーマットであるAACなどの各デコーダーとヤマハDSPを融合し、映画のサウンドを最良の状態でデザインするダビングステージ(最終的な映画のサウンドデザインを完成させるファイナルミックス)でのクオリティをAVルームに再現するサラウンド音場です。
CINEMA DSP音場プログラムでは、フロントL/センター/フロントRチャンネルにもヤマハDSP処理を加えることで、視聴者はセリフの実在感や効果音、音楽の奥行き感とともに、スムーズな音源の移動感とスクリーンまで回り込むサラウンド音場に包まれます。

2音場
CDやビデオテープなどの、ステレオソースをマトリクス処理し、前方のプレゼンス音場、後方のサラウンド音場を付加します。

3音場
ドルビーデジタル、DTSなどの5.1チャンネルソースに対して、前方のプレゼンス音場と、後方の左右それぞれに独立したサラウンド音場を付加します。

4音場
ドルビーデジタルEX、DTS-ESなど最新の6.1チャンネルソースに対応して、3音場にサラウンドバック音場を加えた、4つの音場を付加します。

プログラムと特長

- 入力信号に応じて、各デコーダーおよび方向性強調回路が使用されます。
- センタースピーカーを使用した場合は、良好なセンター定位が得られます。
- フロントL/Rスピーカーも方向性強調に信号処理された出力になります。
- プレゼンス音場処理によって画面奥行きへの音場表現が得られます。さらに、サラウンド音場処理によってスケールの大きなサラウンド感が得られます。
- 入力モードが「AUTO」に設定されている場合、MOVIE THEATERプログラムとSUR.ENHANCEDプログラムでは、ドルビーデジタル、DTSまたはAAC信号が入力されると、音場プログラムは自動的にドルビーデジタル再生用音場、DTS再生用音場またはAAC再生用音場に切り替わります。

キー	プログラム	サブプログラム	特徴
MUSIC 2	MUSIC（ミュージック）	Pop/Rock（ポップ／ロック）	ロック、ジャズ等のライブコンサート会場のイメージです。サラウンド音場に広いホールのデータを使用しているため、間接音成分が豊かに回り込み、スクリーン周囲への映像空間、音場空間がいっぱいに拡がり、熱狂的な雰囲気にひたれます。
		Classical/Opera（クラシカル／オペラ）	響きの曇りを適度に抑えてあり、声の奥行き感、明瞭度に優れています。オペラではステージでの定位や臨場感とともに、オーケストラボックスの響きが眼前にくり広げられます。サラウンド音場は控えめながら、コンサートホールのデータを使用することで音楽の美しさを演出。長時間のオペラものでも疲れません。
ENTERTAIN 3	ENTERTAIN（エンターテイメント）	TV Sports（TVスポーツ）	プレゼンス音場は狭めてあるが、サラウンド音場にはコンサートホールのデータを使用しており、様々なバラエティや中継番組に、適用範囲の広い音場効果を再現。スポーツ中継のステレオ放送では、解説者は中央に定位し、歓声や場内の雰囲気は周囲へと拡がります。後方回り込みは適度に抑えてあるので、長時間使用しても違和感がありません。
		Mono Movie（モノムービー）	古いモノラル名作映画専用のポジションです。オペラハウス系のプレゼンス音場と適度な残響処理により、往年の名作映画のモノラル音声が臨場感を持って再生されます。
		Game（ゲーム）	モノラル、ステレオを問わず、ゲームサウンドにビビッドな奥行きとサラウンド感を与え、迫力と臨場感のあるゲームが楽しめます。
MOVIE 4	MOVIE THEATER（ムービーシアター）	Spectacle（スペクタクル）	70mm映画の大画面シアターそのものの超ワイドな空間に映画の空気がそのまま存在するようなスペクタクルな音場です。微妙な音の響きまでも再現する表現力をもち、映像と空間に今までにないリアリティを生み出します。70mm映画初期の作品から最新のドルビーデジタルソフトおよびDTSソフトまで、幅広くスペクタクルな世界が楽しめます。
		Sci-Fi（サイファイ）	最新のSFX映画のサウンドデザインをセリフと音楽効果音にクールに描き分け、静けさの中に広大なシネマ空間を演出します。高度なテクニックを駆使したドルビーステレオ、ドルビーデジタル、DTSソフトまで、サイエンス・フィクションの世界を仮想空間音場で楽しめます。
		Adventure（アドベンチャー）	最新の映画サウンドデザインを最高に再現するプログラムです。70mm/ドルビーデジタル、DTSおよびAACマルチトラックにデザインされた演出を忠実に再現するとともに音場プログラム自体の響きをできるだけ抑え、響きをデッドにした最新の映画館とコンセプトを同じにしています。プレゼンス音場に、オペラハウス音場データを使用。会話の定位、立体感に優れています。サラウンド音場にはコンサートホールのデータを使用、力強い響きとともにアクション、アドベンチャーなどのデザインされたサウンドを明確に再現し、痛快な臨場感をもたらします。
		General（ジェネラル）	70mm/ドルビーデジタル、DTSおよびAACマルチトラックのサウンドを再現するプログラムで、全体に柔らかい拡がり感のある響きが特長です。プレゼンス音場はやや狭い印象で、セリフの響きを抑え明瞭度を損なわずにスクリーン周囲とスクリーンの奥に立体的に再現されます。サラウンド音場は後方の広い空間に音楽やコーラス等のハーモニーが美しく響く印象です。

（　　）内はGUI操作で音場プログラムを選択する時の表示です（23ページ）。

キー	プログラム	サブプログラム	特徴
STANDARD 6	DOLBY DIGITAL/SUR.ENHANCED （エンハンスト）		ドルビーサラウンド、DTSサラウンドまたはAACサラウンドのオリジナル定位を乱すことなく、正確なデコード動作とDSP処理を行います。35mm映画館のマルチサウンドスピーカーを、より理想的なものへシミュレーションした音場です。サラウンド音場は、視聴者を左右後方から美しい響きで包み込みます。そのため、音の移動は後方から左右、スクリーンに自然につながり、映画制作側の意図する効果を再現します。
	DTS/SUR.ENHANCED （エンハンスト）		
	AAC/SUR.ENHANCED （エンハンスト）		
	PRO LOGIC SUR.ENHANCED （エンハンスト：プロロジック*）		*2チャンネル音声をマルチチャンネル化して、DSP音場効果を付加します。
	PLⅡx MOVIE SUR.ENHANCED （エンハンスト：PLⅡxムービー*）		
	Neo:6 Cinema SUR.ENHANCED （エンハンスト：ネオ6シネマ*）		

(　　)内はGUI操作で音場プログラムを選択する時の表示です（23ページ）。

＊SELECTキーでデコーダーを切り替えるか、GUIメニュー「サラウンド選択・設定」→「サラウンド」→「エンハンスト」→「デコーダー選択」でデコーダーを切り替えてください。

ストレートデコードプログラム

音場効果をかけずに元の音で再生したい場合は、下記のストレートデコードプログラムを選んでください。
本機には下記のデコーダーが搭載されています。

- ドルビーデジタル、DTS、AACデコーダー：マルチチャンネルソース用
- ドルビーデジタルEX、DTS-ES、ドルビープロロジックⅡxデコーダー：サラウンドバックチャンネル音声再生用
- DTS 96/24デコーダー：96kHz/24bitの高音質再生用
- ドルビープロロジック、ドルビープロロジックⅡx、DTS Neo：6、SRS CSⅡデコーダー：ドルビーサラウンドと2チャンネルソース用

キー	プログラム	サブプログラム	特徴
STANDARD 6	DOLBY DIGITAL SUR. STANDARD (スタンダード)		ドルビーデジタル、DTS、AACで処理されたソースの再生用プログラムです。セパレーションに優れ、安定したデコードが得られます。
	DTS SUR. STANDARD (スタンダード)		
	AAC SUR. STANDARD (スタンダード)		
	PRO LOGIC SUR. STANDARD (スタンダード：プロロジック*)		*2チャンネル音声をそれぞれの方式でマルチチャンネル化して再生します。
	PLⅡx Movie SUR. STANDARD (スタンダード：PLⅡxムービー*)		
	PLⅡx Music SUR. STANDARD (スタンダード：PLⅡxミュージック*)		
	PLⅡx Game SUR. STANDARD (スタンダード：PLⅡxゲーム*)		
	Neo：6 Cinema SUR. STANDARD (スタンダード：ネオ6シネマ*)		
	Neo：6 Music SUR. STANDARD (スタンダード：ネオ6ミュージック*)		
	CSⅡ Cinema SUR. STANDARD (スタンダード：CSⅡシネマ*)		
	CSⅡ Music SUR. STANDARD (スタンダード：CSⅡミュージック*)		

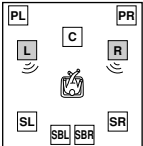
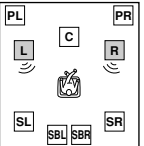
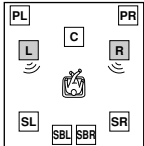
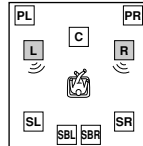
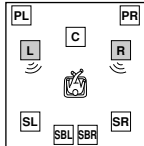
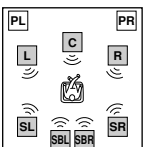
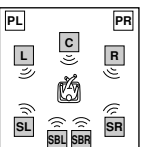
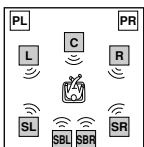
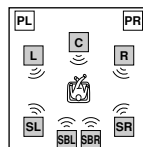
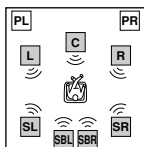
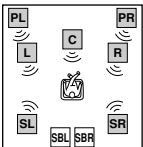
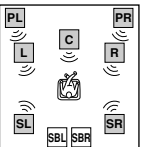
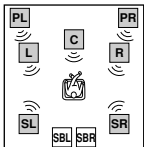
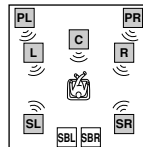
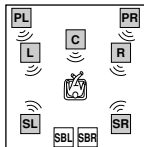
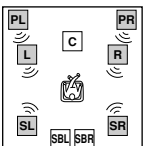
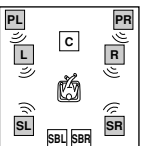
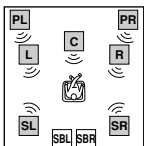
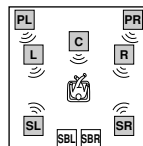
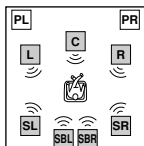
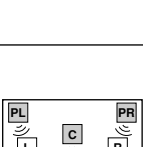
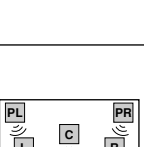
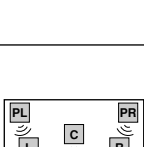
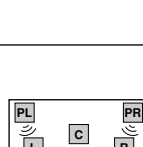
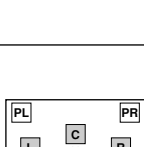
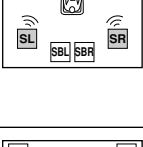
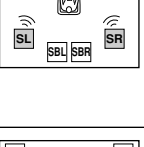
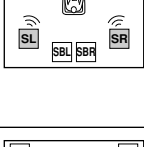
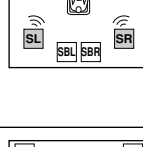
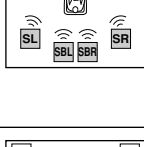
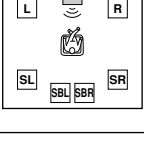
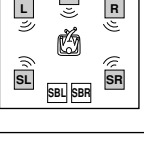
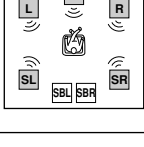
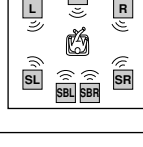
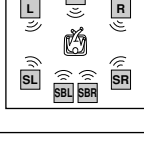
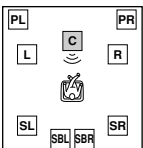
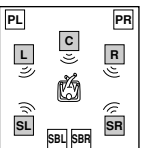
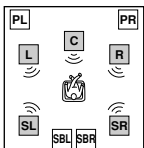
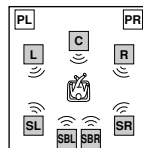
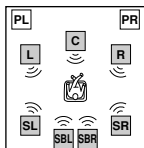
(　　)内はGUI操作で音場プログラムを選択する時の表示です(23ページ)。
＊SELECTキーでデコーダーを切り替えるか、GUIメニュー「サラウンド選択・設定」→「サラウンド」→「スタンダード」→「デコーダー選択」でデコーダーを切り替えてください。

入力信号別音場プログラム名一覧

SUR. STANDARDプログラム、SUR. ENHANCEDプログラム、またはTHXサラウンドモードで再生しているときは、本機に入力されている信号の種類とデコーダーの動作により、下記のように音場プログラム名が表示されます。

入力信号 ／ プログラム	アナログ、PCM、ドルビーデジタル(2ch)、DTS(2ch)、AAC(2ch)	ドルビーデジタル	DTS	AAC
SUR.STANDARD プログラム	PRO LOGIC/ SUR.STANDARD PLⅡx Movie/ SUR.STANDARD PLⅡx Music/ SUR.STANDARD PLⅡx Game/ SUR.STANDARD Neo:6 Cinema/ SUR.STANDARD Neo:6 Music/ SUR.STANDARD CSⅡ Cinema/ SUR.STANDARD CSⅡ Music/ SUR.STANDARD	DOLBY DIGITAL/ SUR.STANDARD *1 DD D + PLⅡx Movie/ SUR.STANDARD *2 DD D + PLⅡx Music/ SUR.STANDARD *3 DOLBY D EX/ SUR.STANDARD	DTS/SUR.STANDARD *1 DTS + PLⅡx Movie/ SUR.STANDARD *2 DTS + PLⅡx Music/ SUR.STANDARD *3 DTS + DOLBY EX/ SUR.STANDARD *4*5 DTS ES/ SUR.STANDARD *6 DTS 96/24/ SUR.STANDARD *4 *6 DTS 96/24 ES/ SUR.STANDARD	AAC/SUR.STANDARD *1 AAC + PLⅡx Movie/ SUR.STANDARD *2 AAC + PLⅡx Music/ SUR.STANDARD *3 AAC + DOLBY EX/ SUR.STANDARD
SUR ENHANCED プログラム	PRO LOGIC/ SUR.ENHANCED PLⅡx Movie/ SUR.ENHANCED Neo:6 Cinema/ SUR.ENHANCED	DOLBY DIGITAL/ SUR.ENHANCED *1 DD D + PLⅡx Movie/ SUR.ENHANCED *2 DD D + PLⅡx Music/ SUR.ENHANCED *3 DOLBY D EX/ SUR.ENHANCED	DTS/SUR.ENHANCED *1 DTS + PLⅡx Movie/ SUR.ENHANCED *2 DTS + PLⅡx Music/ SUR.ENHANCED *3 DTS + DOLBY EX/ SUR.ENHANCED *4 *5 DTS ES/ SUR.ENHANCED	AAC/SUR.ENHANCED *1 AAC + PLⅡx Movie/ SUR.ENHANCED *2 AAC + PLⅡx Music/ SUR.ENHANCED *3 AAC + DOLBY EX/ SUR.ENHANCED
THX Select2	THX Cinema	THX Cinema *3 THX Surr. EX	THX Cinema	THX Cinema *3 THX Surr. EX

*1 ドルビープロロジックⅡxデコーダー(Movieモード)動作時(DD PLⅡx 点灯時)
*2 ドルビープロロジックⅡxデコーダー(Musicモード)動作時(DD PLⅡx 点灯時)
*3 ドルビーデジタルEXデコーダー動作時(DD EX 点灯時)
*4 DTS-ESマトリクスデコーダー動作時(MATRIXインジケーター点灯時)
*5 DTS-ESディスクリートデコーダー動作時(DISCRETEインジケーター点灯時)
*6 DTS 96/24デコーダー動作時(96/24 点灯時)

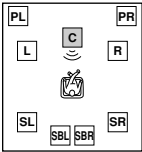
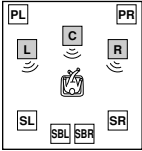
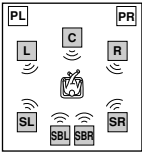
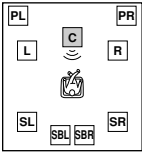
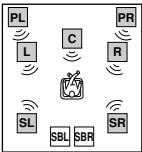
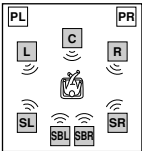
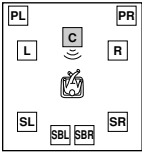
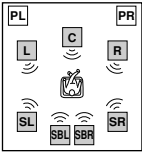
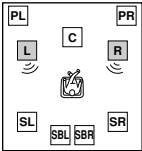
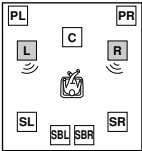
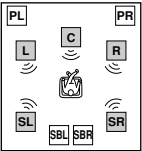
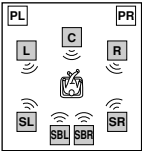
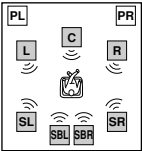
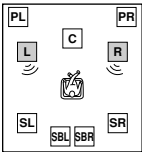
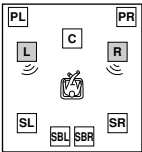
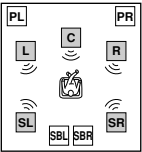
入力信号と再生スピーカー対応表

入力信号の種類によって、下図で示されたスピーカーから音声が出力されます。

ご注意
再生するソースによっては、スピーカーから音が出なかったり、小さい音しか出ない場合もあります。映画の効果音など、シーンに合わせて部分的にしか使用されないチャンネルもあります。

表中のイラストは以下の内容を表しています。

L	フロントLスピーカー
C	センタースピーカー
R	フロントRスピーカー
PL	プレゼンスLスピーカー
PR	プレゼンスRスピーカー
SL	サラウンドLスピーカー
SR	サラウンドRスピーカー
SBL	サラウンドバックLスピーカー
SBR	サラウンドバックRスピーカー
(網掛け)	音が出ているスピーカー
□	音が出ていないスピーカー

	2チャンネル音声（モノラル）	2チャンネル音声（ステレオ）	5.1/6.1チャンネル音声（EX/PLⅡx/ES インジケーター消灯時）	5.1/6.1 チャンネル音声（EX/PLⅡx/ES インジケーター点灯時） PR/SBch SELECT: PRchに設定	PR/SBch SELECT: SBchに設定
STEREO 2ch Stereo					
STEREO 7ch Stereo	サラウンドバックスピーカー接続時	サラウンドバックスピーカー接続時	サラウンドバックスピーカー接続時	サラウンドバックスピーカー接続時	サラウンドバックスピーカー接続時
	サラウンドバックスピーカー未接続時	サラウンドバックスピーカー未接続時	サラウンドバックスピーカー未接続時	サラウンドバックスピーカー未接続時	サラウンドバックスピーカー未接続時
MUSIC Hall in Munich Hall in Vienna Freiburg The Bttm Line The Roxy Thtr ENTERTAINMENT Disco					
MUSIC Pop/Rock Classical/Opera ENTERTAINMENT TV Sports Mono Movie Game MOVIE THEATER					
THX THX Cinema THX Surround EX					

	2チャンネル音声（モノラル）	2チャンネル音声（ステレオ）	5.1/6.1チャンネル音声 (EX/PLⅡx/ES インジケーター消灯時)	5.1/6.1 チャンネル音声 (EX/PLⅡx/ES インジケーター点灯時) PR/SBch SELECT: PRchに設定	PR/SBch SELECT: SBchに設定
THX THX Select2 Cinema Music Mode	—	—			
THX THX Games Mode					
SUR.STANDARD DOLBY DIGITAL PRO LOGIC DTS AAC	PRO LOGIC	PRO LOGIC			
SUR.ENHANCED DOLBY DIGITAL PRO LOGIC DTS AAC	PRO LOGIC	PRO LOGIC			
SUR.STANDARD PLⅡx Movie PLⅡx Music PLⅡx Game	Movie/Game Music	Movie/Music/Game	—	—	—
SUR.ENHANCED PLⅡx Movie		PR/SBch SELECT: PRchに設定 PR/SBch SELECT: SBchに設定			

音場プログラムパラメーターガイド

音場プログラムごとにDSP処理の構造が違います。以下のパラメーターはすべての音場プログラムで設定できるわけではありません。

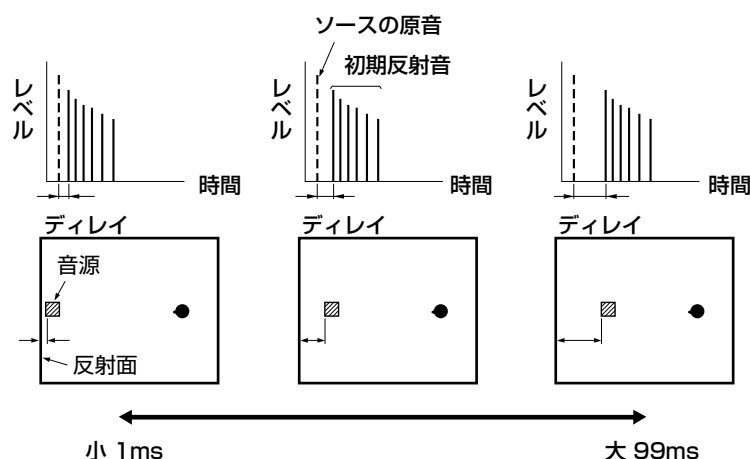
エフェクト量の加減

エフェクト音量(音場効果のかかり具合)を微調節するパラメーターです。

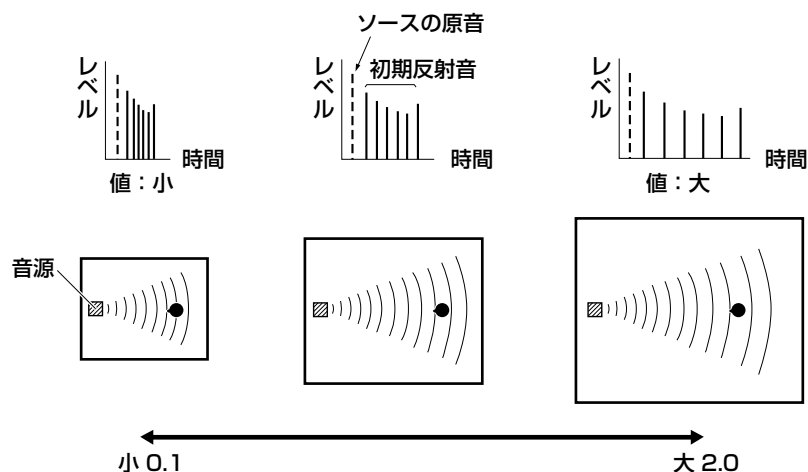
可変範囲:−6〜+3dB

ディレイ

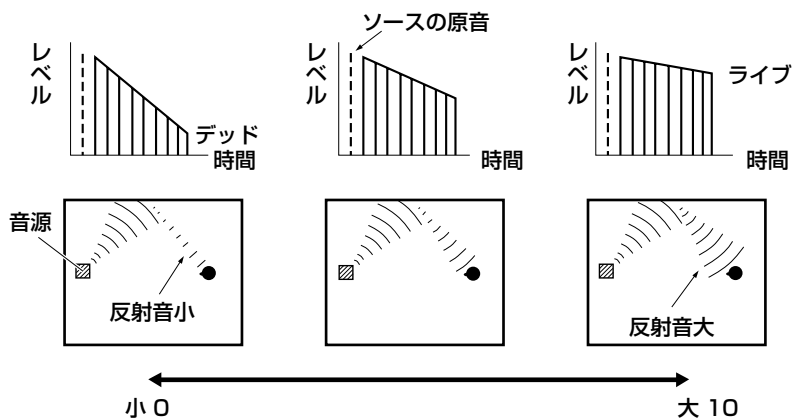
直接音から初期反射音が始まるまでの時間(遅延時間)を調節するパラメーターです。初期反射音の遅れは、音源と反射面との距離によって決まります。つまり、遅延時間を短くすると、音源が壁面に近づいた感じになり、逆に遅延時間を長くすると、音源は壁面から離れた感じになります。「ディレイ」を調節することにより、ソースの原音から周りの壁までの距離感、空間の大きさ感、音像のできかたなどが調節できます。

可変範囲:1〜99ms

音場空間の大きさ

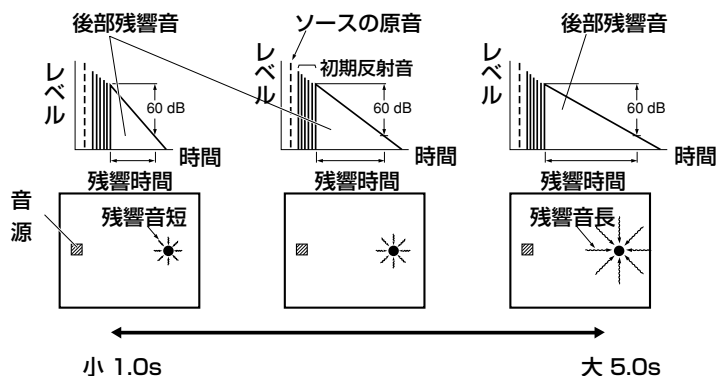
空間の広がり感を調節するパラメーターです。値を大きくするほど広い空間(部屋)になり、値を小さくするほど狭い空間になります。壁と壁の間が広くあいている大きなホールほど、音が反射を繰り返す間隔が長くなります。したがって、反射音同士の時間間隔をコントロールすれば、広がり感を変えることができます。1.0で実測値そのままに、2.0にすると、1辺の長さが倍の空間になります。

可変範囲:0.1〜2.0

響きの強さ

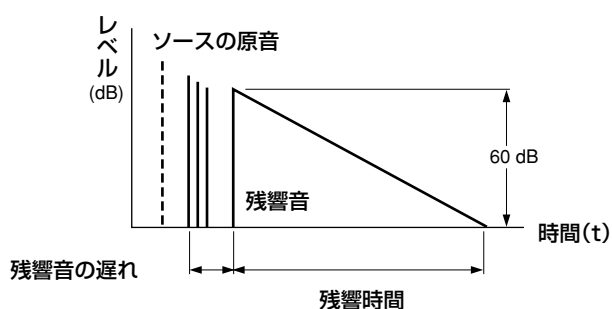
初期反射音の減衰特性を決めるパラメーターです。値を大きくするほどライブな(反響が多い)音場になり、値を小さくするほどデッドな(反響が少ない)音場になります。実際のホールでのライブ感/デッド感は反射面の吸音特性によって決定され、反射音の減衰が早ければデッドに、遅ければライブに感じられます。

可変範囲：0～10

残響時間

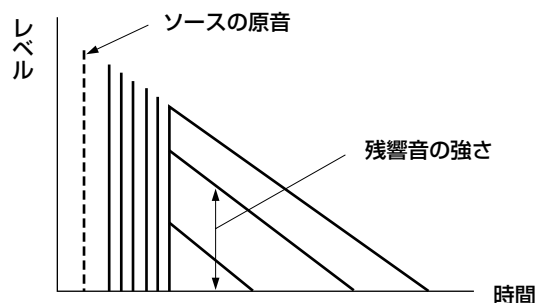
後部残響音が減衰していく時間を調節するパラメーターです。約1kHzの残響音が60dB減衰するのにかかる時間を基準にしています。値を小さくするほど残響音が早く減衰します。「残響時間」を調節することにより、反響が少なめのソースやリスニングルームに少し長めの残響時間を設定したり、逆に反響が多めのソースやリスニングルームには短い残響時間を設定して自然な残響音となるように調節することができます。

可変範囲：1.0～5.0s

残響音の遅れ

残響音が発生し始めるまでの時間を調節するパラメーターです。値を大きくするほど残響音が初期反射音より遅れて発生するようになります。同じ「残響時間」でも、「残響音の遅れ」を長くしていくと大きな空間の残響感になります。

可変範囲：0～250ms

残響音の強さ

後部残響音のレベルを調節するパラメーターです。値を大きくするほど後部残響音のレベルが大きくなり、余韻が強く感じられます。値を小さくするほど後部残響音のレベルが小さくなり、余韻が弱く感じられます。

可変範囲：0～100%

サラウンド音場の遅れ

直接音が出てからサラウンド音場が発生するまでの時間を調整するパラメーターです。値を大きくするほどサラウンド音場が遅れて発生します。

可変範囲：1～49ms

サラウンド音場の広さ

サラウンド音場の広がり感を調節するパラメーターです。値を大きくするほどサラウンドの音場空間が広がります。

可変範囲：0.1～2.0

サラウンド音場の響き

サラウンド音場の減衰量を調節するパラメーターです。値を大きくするほどサラウンド音場の響きが強くなります。

可変範囲：0～10

サラウンドバックの遅れ

直接音が出てからサラウンドバック音場が発生するまでの時間を調節するパラメーターです。値を大きくするほどサラウンドバック音場が遅れて発生します。
6.1または7.1チャンネルで再生しているときのみ有効です。

可変範囲：1～49ms

サラウンドバックの広さ

サラウンドバック音場の広がり感を調節するパラメーターです。値を大きくするほどサラウンドバックの音場空間が広がります。
6.1または7.1チャンネルで再生しているときのみ有効です。

可変範囲：0.1～2.0

サラウンドバックの響き

サラウンドバック音場の減衰量を調節するパラメーターです。値を大きくするほどサラウンドバック音場の響きが強くなります。
6.1または7.1チャンネルで再生しているときのみ有効です。

可変範囲：0～10

センター音量

7ch Stereoプログラムでのセンターチャンネルの音量を調節します。

可変範囲：0〜100%

サラウンド左音量

7ch StereoプログラムでのサラウンドLチャンネルの音量を調節します。

可変範囲：0〜100%

サラウンド右音量

7ch StereoプログラムでのサラウンドRチャンネルの音量を調節します。

可変範囲：0〜100%

サラウンドバック音量

7ch Stereoプログラムでのサラウンドバックチャンネルの音量を調節します。

可変範囲：0〜100%

プレゼンス左音量

7ch StereoプログラムでのプレゼンスLチャンネルの音量を調節します。

可変範囲：0〜100%

プレゼンス右音量

7ch StereoプログラムでのプレゼンスRチャンネルの音量を調節します。

可変範囲：0〜100%

デコーダー選択

MOVIE THEATER、THX Cinema、SUR. STANDARD、SUR. ENHANCEDプログラムで再生するときに2チャンネルソースをマルチチャンネル化するためのデコーダーを選びます。

選択項目（MOVIE THEATER）：プロロジック、PLⅡx、ネオ6

選択項目（THX Cinema）：プロロジック、PLⅡx、ネオ6

選択項目（SUR. STANDARD）：プロロジック、PLⅡxムービー、PLⅡxミュージック、PLⅡxゲーム、ネオ6シネマ、ネオ6ミュージック、CSⅡシネマ、CSⅡミュージック

選択項目（SUR. ENHANCED）：プロロジック、PLⅡx、ネオ6

セリフの位置調整

会話など、中央に定位する音の定位位置上下方向を調節するパラメーターです。値を小さくすると音が下方に定位し、大きくすると上方に定位します。

可変範囲：0〜5　初期設定値：0

ご注意

GUIメニュー「マニュアル設定－音の設定－その他の音声設定－PR/SBの選択」をサラウンドバックに設定して6.1または7.1チャンネルで再生しているときは、プレゼンス成分がフロントL/Rスピーカーに振り分けられて出力されるためDIALG. LIFTパラメーターを調節しても効果はありません。

パノラマ

PL Ⅱx Musicプログラムでのフロントの広がり感を調節するパラメーターです。フロントL/Rの音声を左右に大きく回り込ませることで、サラウンド音場につながるような広がり感を得ることができます。

可変範囲：オン/オフ　初期設定値：オフ

ディメンション

PL Ⅱx Musicプログラムでのフロント音場とサラウンド音場のレベル差を調節するパラメーターです。再生するソフトによって生じる、フロントとサラウンドのレベル差を調節してお好みのバランスにすることができます。−にするとサラウンド側、＋にするとフロント側が強くなります。

可変範囲：−3〜標準〜＋3　初期設定値：標準

センターの広がり

PL Ⅱx Musicプログラムでのセンター音声の左右への広がりを調節するパラメーターです。センターからの音声をお好みに合わせて左右に振り分けることができます。0にするとセンターのみ、7にするとフロントL/Rのみからセンター音声が出力されます。

可変範囲：0〜7　初期設定値：3

センターイメージ

Neo:6 Musicプログラムでのフロント音場の広がり感を調節するパラメーターです。値を小さくするとフロント音場の広がりが大きくなり、大きくすると狭く（センターへの定位が強く）なります。

可変範囲：0〜1.0

フォーカス

CS Ⅱ プログラムでのセリフの明瞭感を調節するパラメーターです。値を大きくするほどセリフがはっきりと聞こえるようになります。

可変範囲：0〜8　初期設定値：0

トゥルーバス

CS Ⅱ プログラムでの低音域を調節するパラメーターです。値を大きくするほど低音域が強調され、サブウーファーがない場合でも効果的に低音を再生することができます。サブウーファーがある場合は、より重厚な低音を再生することができます。

可変範囲：0〜8　初期設定値：0

初期化

サブプログラムごとに、変更した音場プログラムパラメーターを初期値に戻します。

i.LINKについて

iLINKとは、世界業界標準規格であるIEEE1394規格に準じた、高速かつ双方向のデジタルインターフェースです。本機は「i.LINK(AUDIO)」(i.LINKを使用したオーディオ信号)に対応しています。

本機とi.LINK(AUDIO)対応機器とをi.LINKケーブルで接続することで、DVDオーディオやスーパーオーディオCDなどの高品位マルチチャンネルオーディオ信号や、S/P DIFによる2チャンネルのリニアPCMおよびマルチチャンネルの圧縮オーディオ信号、さらにドルビーデジタル、DTSなどのサラウンドフォーマットのオーディオ信号を、すべて一本のケーブルだけでやりとりすることができます。

i.LINKでは、デジタル化されたデータを、デジタルのまま劣化させることなく他の機器に伝送できるため、著作権保護技術(DTCP: Digital Transmission Content Protection)が用いられています。この著作権保護技術により、従来S/P DIFなどでデジタル伝送していなかったDVDオーディオやスーパーオーディオCDといったマルチチャンネルの高品位な非圧縮(リニアPCM)オーディオのデジタル伝送を可能にしました。
著作権保護システムは、本機とi.LINK(AUDIO)対応機器との間で機器認証を行い、対応機器からの暗号化されたオーディオ信号を、本機で暗号を解除することにより受信します。

ヒント

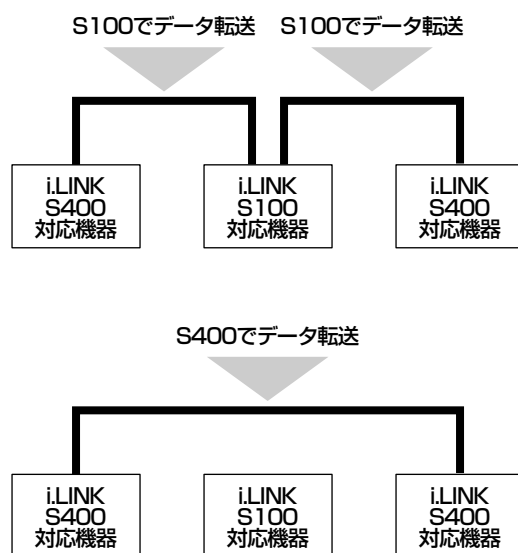
IEEE1394は、標準化組織である米国電子電気技術協会(IEEE: The Institute of Electrical and Electrics Engineers, Inc)で標準化された国際標準規格の番号で、高速シリアルインターフェースの名称です。

ご注意

- 本機では、ビデオ信号に対応している機器のデータのやりとりを行うことはできません。ビデオ信号に対応している機器には、「i.LINK(VIDEO)」や「DV」と表記されています。
- 著作権保護されたコンテンツを本機で受信するためには、再生する対応機器がDTCP方式の著作権保護技術に対応している必要があります。

データ転送速度について

本機は、IEEE1394a規格であるS100(100Mbps)、S200(200Mbps)、S400 (400Mbps)の3種類の転送レートに対応しています。S100/S200/S400の異なったデータの転送速度は、接続した機器間で混在することが可能です。ただし、転送速度が遅い機器を経由する場合は、その機器の転送速度の制限を受けます。

例えば、3台のi.LINK(AUDIO)対応機器を接続している場合に、両側の機器がS400まで対応しており、間の機器がS100しか対応していないときは、両側の機器同士を直接接続すればS400でのデータ転送が可能ですが、間のS100対応機器を経由して接続した場合には、機器間のデータ転送は、すべてS100で行われます。できるだけ最大転送速度が同じ機器同士を並べて接続することをおすすめします。

データ転送プロトコルについて

本機の転送プロトコルは、AV機器のためのAVプロトコル(A&Mプロトコル含む)に対応しています。
AVプロトコルの伝送フォーマットには、オーディオストリームを扱うA&Mプロトコルと、AVストリームを扱うDVフォーマットやTSフォーマット(MPEG-2 TS)があり、本機ではA&Mプロトコルに対応しています。

A&Mプロトコル (Audio and Music Data Transmission Protocol)は、高音質のオーディオ信号および電子楽器のリアルタイムデータ(MIDIデータ)をi.LINKで接続された機器間でリアルタイムにやりとりするための規格です。

ご注意
DVDビデオの場合、ビデオ/オーディオ信号はTSフォーマットで伝送されます。本機は、TSフォーマットに対応していないので、映像はもとより、音声も再生することができません。

デジタル音声出力について

i.LINKで受信したオーディオ信号の内、IEC60958フォーマットの2chリニアPCM信号(量子化ビット数16bit/サンプリング周波数48kHz以下)、およびIEC61937フォーマットの圧縮オーディオ信号(非リニアPCM)を受信した場合は、デジタル出力することができます。

- 著作権保護(暗号化して伝送)されていないS/P DIFフォーマットのデータは、すべてデジタル出力可能です。
- 著作権保護(暗号化して伝送)されたS/P DIFフォーマットのデータは、量子化ビット数16bit/サンプリング周波数48kHzを超えるリニアPCM信号を除いてデジタル出力可能です。量子化ビット数16bit/サンプリング周波数48kHzを超えるリニアPCM信号は、著作権保護のためデジタル出力を禁止しています。

ご注意
DVDオーディオフォーマット(マルチチャンネルPCM)、およびスーパーオーディオCDフォーマットの信号は、デジタル出力できません。

故障かな？と思ったら

ご使用中に本機が正常に作動しなくなった場合は下記の点をご確認ください。対処しても正常に動作しない場合や、下記以外で異常が認められた場合は、本機をスタンバイ状態にし、電源プラグをコンセントから抜いてからお買上げ店または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点にお問い合わせください。

全般

症状	原因	対策	参照ページ
電源を入れてもすぐに切れてしまう	電源コードがしっかり接続されていない。	電源コードをACコンセントおよび本体AC IN端子にしっかりと差し込んでください。	—
	(再度電源を入れたときに、「CHECK SP WIRES!」と表示されるとき)スピーカーケーブルがショートした状態で電源を入れたため、保護回路により電源が切れた。	すべてのスピーカーケーブルが正しく接続されているか確認してください。	準備・接続編 15
	内部マイコンが外部電気ショック(落雷または過度の静電気)、または電源電圧の低下によりフリーズしている。	ACコンセントから電源プラグを抜き、約30秒後にもう一度差し込んでください。	—
STANDBY/ONスイッチ(SYSTEM POWERキー)を押しても電源が入らない	電源コードがしっかり接続されていない。	電源コードをACコンセントおよび本体AC IN端子にしっかりと差し込んでください。	準備・接続編 31
	内部マイコンが外部電気ショック(落雷または過度の静電気)、または電源電圧の低下によりフリーズしている。	ACコンセントから電源プラグを抜き、約30秒後にもう一度差し込んでください。	—
使用中に突然電源が切れる	機器内部の温度が上昇したため、保護回路が働き電源が切れた。	温度が下がるのを待って(約1時間程度)、電源を入れなおしてください。	—
	スリープタイマーが作動した。	電源を入れてソースを再生しなおしてください。	—
ショートメッセージが表示されない	GUIメニュー「表示の設定」の「ショートメッセージ」を「表示しない」に設定している。	「表示する」に設定してください。	27、57
	GUIメニュー「表示の設定」の「ビデオコンバージョン」を「オフ」に設定している。	「オン」に設定してください。	57
音声や画像が出ない	再生機器がしっかり接続されていない。	接続を確認してください。	準備・接続編 19~23
	スピーカーがしっかり接続されていない。	接続を確認してください。	準備・接続編15
	音を出すスピーカーが正しく選ばれていない。	SPEAKERS A/Bスイッチで、スピーカーを正しく選んでください。	基本操作編 5
	再生したいソースが正しく選ばれていない。	INPUTセレクターやMULTI CH INPUTキーで、再生したいソースを正しく選んでください。	基本操作編 4～13
	音量が小さい。	音量を大きくしてください。	基本操作編7
	消音されている。	リモコンのMUTEキーまたはVOLUME＋/－キーを押して消音を解除し、音量を調節してください。	基本操作編 7
	CD-ROMなど本機で再生できない信号が入力されている。	本機で再生可能な信号のソースを再生してください。	—
	HDMI接続時に音声を再生する機器が本機に設定されていない。	GUIメニュー「HDMI」の「対応音声」を、「DSP-AX4600」に設定してください。	45
	接続しているi.LINK機器、HDMI機器が著作権保護に対応していない。	著作権保護に対応した機器を接続してください。	基本操作編 7
音声が突然出なくなる	消音された。	リモコンのMUTEキーまたはVOLUME＋/－キーを押して消音を解除し、音量を調節してください。	基本操作編 7
片側のチャンネルの音声がほとんど出ない	再生機器やスピーカーがしっかり接続されていない。	接続を確認してください。また、スピーカーケーブルが断線していないか確認してください。	準備・接続編 15

症状	原因	対策	参照ページ
エフェクトスピーカー（センター、サラウンドL/R、サラウンドバックL/R）から音声が出ない	音場効果をかけずに再生している。	STRAIGHT/EFFECTキーを押して、音場効果をかけて再生してください。	17
	再生するソースと音場プログラムの組み合わせによっては、音が出ないチャンネルがあります。	ほかの音場プログラムをお試しください。	基本操作編 4〜13
センタースピーカーから音声が出ない	センタースピーカーの音量が絞られている。	センタースピーカーの音量を調節してください。	55
	GUIメニュー「スピーカーの設定」の「センター」を、「無」に設定している。	お使いのセンタースピーカーに合わせて、「大」または「小」に設定してください。	52
	HiFi DSP音場プログラムを選んでいる。	ほかの音場プログラムをお試しください。	—
サラウンドL/Rスピーカーから音声が出ない	サラウンドL/Rスピーカーの音量が小さい。	サラウンドL/Rスピーカーの音量を調節してください。	55
	GUIメニュー「スピーカーの設定」の「サラウンド」を、「無」に設定している。	お使いのサラウンドL/Rスピーカーに合わせて、「大」または「小」に設定してください。	52
	ストレートデコードプログラムで、モノラルソースを再生している。	ほかの音場プログラムをお試しください。	基本操作編 4〜13
サラウンドバックスピーカーから音声が出ない	サラウンドバックスピーカーの音量が小さい。	サラウンドバックスピーカーの音量を調節してください。	55
	GUIメニュー「スピーカーの設定」の「サラウンド」を、「無」に設定している。	「サラウンド」を「無」に設定すると、自動的に「サラウンドバック」も「無」に設定されます。「サラウンド」の設定を、「大」または「小」に設定してください。	52
	GUIメニュー「スピーカーの設定」の「サラウンドバック」を、「無」に設定している。	お使いのサラウンドバックスピーカーに合わせて、「大」×2、「大」×1、「小」×2、「小」×1のいずれかに設定してください。	53
サブウーファーから音声が出ない	GUIメニュー「スピーカーの設定」の「低音出力先」を「フロントに出力」に設定したまま、ドルビーデジタル、DTSおよびAAC信号を再生している。	「サブウーファーのみ」または「フロントとサブウーファー」に設定してください。	53
	GUIメニュー「スピーカーの設定」の「低音出力先」を「サブウーファーのみ」または「フロントのみ」に設定したまま、2チャンネル信号を再生している。	「フロントとサブウーファー」に設定してください。	53
	再生しているソースにLFEや低音信号が含まれていない。		—
	2チャンネルソースをピュアダイレクトモードで再生している場合は、サブウーファーから音が出ません。		—
ドルビーデジタルまたはDTSソフトの再生ができない（本機のディスプレイのドルビーデジタルまたはDTSインジケーターが点灯しない）	接続したプレーヤーなどの設定が「デジタル出力」かつ「ドルビーデジタルまたはDTS」に設定されていない。	お使いのプレーヤーの取扱説明書を参照し、正しく設定してください。	—
	入力モードをANALOGに設定している。	AUTOに設定してください。	
低音の再生不良	GUIメニュー「スピーカーの設定」の「低音クロスオーバー」が正しく設定されていない。	お使いのスピーカーシステムに合わせて正しく設定してください。	53
	GUIメニュー「スピーカーの設定」の設定が、実際のスピーカーシステムの構成と一致していない。	お使いのスピーカーシステムに合わせて各スピーカーを正しく設定してください。	52
ハム音が出る	ステレオピンケーブルがしっかり接続されていない。	ステレオピンケーブルをしっかり差し込んでください。	準備・接続編 19〜28
	レコードプレーヤーのアースがSIGNAL GND端子に接続されていない。	アースコードを本機のSIGNAL GND端子に接続してください。	準備・接続編 23
レコードの再生音が小さい	MCカートリッジが装着されたレコードプレーヤーで再生している。	MCヘッドアンプまたはMCトランスを介してレコードプレーヤーを本機に接続してください。	準備・接続編 23

症状	原因	対策	参照ページ
音量を上げることができない、または音が歪んでいる	本機のOUT(REC)端子に接続された機器の電源が入っていない。	AVアンプという製品ジャンルの特性上、OUT（REC）端子に接続している機器の電源が切れている場合に、再生音が歪んだり、音量が下がったりすることがあります。本機に接続しているすべての機器の電源を入れてください。	—
サラウンドと音場効果を付加した音を録音できない	サラウンドと音場効果を付加した音は録音できません。		—
録音できない	デジタル録音時にアナログで信号を入力している。	デジタル接続をして、デジタルで信号を入力してください。	—
	本機と再生機器および録音機器がデジタル接続されていない。	デジタル接続をしてください。	準備・接続編 19〜28
	アナログ録音時にデジタルで信号を入力している。	アナログ接続をして、アナログで信号を入力してください。	—
	本機と再生機器および録音機器がアナログ接続されていない。	アナログ接続をしてください。	準備・接続編 19〜28
	録音機器によっては、ドルビーデジタル、DTSおよびAACなどのデジタルデータを録音できません。		—
音場プログラムパラメーターやGUIメニューなどを変更できない	GUIメニュー「設定の保護」を「保護」に設定している。	「可変」に設定してください。	60
セットメニューなどの設定内容が消えている	1週間以上電源コンセントを抜いていたり、外部タイマーが切れたままになっていた。	1週間以上電源コンセントを抜いたままにしておくと、内蔵メモリの内容が消えてしまうことがあります。もう1度設定しなおしてください。	—
本機が正常に作動しない	内部マイコンが外部電気ショック（落雷または過度の静電気）、または電源電圧の低下によりフリーズしている。	ACコンセントから電源プラグを抜き、約30秒後にもう1度差し込んでください。	—
本機に接続している機器にヘッドホンを接続して聴いていると、音が歪む	本機の電源がスタンバイ状態になっている。	本機の電源を入れてください。	基本操作編 4〜13
デジタル機器や高周波機器からの雑音を受けている	本機とデジタル機器や高周波機器の設置場所が近すぎる。	本機をそれらの機器から離して設置してください。	—

FM/AM放送の受信

症状		原因	対策	参照ページ
プリセット選局ができない		プリセット(メモリー)が消えている。	1週間以上電源コンセントを抜いたままにしておくと、内蔵メモリの内容が消えてしまうことがあります。もう一度プリセットしてください。	18、19
FM	オート選局ができない	放送局から離れた地域で受信しているか、アンテナ入力が弱い。	マニュアル選局をしてください。	基本操作編10
			屋外アンテナを感度の良い多素子のものに変えてみてください。	—
	ステレオ放送になると雑音が多く聞きづらい	放送局から離れた地域で受信しているか、アンテナ入力が弱い。	アンテナの接続を確認してください。	準備・接続編30
			屋外アンテナを感度の良い多素子のものに変えてください。	—
			マニュアル選局をしてください。	基本操作編10
	FM専用アンテナを使用しているが、音が歪むなど受信感度が悪い	マルチパス(多重反射)などの妨害電波を受けている。	アンテナの高さや方向、設置場所を変えてください。	—
AM	オート選局ができない	電波が弱い、あるいはアンテナの接続が不完全。	AMループアンテナの方向を変えてください。	準備・接続編30
			マニュアル選局をしてください。	基本操作編10
	「ジー」、「ザー」、「ガリガリ」などの雑音が入る	空電や雷による雑音、または蛍光灯、モーター、サーモスタット付きの電気器具の雑音を拾っている。	AM屋外アンテナを張り、アースを完全に取ると減少しますが、完全に除去するのは困難です。	—
	「ブンブン」、「ヒューヒュー」などの雑音が入る	本機の近くでテレビを使用している。	本機とテレビを離して設置してください。	—

リモコン

症状	原因	対策	参照ページ
リモコンで操作できない	リモコン操作範囲から外れている。	本体のリモコン受光部から６ｍ以内、角度30°以内の範囲で操作してください。	準備・接続編9
	受光部に日光や照明(インバーター蛍光灯やストロボライトなど)が当たっている。	照明、または本体の向きを変えてください。	—
	乾電池が消耗している。	乾電池をすべて交換してください。	準備・接続編9
	AMP/SOURCE/TVスイッチの設定が正しくない。	AMP/SOURCE/TVスイッチを正しく設定してください。	71
	本機のリモコンコードとリモコンIDが一致していない。	ライブラリーコードまたはリモコンIDの設定を変更してください。	69、72
外部機器がリモコンで操作できない	操作する機器が選ばれていない。	入力選択キーを押して、操作したい機器を選ぶ。	70
	リモコンコードが正しく設定されていない。	リモコンコードを設定しなおすか、同じメーカーのコードの中から別のコードを設定してください。	72
	リモコンコードを正しく設定しても、メーカーまたは機器によっては操作できない場合があります。	リモコンコードで操作できない機能は、機器のリモコンから本機のリモコンに記憶(ラーニング)させてください。	81
リモコンが新しい機能を記憶(ラーニング)しない	本機のリモコンまたは他の機器のリモコンの電池が消耗している。	電池を交換してください。	準備・接続編9
	２台のリモコン間の距離が離れすぎているか、近すぎる。	2台のリモコンを5〜10cmの距離に配置してください。	81
	他の機器のリモコンの信号コードと本機のリモコンとの互換性がない。	記憶(ラーニング)はできません。	—
	メモリ容量がいっぱいになっている。	ラーニングされている機能のうち、不要なものを消去してください。	88
電池が消耗しやすい	マンガン乾電池を使用している。	アルカリ乾電池を使用してください。	—

音声フォーマット編

ドルビーサラウンド

ドルビーサラウンドは、ダイナミックで臨場感豊かな音響効果のために、フロントL/Rチャンネル(ステレオ音声)、会話などを再生するセンターチャンネル(モノラル音声)、効果音のサラウンドチャンネル(モノラル音声)の、アナログ4チャンネル方式を採用しています。サラウンドチャンネルの再生域は狭くなっています。
現在、ほとんどのソフトに普及している方式です。本機内蔵のドルビープロロジックデコーダーは、各チャンネルの音量を自動的に調整して安定させ、音の移動感や方向性を強調して、より正確なデジタル処理を行います。

ドルビーデジタル

ドルビーデジタルは、完全に独立したマルチチャンネル音声を再生できるデジタルサラウンドシステムです。全帯域の音声成分を持つフロント3チャンネル(フロントL/R、センター)と、サラウンド2チャンネル(サラウンドL/R)、低音域専用のLFEチャンネルの合計5.1チャンネルで構成されます。
サラウンド2チャンネルがステレオで収録されているため、ドルビーサラウンドと比較して、音の移動感や周囲の環境音がより明確になります。全帯域の5チャンネルの幅広いダイナミックレンジと正確な音の定位によって、これまでにない迫力と現実感を再現できます。

ドルビーデジタルサラウンドEX

本機は5.1チャンネルのソースに、サラウンドバックチャンネルを加えて6.1チャンネル再生を可能にする、ドルビーデジタルサラウンドEXソフト対応のドルビーデジタルEXデコーダーを内蔵しています(サラウンドバックチャンネルはサラウンドLとサラウンドRチャンネルから作られます)。
ドルビーデジタルサラウンドEXで録音された映画のサウンドトラックを再生する際に、最良の音声を再生できます。この追加チャンネルにより、特に飛び越えたり飛び回ったりといった動きのあるシーンで、よりダイナミックでリアルな動作音をお楽しみいただけます。

ドルビープロロジックⅡ

2チャンネルで記録された音声を信号処理し、優れた分離感を保ったまま5.1チャンネル音声に変換します。映画用のMovieモードと、音楽などのステレオソース用のMusicモード、ゲーム用のGameモードが用意されています。従来の2チャンネル音声(モノラル音声を除く)だけで記録された古い映画も、5.1チャンネルの迫力ある音声で楽しめます。

ドルビープロロジックⅡx

2チャンネルで記録された音声はもちろん、マルチチャンネルで記録された音声をも信号処理し、自然な7.1チャンネル音声をフルレンジで再生します。映画用のMovieモード、音楽用のMusicモード、ゲーム用のGameモードが用意されています。

AAC(アドバンスト・オーディオ・コーディング)

MPEG-2オーディオ規格の1つで、BS/地上波デジタル放送で採用されています。モノラル音声から最大で7チャンネル音声までを効率良く圧縮して記録、伝送できます。
本機はAACデコーダーを搭載しているので、BS/地上波デジタルチューナーで受信した番組の5.1チャンネル音声をデコード(復調)して再生できます。

DTS(デジタル・シアター・システムズ)デジタルサラウンド

DTSデジタルサラウンドは、アナログの映画音声に取って代わる5.1チャンネル方式のデジタルサウンドトラックとして開発された最新技術で、世界中の映画館に急速に普及しています。この技術を家庭用に調整したものが、本機で採用しているDTSシステムです。
極めて劣化が少なく、クリアな音質の6チャンネル(フロントL/R、センター、サラウンドL/Rチャンネル、サブウーファー用LFE0.1チャンネルを加えた5.1チャンネル)で構成されています。

DTS-ES

本機は5.1チャンネルのソースに、サラウンドバックチャンネルを加えて6.1チャンネル再生を可能にする、DTS ESデコーダーを内蔵しています。5.1チャンネルの信号と独立して記録されたサラウンドバックチャンネル信号を再生する、ディスクリート方式と、サラウンドL/Rチャンネル信号からサラウンドバックチャンネル信号を生成して再生する、マトリクス方式の2つの方式に対応しています。
DTS-ESで録音された音楽や、映画のサウンドトラックを再生する際に、最良の音声を再生できます。

DTS Neo：6

2チャンネル信号のソースを、サラウンドバックを含めた6チャンネルで再生できます。再生するソースに合わせて、音楽用のMusicモードと、映画用のCinemaモードが用意されています。すべてのチャンネルを全帯域で再生できるだけでなく、ディスクリート方式で記録されたソースのようなチャンネルの分離感を体感できます。

DTS 96/24

DTS 96/24フォーマットで収録されたソフトに記録されている、DTS信号の拡張用データを使用して「サンプリング周波数96kHz/量子化ビット数24ビット」の高音質での5.1チャンネル再生が可能です。

PCM(リニアPCM)

MP3形式やATRAC形式のようにアナログ音声信号を圧縮せずに、そのまま符号化して録音・伝送する方式です。「PCM」は、パルス・コード・モジュレーションの略で、デジタル信号をパルスの符号にして変調記録するという意味です。
音楽CDや、DVDオーディオの録音方法などで採用されています。PCM方式では、非常に短く区切った単位時間あたりの信号の大きさを数値に置き換える(サンプリング)手法を用いています。

SRS CS Ⅱ (SRS Circle Surround Ⅱ)

SRS CS Ⅱ (SRS Circle Surround Ⅱ) は、6.1チャンネルマトリクス処理を行う高性能デコーディングシステムです。オリジナルのSRS Circle Surroundシステムの次の世代を担うこの技術により、セリフをより明瞭に再生したり、フロントチャンネルとサブウーファーから映画館さながらの低音を再生することができます。

音場プログラム編

サイレントシネマ

ヘッドホンでマルチスピーカーによる音場プログラムを擬似的に再現するための、ヤマハ独自のシステムです。
音場プログラムごとにヘッドホン用の設定値が用意されているため、自然で立体感あふれる音場プログラムをヘッドホンでもお楽しみいただけます。

シネマDSP(デジタル・サウンド・フィールド・プロセッサー)

ドルビーサラウンドやDTSのシステムは、本来映画館用に設計されているため、ご家庭では部屋の広さや壁の材質、スピーカーの数などの条件の違いによって、同じソフトであっても視聴感に差が出てしまいます。
ヤマハシネマDSPは、豊富な実測データに基づく独自の音場技術を応用することで、ドルビープロロジックやドルビーデジタル、DTSのシステムと組み合わせて音のスケールや奥行き、音量感を補い、ご家庭でも映画館のような視聴体験を実現します。

バーチャルシネマDSP

サラウンドL/Rスピーカーを設置していなくとも、仮想的にサラウンドL/Rスピーカーの音場を再現することで、音場プログラムを楽しめます。
センタースピーカーを設置できない場合でも、フロントL/Rスピーカーだけで、バーチャルシネマDSPをお楽しみいただけます。

THX

THXは、世界的に有名な映画制作会社であるルーカスフィルム社が開発した独自規格と技術を集約したものです。「映画館でも家庭でも、映画監督の思い描いたサウンドトラックをできる限り忠実に再現したい」という、ジョージ・ルーカス監督の情熱により開発されました。

THX Cinema processing

映画のサウンドトラックは、ダビングステージと呼ばれるミキシング専用の大型映画館で制作されます。これらのサウンドトラックは、同じ装置を備える映画館での上映のために制作されていますが、DVDなどに収録する際も、一切変更を加えず、そのまま収録されています。
THX Cinemaは、映画館向けのサウンドトラックを、映画館と家庭との空間的な違いによる音色の差を補正することで、一般家庭でも映画館と同等の臨場感で再生します。

- Adaptive Decorrelation(アダプティブ・デコリレーション)

映画館では、多数のサラウンドスピーカーが創り出す、包み込むようなサラウンドサウンドが体験できます。しかし、ホームシアターでは通常2本のスピーカーしか使われないため、空間的な拡がりや、サラウンド感に欠けてしまったり、また近接したスピーカーにサラウンドサウンドを取り込まれてしまいます。アダプティブ・デコリレーションは、サラウンドチャンネル間の時間と位相を微妙に変化させることにより、2本のスピーカーだけを使って、映画館と同様の拡がりがあるサウンドを再現します。

- Timbre Matching(ティンバー・マッチング)

人間の耳は、音の来る方向によって音の感じ方が変わります。映画館では、サラウンドスピーカーが聴衆を囲むように配置されているため、音が全方向から来ますが、ホームシアターでは、リスナーの両側2本のみが使われます。ティンバー・マッチングは、サラウンドスピーカーからの音を、フロントスピーカーの音の特性に合わせることで、フロントーサラウンド間の音のつながりをスムーズにし、拡がりがあるサウンドを再現します。

- Re-Equalization(リ・イコライゼーション)

映画のサウンドトラックは、映画館での上映用に制作されているため、家庭用の機器で再生すると、明るすぎたり、うるさく聞こえてしまいます。リ・イコライゼーションは、このような映画のサウンドトラックを小型のホームシアターで、最適な音のバランスを再現して再生します。

THX Games Mode

THX Games Modeは、ステレオやマルチチャンネルで記録されたゲーム用オーディオ再生のためのモードです。このモードでは、THX ASA処理がアナログ、PCM、DTS、Dolby Digitalなどの、すべての5.1チャンネルや2チャンネルでエンコードされたゲームソースのサラウンド・チャンネルに適用されます。これにより、THX Games Modeでは、360度の再生環境を提供しながら、全てのゲームオーディオ・サラウンド情報を最適なチャンネルに振り分けて再生します。サラウンド音場のスムーズな音のトランジションがTHX Games Modeの特徴です。

THX MusicMode

THX MusicModeは、5.1チャンネルの音楽ソースを再生する場合に最適なサラウンドモードです。DTS、ドルビーデジタルなどで収録された5.1チャンネルの音楽ソースに対して、Advanced Speaker Arrayの処理をすることにより、広がりのある安定したサラウンド空間を再現します。

THX Select 2

THX Select2の認証を取得したホーム・シアター・コンポーネントは、いずれも一連の厳しい品質/性能試験に合格しています。このような製品にのみ付与されているTHX Select2のロゴは、ご購入いただいたホーム・シアター製品が、長期間にわたって卓越した性能を発揮することを保証するものです。THX Select2の要件には、パワーアンプ性能、プリアンプ性能、デジタル/アナログ空間での動作などをはじめとする、何百ものパラメータが定義されています。

THX Select 2 Cinema mode

THX Select2 Cinemaモードは、8つのスピーカーを使用して5.1チャンネル映画を上映するため、最高の鑑賞空間を実現します。このモードでは、ASA処理によってサイド・サラウンド・スピーカーとバック・サラウンド・スピーカーをブレンドするため、周りを取り囲む音と直線的に耳に届くサラウンド・サウンドを最適にミックスしています。
DTS-ES(マトリックスや6.1ディスクリート)やDolby Digital Surround EXでエンコードされたサウンドトラックは、適切なフラグがエンコードされた場合、Select2 Cinemaモードで自動的に認識されます。
一部のDolby Digital Surround EXサウンドトラックには、オート切換えを可能にするデジタル・フラグがついていないものがあります。ご覧になっている映画がSurround EXでエンコードされているのがお分かりの場合は、手動でTHX Surround EX再生モードに設定することができます。手動による設定をしない場合には、THX Select 2 Cinemaモードは、最適な再生を提供するためにASA処理を行います。

THX Surround EX

THX Surround EXは、ドルビーラボラトリーズとルーカスフィルム社THX部門の共同開発です。
映画館では、ドルビーデジタルサラウンドEX技術でエンコードされたサウンドトラックにより、ミキシング時に追加されたサラウンドバックチャンネルを再現することが可能です。従来のフロントL/R、センター、サラウンドL/R、サブウーファーという5.1チャンネルに、サラウンドバックチャンネルを加えることにより、後方部の拡がり感をより緻密に再現し、音の定位感ももたらします。
THX Surround EXは、ドルビーデジタルサラウンドEX技術でエンコードされたサウンドトラックを、映画館で上映されたときの臨場感のまま、一般家庭で再生します。
ドルビーデジタルサラウンドEX技術を使って制作された映画は、DVDなどで市場で販売される際、そのパッケージに効果に関する説明を表示しているものがあります。ドルビーデジタルサラウンドEX技術を使って制作された映画の一覧、およびドルビーデジタルサラウンドEX技術を使ってエンコードされたDVDタイトルの一覧は、それぞれ下記のウェブサイトでご覧になれます。
映画一覧：http://www.dolby.com
DVDタイトル一覧：http://www.thx.com

Timbre Matching(ティンバー・マッチング)

人間の耳は、音の来る方向によって音の感じ方が変わります。映画館では、サラウンドスピーカーが聴衆を囲むように配置されているため、音が全方向から来ますが、ホームシアターでは、リスナーの両側2本のみが使われます。ティンバー・マッチングは、サラウンドスピーカーからの音を、フロントスピーカーの音の特性に合わせることで、フロントーサラウンド間の音のつながりをスムーズにし、拡がりがあるサウンドを再現します。

Advanced Speaker Array (アドバンスト・スピーカー・アレイ)

最適なサラウンド空間を再現するために、2本のサラウンドスピーカーと2本のサラウンドバックスピーカーへ出力される音を処理する、THX独自の技術です。8つのスピーカー(フロントL、センター、フロントR、サラウンドR、サラウンドバックR、サラウンドバックL、サラウンドL、サブウーファー)でホームシアターシステムをセットアップしている場合に、2本のサラウンドバックスピーカーを近接して、部屋の前方に向かって設置することにより、もっとも広い視聴エリアを得ることができます。2本のサラウンドバックスピーカーを離して設置しなければならない場合は、「THXの設定」メニューで、実際のスピーカー配置にもっとも近い設定を選ぶ必要があります。これにより、サラウンド空間が最適化されます。
Advanced Speaker Arrayは、新しい3つのサラウンドモードであるTHX Select2 CinemaとTHX Music Mode,THX Games Modeで使用されます。

音声編

サンプリング周波数

アナログ音声信号をデジタル信号化する際に、1秒間にサンプリング(信号の大きさを数値に置き換えること)を行う回数をサンプリング周波数といいます。
再生できる周波数帯は「サンプリング周波数」で決まり、サンプリング周波数が高いほど再生可能な音域が広がることになります。

量子化ビット数

アナログ音声信号をデジタル信号化する際に、音の大きさを数値化するときのきめ細かさを量子化ビット数といいます。
音量の差を表わすダイナミックレンジは「量子化ビット数」で決まり、量子化ビット数が大きいほど音の大きさの変化をきめ細かく再現できることになります。

LFE(ロー・フリケンシー・エフェクト)0.1チャンネル

音声成分の帯域が20〜120Hzの、低音域専用チャンネルです。
ドルビーデジタルとDTS、AACで、全帯域用の5チャンネルに加えて、効果的な場面で低音を増強するために使用されます。音声の帯域が低域のみに制限されているので、0.1と表現されます。

映像編

コンポジットビデオ信号

輝度を表すY信号と、色を表すC信号をひとつにまとめて伝送する方式です。テレビのNTSC信号などが採用しています。

コンポーネントビデオ信号

映像信号を、輝度を表すY信号と、色を表すPB/CB信号およびPR/CR信号の3系統に分けて伝送する方式です。
それぞれの信号を独立して伝送するため、色をより忠実に再現できます。また、コンポーネントビデオ信号は、色を表わす信号から輝度を表わす信号を引いているので、色差信号とも呼ばれます。

D端子

最新のAV機器間での映像信号の伝送に用いられる端子で、コンポーネントビデオ信号とコントロール信号(走査線、アスペクト比、インターレース/プログレッシブの情報)を、一本の専用ケーブルで接続できます。その性能に応じてランクがD１からD５に分けられています。本機にはD4 ビデオ端子が装備されており、D1からD4の規格に対応しています。

Sビデオ信号

映像信号を、輝度を表すY信号と、色を表すC信号に分けて伝送する方式です。S ビデオ端子で接続すると、より美しい映像で録画/再生をお楽しみいただけます。

主な仕様

オーディオ部

定格出力(6Ω、20Hz～20kHz、0.06% THD)
フロントL/R ..... 130W+130W
センター 130W
サラウンドL/R ..... 130W+130W
サラウンドバックL/R ..... 130W+130W

実用最大出力(EIAJ、6Ω、1kHz、10% THD)
フロントL/R ..... 180W+180W
センター 180W
サラウンドL/R ..... 180W+180W
サラウンドバックL/R ..... 180W+180W

ダンピングファクター(8Ω、20Hz～20kHz)
フロントL/R 140以上

入力感度/インピーダンス
PHONO(MM) 3.5mV/47kΩ
CD他 200mV/47kΩ
MULTI CH INPUT 200mV/47kΩ

出力電圧/インピーダンス
REC OUT 200mV/1.2kΩ
PREOUT 1.0V/500Ω
SUBWOOFER 2.0V/500Ω

ヘッドホン出力/インピーダンス 150mV/100Ω

周波数特性
CD他－フロントL/R ..... 10Hz～100kHz、－3.0dB

全高調波歪率(20Hz～20kHz)
PHONO(MM)－REC OUT(1V) 0.02%以下
CD他－フロントSP OUT(65W/8Ω) 0.04%以下

S/N比(IHF-Aネットワーク、入力ショート)
PHONO(MM)(2.5mV入力)－SP OUT 80dB以上
CD他(250mV入力)－SP OUT 100dB以上

残留ノイズ(IHF-Aネットワーク)
フロントSP OUT 150μV以下

チャンネルセパレーション(1kHz/10kHz)
PHONO(入力ショート) 60dB以上/55dB以上
CD他(5.1kΩターミネート) 60dB以上/45dB以上

トーンコントロール
BASS ..... ±6dB/50Hz
TREBLE ..... ±6dB/20kHz

A/Dコンバーター
..... デルタシグマ方式96kHz対応24ビットA/Dコンバーター

D/Aコンバーター
..... デルタシグマ方式192kHz対応24ビットD/Aコンバーター

ビデオ部

ビデオ信号方式 ..... NTSC

コンポジットビデオ信号レベル 1Vp-p/75Ω

Sビデオ信号レベル
Y 1Vp-p/75Ω
C 0.286Vp-p/75Ω

コンポーネントビデオ信号レベル
Y 1Vp-p/75Ω
P_B、P_R 0.7Vp-p/75Ω

S/N比 60dB以上

周波数帯域(MONITOR OUT)
VIDEO ..... 5Hz～10MHz、－3dB
S VIDEO ..... 5Hz～10MHz、－3dB
COMPONENT VIDEO ..... 5Hz～60MHz、－3dB
D4 VIDEO ..... 5Hz～60MHz、－3dB

FMチューナー部

受信周波数 ..... 76.0MHz～90.0MHz

実用感度(IHF) ..... 1.0μV(11.2dBf)

S/N比(IHF)
モノ 76dB
ステレオ 70dB

歪率(1kHz)
モノ 0.2%
ステレオ 0.3%

ステレオセパレーション(1kHz) 42dB

周波数特性 ..... 20Hz～15kHz、+0.5/－2dB

AMチューナー部

受信周波数 ..... 531kHz～1611kHz

実用感度 300μV/m

総合

電源電圧 ..... AC100V、50/60Hz

消費電力 440W

待機時消費電力 0.2W以下

ACアウトレット(電源スイッチ連動×2) 合計100W

寸法(幅×高さ×奥行き) ..... 435×171×438.5mm

質量 19kg

* 仕様、および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

本機は「JIS C 61000-3-2」適合品です。
JIS C 61000-3-2適合品とは、日本工業規格「電磁両立性第3-2部：限度値ー高調波電流発生限度値（1相当たりの入力電流が20A以下の機器）」に基づき、商用電力系統の高調波環境目標レベルに適合して設計・製造した製品です。

音楽を楽しむエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては大変気になるものです。隣近所への配慮を十分にしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところに迷惑をかけてしまいます。適当な音量を心がけ、窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。音楽はみんなで楽しむもの、お互いに心を配り快適な生活環境を守りましょう。

索引

(準):「準備・接続編」をご覧ください。
(基):「基本操作編」をご覧ください。
(応):「応用操作編」(本書)をご覧ください。

ア行

カ行

サ行

タ行

ナ行

ハ行

マ行

ラ行

A､B､C､D､E､F

G､H､I､J､K､L

M､N､O､P､Q､R

S､T､U､V､W､X､Y､Z

数字､記号

ヤマハホットラインサービスネットワーク

ヤマハホットラインサービスネットワークは、本機を末永く、安心してご愛用いただくためのものです。
サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはお近くのサービス拠点にご連絡ください。

ヤマハAV製品の機能や取り扱いに関するお問い合わせ

■ ヤマハオーディオ&ビジュアルホームページ

お客様から寄せられるよくあるご質問をまとめておりますので、ご参考にしてください。

http://www.yamaha.co.jp/audio/

■ お客様ご相談センター

ナビダイヤル（全国共通） 0570-01-1808

全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます。

携帯電話、PHSからは下記番号におかけください。
TEL（053）460-3409

FAX（053）460-3459
〒430-8650 静岡県浜松市中沢町10-1

受 付 日：月～土曜日（祝日およびセンターの休業日を除く）
受付時間：10:00～12:00、13:00～18:00

ヤマハAV製品の修理、サービスパーツに関するお問い合わせ

■ ヤマハ電気音響製品修理受付センター

ナビダイヤル（全国共通） 0570-012-808

全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます。

FAX（053）463-1127

受 付 日：月～土曜日（祝日およびセンターの休業日を除く）
受付時間：月～金曜日 9:00～19:00　土曜日 9:00～17:30

修理お持ち込み窓口
受 付 日：月～金曜日（祝日および弊社の休業日を除く）
受付時間：9:00～17:45

北海道 〒064-8543 札幌市中央区南10条西1丁目1-50
ヤマハセンター内
FAX (011)512-6109

首都圏 〒143-0006 東京都大田区平和島2丁目1-1
京浜トラックターミナル内14号棟A-5F
FAX (03)5762-2125

浜松 〒435-0016 浜松市和田町200 ヤマハ(株)和田工場内
FAX (053)462-9244

名古屋 〒454-0058 名古屋市中川区玉川町2丁目1-2
ヤマハ(株)名古屋倉庫3F
FAX (052)652-0043

大阪 〒564-0052 吹田市広芝町10-28
オーク江坂ビルディング2F
FAX (06)6330-5535

九州 〒812-8508 福岡市博多区博多駅前2丁目11-4
FAX (092)472-2137

*名称、住所、電話番号、URLなどは変更になる場合があります。

● 保証期間
お買い上げ日から1年間です。

● 保証期間中の修理
保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

● 保証期間が過ぎているとき
修理によって製品の機能が維持できる場合にはご要望により有料にて修理いたします。

● 修理料金の仕組み
技術料　故障した製品を正常に修復するための料金です。技術者の人件費、技術教育費、測定機器等設備費、一般管理費等が含まれています。
部品代　修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。
出張料　製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。別途、駐車料金をいただく場合があります。

● 補修用性能部品の最低保有期間
補修用性能部品の最低保有期間は、製造打ち切り後8年です。補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

● 製品の状態は詳しく
サービスをご依頼されるときは製品の状態をできるだけ詳しくお知らせください。また製品の品番、製造番号などもあわせてお知らせください。
※ 品番、製造番号は製品の背面もしくは底面に表示してあります。

● スピーカーの修理
スピーカーの修理可能範囲はスピーカーユニットなど振動系と電気部品です。尚、修理はスピーカーユニット交換となりますので、エージングの差による音色の違いが出る場合があります。

● 摩耗部品の交換について
本機には使用年月とともに性能が劣化する摩耗部品(下記参照)が使用されています。摩耗部品の劣化の進行度合は使用環境や使用時間等によって大きく異なります。
本機を末永く安定してご愛用いただくためには、定期的に摩耗部品を交換されることをおすすめします。
摩耗部品の交換は必ずお買い上げ店、またはヤマハ電気音響製品修理受付センターへご相談ください。

摩耗部品の一例
ボリュームコントロール、スイッチ・リレー類、接続端子、ランプ、ベルト、ピンチローラー、磁気ヘッド、光ヘッド、モーター類など

※ このページは、安全にご使用いただくためにAV製品全般について記載しております。

永年ご使用の製品の点検を！

愛情点検

こんな症状はありませんか？
- 電源コード・プラグが異常に熱い。
- コゲくさい臭いがする。
- 電源コードに深いキズか変形がある。
- 製品に触れるとピリピリと電気を感じる。
- 電源を入れても正常に作動しない。
- その他の異常・故障がある。

すぐに使用を中止してください。

事故防止のため電源プラグをコンセントから抜き、
必ず販売店に点検をご依頼ください。
なお、点検・修理に要する費用は販売店にご相談ください。

ヤマハ株式会社
〒430-8650　浜松市中沢町10-1